

BL 書籍を読みつづける理由
—読者がもつセクシュアリティ観に着目して—

筑波大学
図書館情報メディア研究科
2019 年 3 月
松崎愛

目次

第1章 はじめに.....	4
1.1 研究背景.....	4
1.1.1 「BL」ブーム.....	4
1.1.2 日本における LGBT ムーブメント.....	4
1.1.3 BLブームと LGBT ムーブメントとの接合.....	4
1.2 先行研究.....	5
1.3 卒業論文.....	6
1.4 研究目的.....	6
1.5 用語の定義.....	7
1.5.1 BL・BL 書籍.....	7
1.5.2 腐女子.....	7
1.5.3 BL 愛好者.....	8
第2章 調査概要.....	9
2.1 調査方法.....	9
2.2 調査内容.....	9
2.3 調査協力者.....	9
2.4 調査倫理.....	10
第3章 調査実施概要.....	11
3.1 調査協力者概要.....	11
3.2 質問項目.....	11
3.3 インタビュー結果・分析.....	12
3.3.1 A さん.....	12
3.3.2 B さん.....	16
3.3.3 C さん.....	18
3.3.4 E さん.....	21
3.3.5 F さん.....	23
3.3.6 G さん.....	29
第4章 考察.....	33
4.1 BL 愛好を隠すこと、明かすこと.....	33
4.1.1 BL 愛好を隠す意識の詳細.....	33
4.1.2 BL 愛好を明かすことのできる場.....	35
4.2 「ホモ」という言葉をめぐる問題.....	37
4.2.1 BL の関係性を表す「ホモ」.....	37
4.2.2 差別語としての「ホモ」に向き合う BL 愛好者.....	39

4.3 それでも BL 書籍を読みつづける理由	41
4.3.1 葛藤をかかえる BL 愛好者.....	41
4.3.2 ゲイ当事者としての葛藤を抱える BL 愛好者	43
4.3.3 総括.....	44
第 5 章 結論.....	46
引用・参考文献リスト.....	48
謝辞.....	50
付録：調査協力依頼書.....	51
付録：研究への参加・協力の同意書.....	54
付録：A さん 3 回目インタビュー	55
付録：A さん 4 回目インタビュー	76
付録：B さん 1 回目インタビュー	92
付録：B さん 2 回目インタビュー	97
付録：B さん 3 回目インタビュー	100
付録：C さん 1 回目インタビュー	104
付録：C さん 2 回目インタビュー	112
付録：C さん 3 回目インタビュー	118
付録：C さん 4 回目インタビュー	121
付録：E さん 1 回目インタビュー	127
付録：E さん 2 回目インタビュー	142
付録：E さん 3 回目インタビュー	145
付録：F さん 1 回目インタビュー	146
付録：F さん 2 回目インタビュー	154
付録：F さん 3 回目インタビュー	166
付録：F さん 4 回目インタビュー	173
付録：G さん 1 回目インタビュー	178
付録：G さん 2 回目インタビュー	183
付録：G さん 3 回目インタビュー	199

第1章 はじめに

1.1 研究背景

1.1.1 「BL」ブーム

近年、「BL」または「ボーイズラブ」等と呼ばれる、男性同士の恋愛をテーマとする作品の流行が訪れつつある。

これまでも、BLは『ダ・ヴィンチ』や『ユリイカ』、『美術手帖』といった、文芸・芸術系雑誌で特集されてきた。しかし最近では、NHK『あさイチ』(2015)や『指原(さし)ペディア』(2016)等、マスメディアでの特集が度々行われ、BLと呼ばれるジャンルの存在が一般にも浸透しはじめている。さらに、テレビ朝日系『おっさんずラブ』の連続ドラマ放映(2018)は大ヒットを記録し、男性同士の恋愛をテーマにした話題作として、各種メディアでも大々的に報じられた¹。

このように、元来は限られたコミュニティ内での流行に留まっていたこのBLが、現在ではサブカルチャーの一部として、一般に受け入れられつつある。

1.1.2 日本におけるLGBTムーブメント

近年の日本においては、欧米諸国に追随するように、本格的なLGBTムーブメントが到来している²。LGBTとは、セクシュアル・マイノリティの中でも女性同性愛者(Lesbian)・男性同性愛者(Gay)・両性愛者(Bisexual)・性同一性障害を含む身体と精神の性別が一致しない人々(Transgender)の頭文字を合わせた言葉である。最近では、セクシュアル・マイノリティという言葉に代わって用いられるようになってきている。

国内最大規模の活動を行っている東京レインボープライドは、2012年から毎年プライドパレードを含む各種イベントを実施している。イベント参加者数は毎年増加し続け、2017年には10万人を突破した。こうした運動の成果として、2015年の東京都渋谷区におけるパートナーシップ条例「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」の制定を皮切りとした、自治体単位での「パートナーシップ制度」導入が始まっている。

1.1.3 BLブームとLGBTムーブメントとの接合

以上に取り上げたように、日本社会において「BL」や「LGBT」という存在は、近年急速に認知され、受容されている。

BLが男性同性愛をテーマにしているという部分において、BLという文化とゲイ文化は一般に混同されがちであろうが、BLの作品は厳密に言えばゲイの文化やセクシュアル・マ

¹ 「オリコン年間映像ランキング 2018」のテレビドラマDVD部門・BD部門において1位を獲得。また、「テレ朝キャッチアップ」での見逃し配信再生回数で、テレビ朝日史上初となる100万再生を突破。さらには、「2018 ユーキャン新語・流行語大賞」にもトップ10入りを果たした。

² 中井啓人, 大藪毅. 日本型LGBTムーブメントの提案: 日本における欧米型LGBTムーブメントの成果と課題から見えること. 慶應義塾大学, 2016, 修士論文.

イノリティの文化に類するコンテンツではない（これについては 1.5 において述べる）。しかし最近では、この BL 愛好者と、セクシュアル・マイノリティ当事者との交流をもたせようとする動きも出てきている。セクシュアル・マイノリティをテーマとした映画祭である「レインボーリール東京」では、2017 年から BL 愛好者をターゲットとしたイベントを開催している。

1.2 先行研究

BL の愛好者は、男性同性愛がテーマにあるフィクション作品を愛好する存在である。上述のようなイベントが開催されることもあり、BL 愛好者とセクシュアル・マイノリティ当事者、特にゲイ男性との距離は近いように思われる。

しかし、BL 愛好者とゲイ当事者との間には、断絶の歴史が存在する。その発端となった出来事が「やおい³論争」であった。この論争は、1992 年 5 月発行のフェミニズムのミニコミ誌『CHOISIR』に投稿された、ゲイ当事者の「ヤオイなんて死んでしまえばいい」というエッセイに対し、やおい愛好家であるという女性が反論する形で始まったものである。ゲイ当事者の主張は、BL とは異性愛規範に押し込められたゲイ表象であり、ゲイに対する差別表現だと解釈された。対してやおい愛好者女性は、BL は男女の設定では描くことのできないものを描くことができると主張したが、同時に BL では現実のゲイ男性を描いているわけではなく「ファンタジー」であるという主張を行い、これが激しい批判を浴びることとなった。

この論争に象徴される、「ゲイ当事者に差別的な表現を行う BL 愛好者」という視点は、20 年以上経過した現在でも、多くの論者によって検討され続けている。中でも石田（2007）は、BL 愛好者女性たちの「ほっといてください」という、批判から逃避する姿勢に言及した。BL 作品内では度々登場する「ホモなんかじゃない」といったセリフには、つねにゲイ男性の「社会的イメージが混入している」と述べた上で、それでも「ほっといてください」と言う BL 愛好者女性の行う「表象の仮託と横奪」の問題を論じた。

その一方で、BL 愛好者と、セクシュアル・マイノリティ当事者との関係性を近しくとらえる先行研究も発見できる。先の BL という「表象の仮託と横奪」の問題に関連して、堀（2012）は、BL が「ファンタジー」として「多様な性のあり方と関係性」を描くことで逆説的に「社会に組み込まれた規範の歪み」をあらわにしたと述べた。さらに、社会的な規範の歪みに苦しむ者たちであるという点においてゲイ当事者と BL 愛好者との「共闘可能性」について論じた。

溝口（2015）は、BL 愛好者はゲイに無関心であるという主張や、BL がゲイ表象を横奪するという主張を批判し、こうした主張に対する反例として「進化形 BL」という作品群を挙げた。こうした作品群は、「現実のホモフォビア、異性愛規範、ミソジニーを認識したうえで、それらを克服するヒントとなるキャラクター造形や世界観を、現実よりも進んだ形で

³ ここでいう「やおい」とは、当時の BL 愛好者を指す言葉である。

示す」と述べた。また、この「進化形 BL」は既存の BL 作品のパステーションであり、既存の BL 作品で排除されていた女性性や、他者に過ぎなかったゲイ男性について「誠実な想像力」をもった BL 作家が現れていると論じた。

また山岡（2016）が行った量的調査によれば、BL 愛好とセクシュアル・マイノリティへの寛容さとの間には、正の相関があるという。このように、「ゲイ当事者に差別的な BL 愛好者」という視点を、捉えなおすかのような研究が行われ始めている。

1.3 卒業論文

筆者の卒業論文においては、BL 愛好者が BL に求める要素は何か、またその要素と個人のライフストーリーとの関連をみる目的で、BL 愛好者（主に女性）を対象とした質的調査を実施した。その結果、彼女たちは、彼女たちを取り巻く世界における価値観に、何らかの形で違和感を抱いていることが分かった。そして彼女たちは「対等な恋愛」が描かれる BL 作品を好み、そのような物語を読むことによって、自分自身が抱く恋愛観への肯定を求めていることが分かった。また彼女たちの大半は異性愛者であったが、BL において男性同士の恋愛を描くからこそ生まれる「対等さ」を好んでいた。

1.4 研究目的

前述の「やおい論争」や、石田による研究では、BL 愛好者がゲイ男性に差別的だと捉えるゲイ当事者の存在が指摘された。またその一方で、山岡の調査においては、ゲイ男性を肯定的に捉えている BL 愛好者の存在も指摘されている。ゲイ男性を肯定的に捉えているという BL 愛好者たちは、自分たちの愛好する趣味がゲイ男性への差別を孕んでいる可能性に、自覚的なのだろうか。⁴

本研究は、ゲイ男性の表象とも捉えられる BL という表現に対して、現在の BL 愛好者たちは何を感じ、また何を求めて愛好するのかを、彼ら個々人のセクシュアリティ観との関連の中で深く探っていくことを目的とした。これにより、BL 愛好者とセクシュアル・マイノリティ当事者、とくにゲイ男性との間にあった断絶の歴史や交流の可能性について、個々人の意識の側面から理解したい。

筆者の卒業論文において、「男らしく・女らしく恋愛すべき」という従来の価値観に抵抗感のあった BL 愛好者たちの存在が明らかになった。こうした BL 愛好者たちは、その各人のセクシュアリティの違いに関わらず、従来の異性愛規範に苦しむセクシュアル・マイノリティと似たようなバックボーンを背負っているのではないだろうか。BL 愛好者とセクシュアル・マイノリティ当事者がそれぞれの立場から互いを理解し手を取り合うことは、旧来的な規範からの解放の手助けになると考えられる。また、近い立場であるからこそ連帯し、

⁴ 溝口（2015）の研究における、「誠実な想像力」をもった BL 作家（＝BL 愛好者）たちは、「ホモなんかじゃない」という言葉に代表される、現実のゲイ男性への潜在的な差別に気づき、乗り越えたからこそ生まれた、とされている。

あるいは逆に反発するという事例は歴史上事欠かず、その詳細を理解する一例としても、本研究の意義があると考ええる。

1.5 用語の定義

1.5.1 BL・BL 書籍

「BL」とは、「ボーイズラブ」の頭文字をとった言葉であり、男性同士の恋愛を物語のテーマとするフィクション作品のことである。BLの作り手、受け手はともに女性が大半であるといわれている。このように、女性が楽しむためのもの、という点において、男性同性愛者向けの作品とは異なる。

BLの作品形態は、小説・漫画・テレビアニメ・ゲーム・CDなど多岐にわたる。本研究ではその中でも主要な作品形態である小説・漫画を「BL書籍」と定義する。BL書籍には、同人誌を含む紙媒体の他、電子書籍やpixiv⁵等Webサイト上で公開されるものも加えることとする。

BL書籍には、一次創作・二次創作という区分が存在する。一次創作とは、その作者オリジナルの作品のことである。オリジナル作品の中でも、出版社より刊行された作品は商業BLと呼ばれる。二次創作とは、小説や漫画、アニメなど原作のキャラクターや設定を一部引き継いでつくられた、非公式なパロディ作品のことである。原作となる作品はBL作品でないことも多いため、二次創作のBL書籍では度々、原作では恋愛関係になかった男性同士が、恋愛関係として描かれる。

またBLには、「受け」「攻め」という概念が存在する。この「受け」「攻め」という概念は、多くは性行為時の役回りによって決められるものである。挿入される側を「受け」、挿入する側を「攻め」と呼ぶ。さらに、二次創作において「受け」と「攻め」を決める行為、またそれにより「受け」「攻め」の関係に置かれた二人を「カップリング (CP／カブ)」という。Aというキャラクターが攻めでありBというキャラクターが受けであるカップリングを表記する際には、「A×B」または「AB」という形で表記されることが多い。

1.5.2 腐女子

「腐女子」とは、BLの愛好者女性を指す言葉の中で、最もポピュラーなもののひとつである。この腐女子という言葉が愛好者の自称として用いられはじめた当初は、BLというある種異質なものを愛好する、アブノーマルな自分を自虐する意味が込められていた。また現在では、腐女子という言葉はBLの愛好者という意味に限定されず使用されることもあり、オタク趣味をもつ女性を全般的に指す場合や、「女性「らしさ」を放棄した女性」⁶を指すも

⁵ pixivとは、イラスト・漫画・小説の投稿サイトである。SNSとしての機能もあり、例えばユーザーが投稿した作品に対して他のユーザーがコメント等フィードバックを返す機能や、作品への「ブックマーク」、ユーザー間で行われる「フォロー」がある。無料でユーザー登録、利用が可能である。

⁶ 相田美穂。期待される腐女子像からのエクソダス―「可能性」の読み込み／誤読に関する

のとして用いられる場合もある。

腐女子という自称には、自分自身を自虐的に捉える意味のほか、周囲と区別して自身を特別視する機能ももつことが指摘されている。溝口（2015）は、「自らを『アブノーマル』だと恥じると同時に『特別』だと誇りも抱いており」と述べ、BL 愛好者が、BL 愛好をしない「一般人」を差別化する意識を説明した。

なお、この腐女子という言葉に対応する形で、BL の愛好者男性を指す「腐男子」という言葉も存在する。

1.5.3 BL 愛好者

本研究では、BL を愛好する人々について「BL 愛好者」という言葉を採用した。これは、上述のような腐女子という言葉の多義性や、性別の限定という問題を避けるためである。またこの言葉のもつ自虐的な意味から離れ、フラットな視点で当事者を捉えるためである。つまり本研究における「BL 愛好者」は、その性別やセクシュアリティに関わらず、また「腐女子」や「腐男子」等の自称の有無に関わらず、BL を愛好しているという自認がある人々を指す言葉である。

1.5.4 セクシュアリティ

セクシュアリティとは、個々人の性のあり方、つまり、身体の性別や社会的性別、性的指向、性自認など、性に関する意識や行動の全てを指す言葉である。また狭義には性的指向、またそれに加え性自認を指す場合が多い⁷。

本研究においては、セクシュアリティの狭義の意味とされる性的指向と性自認を合わせた概念として定義し、調査に臨んだ。

また、個々人が抱く、自分自身のセクシュアリティや他者のセクシュアリティに対する考え方を、セクシュアリティ観とした。

る一考察— 広島修大論集. 2013, vol. 54, no. 1, p. 207-220.

⁷ 日本大百科全書（ニッポニカ）. “セクシュアリティ（せくしゅありてい）とは”. コトバンク.

<https://kotobank.jp/word/%E3%82%BB%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%83%86%E3%82%A3-1554311>, (参照 2018-12-27).

第2章 調査概要

2.1 調査方法

個々人に対し深く話を掘り下げて訊くことのできる、インタビューによる質的調査を採用した。本研究では、BL書籍の愛好に至るまでの経緯や、セクシュアリティ観の詳細なども調査する。これらの回答には一定の形が存在せず、個々人によって異なる考え方をもつことが予想される。そのため、調査協力者の考えを漏れなく拾うことのできる質的調査を採用した。

また本研究では、インタビュー調査の中でも半構造化インタビューを採用した。半構造化インタビューとは、はじめにある程度質問項目を設定しつつ、回答者の答えに合わせて臨機応変に質問内容を変化させていく形式のものである。調査協力者一人当たり一回一時間半程度の半構造化インタビューを、複数回行った。

2.2 調査内容

本調査では、調査協力者に対し、主に以下の項目について、インタビューを行うこととした。

- (1) BL愛好者としての自分自身と愛好するBLの作品について
- (2) BL愛好を隠すことについて
- (3) 調査協力者自身のセクシュアリティ観・恋愛観
- (4) その他

上記の通り、本調査では調査協力者個人のセクシュアリティ観や恋愛観といった、プライベートな話題についても扱った。そのため、調査の際にはラポール⁸の形成を意識した。具体的には、インタビューを複数回に分けて行ったり、インタビューする中でこちらの考えや経験等も開示したりといったことが挙げられる。

2.3 調査協力者

1.5.1の項で述べた通りBLの作品形態は多岐にわたる。そのため、調査協力者は、現在、その主な作品形態であるBL書籍を愛好している人を条件として選定した。また、BL愛好者は異性愛女性がほとんどであるとされているが、性別・性的指向を限定せず調査を行うこととした。卒業論文における調査協力者の一部は、引き続き本調査への協力も得た。なお、卒業論文における調査協力者の選定条件は、本調査のものと同一である。また、調査協力者の選定にはスノーボールサンプリング⁹を用いた。

⁸ 調査者と調査協力者との間にある信頼関係のことである。”社会調査基礎用語”．社会調査NOW. <http://www.jasr.or.jp/online/content/glossary/glossary.html>, (参照 2019-01-01).

⁹ スノーボールサンプリングとは、調査協力者に対して次の調査協力者の紹介を依頼することで、次の調査協力者を採用していくという、サンプリングの方法である。

2.4 調査倫理

本研究の調査は、筑波大学図書館情報メディア系研究倫理審査委員会に対し、研究内容の倫理審査を申請し、承認を得て行った。申請の際には、調査協力者に配布する本研究の協力依頼について書かれた依頼書、同意書に関しても同時に申請し、承認後、調査協力者に配布している。

調査の依頼は、調査協力者の紹介を受けた後にメールにて協力を依頼する形をとった。依頼メールを送る際には、研究内容や調査の概要についても記載した。さらに初回の調査を行う直前には、上述の依頼書を読んでもらい、同意書にて本人の了承を得たうえで、インタビュー調査を実施した。また、インタビューに入る際には、IC レコーダーと筆記のメモにてインタビュー内容を記録することを伝え、その承諾を得た上でインタビュー内容を記録した。

第3章 調査実施概要

3.1 調査協力者概要

以下に示す表は、調査協力者の性別、職業、インタビュー日時を示したものである。以降、調査協力者は表の左端に示したアルファベット記号で表すものとする。

	性別	インタビュー当時の職業	インタビュー年月日
Aさん	女性	大学院生（2016）、IT系（2018）	2016/05/05, 08/04, 12/03, 2018/11/17
Bさん	女性	大学院生（2016）、医療系（2018）	2016/08/24, 09/27, 2018/11/03～12/15 ¹⁰
Cさん	女性	大学院生（2016）、編集者（2018）	2016/09/09, 10/28, 12/01, 2018/11/18
Eさん	女性	大学院生、（2016）事務員（2018）	2016/09/23, 11/15, 2018/12/23～24 ¹¹
Fさん	男性	大学院生	2018/05/08, 06/08 ¹² , 07/27, 11/10
Gさん	女性	大学生	2018/10/04, 11/08, 12/21 ¹³

3.2 質問項目

（1）BL愛好者としての自分自身と愛好するBLの作品について

調査協力者自身が、BL愛好者としてどのようなスタンスで、現在までBL書籍を愛好してきたのかを質問した。具体的には、「腐女子／腐男子」といった自称を用いるか、BL愛好の趣味を周囲に明かすか、といった内容を質問した。

また、調査対象者がこれまでに触れてきたBL作品について語ってもらった。特に、BL書籍の好みについて語ってもらい、作品のどのような要素に惹かれているかを探った。

（2）BL愛好を隠すことについて

調査協力者が、周囲の人間に対してどの程度BL愛好を明かしているか質問した。周囲の人間としては、家族、友人、知人、恋人等複数の相手を想定した。

また、BL愛好を明かしていない場合においては、その理由が何であるかを詳細に訊いた。

（3）調査協力者自身のセクシュアリティ観・恋愛観

調査協力者自身のセクシュアリティや、セクシュアリティに関する考え方、恋愛に対する考え方を、経験とともに語ってもらった。

¹⁰ 対面での調査が不可能であったため、同意のもとメールでやり取りを行った。

¹¹ 同上

¹² この回のみ、Fさんと共通の知人であったMさんを交え、両者の同意のもとでインタビューを行った。MさんはFさんと大学学部時代の友人であり、筆者と同じ研究室に所属する学生である。二回目のインタビューでMさんに同行を依頼したのは、一回目のインタビューを踏まえ、Fさんの不安感を軽減させるため、またラポールの形成を促すためであった。

¹³ 対面での調査が不可能であったため、同意のもとメールでやり取りを行った。

(4) その他

調査協力者の家庭環境や交友関係等、(1)～(3)の内容と関係の深そうなエピソードを、ライフストーリーとして収集した。

また、インタビュー内での調査協力者の発言に(1)～(3)の内容と関連するものがあった場合は、それを深く掘り下げていく質問を行った。

3.3 インタビュー結果・分析

3.3.1 Aさん

Aさんは、卒論調査当時大学院1年生で、現在IT系の企業に勤めるBL愛好者女性である。中学生の頃からBL書籍を愛好し始め、BL愛好歴は12年である。またAさんはBL書籍を愛読するだけでなく、自分自身でBL書籍を作り、同人誌即売会で頒布した経験ももつ。

(1) BL愛好者としての自分自身と愛好するBLの作品について

Aさんは小学校時代からBL書籍に触れているが、BL書籍を好きになり始めた中学生の頃の読み方について、

中学でちょっとごたごたしたとき、なんかこう、その時は私は恋愛物語を求めてたんだけど、自分が求めるような恋愛物語が、BL以外のところにはあまりなかった[中略]かなり感情移入して読んでた。そのつまりなんていうのかな、まあ変な言い方だけど、この例えば攻めは私だ、みたいな[中略]BLってというか二次創作のBL

と語った。Aさんは二次創作のBL書籍に対して、中学時代に仲良くしていたグループ内で起こった恋愛関係の「ごたごた」などといった自己の経験に、重ね合わせて感情移入できる物語を求めていたと語った。しかし高校入学後は、「自己セラピーみたいな感じで小説を自分でずっと書いてた」と語るように、自ら小説を書きはじめ、それによって「自己セラピー」を図っていった。

一方で大学入学後は、出版社から発売された商業BLと呼ばれるようなBL書籍をよく読むようになっていく。高校時代に友人から商業BLを薦められたAさんは、その書籍との出会いについて、「長らく自分が求めてきたものをやっと見つけた」と語っていた。AさんはこうしたBL書籍で恋愛関係として描かれる二人の関係性について、

対等な関係性は好きなんだよね、やっぱりBLでも力の壁がかなりあるのはなんか違うなって感じ[中略]それは男女の恋愛のさめっちゃさ、テンプレートをさ当てはめてる[中略]結局そういう少女漫画もあんまり好きになれない

と語った。「男女の恋愛」における「テンプレート」を当てはめたような、二人の力関係に

差がある物語を「好きになれない」と語る A さんは、「対等な関係性」が描かれた BL 書籍を愛好していた。

また、A さんは最近自らも二次創作を行っていた作品について、

多分唯一って言うていいほど特殊なジャンルだから、結構他の界限¹⁴とはだいぶ違う[中略] だって作者腐女子だし。[中略] 元々そういう、そこを（筆者注：作中の男性二人の関係性を BL として）読める要素は原作からあらかじめあるっていう。だから、BL じゃないものを BL にしてるっていうことではない

というように、原作者が BL 愛好者であることによるジャンルの特殊性を語った。通常の二次創作 BL では、原作が BL ではない作品において関係性を読みかえることで BL として成立させている。しかし A さんが「特殊なジャンル」であるという原作は、BL 愛好者が描いているものである。そのため、原作の書籍を BL 書籍ではないと言い切ることはできないため、関係性をわざわざ読みかえている、という意識を抱く必要がないのである。

また、その「界限」に属していた間の出来事として、以下のような語りも得られた。

私の二次創作を読んで、（筆者注：SNS¹⁵上で）殴り返してきたことはあるね。全然、痛くなかった。全然痛くもかゆくもない。愛のあるパンチ

このように A さんは、原作者との距離の近さを挙げた。BL 愛好者である原作者が、読者による二次創作を実際に読むことがあり、さらにそれに対する「愛のある」批評を行ってくれるという。原作者が BL 愛好者であること、また読者との距離が近く交流できることから、A さんにとってこの「界限」は居心地の良いものであった。

しかしその一方で、

原作でもちょっと微妙な描写がある[中略]ホモフォビアな描写とか、ちょっと女性に対して、どうなんだっていう描写があって、そうきつい結構きつい[中略]それを言いたいんだけど言えない[中略]自分の素性ほぼ隠してたんだよね[中略]なんか、荒れそうだったから[中略]作者の取り巻きみたいな人がいて、その人たちがなかなか結構あの一、結構ガッチリ脇を固めてらっしゃる。で、そういう批判と

¹⁴ ある作品のファンや、また中でも二次創作を行う人々を指して「界限」と呼ぶことがある。「界限」の人々は、後述する Twitter や pixiv 等での個人間での交流を通して、コミュニティを形成することもあるため、「界限」は、こうしたコミュニティが形成されている意味も含めて用いられることもある。

¹⁵ Social Networking Service の略。デジタル大辞泉によれば、「個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービス」とされる。

かが上がったりとかすると[中略] 攻撃しに行ったりする

と語った。Aさんは大学時代にBL書籍やジェンダーに関する研究を行っていたため、現在でもホモフォビアや性差別、ジェンダー規範に対して批判的な視点をもっている。「微妙な描写」を批判できないという「界限」に身を置き、原作を読み続けたり二次創作活動が続けたりするためには、「自分の素性」つまり自らの研究者としての立場や培われた思想を隠さなければならなかった。Aさん自身が大学院卒業に際して忙しくなったことも一因となり、現在ではこのジャンルでの二次創作活動をやめている。

(2) BL 愛好を隠すことについて

Aさんは、自身の研究活動のこともあり、あまりBL愛好を隠すことをしていない。Twitter¹⁶上でも自分の立場を公表して、言論活動を行っている。しかし、リアルな場においては相手に話さないことも限定的にあると言い、その理由を、

恥ずかしいとか恥ずかしくないとかじゃなくて、言うともめるかどうかで決める。相手の関係が悪くなるかどうかとか[中略]マイナスの評価を下されること自体はいいんだけど、相手が私に対してマイナスの評価をした結果、何かトラブルが起ることが嫌なの

と説明した。これは、過去にBL愛好という趣味を完全にオープンにしていた時期の、トラブルの経験に基づいた価値観であった。このトラブルの経験については、

仕事に支障がでたりとか。なんか他の人との、全体の関係が気まづくなったり[中略] まあ実際そういうことがあったから、それが嫌なんだよね。結局あとは私を馬鹿にすることで、他の言わない腐女子の人が、結局それを聞いたりするじゃん。そういうことは、なんか嫌なんだよね

と語った。

また、隠す相手の属性について、

LGBT、例えば特にゲイの人とかバイセクシュアルの男の人とかは特にだけど、まあ普通の人に「BLが好き」って言って、不快に思われるのとはまた全然違う[中

¹⁶ Twitterとは、140字の文章や画像、動画等を投稿できるミニブログ形式のサービスである。ユーザーの投稿である「ツイート」に返信する機能や、気に入った投稿につけられる「いいね」機能、気に入ったユーザーを登録できる「フォロー」機能などがあり、ユーザー同士が繋がりをもつことが可能であるため、SNSであるといえる。

略]相手を不快にさせるんじゃないかなと思って黙った時は何回もある

と語り、セクシュアル・マイノリティの男性と交流する中で、当事者に対する配慮のために隠す気持ちがあることを語った。

(3) 調査協力者自身のセクシュアリティ観・恋愛観

Aさんは現在バイセクシュアルの女性であるが、過去には同性への恋愛感情を否定したり、セクシュアリティが曖昧だと感じたりした経験をもつ。そのためAさんは、大学時代にLGBTサークルに所属し、大学院での研究も、BL書籍とLGBT当事者との関係性に着目したものであった。Aさんは就職した現在でも、セクシュアル・マイノリティに関連した活動に参加している。

Aさんは、BL書籍における関係性において「対等な関係性」を好んでいたが、実際の男女の恋愛においても、その志向があった。以下はその具体的な語りである。

そこで結局自分が女性であるっていうのは関係してくる[中略]対等な関係性ではありたいと思うけど、でもね、男女だと難しい[中略]男女で達成しなきゃ意味がない

また、Aさんは活動家としての側面から、セクシュアル・マイノリティへの差別に目を向ける機会が多い。ゲイ当事者にとっては差別語である「ホモ」という言葉が、BL愛好者たちの中で使われがちである、ということについては以下のように語った。

「それは良くないし、使わない方が良いし、自分も使いません」ってスタンス[中略]ただ、なんかこう…完全に話が分かる人しかいないときに、どうしてもその、言葉が必要なら、言う[中略]一応一言添えるけど[中略]「こういう言い方良くないけど」って[中略]Twitterとかよく見てて、「やっぱり、こういう言い方止めようって言った方がいいな」と思って、呼びかけるようにはなった

(4) その他

Aさんは、BL愛好者がその趣味によって自分自身を卑下することを嫌っている。例えば、

腐女子の人っていつも自分を卑下する口実を探してるっていう、気がしてて。なんかそれは良くないというか、結局自分を卑下するところから一緒に同性愛も（筆者注：無意識に）下げちゃうっていう現象も、は、始まってる

という語りでは、BL愛好者が自分自身を卑下することが、愛好者自身だけでなく結果的に

同性愛に対しての卑下にも繋がることへの懸念がみられた。

3.3.2 Bさん

Bさんは、卒論調査当時大学院1年生で、現在は医療現場で働くBL愛好者女性である。BL愛好歴は中学生からで、12年であった。またBさんは、Aさんと古くからの友人であった。

(1) BL愛好者としての自分自身と愛好するBLの作品について

Bさんはこれまで主に二次創作のBL書籍を愛好していた。鑑賞する媒体については、同人誌や、pixiv等のイラストサイト上で公開されているものを挙げていたが、

pixiv 行かなくなっちゃってる。Twitter でたまに流れてくるの見て「ふふふ」
ってなるぐらい…になっちゃってる[中略]最近ねなんかみんな Twitter で[中略]な
んか時代の流れを感じる

というように、特に最近はTwitterでも供給を得ることができるため、イラストサイトにまで足を延ばす必要がなくなったと語った。

またBさんは、愛好を始めたころに感じた、BL愛好者の自称である「腐女子」という言葉に対する特別感について、「当時はこうなんか腐女子っていう言葉にプレミアみたいなものを感じてて」と語った。

その一方で、現在はマイナスなイメージをもっていると語り、例えば、

世間のイメージ的にまだ腐女子ってマイナスイメージなんですかね？なのかな
あ、っていうイメージが私の中ではある[中略]受け入れられつつあ、あるのかなー
という感じは、あるんですけど[中略]ネットに行くとどうしてもそうっちゃう

というように、ネット上で偏った意見を目にすることに加え、

オタクっていう言葉のイメージにまだちょっと、引け目を感じてる[中略]（筆者
注：Bさん自身は）漫画アニメがいまだに好き[中略]多分歴が古いから、故の弊害だ
と思う

と語るように、大人になった現在でもオタク趣味やBL愛好の趣味があることに引け目を感じていた。

(2) BL愛好を隠すことについて

Bさんは、BL愛好をオタク趣味の下位カテゴリとして捉えている。そのため、オタクで

あると判断できる相手以外には、BL 趣味を隠していることが分かった。大学では医療系の学部に所属していたが、そこではオタク趣味をもっている人が少なかったため、漫画・アニメ等サブカルチャーの愛好者が集うサークルに所属していたと語った。B さんは趣味を隠すことについて、具体的には以下のように語っている。

オタクであることをそのオープンにしている人には腐女子、あのそういう趣味があることも全然隠してないんですけど[中略]言えない。だから（筆者注：同じ）学類の子？（筆者注：には）ちょっと、内緒にしました

また、BL 書籍の中でも二次創作を特に好む B さんは、その趣味を隠すべきだという意識をもっていた。例えば、

一応隠してるというスタンスは個人的に持っていて欲しいなと、私は A さんとちょっと意見が違うかもしれないんですけど。私割と子供向けアニメとかもそういう文脈で見ちゃったりするタイプなんで[中略]漫画アニメを子どものものっていうイメージがすごいなんか固定観念[中略]でも一次の BL が好きっていうのは…まあ、ね、理解してもらうのは周りが難しいとは思うんですけど私は別に

と語った上で、性的な内容を含む二次創作については特に、

絶対隠せとは言えないんで、難しいですけど[中略]表紙がすごいピンクピンクしてるととかだと流石にやめてって思っちゃう[中略]エロの有無とかもわりと、その辺はその見せる見せないは絡む

というように、その存在すら隠すべきだと語った。

(3) 調査協力者自身のセクシュアリティ観・恋愛観

B さんは女性であるが、交際経験がないため、自分自身のセクシュアリティについてはよく分からないと語った。

セクシュアル・マイノリティ当事者との交流については、バイセクシュアルの友人が男女ともに何人かいたと語ったが、あくまでも趣味のサークル内での関係であったため、当事者としての体験を聞くような仲ではなかったと語った。彼らとの交流の中では、

「ホモ」など、同性愛を揶揄したり、変わったもの扱いしたりするようなことがないように気をつけて

というように、配慮しようとする意識が感じられた。「同性愛を揶揄」する表現である「ホモ」という言葉については、

私自身は「ホモ」という言葉にそこまでマイナスイメージを持っていません[中略]腐女子がそういった関係性を前向きにとらえる[中略]意味での「ホモ」を先に知ってしまった[中略]「男性同士の、恋愛に近似できるような関係性そのもの」を表すときに使っている[中略]ものを知るにつれて、一般的には差別的な意味で用いられることが多いということ、そういった意図はなくても「ホモ」という言葉を使うことで揶揄されているも（筆者注：揶揄されていると）感じる人が多くいるということが分かり、認識を改めた

と語り、BL の文脈で知った言葉が後に「差別的な意味で用いられることが多い」と知り、「揶揄されている」と感じさせないためにも、最近では使用を控えるようになっている。また同性愛の存在を知ったきっかけについては、

同性愛の存在を知ったのは BL[中略]もしかしたら影響を受けてるかも。本格的に恋愛するより先に知ってしまった

と、BL 書籍での出会いが初めてだったかもしれないと語り、自身のセクシュアリティも影響を受けたかもしれないという可能性を語った。

(4) その他

言及なし。

3.3.3 C さん

C さんは、卒論調査当時大学院 2 年生で、現在漫画編集者として働く BL 愛好者女性である。BL 愛好歴は約 10 年で、高校生の頃から BL 書籍を愛読し始めた。大学院時代に BL 書籍の出版社でのインターンシップ経験がある。また、A さんとは大学院時代から交流がある。

(1) BL 愛好者としての自分自身と愛好する BL の作品について

C さんは、出版社から出版される BL 書籍の中でも、「ニューウェーブ系¹⁷」と呼ばれる作品を好んで読んでいた。こうした作品の特徴については、

基本的に商業でも好きなのは、その A さんが言うような「ニューウェーブ系」？の作品ばかりですね。ちょっとなんかフェミっ気入ってるような感じの

¹⁷ この「ニューウェーブ系」は、溝口（2015）のいう「進化形 BL」と概ね同義である。

と語った。

また、「フィクションの中の男の子が男女差別的な発言をすると、すごいイラッとはした」と語るように、全般的にフィクション作品の中における女性蔑視的な男性に対して、苛立ちをあらわにした。

(2) BL 愛好を隠すことについて

C さんは、一人暮らしを始めた大学入学時まで、ほとんど BL 書籍を購入したことがないことを語り、その理由として、以下のように語っている。

親にバレるとやばいから[中略]セクシュアリティ的に微妙なので。微妙なので、なんか、そういうものを、置いていると、ちょっと自分もそういう風に思われるんじゃないかっていう、ちょっと恐怖感があったので、そういう、オープンにはしてなかった

このように C さんは、自分自身のセクシュアリティが「微妙」であることが、BL という同性愛の物語を読むことで発覚する恐怖によって、BL 愛好を隠していた。

また C さんは、BL 愛好を隠す理由として、

ちょっと、持ってるの恥ずかしいものっていう認識はありましたけど。その二つですかね[中略]「あり得ないよね」みたいな（笑い）、言葉とか（筆者注：BL 書籍を読まない人たちから）結構聞いてたので

というように、周囲が認めない恥ずかしい趣味だと感じた経験も語った。

(3) 調査協力者自身のセクシュアリティ観・恋愛観

C さんは、卒論調査当時レズビアンを自認する女性だった。C さんは子どもの頃を振り返って、

子どもの時は男女区別なく、多分バイ¹⁸みたいな感じだったんですけど、中高で付き合ったのが女の子で、大学でも女の子だったので[中略]BL が好きだから、そっちにいったってわけじゃなくて逆ですね多分

と語った。なお現在は、男性と交際しているという¹⁹。

¹⁸ バイセクシュアルの略

¹⁹ そのため現在はレズビアンという自認はなく、またバイセクシュアルともヘテロセクシ

学生時代を振り返った C さんは、周囲の友人が、「ホモ」という言葉を使うのを頻繁に耳にしたという。この言葉も、当時の C さんは流れて使っていたといい、

周りの人たちが結構言ってる、それにつられて[中略]多分そんなに周りは悪意なく使ってたし…最近はその言い方っていうこと気を付けるようになってる人多いじゃないですか。でもなんかそのときは全然、そういう、意識、がなかった[中略]中学校のときに初めて女の子と付き合ったんですけど、そのあたりからちょっと…なんか大丈夫なのかな？みたいな（笑い）その言葉自体が

というように語っている。初めて女性と付き合った際に、セクシュアル・マイノリティに関する知識を得ていくうちに、「ホモ」という言葉が差別的な言葉であると知ったという。

(4) その他

C さんは BL 以外にも、女性同士の恋愛を描いた作品である「百合」を好んでいた。この百合の愛好については、BL よりも自分自身に近いものという意識があったと語った。BL 書籍と百合の書籍とを比較した語りとして、

百合はまだ結構狭いから。あんまりおもしろい話がないから[中略]あーでも（筆者注：お気に入りの BL 書籍が百合になったら良いのにと）思ったことはあるかも。やっぱり女性同士のやつも読んでみたいなって思うことはある

というものが得られた。C さんは、自分が感情移入できる女性同士の物語を求める一方で、内容の質的な面で、「フェミっ気入ってるような感じの」作品である「ニューウェーブ系」の BL 書籍を愛好していることが分かった。

またこの愛好は、BL 愛好よりもセクシュアリティに直接関係のあることとして、周囲に隠す気持ちが大きいと語った。

C さんの家族との関係について質問した際には、父親に対する嫌悪感を語った。特に、

今でも許せないところがある[中略]お父さんが、女性全体を見下すような発言が本当に多くて[中略]小学校四年生の時に目が悪くなって、そのお母さんとメガネを作りに行ったことがある[中略]そのときは、なんかお父さんがちょっと酔っ払って、殴っちゃってお母さんを[中略]「なんでそんな目を悪くさせたんだ」みたいな

といった語りが印象的であった。

ュアルとも自認できない状況であると語った。

3.3.4 Eさん

Eさんは、卒論調査当時大学院2年生であり、現在は事務員として働くBL愛好者女性である。BL愛好歴は、調査当時までで11年あり、初めてBLに触れたのは中学2年生の頃だった。

(1) BL愛好者としての自分自身と愛好するBLの作品について

Eさんは、BL書籍の存在を知ったきっかけとして、定期購読していた文芸系雑誌『ダ・ヴィンチ』でのBL特集を挙げている。その中で紹介されていたBL小説を、実際に手に入れて読んだことがきっかけで、BL愛好をはじめたという。なお、それ以前の経験として、

『カードキャプターさくら』の桃矢と雪兎²⁰の、には、なんの偏見もなくいけたから、最初から偏見はなかったんだと思う[中略]多分、雪兎と桃矢の関係性にはいいなって、心の中では思ってた

と、少女漫画内で描かれる同性愛表現のようなものに対して、惹かれていたことがあると語った。

またEさんは、二次創作BL書籍によってBL愛好が本格化したと語り、

元々、そういう、男女として描かれてない、なんか恋人として描かれてない、ところから入ってるから…その、王道²¹モノ？にはハマらなかったのは自分でも納得いく。なんかその最初から、[中略]もうそれ前提として描かれてるやつが好みじゃなかったのは、二次創作から入ったからだと思う。友情関係があって、でもそこに、なんか実は恋愛が起こっちゃってて、それをなんか覗き見させてもらってる[中略]そもそもそのキャラ同士を好きだから

というように、BL書籍を読む際には、「覗き見」という視点であることを語った。

Eさんは、BL愛好をしている自分自身を、「腐女子」とであると表現している。しかし、BL愛好という趣味に引け目を感じていないと語っており、「腐女子」という言葉についても、「腐ってるから、ごめんみたいな感じでは使ってない」と語るように、卑下の意味を感じずに用いているという。しかし、交際相手となる男性に対しては、BL愛好の趣味に引け目を感じることがあるという。このことについてEさんは、

彼氏と付き合い始めは、ごめんねとは言ったかも[中略]普通のきゃぴきゃぴした

²⁰ 『カードキャプターさくら』は、CLAMPによる日本の少女漫画である。作中の男性キャラクターである木之本桃矢と月城雪兎は親友であるが、両想いの関係性にある。

²¹ ここでは男女のジェンダーロールに沿うようなキャラクター造形によって、のちに恋愛関係となる二人が明確に描かれるようなBL作品のこと。「ニューウェーブ系」や「進化形BL」とは対比的な作品群であるといえる。

なんかお洒落なお洒落大好きで、なんかかっこいい男の子が大好きでドラマとか見ちゃうような女の子ではないよっていう意味では使う。卑下として使ったかも

と語り、この際には「腐女子」という言葉も「卑下として使ったかも」と振り返っていた。

また Eさんは、BLの文脈において「ホモ」という言葉を使うことがあるという。この言葉のイメージについて、「年下好きをロリコンと呼ぶ感じと似てる」と語り、「少しライトな感じで、BLを指す際」に使うのだという。

(2) BL 愛好を隠すことについて

EさんはBL愛好を始めた当初から、BL愛好という趣味は隠さなければいけないという意識を抱いていた。その原因については、

特集みても、一般的な趣味、一般的に認知されてるわけではないんだろうなっていうのが分かる書き方[中略]なんかオープンになろうって感じではなかった[中略]個人サイトとか回ることになるけど、そのときにもう、ネットマナーとか腐女子のマナーとかは見かける

というように、BL愛好を知ったきっかけでもある雑誌での紹介のされ方や、ネット上で得た知識に一因があると語った。

また Eさんは、BL愛好の趣味が両親に発覚した経験をもっている。Eさんはその時の様子について、

携帯でそういうサイトを開いたまま寝て[中略]朝から修羅場で[中略]（筆者注：怒られた原因は）ピュアじゃなさじゃない？[中略]それからはバレないように気を付けた[中略]その事件で、変なのって言われたからやっぱり変なんだって思って、いい印象は持っていないだろうなってのは分かったから[中略]恥ずかしさもあったけど、恥ずかしさよりかは、その「あ、嫌なんだ。嫌なんだったら言っちゃだめだ」みたいな

と語った。「それからはバレないように気を付けた」というように、このような両親から怒られた経験も、EさんにとってBL愛好を隠さなければならない理由となっていた。

(3) 調査協力者自身のセクシュアリティ観・恋愛観

Eさんは、男性との交際経験がある、異性愛女性である。しかし、

いやでもどうだろうなんかー…なんかー、うーんと、男の子でいう、ちょっとな

んか、二人きりでいると緊張するぐらいの…感じを思った女子は結構いるかも。いるかも。でもすごく好き、みたいな

というように、今振り返った際に、同性に対する恋愛感情を否定できない旨を語った。なお、Eさんはこれまでの人生において、セクシュアル・マイノリティ当事者と交流したことはなく、最近になって女性の友人から同性の交際相手がいることを告げられた程度だという。

また、男女の恋愛について、BL書籍に描かれる男性同士の関係と比較した語りが得られた。以下がその一例である。

男女の恋愛だとさ、なんか、なんだろう、なんか女の子だから一、女の子はか弱い方がいいとか、男の子は頼り甲斐がある方がいいとか、なんか、ね。女、女はわがままなものだとか、男はそれに付き合っあげるみたいなそんななんか、暗黙の了解みたいなものがある[中略]でも、その同性の人たち同士は、なんか、男ってこういうもんだよなみたいな、共通認識がありつつ、一緒にいるわけじゃん

Eさんは、男女の恋愛において「暗黙の了解」があるといい、男女それぞれがジェンダー役割に縛られていると感じていた。その一方で BL 書籍に描かれる男性同士の恋愛では、「男ってこういうもんだよな」というような、例えば女性を守る立場としての男性役割を演じずに済むと考えていた。男性同士であるからこそ、女性の前でジェンダー役割を演じるときとは違う、男性本来の性質に「共通認識がありつつ、一緒にいる」ことができるという。

(4) その他

Eさんは、自分自身の両親が過保護であると語り、高校生になってお小遣い制が始まるまでは漫画を買うことが許されていなかったことや、大学時代に所属した軽音楽サークルについて両親の理解が得られていなかったことを語った。なお、Eさんの両親の職業は学校教師であった。

3.3.5 Fさん

Fさんは、現在大学院2年生のBL愛好者男性である。BL愛好歴は約10年で、初めてBLに触れたのは中学生だという。また、Fさんはゲイ当事者である。

(1) BL愛好者としての自分自身と愛好するBLの作品について

Fさんは、BLに興味をもったきっかけについて、

『純ロマ²²』を観て、これだ！って。なんかすごい、キュンキュンしたし、すご

²² 『純情ロマンチカ』は、中村春菊によるBL漫画である。2008年に初めてテレビアニメ化され、その後2010年、2015年にも続編が放送されている。

い面白かった[中略]たぶんそこから始まったんだと思う[中略]最初は（筆者注：現実の）同性に興味があって、中学校でそれをみて、BLの方に興味をもった

と語った。このように F さんは、ゲイ当事者であったことで BL 愛好を始めた。そのため、その後の BL 書籍の読み方も、当事者的な視点によっている。例えば、

自分の中ではどちらかというと脳みそというか考え方は女性、恋愛においても女性の脳をしてる、共感できるところがあるからのめりこむ[中略]少女漫画より BLの方が共感できる、禁じられた恋、目の付け所が結構似てる[中略]自分の恋愛観と結構似、近接するときが結構あるから、そこで結構引っかかったり、引っかかるっていうか、似てるなっていうので、感情移入して、読むかなっていうのはあるかも [中略]俺調べだと（筆者注：ゲイ男性の中でも）受け²³気質の人は（筆者注：BLを）見る

というように、実際の恋愛とひもづけて BL 書籍を楽しんでおり、また「受け気質」で「女性」的な考え方をもっているため、主に女性が作り手である BL に親しんでいる。

また、語りの中では「メンヘラ」という言葉も度々見受けられ、例えば、

ないないないない。あんなの男だったらメンヘラだよ[中略]でも俺はメンヘラだから(笑い)共感しちゃうんだよ[中略]自分でも驚くぐらいメンヘラなの。メンヘラがこじれて、解消するために読む。俺の周りで BL 好きな人は結構メンヘラが多い

というような語りが得られた。F さんは恋愛において「メンヘラ」、つまり情緒が不安定な部分を自覚しており、BL 書籍に描かれる同じように「メンヘラ」なキャラクターに共感していた。

F さんは BL 書籍と比較したゲイ男性向け漫画について、

ストーリーっていうよりかは、行為中の、その描き方が、描き方に重きを置いている[中略]キュンキュンっていうよりかはエロ本みたいな[中略]俺が求めているのはそれじゃない！って

と語り、「ストーリー」が重視され、より「キュンキュン」できる対象として BL 書籍を好んでいることが分かった。

また F さんは、好きになる BL 書籍のキャラクターやシチュエーションについて、

²³ 1.5 参照のこと

「俺はこんなじゃなかったのに」っていうあれ[中略]自分の中で葛藤するっていうあれ[中略]嬉しい展開

と語った。「キュンキュン」できるストーリーの中でも、異性愛者である男性が、男性への想いに自覚して葛藤する展開²⁴を「嬉しい」と感じていた。FさんはBL書籍と同様に少女漫画も好んでいた。

(2) BL 愛好を隠すことについて

Fさんは、周囲にBL愛好を特に隠す気持ちはないと語りながらも、過去には家族や周囲の人に対してBL愛好がばれることを避けていた。Fさんはその時のことについて、

(筆者注：大学までは)BLの話はしなかった。大学入ってからはやっぱ県外だし、自分の知らない人ばっかだったから、別に言ってもいいかと思って[中略]言いづらいよー。やっぱ信頼できる人しか[中略]腐男子でこっち(筆者注：ゲイ男性)じゃないって、その方がレアかも[中略]漫画を大量に買う時に(筆者注：BL書籍)をさりげなく混ぜる。(中略)そういうせこい技をしてた

と語った。Fさん自身の考えでは、BL愛好者の男性でゲイ当事者ではない人は「レア」であるため、BL愛好を明かすことは自身のセクシュアリティを明かすことにもつながるのである。

またFさんには、セクシュアリティを隠す気持ちの他にも、BL書籍を男性が買うことへの抵抗感がある。その抵抗を感じる具体例としては、

なんかやっぱ、(筆者注：書店での)配置が良くないと思う。少女漫画の横にあるから良くない。少年漫画の横においてくれば全然行くし

というように、書店における配置を挙げていた。

(3) 調査協力者自身のセクシュアリティ観・恋愛観

Fさんはゲイを自認する男性であり、

物心ついたときからずっと恋愛対象が男性だったので、だから途中で変わった

²⁴ 溝口(2015)によれば、異性愛者であることを主張し葛藤の末に結ばれる物語は、BLの定型であるとしたうえで、こうした定型BLでは「ホモフォビックなホモが演出する奇跡」のため、同性愛が「小道具として」利用されているという。定型BLと対をなすのが、「進化形BL」であり、「ニューウェーブ系」である。

ってことはなくて

というように、女性が恋愛対象になったことはないという。過去に女性から告白を受け付き合った経験が一度だけあったが、相手が仲の良い大切な友人であり、関係性を壊すことへの恐れからであったという。

Fさんは自分自身のセクシュアリティについては公言しておらず、

言って相談できる相手だったら良い、理解がある人、言ったことに対して返してくれる人[中略]言った方が確かに楽っていうのはあるけど、相手に何かしら押し付けてる、言ったことによって相手がそういうことと思ってしまったら

と、公言した際の相手の心情を気にする語りが得られた。

これまでの恋愛経験については、地方出身のために出会いがなく、初めて男性と付き合った経験は大学に入学した後だと語った。その後の恋愛経験については、

アプリ²⁵とかで知り合った人だから、同じあれ（筆者注：ゲイ男性同士）[中略]俺は一緒に住んで、結婚、結婚まだできるかわかんないけど、そういうところまで考えてるから。そういう、考えを持ってる人って非常に少ない。のが現状

と、理想と現実がかみ合わない現状を嘆く語りがみられた。

Fさんが現実の恋愛において求める特徴的なものとして、家庭的な面で相手に尽くすことが挙げられる。

普通にまあ仕事は行ってもらいたけど、家帰ったら本当何もしなくて別に良い。家事やってあげて(中略)（筆者注：付き合う相手の属性として）家事が苦手はポイント高い。そう、俺が全部やるからって

また Fさんの恋愛観は BL 書籍の好みと関連付けて語られることもあり、例えば、

筆者：理想の恋愛どんな感じですかみたいな話訊いたときに、なんかめっちゃイケメンのノンケ²⁶男子を、「ノンケ男子を拾いたいよね、拾いたくない？」みたいな話があったと思うんですけど

Fさん：そんな話したっけな（笑い）養ってあげたいよね

²⁵ 同性のパートナーを探すことのできるマッチングアプリ（アプリケーション）のこと。

²⁶ 異性愛者のこと

といった語りや、また、

そういうのがあってほしいな一、職場で[中略]憧れてたもんずっと。高校時代のときとか、同級生はまあカップルとかいるじゃん。いいなーって

という語りがあるように、BL 書籍の好みでも登場した異性愛男性との恋愛に憧れを抱いていた。異性愛者との恋愛への憧れは、単に、恋愛の相手が異性愛男性であれば良いということを表すわけではない。過去に現実でも「憧れてた」「高校時代のときとか、同級生はまあカップルとかいるじゃん」という語りからも分かるように、異性愛者同士のするような、恋愛を経験したいという意味でもあると解釈できる。一方で、一般的なゲイ男性の恋愛について、

(筆者注：マッチングアプリ使用者は) 多い多い、みんな使ってる。そこしかない、んだよ。そういうバーとか、そういうところに行けば出会いはあるけど、世の中って分かんないじゃん、道歩いてても、その人が同士かどうかっていうのはわからないから、やっぱそこ(筆者注：マッチングアプリ)に一番走っていくのかなって感じ

と語った。前述の「アプリとかで知り合」うことは、F さんにとって「キュンキュン」を伴わない現実なのである。

また、BL 愛好者から向けられる視線については、

俺が男子といちゃいちゃしてると、すぐ見てくる。あー、なるほどって。だから俺は…サービスって思ってた[中略]別にその、嫌ではなかった[中略]別に(筆者注：見られるのは)構わないけど。(筆者注：妄想を) どんどんしてください。それフィードバックしてほしい。してほしかった

というように、不快感ではなくむしろ面白さに近いものを感じていたことが分かった。また BL 愛好者自体にも偏見はないと言い、

ある意味こっち(筆者注：ゲイ)の人だとそういう壁にぶち当たってるから、周りと違うんだみたいな。だからなんだろう、別にそういう人もいていいよって。[中略]その人が好きだったら別にそれでいいと思う

というように、自分自身の境遇から、多様な価値観を受け入れようとする姿勢がみられた。

しかし、BL 愛好者の言葉の使い方として、「ホモ」という言葉の使用について投げかけた

際には、

ホモっていうとなんていうかすごい…なんていうんだろう、蔑んだ感じつか、馬鹿にするときにもそういう、使うから。うん。だからなんか、俺的にホモって言われると結構傷つく[中略]分かんないんだよねきっと、当事者じゃないからねー。それはしょうがないよ

と語り、不快感とあきらめの気持ちをあらわにした。

(4) その他

Fさんは父親について、好きになれない部分があると語った。それは特に、

今もあんまり…いやなんかねー、理不尽っていうかなんかねー[中略] 子どもの本当に。だから俺がね、しっかりせざるを得なかった面はある[中略] 親が全然だから、そこはしっかりしないっていう反面教師だよね[中略] 先のことが見えない。なんか今、どんどんやっちゃみたいなの。先のこと計算しようよと思う

と語るように、目先のことにつられて行動を起こしてしまう部分であった。父親のこうした性格によって、Fさんやその母親もしばしば迷惑を被ったという。例えば、

(筆者注：迷惑を) 被ってる、なんかいつも。だから結構喧嘩してるんだよねやっぱ、母親と[中略] 母親も結構、口がま、達者な人だから。[中略] お父さんは最初は言うけど、途中から面倒くさくなって、全部なんかこう投げ出していく

というように、父親のこうした性格によって、度々両親が喧嘩すると語った。Fさんはこうした父親を「反面教師」にし、「しっかり」「先のこと計算しよう」とするようになった。また、両親の教育方針についても、「放任主義で、自分のことは自分でやりなさいみたいな」と語った。これも、Fさん自身が「しっかりせざるを得なかった」と感じる一因であろう。

さらに Fさんは、過去に付き合っていた相手に対しても、父親のような性格だったと振り返っていた。以下がその語りである。

元の方は、すごい父親みたいな感じで、すごい逃げるのすぐ。言ってることに対して、なんかこう、そのまま返すんじゃなくて、こう回りくどくなんか、言うてるから、どっちつかずなの[中略]なんかイライラしてきちゃう

3.3.6 Gさん

Gさんは、現在大学3年生のBL愛好者女性である。BL愛好歴は現在10年目で、初めてBLに触れたのは小学5年生の時であった。また、GさんはBL書籍を愛読するだけでなく、自分自身でBL書籍を書き、ネット上で公開することもしている。

(1) BL愛好者としての自分自身と愛好するBLの作品について

GさんはBLを愛好する自分自身を「過激な腐女子」と語った。ここでいう「過激」とは、二次創作BL作品において「原作の関係重視」であることである。つまり、原作からの二次創作を行う際に、原作の関係性をできるだけ保持した状態で、BLへと読み替えるということである。Gさんは、自分自身の過激さについて以下のように語った。

原作読んで、「あ、ここ付き合ってたな」って私が思うと、私が付き合わせなくてもそこはもう公式で付き合ってるんだみたいな[中略]そのキャラが付き合ってるの世界の真理だと思ってる[中略]過激になっちゃうんですね。キャラ改変²⁷がまず無理なんで

Gさんはそのような過激さのために、同じ趣味を持つ人間ともなかなか交流できないという。同じ作品の二次創作を愛好する仲間に出会えたとしても、

(筆者注：大学のサークル等のBL好きとは話が合わない)と思うことが分かってるんで、なるべく版權²⁸の話はしないって決めてる[中略]解釈²⁹違いが一番きつい。仲間ですよみたいな顔してナイフ持ってるんですよあいつら。うわってなる。なんで、自分で作った方が信頼できる

というように「解釈違い」を恐れ、あらかじめ「解釈」が同じだと分かっている仲間以外との交流を極力避けていた。また、「解釈違い」を認められないことにより、BL作品を自ら作ることもしている。

GさんはBL書籍の中でも二次創作を好んでいた。上述の「過激」さは、二次創作を好んでいるからこそ発揮されるものである。しかしGさん自身がBL書籍を書く場合は、自身が作ったオリジナルのキャラクターを用いる場合もあった。これは、「解釈違い」が許せないという意識の大きな表れである。

また、Gさんの好きなBLの関係性として「ホモ」という概念がある。Gさんはこの言葉について、

²⁷ ある作品におけるキャラクターの性格等を、二次創作において改変すること。

²⁸ 二次創作のこと。

²⁹ ここでいう解釈とは、ある作品において、登場するキャラクターの内面やキャラクター同士の関係性について、作品内で描かれた内容等を元に考察する行為や、その結果を指す。

ノンケ同士はホモかな。多分ゲイは元々男の人が恋愛対象の人で、ホモは、あの、「お前だから好きになっちゃったんや」みたいな。元々そういうわけじゃなかったのに、「あれ？」みたいな、人がホモ、って言う[中略]一緒にいるのが当たり前みたいな。そういう意味ではホモ…ブロマンス³⁰？みたいな、感じですね[中略]こいつとこいつの間でしかない関係性みたいながあると、「あ、いいな」ってなります

と語った。

Gさんは、自分自身が愛好するBL書籍のストーリーを、自分自身の恋愛に重ねて読むことはない、はっきり語っている。以下がその語りである。

あんま考えたことないですね。完全に、この二人はどうなるか、みたいな話、話しか考えてないですね。自分の話とあんまり照らし合わせたことは、ないかな、うん。あれですよ、よくあるあの、「わがまま言えない」みたいな話を、自分の、体験と置き換えるみたいな

Gさんが自分自身の恋愛と離れたところでBL書籍を読むのには、BL書籍の中でも二次創作を好んでいることが関係しており、

その二人らしい話が好きなんですけど、なんか、いちやいちやするような二人だったらいちやいちやしてるのがいいし、そういう感じじゃない、結構シリアスな感じの人たちだったら、その、キャラの内面？内面描写メインの、シリアスめのやつとかが好きだし、みたいな。その二人らしさがあれば[中略]キャラが先でシチュエーションが後[中略]「あーこの組み合わせ好き、この二人何するのかなこれかな」みたいな

と語った。お気に入りのキャラクター二人の関係性を楽しむ目的で愛好していたため、自分のことと照らし合わせて楽しむ視点がないのである。

(2) BL 愛好を隠すことについて

Gさんは、現在の大学での環境について、BL愛好に理解のある人が多いと感じていた。そのため、最近ではBL愛好という趣味をあまり隠さないと語った。しかし、上述の「過激な腐女子」としてのあり方は、表明しないように気を付けているという。

また現在でも親にはBL愛好の趣味を隠しているという話から、現在に至るまでも特に

³⁰ 「知恵蔵 mini」を参照すれば、強い絆で結ばれた男性同士の関係のことであり、非常に親密な関係でありながら性的な要素のない点が特徴的であるとされる。

BL 愛好に理解があると感じられない場合は愛好を隠していたことが分かった。G さんは、BL 愛好を隠す心情について、

隠すってことは、何かちょっと、あんま大声で言えないことがあるとかじゃないですか。なんで、一般に受け入れがたいってのはずっと分かってたんですけど、いや、うんまあそういうことなんだなって、そういう。ただ、そう思っちはいつつもやめられない

と述べた上で、二次創作をすることについて、「余計なことです、うん。そう、蛇足ってやつ」と語った。G さんの中で、「一般に受け入れがたい」趣味をもつことが罪悪感につながることはないが、「余計なこと」をしているように思われるだろう、という意識はもっていた。

G さんが、BL 愛好を「一般に受け入れがたい」と感じるようになったのは、

BL って結構あれだな、当時検索とかで、伏字、伏字じゃないけど[中略]D グレ³¹だったら D 灰って書くみたいな

と、ネット上に掲載した二次創作の BL 作品が BL 愛好者以外の目に触れないように、BL 愛好者以外からの検索を避けるための「伏字」のような文化に触れたことを、きっかけとして挙げている。また、BL にハマった当初の出来事として、

小学校とかの友達？の内の一人が、だいぶ、痛々しい…その子はオープンに言っちゃう子だった[中略]図工の時間とかにみんなで作るような、絵とかがあったんですけど、それとかに結構描いちゃう子で[中略]おお、ってそう、「おお」って（筆者注：クラスメイトに）言われる。「絵は上手いんだけどなー」みたいな[中略]多分アレ腐女子としてじゃなくて、オタクとして気持ち悪かったのかな[中略]（筆者注：腐女子）以前に、オタクとして

と、「オープンに言っちゃう」ことが周りから引かれることを経験していた。なお、G さん自身は、その友人が引かれたことを、「腐女子として」つまり BL 愛好者としてではなく、それよりも広い枠組みの「オタクとして」だと考えていた。

(3) 調査協力者自身のセクシュアリティ観・恋愛観

G さん自身は男性との交際経験があり、異性愛者を自認していた。なお G さんは、セク

³¹ D グレとは『D. Gray-man』の略であり、星野桂による日本の少年漫画である。

シュアル・マイノリティ当事者との接点があり、バイセクシュアルを自認する女性と 6 年間交流があると語った。

また BL 愛好に関する話題の中で語られた、「ホモ」という言葉とその定義について、G さんは現実も含めてそう考えていると語った。

(4) その他

G さんの母親は極度の「オタク嫌い」だという。G さんはその理由について、

母がそう元々その…漫画、良くないものみたいな感じの風潮で育った人だった
[中略]オタクがその、身内の中でしか通じない単語使って話してるオタクが嫌いらしくて。そういうのが嫌だったらしいんですよ

と語った。G さんは自身をオタクであると自認しているが、母親に対して自分自身のオタク趣味を隠すことはしていなかった。これは自分自身が、母親のいう「身内の中でしか通じない単語使って話してるオタク」ではないと分かっているためである。

また、G さんの家庭ではお小遣いの制度がなく、大学に入学しバイトを始めるまで、自由に使えるお金がお年玉しかなかったという。

第4章 考察

4.1 BL 愛好を隠すこと、明かすこと

4.1.1 BL 愛好を隠す意識の詳細

本節では、BL 愛好者たちの BL 愛好を隠す行為に着目し、それがどういった背景から起こっているのかを考察した上で、BL 愛好を周囲に隠す人々が趣味を共有する場について述べたい。まず本項では、BL 愛好者たちが BL 愛好を隠すに至った背景について考察する。

調査協力者の多く（6 人中 5 人）が、BL を好んで読むということを周囲に明かさないと語った。その背景にある理由を、三点に大別して以下に詳細を示す。

第一は、BL 愛好は世間的には趣味として不適切だという価値観を感じてしまうから、という理由であった。具体的に語りを引用すれば、例えば Bさんの、「理解してもらうのは周りが難しいと思うんですけど」という語りや、Gさんの、

隠すってことは、何かちょっと、あんま大声で言えないことがあるとかじゃないですか。なんで、一般に受け入れがたいってのはずっと分かってたんですけど、いや、うんまあそういうことなんだなって、そういう。ただ、そう思っちはいつつもやめられない[中略]小学校とかの友達？の内の一人が、だいぶ、痛々しい…その子はオープンに言っちゃう子だった

という語りにあらわれていた。

また、中でも Eさんは、

ちょっと卑下みたいな[中略]普通のきゃぴきゃぴしたなんかお洒落なお洒落大好きで、なんかかっこいい男の子が大好きでドラマとか見ちゃうような女の子ではないよっていう

と語り、BL 愛好が女性の趣味として「普通」ではないことを感じていたことが分かった。

BL 愛好を隠す第二の理由は、ポルノグラフィとしての要素ももつ BL の愛好が、発覚することへの恥ずかしさや罪悪感であった。公衆の面前で、性的な描写のある BL 書籍やそれに関する話題を出すことについて、Bさんは、

表紙がすごいピンクピンクしてる³²ととかだと流石にやめてって思っちゃう[中略] そのエロの有無とかもわりと

と語り、Cさんは、

³² 「エロ」と概ね同義

BL って結構その、18 禁な部分も多いから、BL の話をすごい大声でするので男子が AV の話を大声ですると結構似てる[中略] そのへんはやっぱ自重して欲しい

と語った。

また、E さんは、BL 書籍の愛好が両親に発覚した経験について、

携帯でそういうサイト（筆者注：BL 小説が公開されている個人サイト）を開いたまま寝て[中略] 朝から修羅場で[中略]（筆者注：怒られた原因は）ピュアじゃなさじゃない？[中略] それからはバレないように気を付けた

と語っており、「ピュアじゃなさ」、つまり性的な描写のある作品を読んでいたからこそ、両親から叱られたと感じていた。

そして BL 愛好を隠す第三の理由は、自分自身の同性愛指向を含んだセクシュアリティに気付かれたくない、という理由であった。これは、セクシュアル・マイノリティ当事者の中でも恋愛対象が同性のみである F さんと、恋愛対象が同性のみであると自認していた期間があった C さんとが該当した。C さんと F さんは、自分自身のセクシュアリティを周囲のほとんどの人間に対して明かしていなかった。彼らにとって BL 愛好を明かすことは、セクシュアリティを明かすことに近いと捉えられていた。そのため、BL 愛好が普通ではない趣味であるといった意識や、性的な描写のある BL を愛好するのは恥ずかしいことだといった意識は弱かった。

以上の三点を総括すると、BL 愛好を隠す調査対象者たちは、いずれも BL という作品や BL 愛好自体を悪だと捉えるために、愛好を隠しているわけではなかった。しかし、BL 愛好や、その背後にある自身のセクシュアリティが他者の視線にさらされるとき、BL 愛好が隠すべきものであると認識してしまう³³のである。

その例外である A さんは、相手に対して配慮の必要な場合は隠すことがあったが、基本的には隠しておらず、また Twitter 上では公開していた。これは、A さんが BL 書籍に関する研究を本格的に行ってきたことや、BL 愛好者が BL 愛好を卑下することへの反発の表れである。

また、多くの調査協力者が BL 愛好を隠していると語った一方で、いずれの協力者も BL 愛好を完全にやめようとはしなかった。例えば、E さんの「それからはバレないように気を

³³ 水戸(2012)は、BL 愛好者が隠れる理由について、外部からの圧力や差別ではなく「同じ腐女子からの同調圧力」の影響が大きいと指摘した。本調査において、その影響が大きかった調査協力者は発見できなかった（腐女子は隠すべきものといったことをネット上で見たものはいたが、同じ腐女子からの強要や影響を受けて隠していたという発言は大きくなかった。）が、腐女子内での同調圧力という問題は検討されるべきである。

付けた」、G さんの「ただ、そう思っではいつつもやめられない」という語りに表れている。調査協力者たちは、BL 愛好という趣味に恥ずかしさを覚えたり、周囲から受け入れられないことを学んだりしてからは、愛好をやめるのではなく隠して愛好し続けていた。

世間一般でも BL が受け入れられつつあるというのは、本研究の背景としても挙げたばかりである。しかし、

頭ではね、すごい分かってるんですよあのなんかね、最近商業 BL の作品こうアニメ化したり映画化したりとか、してるので、まあ受け入れられつつあるのかなーという感じは、あるんですけど

と B さんが語るように、世間一般では受け入れられつつあることが「頭では」分かっている。過去の経験やそれにより培われた価値観に縛られ続けていた。

溝口（2015）は BL 愛好者女性について論じる中で、BL 愛好者女性は「BL 愛好をしないことが規範である社会」に身を置いているがゆえに、自分自身を「実生活は異性愛者であっても、自らを一種の『性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）』だと位置づけ」と述べた。

本研究の調査協力者たちには、BL 愛好者であることを「セクシュアル・マイノリティ」であることと同義だと語る者はいなかった³⁴。しかし BL 愛好を隠す愛好者たちにとって、BL 愛好は単なる嗜好として片づけられる問題ではない。周囲の人間とは違うという「アブノーマル」さを感じさせられ、またセクシュアル・マイノリティ当事者と同様に社会からの認められなさや疎外感を感じさせられながらも、愛好する意志をもち続け、やめることのできない指向なのである。

4.1.2 BL 愛好を明かすことのできる場

前項では、社会からの偏見を感じる BL 愛好者が、愛好を隠しながらも続けていくことを、セクシュアル・マイノリティ当事者と近い境遇にあると考察した。セクシュアル・マイノリティ当事者はその指向によってコミュニティをつくり、連帯していくが、これと同様に BL 愛好者らも、同じ趣味をもつ人間を敏感に察知し、また SNS を駆使して、現実の人間関係の場においては BL 愛好を隠した状態でありながらも、その交流の輪を広げていくことは、溝口も指摘するところである。

そこで本項では、調査協力者たちの、BL 愛好によるつながりについて、BL 愛好者仲間や SNS 活用に関する語りに着目して考察する。

BL 愛好者たちは BL 愛好という趣味のもとに集まり交流を深めるが、調査協力者の中でも自身を「過激な腐女子」と表現する G さんは、その極端な例であった。二次創作におい

³⁴ C さんや F さんのように、BL と自己のセクシュアリティとの間に密接なつながりを感じている者は存在した。

て「原作の関係」を一番に重視する G さんは、そのような過激さのために、周りの BL 愛好者ともなかなか交流できず、

（筆者注：大学のサークル等の BL 好きとは話が合わない）思うことが分かってるんで、なるべく版權の話はしないって決めてる[中略]解釈違いが一番きつい。仲間ですよみたいな顔してナイフ持ってるんですよあいつら

と語り、同じ作品の二次創作を愛好する相手に対しても、解釈が共有できない可能性を恐れていた。しかし、長い BL 愛好歴の中で同じ解釈をもつ仲間を発見し、現在もその仲間たちとの交流を重要視していた。G さんは、同じ解釈をもつ仲間の構成について、

友達、まあ K なんですけど（笑い）。その K の高校の時の友達が二人と、純フォロワー³⁵が一人って感じの五人

と語った。

また G さんは、調査協力者たちの中でも特に、SNS を活用した交流を活発に行っていた。例えば、

一応 pixiv 最近文をあげてて、あとはふらいべったー³⁶とかにあげたりとか、Twitter のその鍵なしの公開アカウントで出したり[中略]鍵垢³⁷でしか私そういうの（筆者注：原作の関係性を重視すること）言わないんで。あのその地獄会（筆者注：上記五人の LINE³⁸グループ）に属してはいないけど、あの一、一応フォロワーフォロワーである人とかには、多分（筆者注：過激だと）思われてると思います。うん。でもそんな人ばっかだから

という語りからも分かるように、SNS を自分自身が創作した作品を公開する場としてだけでなく、リアルでの面識はないが思想を共有できる相手と繋がり、また交流する場としても活用していた。

³⁵ ここでのフォロワーとは、Twitter において、自分をフォローをしてくれている人を指す。ここでの純フォロワーとは、オフラインでのつながりが全くなく、フォロワーになっただけのフォローのこと。ここでの鍵垢とは、鍵のかかった、つまり非公開アカウントのこと。非公開アカウントの投稿した内容は、そのアカウントのフォロワーのみが見ることができる。

³⁶ Twitter のフォロワーのみに、文章や画像を公開できる、Twitter の連携アプリケーションである。

³⁷ 鍵垢とは、鍵のかかった、つまり非公開アカウントのこと。非公開アカウントの投稿した内容は、そのアカウントのフォロワーのみが見ることができる。

³⁸ LINE とは、「友だち」登録をしたユーザー同士が、無料で通話、チャット機能を使うことができるアプリである。アプリ内では「友だち」を集めた「グループ」を作成することができ、通話やチャットを多人数で行うこともできる。

こうした SNS の活用は、BL 愛好を周囲に隠す調査協力者に限ったことではなく、愛好を隠さない A さんにも見られた。A さんは、二次創作活動を行っていた際に、同じ作品で二次創作を行う仲間との交流を楽しんでいたと語った。さらには、

初めてその一、同人の人たちと、すごく仲良く交流させてもらって、逆に、なんかすごい私のファンでいてくれる方が現れたんだよね。すごく、その、もう全ファボ³⁹とかしてくれる人（笑い）。そうするともう、ファボ乞食みたいになっちゃって私も、その人からのファボを待っている自分みたいな。承認欲求の塊になっちゃった

と語るように、Twitter 上での交流によって自分自身の作品や思想への承認が得られることで、依存気味になった経験すらあるという。

現代の BL 愛好者たちは、たとえ周囲の人間からの理解が得られなくとも、SNS を駆使することで新しい仲間を発見し、趣味を共有し、苦悩を分かち合うことができる。さらに、現実の人間関係を切り離すことが可能な SNS 上では、隠す必要なく趣味の話題を共有できる。BL 愛好という同じ指向をもつ者同士が、隠れていながらも交流することを通して団結できることは、愛好する意志をより強固なものにしていくのだと言える。

4.2 「ホモ」という言葉をめぐる問題

4.2.1 BL の関係性を表す「ホモ」

本節では、BL 愛好者が用いる「ホモ」という言葉に着目し、4.1 で取り上げた BL 愛好者同士の強固な繋がりの中で、その言葉がどう用いられるかを考察する。

先行研究において、BL 書籍内で「ホモ」という言葉が用いられることについて取り上げたが、調査協力者へのインタビューの際にも、BL における男性同士の関係性を語る中で「ホモ」という言葉が用いられる場面があった。

言いやすい、なんか。[中略]ホモとゲイって違うじゃないですか？[中略]ノンケ同士はホモかな。多分ゲイは元々男の人が恋愛対象の人で、ホモは、あの、「お前だから好きになっちゃったんや」みたいな。元々そういうわけじゃなかったのに、「あれ？」みたいな、人がホモ、って言うのかな。[中略]すべて（筆者注：ホモとゲイ）ひっくるめて BL みたいな。

このように G さんは、「ゲイ」という言葉と比較しながら意味付けを行い、BL という文脈の中でホモという言葉を用いている。また同様に B さんも、BL においてホモという言葉

³⁹ ここでいうファボとは、前述の「いいね」機能のことである。全ファボとは、すべての投稿に対して「いいね」をすることである。

を用いることがあると語った。

「男性同士の、恋愛に近似できるような関係性そのもの」を表すときに使っていることが多い[中略]腐女子がそういった関係性を前向きにとらえる[中略]意味での「ホモ」を先に知ってしまって

一般的に「ホモ」とは、「ホモセクシュアル」の略語として用いられる場合、元々は同性愛者、特に男性同性愛者を指す言葉である。しかしここでの B さんや G さんの語りからは、現実の男性同性愛者を指す言葉としてではなく、BL という文脈における男性同士の特定の関係性を指す言葉として、独自の解釈で用いられることが分かる。つまり、BL というフィクションの中で、本来は恋愛関係にならないはずであった「ノンケ」の男性同士が、「恋愛に近似できるような関係性」である場面や、実際に恋愛へと発展する場面に、この言葉が適用されるのである。彼女たちにとって、このホモという言葉は、他の言葉では言い表せない、しかし言い表すべき価値のある関係性を表しているのだと言える。

また、この「ホモ」という言葉は、インターネットや SNS の影響を強く受け、BL 愛好者の間で広まっていったと予想できる。先に述べた G さん以外でも複数の調査協力者たちの語りにおいて、pixiv や Twitter といったツールが話題にのぼった。特に、SNS である Twitter を使用する BL 愛好者は多いと考えられ、例えば B さんは、

pixiv 行かなくなっちゃってる。Twitter でたまに流れてくるの見て「ふふふ」ってなるぐらい…になっちゃってる[中略]最近ねなんかみんな Twitter で[中略]なんか時代の流れを感じる

と語り、また A さんは、

Twitter とかよく見てて、「やっぱり、こういう言い方止めようって言った方がいいな」と思って、呼びかける

と語るように、調査協力者たちも、Twitter を用いる BL 愛好者が多いことを実感していた。先の 4.1 でも述べた通り、BL 趣味を周囲に隠す愛好者たちは、匿名性の守られる Twitter 上では、リアルの人間関係を切り離すことが可能であるため、趣味を隠す必要がない。趣味を隠す必要がないことは、同じ趣味をもつ者同士が繋がる⁴⁰ことを可能にする。

⁴⁰ Twitter における「フォロー」という機能は、Twitter における他者との繋がりを表す代表的なものである。SNS はコミュニケーションの場として開かれた場でありながらも、こうした機能によって、コミュニケーションの相手を限定することが可能である。この点において Twitter における繋がりは、閉鎖的な部分ももち得るといえる。

また、Aさんが「こういう言い方止めよう」と呼びかける必要性を感じるほどには、「ホモ」という言葉がTwitter上でも流行っている。この言葉の使用の是非に関して「学級会」と揶揄されるような議論が起こることもあれば、反対に「ホモくれ」といった言葉が頻繁にやり取りされることもあるという指摘⁴¹もある。議論が起きながらも用いられ続けることの理由の一つとして、この「ホモ」という言葉が暗号のようにBL愛好者の連帯の証としても機能している可能性も示唆される⁴²。

4.2.2 差別語としての「ホモ」に向き合うBL愛好者

一方で、現実世界において「ホモ」という言葉には、男性同性愛者に対する侮蔑の意味を含めて用いられてきたという歴史があり、セクシュアル・マイノリティ当事者の間では差別語として忌避されている⁴³。ゲイ男性でありBL愛好者でもあるFさんも、ホモという言葉について以下のように語っている。

蔑んだ感じってか、馬鹿にするときにもそういう、使うから。うん。だからなんか、俺的に「ホモ」って言われると結構傷つく。[中略]（筆者注：「ホモ」を気軽に使う人は）分かんないんだよねきっと、当事者じゃないからねー。それはしょうがないよ

4.2.1の通り、BL愛好者たちが用いるホモという言葉には、彼女らなりの特別な意味合いが付加されていた。しかし彼女らなりの特別な意味をもった「ホモ」という言葉は、SNS等を介して度々拡散され、その意味を共有しない人々へも伝わることとなった。

Fさんが理想とする恋愛の一つとして、ノンケ男子との恋愛があった。これは、Gさんが言うところの「ホモ」と近い部分がある。しかしFさんの語りでは、ホモという言葉を経典・セクシュアル・マイノリティの文化と切り離して、BLの文脈の中で語ることはなかった。これは、ゲイ当事者としての意識と経験の表れであるといえ、たとえ彼がBL愛好者であっても、バックボーンの違いによって共有できないものがあることを示している。

Bさんには、セクシュアル・マイノリティの友人が複数人いた経験があり、先に述べたような差別語としての意味合いにも気づくきっかけもあったため、現在ではホモという言葉

⁴¹ ケタ. ネット上にたゆたう<腐女子>：批評の場と言葉（特集 BL ボーイズラブ オン・ザ・ラン!）. ユリイカ. 2012, vol. 44, p. 196-199.

⁴² 一方で、「ホモ」という言葉を悪意なしに使うBL愛好者たちに便乗する形で、この言葉を、悪意を持った他者（例えばホモフォビアをもつ人々）に使用される可能性も考え得る。

⁴³ 森山至貴. LGBTを読みとく—クィア・スタディーズ入門. ちくま新書, 2017, 237p.

自由民主党政務調査会 性的指向・性自認に関する特命委員会. “性的指向・性同一性（性自認）に関するQ&A”. https://jimin.jp-east-2.storage.api.nifcloud.com/pdf/news/policy/132489_1.pdf?_ga=2.116057605.2003309761.1545041733-1494339168.1545041733, (参照 2018-12-18).

の使用を、BLの文脈においても控えるようになったという。以下はBさんの語りである。

ものを知るにつれて、一般的には差別的な意味で用いられることが多いということ、そういった意図はなくても「ホモ」という言葉を使うことで揶揄されている（筆者注：揶揄されていると）感じる人が多くいるということが分かり、認識を改めた[中略]「ホモ」など、同性愛を揶揄したり、変わったもの扱いしたりするようなことがないように気を付けていました。

Bさんのようにセクシュアル・マイノリティを自認する人々との交流がある場合や、自身が当事者であると自認する場合、ホモという言葉が当事者間では差別語であることにある程度気付きやすくなる。自身がセクシュアル・マイノリティ当事者であると気づいたことをきっかけに、能動的にその知識を得ようとする中で、差別的な意味合いに気付いた調査協力者（Aさん、Cさん）も存在した。

さらに、BL愛好者としての特別な意味合いと、セクシュアル・マイノリティ当事者としての差別的な意味合いとの間での葛藤があることも発見できた。

例えばAさんは、

「それは良くないし、使わない方が良く、自分も使いません」ってスタンス⁴⁴[中略]ただ、なんかこう…完全に話が分かる人しかいないときに、どうしてもその、言葉が必要なら、言う[中略]一応一言添えるけど[中略]「こういう言い方良くないけど」って[中略]パワーワード⁴⁵である方が良いみたいな文化[中略]BLって言葉もフィットしないみたいな、ホモしかない、ホモっていう表現でしか表現できないものがあるから使ってるみたいなことをいう人もいる[中略]新しい言葉を発明する、なりしないと

というように、BL的文脈を共有する人々の中では、ホモという言葉を使うことでしか通じないものがあることを理解しつつ、この言葉を使うことを「良くない」と認識している。AさんはBLという言葉が「フィットしない」ために、また「パワーワード」としてホモという言葉が用いられるという考えから、ホモという言葉に代わる「新しい言葉を発明する、なりしないと」と、何とかしてこの言葉が使われないようになって欲しいという意識をもち、

⁴⁴ Aさんは、「ホモ」という言葉だけでなく、BL愛好者が自分自身を卑下することも嫌っている。Aさんはこの愛好者の自虐が、愛好者自身だけでなく結果的に同性愛に対しての卑下にも繋がることを懸念している。この指摘の通り、BL愛好者による無意識的なゲイ当事者への偏見の表れとも捉えられる要素は、「ホモ」発言だけにとどまらない。本研究での言及はとどめるが、今後の検討課題としたい。

⁴⁵ ここでいうパワーワードとはネットスラングの一種であり、キャッチーでインパクトのある言葉を指す。

他者に呼びかけることまでしているという。しかしそうした働きかけの中でも、

幼馴染で、結構言う子がいるんだけど[中略]そういう（筆者注：侮蔑的な）、気持ちは一切ないっていうのは分かってる…けど、でもやっぱり使う、んだよね[中略]本当に仲良い人が（筆者注：「ホモ」という言葉を）使われると（筆者注：使うと）、なんかちょっとどうしようかなと思う。「そういう言い方は良くないよ」って言うときもある…し、でも言えないときもあるよやっぱり

というような揺らぎがある。なおインターネット上で、表明した意見が強く非難されることを「叩き」、この叩きが集中した状態を「炎上」と表現することがある。Aさんは過去に、SNSでの炎上を経験したことがあるという。ホモという言葉は、意味に多少の差異はあれど、BL愛好者たちの中である程度広く普及しているように思われる。その状況の中で、この言葉を使うべきでないと表明すること、またそれを他者にも呼びかけることのリスクは大きい。炎上を経験し、そのリスクの大きさを自覚した上で活動するAさんでも、「本当に仲良い人」だからこそ躊躇ってしまう。

一方で、「ホモ」という言葉をインタビュー中でもよく用いたGさんは、

ノンケ同士はホモかな。多分ゲイは元々男の人が恋愛対象の人で、ホモは、あの、「お前だから好きになっちゃったんや」みたいな。元々そういうわけじゃなかったのに、「あれ？」みたいな、人がホモ

というBLにおける「ホモ」の意味を、現実世界においても適用できると考えている。つまり、Fさんのようなゲイ当事者をはじめとして、多くの調査協力者の感じた、差別語であるという意識を、感じていないことが分かった。これは、Gさん自身のセクシュアリティがマジョリティであるために知識を得ようとする機会がなかったことや、Bさんとは異なり男性のセクシュアル・マイノリティ当事者との交流がなかったことに起因すると推測できる。

GさんやBさんのいうBLとしての「ホモ」は、現実世界での用法にみられる差別意識がなく、その言葉をポジティブに捉えているように感じられる。しかし、男性同士の特定の関係性を「ホモ」という言葉に託し、純化し、理想化する行為は、翻って「ゲイ」に対する偏見を助長する構図にもなり得ることは指摘しておきたい。

4.3 それでもBL書籍を読みつづける理由

4.3.1 葛藤をかかえるBL愛好者

4.1では、BL愛好を隠すことからみえてくる趣味としての特殊性と、それゆえの強固な団結について述べた。4.2では、そうした団結の中で流行する「ホモ」という言葉に託された意味と、この言葉のもつ暴力性について述べた。本節では、そうした「ホモ」という言葉

の意味において葛藤に苦しむ人々が BL 愛好をなぜ続けるのか⁴⁶を、BL 書籍に求めるものを中心として述べていく。

「ホモ」という言葉の意味がもつ両面性に、比較的強い葛藤を抱えていたのが A さんである。また C さんは、「ホモ」という言葉を流されて使いながらも、当事者間でのその言葉の意味合いに比較的早いうちから自覚的だった。まずは言葉の意味の両面性を自覚し、これに葛藤を覚えていた調査協力者である A さん、C さんについて考察する。

A さんはセクシュアル・マイノリティ当事者という立場、また支援者という立場として、「ホモ」という言葉と向き合ってきた。多くの BL 愛好者とも SNS 上で交流をもち続けているのは自分自身の研究のため、または BL 愛好者への啓蒙のためかもしれない。しかし A さんにとって BL を愛好しつづけることは、深い意味をもった行為であった。

A さんが BL 書籍を愛好しはじめたのは、その恋愛物語への深い「共感」からであった。これは A さんにとって、BL 書籍の物語でしか得られない要素の一つである。また A さんは大学入学以降の BL 書籍の好みについて、

対等な関係性は好きなんだよね。やっぱり BL でも力の差がかなりあるのはなんか違う [中略]それは男女の恋愛のさめっちゃさ、テンプレートをさ当てはめてる [中略]結局そういう少女漫画もあんまり好きになれない

というように、恋愛関係に描かれる二人の「対等な関係性」という要素を挙げていた。A さんにとってこの「対等な関係性」は同性同士の関係性の中でしか適用できないものではなく、現実の男女の恋愛においても理想の状態であり、A さん自身も実際の恋愛において困難でも達成すべきことだと考えていた。

また C さんからは、A さんのいう「対等な関係性」への志向をより強く感じた。C さんは男尊女卑な価値観の強く残る地域で育つ中で、特に「女性全体を見下す」父親の影響を強く受け、一時期は男性全般に嫌悪感を抱くようにまでなった。それにも関わらず男性が主役として登場する BL 書籍を読んでいたのはそこに対等さが描かれていたからであり、BL 書籍を読むことによって男尊女卑的な価値観の乗り越えを行っていたのだと推察できる。

A さんと C さんの語りに表れる「対等な関係性」は、Giddens(1995)のいう「純粋な関係性」と置き換えることができるであろう。「純粋な関係性」とは、

互いに相手との結びつきを保つことから得られるもののために社会関係を結び、さらに互いに相手との結びつきを続けたいと思う十分な満足感を互いの関係が生

⁴⁶ BL 愛好者たちは、Twitter や pixiv 等といったツールを用いたオンライン上で、またはオフライン上でも、何らかの形で趣味を同じくする他者と繋がっている。そのため、BL 愛好を続けることが、他の BL 愛好者の言葉を多かれ少なかれ目につくことにつながると言える。

み出していると思えず限りにおいて関係を続けていく、そうした状況⁴⁷

のことである。ロマンティック・ラブにおいて女性の感じるであろう不平等感、特に C さんの語りにおいては顕著にみられた。これまでの人生において不平等を実感してきた女性であるからこそ、「対等な関係性」また「純粋な関係性」に希望を見出すのである。

一方で、自分自身は「ホモ」という言葉にマイナスイメージを感じないからこそ葛藤を抱えていたのが B さんであった。B さんの葛藤と、A さん、C さんが抱えた葛藤との違いは、当事者性の強さや恋愛観に関係していたといえる。B さんは自分自身のセクシュアリティについて性自認は女性であるが、性的指向は「分からない」「気にしたことがない」と語り、恋愛に対しても「そんなに興味がないので（笑い）今は」と語っていた。そんな B さんにとって BL 書籍は、その恋愛要素に強く自己投影をして楽しむものではなかった。

東（2009）は、二次創作の BL 書籍を愛好する女性について論じる中で、彼女たちが抱く、「性的な関係性とは異なる関係性」としての「ホモソーシャルな絆⁴⁸」への欲望を暴いた。B さんが語った「恋愛以外のその要素が欲しくて、二次にはしる」という言葉には、東の指摘した欲望が表れているといえよう。実際の恋愛にも恋愛の物語にもあまり興味のもてない B さんが、「二次にはしる」ことで得られる「恋愛以外のその要素」とは、原作に描かれること以上に深読みして得られた、「男性同士の、恋愛に近似できるような関係性そのもの」であり、B さんにとっての「ホモ」なのである。自己の恋愛経験とは関係のない部分で楽しめる、しかし単なる友情とも違った特別な関係性への追求が、B さんを BL 愛好者たらしめていた。

4.3.2 ゲイ当事者としての葛藤を抱える BL 愛好者

F さんは、ゲイ当事者として「ホモ」という言葉に嫌悪感を抱きながらも、BL 愛好を続けている BL 愛好者である。

F さんは、ゲイ雑誌に掲載されるような男性同性愛をテーマにした漫画を好きになれないと語った。それはゲイ男性向けの漫画が、「キュンキュン」を伴わない「エロ本」だからである。マッチングアプリを使った出会いやその場限りの関係等といったゲイ男性同士の恋愛のあり方に不満を抱く F さんにとっては、少女漫画や BL 書籍に登場するような「ノンケ」男性との恋愛が理想なのである。F さんはゲイ男性同士の恋愛について、以下のような不満を語った。

相手と付き合っ、なんかなんだろ、恋愛をするっていうのは、すごい…素

⁴⁷ （Giddens, 1995, p. 90）

⁴⁸ ホモソーシャルとは、男性同士の性的・恋愛でないが強い結びつきをもつ関係性を意味する。本来は、ホモフォビアとミソジニーを特徴とした関係性であるが、東（2009）の論の中では、そうした特徴を除き、男性同士の強い連帯という意味のみが採用されている。

晴らしいことだなんて結構思ってたんだけど[中略]なんかオープン・リレーションシップとか言ってるらしいんだけど、彼氏いるけどお互いが別々に、そういう相手と、別に恋をするのは、いとわないよ、みたいな、関係性がある。結構それがあったりするから。「え、彼氏一筋じゃないの？」みたいな。っていうのを結構俺は思ってしまう

また、現実で付き合いたいタイプとしても、

俺と一緒に住んで、結婚、結婚までできるかわかんないけど、そういうところまで考えてる[中略](筆者注:付き合う相手の属性として)家事が苦手はポイント高い。そう、俺が全部やるからって

と語った。

4.3.1 では、BL 愛好者の女性が「対等な関係性」ならびに「純粋な関係性」を求めることを明らかにした。しかし F さんは、この点において彼女たちと対比的であるといえよう。ゲイ男性同士での恋愛のあり方は、(両者の不平等な)異性愛規範に基づく婚姻といった要素を含むロマンティック・ラブに対比されるものであり、F さんの現状は、調査協力者たちの中で最も「純粋な関係性」に近い立場にある。しかし同時に F さんの語りからは、F さんの読む少女漫画や BL 書籍における異性愛男性との運命的な恋愛への憧れがみられ、「純粋な関係性」に逆行するような「俺もああいうなんか、ドラマティックな出会いとかしてみたい」という考え方が発見できた。また、「彼氏一筋じゃないの?」という発言や同棲や結婚への志向から、一人の相手と永続的な関係を結びたいという考えも読み取れる。さらにそのような相手に対して、「家事が苦手はポイント高い」というように家庭的な面で尽くしたいという意識も抱いていることが推察できる。「恋愛においても女性の脳をしてる」という F さん自身が抱く、運命的な出会いによって永続する恋愛や、ロマンティック・ラブにおける女性的役割への憧れは、ロマンティック・ラブを望んでも得ることができない F さんだからこそその価値観の表れである。

4.3.3 総括

本節では、BL 愛好者たちの使う「ホモ」という言葉に葛藤する調査協力者たちが、それでも BL を愛好しつづける理由を、彼らのセクシュアリティ観や恋愛観、またそれらを形成したであろう今までの経験に関する語りにもとづいて考察した。

A さん、C さんにとっての BL 書籍は、既存の男女の関係性における不平等感や、ジェンダー役割の固定といった問題を乗り越える「対等な関係性」を描いた存在として意味付けられていた。またそれは、特に現実でも男女の恋愛を経験した A さんの場合においては、現実逃避としての存在ではなく、将来的に現実でも実現したい目標として捉えられていた。

B さんにとっての BL 書籍は、二次創作をすることによって BL として、つまり恋愛として読みかえられた要素を楽しむだけでなく、むしろその前段階にある「ホモソーシャルな絆」を楽しむものとして存在していた。それは恋愛に興味のない B さんでも楽しむことのできるものであったが、それと同時に、女性を自認する B さんには得ることができないものでもあった。

F さんにとっての BL 書籍は、ゲイ当事者としての F さんが、実際の恋愛では得ることが困難な要素を補うものとして存在していた。A さんや C さんのような「対等な関係性」への志向はなく、むしろ男女のジェンダー役割的なものが付与されることへの志向も感じられた。しかしこれは F さん自身がこれまで得ようとしても得ることのできなかつたものであり、だからこそ BL 書籍に対して求めるのである。

さらに以上の四名は、現実において自身が獲得できなかった要素を BL 書籍に求めているという点で共通しているといえる。前述の通り A さん、C さんと F さんは一見して対比的に見ることができたが、両者ともその背景には現実の恋愛や男女の関係性における不満や困難を抱えていた。そして、困難を抱えた彼らにとって心の拠り所となるのが BL 書籍に描かれる関係性であった。B さんは現実の恋愛や男女の関係性において不満や困難を抱えているわけではなかった。しかし恋愛に興味のない B さんが、男性同士の単なる友情を越えた絆への興味を満たすことができるのは、BL 書籍の中においてだけである。この点において B さんも、現実では満たされないものを BL 書籍によって満足させているのだといえる。

また前節では、「ホモ」という言葉の使用に関して、BL 愛好者とゲイ当事者という二つの視点から対比的に述べてきた。しかし、本研究で得られた語りに依拠すれば、BL 愛好者の用いる「ホモ」という言葉は差別語の問題に集約されるものではないといえる。BL 愛好者が用いるこの言葉は、一見してゲイ文化からの流用のようでも、そこには BL という独自の文化からの意味付けが付与されていた。そして、BL 愛好者の G さんがいう「ホモ」という言葉の意味する、「ノンケ」の男性が男性に恋する状態が、ゲイ当事者でもある F さんの理想に合致することからも、その言葉の表す意味、概念レベルでは相互理解できる部分が存在するといえる。つまり、BL 書籍の志向においても、両者は「ノンケ」の男性が男性に恋をする物語への志向を共有しているのだといえる。また F さんのこの理想は、ゲイ当事者である自分自身の、現実の恋愛への不満の裏返しとしてあらわれていた。BL における「ホモ」という概念、またそれが描かれた BL 書籍は、F さんのようなゲイ当事者にとっても共感できるものであるだけでなく、彼らの抱える問題を照らし、またそれを乗り越える存在としても機能するのではないだろうか。

第5章 結論

本研究は多様なセクシュアリティをもつ BL 愛好者に焦点をあて、彼らのセクシュアリティ観や恋愛観に着目しながら、彼らが BL 愛好を続ける意識に迫った。その結果、BL 愛好を隠すことからみえてくる趣味としての特殊性とそれゆえの強固な団結の実態をみることができた。そして、そうした団結の中で流行する「ホモ」という言葉の特殊な意味と、この言葉のもつ暴力性についての問題が発見できた。BL 愛好者たちのなかで「ホモ」という言葉は、BL という言葉では表現できない、ときとして言語化すらできないものを共有するための概念として、重要な役割を担っていた。しかしそれはゲイ文化とは切り離すことのできないものであり、ゲイ当事者にとって差別語であるという現実がある一方、ゲイ当事者の抱える問題を照らす可能性を秘めていると考察できた。さらにそうした問題に苦しむ BL 愛好者たちは、差別の問題を孕みながらも自分自身のセクシュアリティに基づく恋愛観に寄り添う存在として、また自分自身では得ることのできないものへ届く存在として、BL 書籍を特別視し、愛好していることが分かった。

なお本研究では、質的調査の手法を取っている。このため、本研究での結果が全ての BL 愛好者に当てはまるというわけではないが、BL 愛好者の SNS での繋がりや、その中で流行する「ホモ」という言葉の特別性、さらには彼らの抱える複雑なバックボーンと BL 書籍への志向が関連すること等、本研究における示唆が、今後の BL 愛好者研究によって発展させられることを望みたい。

また、本研究では大きく言及するに及ばなかったが、BL 愛好者とゲイ当事者との関係性を捉える上で、「ホモ」という言葉以外の問題にも目を向けていく必要がある。本研究の調査においては A さんの語りから部分的に得られた情報ではあるが、BL 愛好者たちの卑下や趣味を隠す行動は、同性愛を貶めることや同性愛を隠すべきとする価値観の形成、またその強化につながり得る。または、BL 愛好者たちが自身を卑下し、その趣味を隠す行動は、石田 (2007) の研究においても指摘されたような「ほっといてください」という、ゲイ差別であるという批判から逃避する姿勢の行きついた先とも捉えられるかもしれない。それゆえに、BL 愛好者自身が BL 愛好を隠すことや卑下することの問題についても、今後詳細を調査することが必要であろう。

本研究のなかで取り上げた BL 愛好者たちの抱えるゲイ当事者との問題は、両者の健全な関係の構築のためにも、解消されていくべき問題であろう。「ホモ」という言葉に表れるような、BL 愛好者とゲイ当事者との認識のずれが今後誰の目にも明らかなものとなり、さらにそのずれが解消されることで、先行研究において取り上げた堀 (2012) の指摘する「共闘可能性」や、「レインボーリール東京」で行われたような BL 愛好者とセクシュアル・マイノリティ当事者とをつなげる取り組みが、より一層大きな意味をもつであろう。

BL 愛好者個々人の中において認識のずれが自覚されるのは、本研究の調査協力者たちの語りからも分かったように、自身がセクシュアル・マイノリティ当事者である場合の他にも、セクシュアル・マイノリティ当事者（特にゲイ当事者）との直接的な交流や、SNS 等での

交流がある場合に起こっていた。SNSが発達し、またBLブームやLGBTムーブメントの盛んな近年において、この交流の機会は今後も増加していくと考えられる。調査協力者たちが感じた認識のずれによる葛藤は解消されるのか、葛藤に苦しむBL愛好者たちの中で「ホモ」に代わる言葉が生まれるのか、また未だ認識のずれを自覚しない人々がそれを自覚する日は来るのか、BL愛好者とセクシュアル・マイノリティ当事者をめぐる問題の、今後の動向に期待したい。

引用・参考文献リスト

Anthony Giddens. 親密性の変容：近代社会におけるセクシュアリティ、愛情、エロティシズム. 松尾精文, 松川昭子訳. 而立書房, 1995, 302p.

相田美穂. 期待される腐女子像からのエクソダス―「可能性」の読み込み／誤読に関する一考察―. 広島修大論集. 2013, vol. 54, no. 1, p. 207-220.

東園子. 女性のホモソーシャルな欲望の行方：二次創作「やおい」についての一考察. 分化の社会学：記憶・メディア・身体. 大野道邦, 小川伸彦編. 文理閣, 2009, 286p.

石田仁. 「ほっといてください」という表明をめぐる：やおい／BLの自律性と表象の横奪（特集 BL スタディーズ）. ユリイカ. 2007, vol. 39, p. 114-123.

ケタ. ネット上にたゆたう腐女子：批評の場と言葉（特集 BL ボーイズラブ オン・ザ・ラン！）. ユリイカ. 2012, vol. 44, p. 196-199.

中井啓人, 大藪毅. 日本型 LGBTムーブメントの提案：日本における欧米型 LGBTムーブメントの成果と課題から見えること. 慶應義塾大学, 2016, 修士論文.

堀あきこ. リアルとファンタジー、その狭間で見る夢（特集 BL ボーイズラブ オン・ザ・ラン！）. ユリイカ. 2012, vol. 44, p. 178-183.

溝口彰子. BL進化論. 太田出版, 2015, 356p.

森山至貴. LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門. ちくま新書. 2017, 237p.

”【オリコン年間】『おっさんずラブ』ドラマ DVD、BD 年間ランキング 1 位 名実ともに今年の代表作へ”. ORICON NEWS. <https://www.oricon.co.jp/news/2125860/full/>, (参照 2018-12-20).”

「おっさんずラブ」見逃し配信も桁違い！テレ朝史上初の 100 万回再生突破”. ザ・テレビジョン. <https://thetv.jp/news/detail/150081/p2/>, (参照 2018-12-20).

“「おっさんずラブ」流行語大賞トップテン チコちゃん表彰式登場へ”. マイナビニュース. <https://news.mynavi.jp/article/20181203-734761/>, (参照 2018-12-20).

“これまでの TRP”. 東京レインボープライド. <https://tokyorainbowpride.com/archives/>, (参照 2018-12-20).

“同性カップル「パートナーシップ制度」広がるか 全国で 9 自治体が導入”. 財経新聞. <https://www.zaikei.co.jp/article/20180820/460757.html>, (参照 2018-12-20).

自由民主党政務調査会 性的指向・性自認に関する特命委員会. “性的指向・性同一性（性自認）に関する Q&A”. [https://jimin.jp-east-](https://jimin.jp-east-2.storage.api.nifcloud.com/pdf/news/policy/132489_1.pdf?_ga=2.116057605.2003309761.1545041733-1494339168.1545041733)

[2.storage.api.nifcloud.com/pdf/news/policy/132489_1.pdf?_ga=2.116057605.2003309761.1545041733-1494339168.1545041733](https://jimin.jp-east-2.storage.api.nifcloud.com/pdf/news/policy/132489_1.pdf?_ga=2.116057605.2003309761.1545041733-1494339168.1545041733), (参照 2018-12-18).

日本大百科全書（ニッポニカ）. “セクシュアリティ（せくしゅありてい）とは”. コトバンク.

<https://kotobank.jp/word/%E3%82%BB%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%83%86%E3%82%A3-1554311>, (参照 2018-12-27).

”社会調査基礎用語”. 社会調査 NOW.

<http://www.jasr.or.jp/online/content/glossary/glossary.html>, (参照 2019-01-01).

デジタル大辞泉. “SNS (エス エヌ エス) とは”. コトバンク.

[https://kotobank.jp/word/SNS-](https://kotobank.jp/word/SNS-1442%E3.83.87.E3.82.B8.E3.82.BF.E3.83.AB.E5.A4.A7.E8.BE.9E.E6.B3.89)

[1442%E3.83.87.E3.82.B8.E3.82.BF.E3.83.AB.E5.A4.A7.E8.BE.9E.E6.B3.89](https://kotobank.jp/word/SNS-1442%E3.83.87.E3.82.B8.E3.82.BF.E3.83.AB.E5.A4.A7.E8.BE.9E.E6.B3.89), (参照 2019-02-01).

謝辞

始終適切な助言を賜り、また丁寧に指導してくださった後藤嘉宏先生に深く感謝いたします。照山絢子先生には、調査の実施及び分析にあたり、快く相談に応じて頂きました。本当にありがとうございます。

後藤研究室の皆さまには多くの刺激と示唆を頂き、精神的にも支えられました。ここに感謝いたします。

そして、最後となりましたが、本研究の趣旨を理解し快く協力して頂きました調査対象者の皆様に、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

付録：調査協力依頼書

平成**年**月

**** 様

筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科
図書館情報メディア専攻 博士前期課程 2 年
松崎愛

ボーイズラブ書籍の愛読に関する インタビュー調査へのご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

私は現在、「BL 書籍を読みつづける理由—セクシュアル・マイノリティへの眼差しとの関連—」という題目で研究を行っております。今回、研究にあたり、ボーイズラブ書籍の読者がどのような意識でボーイズラブ書籍と関わっているのか、またボーイズラブ書籍を読みつづけることが読者に何をもたらしているか、といったことを探る目的でインタビュー調査を行いたいと考え、調査協力をお願いをさせていただきました。

インタビュー調査は 90 分程度、個別でのインタビューを予定しております。調査目的、内容、方法は下記の通りです。研究の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますよう、何卒よろしくお願いいたします。研究にご協力いただける場合には、同意書にご署名いただきますよう、重ねてお願いいたします。

敬具

記

1. 研究目的

近年、「ボーイズラブ」と呼ばれる男性同士の同性愛をテーマにした作品が、芸術系一般雑誌等メディアに取り上げられることが増えています。元は限られたコミュニティ内での流行に留まっていたボーイズラブですが、現代ではサブカルチャーの一部として受容されつつあるといえます。

従来のボーイズラブ愛好者に関する研究において、ボーイズラブの愛好は、主にジェンダー論的な枠組みから説明されてきました。しかし、愛好者の多様化した現代では、この説明に関して再検討される必要があります。

またその他の研究では、ボーイズラブ書籍を読みつづける人々は現実のセクシュアル・マイノリティへの偏見が少ない、という結論が出されています。しかしここでは、実質的な相関のあり方が検討されておらず、因果関係も明らかにされていません。

本研究では、個々人のライフストーリーに基づくボーイズラブ書籍を愛好することへの意識や、ボーイズラブ書籍を愛好することが個々人の恋愛観や性規範への意識に

及ぼす影響を、質的に調査し、探ります。

2. 調査方法

ボーイズラブ書籍（同人誌を含む漫画や小説）を読むことが好きな方を対象としてインタビュー調査を行います。

内容としては、どのようにボーイズラブ書籍を読んでいるか、どのような意識を抱いてボーイズラブ書籍と関わっているか、またご自身や周囲の人の恋愛について思ったり考えたりしていること、といったものを伺いたいと考えております。調査内容の記録につきましては、メモを取るほか、録音機器の利用を予定しておりますが、録音機器は承諾を得られた場合にのみ利用いたします。また、調査中の記録を望まれない部分に関しては、録音やメモを中断いたしますので、ご遠慮なくお知らせください。

質問内容として以下に概要を記しますが、半構造化インタビューを予定しております。お話を伺いながら、その流れ次第で質問内容の変化や順序の変更、質問の増減など行う場合があることをご了承ください。

質問内容例

- 調査協力者の属性について（年齢、所属など）
- 「ボーイズラブ」という言葉について
 - ボーイズラブへのイメージ
- 「ボーイズラブ」を読むことについて
 - よく読む媒体
 - よく読む時間・場所等シチュエーション
 - 読み始めた経緯
 - 読む際の、ストーリー内での自身の位置づけ方
 - 読みつづける理由・魅力
- 「腐女子」という言葉について
 - 腐女子へのイメージ
 - 腐女子と自称・他称される人々へのイメージ
 - ご自身へのあてはまり度合い
- これまで地域や家庭で教えられてきたことについて
- 恋愛観について
 - ご自身や周りの人の恋愛について

3. 研究への参加協力の自由意志と拒否権

研究への参加・協力は自由意志により行っていただきます。また、いったん参加・協力に同意し、ご回答いただいた場合も、論文執筆期間に入る 12 月 1 日以前はいつでも

同意を撤回していただいても構いません。それに伴う不利益は生じません。研究への参加・協力の可否はどうぞご遠慮なくお知らせください。

4. 調査の影響と対策について

本調査にご協力いただくにあたって身体的・精神的リスクが生じる可能性は低いと考えられます。万が一、調査者の質問などに不快感をおぼえる場合や回答に何らかのさし障りがある場合等は、それらの質問に答えていただく必要はありません。

5. 個人情報の保護

この調査を通して得た記録を、調査担当者と指導教員以外の者が閲覧することはありません。この調査の結果は、修士論文にし、また必要に応じて学会での発表等に用いられる場合があります。その際に個人的なデータを取り扱う場合は、調査協力者の本名ではなくて偽名を使い、個人を特定できる情報を排除した上で取り扱います。また、調査データは研究者自身が 10 年間、鍵のかかる引き出しにて、パスワード付きの USB メモリにて保管します

6. 研究に関するお問い合わせ

研究への参加・協力に関してご質問やご意見等がありましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。

松崎愛 : s1721695@s.tsukuba.ac.jp

指導教員 (後藤嘉宏) : ygoto@slis.tsukuba.ac.jp

以上

付録：研究への参加・協力の同意書

BL 書籍を読みつづける理由
—セクシュアル・マイノリティへの眼差しとの関連—

研究への参加・協力の同意書

筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科
図書館情報メディア専攻 松崎愛 宛

私は、当研究に対する、別紙「ボーイズラブ書籍の愛読に関するインタビュー調査へのご協力をお願い」に於いて、以下にチェックした項目に対して、十分に説明を受け理解しました。

- ☐ 1. 研究目的
- ☐ 2. 調査方法
- ☐ 3. 研究への参加協力の自由意思と拒否権
- ☐ 4. 調査の影響と対策について
- ☐ 5. 個人情報の保護
- ☐ 6. 研究に関するお問い合わせ

つきましては、私の自由意志に基づいてこの研究に参加・協力することに同意します。

平成 年 月 日

調査協力者(署名)

研究に関するお問い合わせ

研究への参加・協力に関してご質問やご意見がありましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。

松崎愛：s1721695@s.tsukuba.ac.jp
指導教員（後藤嘉宏）：ygoto@slis.tsukuba.ac.jp

付録：Aさん3回目インタビュー

2016/12/03

※Aさん1回目、2回目インタビューは、3回目と内容が重複する部分が多く、付録としての掲載は割愛する。

A: まああのなんだろうなあ、確かに最初、本当に BL に、本当にハマったきっかけというのは結構その現実逃避…でもやっぱり自分のなんか人生と結構、かなり関係があるかなと思う。あの、その時自分がどういう状況に置かれていたかっていうのが結構関係があると思って

一: ハマったきっかけとですか？

A: ハマったきっかけとか、そのどういう風に BL を読んでたか。最初はやっぱりその一、なんだろう、その現実逃避的な、なんか周りの環境がちょっと厳しかったから。そういう環境から逃れるために現実逃避的に読んでたけど、その後にもまた自分の状況が変わって、あの中学でちょっとごたごたしたとき、なんかこう、その時は私は恋愛物語を求めてたんだけど、自分が求めるような恋愛物語が、BL 以外のところにはあまりなかったような気がする。私がアクセスできる範囲内だと。なんていうんだろ、自分が今、その現在進行で起こってる人間関係に近い話が BL 以外に見つからなかったんだよね。だからかなり感情移入して読んでた。そのつまりなんていうのかな、まあ変な言い方だけど、この例えば攻めは私だ、みたいなことかな

A: へー、攻めは私だ、になるんだ？例えばってことか

一: 例えば例えば。受けは私だみたいな時もあるけど、まあでも攻めに感情移入することの方が多かったかな。共感できる物語を求めていて、それが BL に結構あった。

BL っていうか二次創作の BL にあったんだよね

一: へー、二次創作なんですか

A: そうだね二次創作の BL。商業はその時は殆ど読んでなかった。っていうのもそもそも二次創作はただで手に入るけど、商業はお金出さないと手に入らないから、中学生のお小遣いなんて月千円とかだからそもそも買えな

いじゃん。だから二次創作しか読んでなかったっていうのもあるし、一次創作は、一次創作っていうか商業 BL を一冊買ったんだけど確か中学の時に、その時は自分が求めている話ではなかったんだよね。いわゆる王道で、なんかこう男の子がラブラブしてくっついてハッピーエンドですみたいな、そういう話には自分が、の共感できる物語じゃなかった。自分が感情移入できる話じゃなくて、だからもう買わないと思ったわ。

一: 男女の恋愛に近いようなやつはちょっと違う、みたいな

A: そうだね。まあでも男女でもよかったんだよ、要するになんかその、好きってなってなんかいろいろあったけどくっついてハッピーエンドみたいな、なんかそういう、そういうのは、なんか明るい恋愛は、なんか受け入れられないっていうか、違うっていうか、感情移入できない
一: 最終的に明るくなるのがもう見え透いてるのはちょっと違う

A: そうそうそう、なんかみんな恋をしてハッピーみたいな。ハッピーじゃないけどなんか苦しいみたいな、なんかそういうピュアな、なんかなんていうんだろう、なんだろう相手を好きすぎて、相手を害したいみたいなそういうドロツとした感情が描かれる話ってないじゃん？

一: そうですよね、少女漫画だとなないですよね

A: 少女漫画とかまあ普通の小説とか児童書ぐらいの範囲内ではないじゃん、普通に。まあ文学にいくとあるかもだけど。まあ普通はないから、そういうのがちょっと BL にあった

一: あーそっか、BL の二次に

A: 二次創作でもやっぱりそのハッピーで明るいのはなしっていうのはあんまり読まなくて、こう結構暗い、暗かったりとかなんかこう痛々しい展開を経てまあ最終的にハッピーエンドにはなるのはあるんだけど、そういう物語を好んでた

一: でも一回こう病み期みたいなのを経る感じのストーリーがいいんだ？

A: そう、病み期を経た方が良い。いまだにそれは分かる

かな。それはやっぱり、まあそれも後々変わるんだけど、高校3年ぐらいまではほぼそういう話、痛々しいっていうか相手を愛しつつも憎んでるみたいな、愛憎の話が

一：愛憎入り乱れた感じが

A：そうそう。好きすぎて相手をなんかこう、そうねまあカップリング的にも大体想像つく、あの、高、中学の時その一番その闇だった時にハマったのがハルヒで、古泉がキョンを監禁したりとかする話を読んでたわけよ。これは結構まあ感情移入っていうか、あとはそのなんていうんだろうな、結構感情移入したりとか。高校生はこんなっていうんだろう

一：やっぱりその中学生のときってあれですよね、その仲良しグループの中でなんか

A：そうそう、ごたごたして。それがだからその、ちょうどそのハルヒも結構自分たちの関係性に、その原作自体がね似て、かなり似てたから。そういうところで感情移入はすごくあった。そう、だから自分の人生と結構ガッチリ密着してる感じなんだけど。そうだね、高校とかはあの、デラララの臨静とかにハマってて、なんかこう、その時はなんか周りとの解釈が全く合わなくて、私はもうただひたすら殺し合うだけの話を読みたかったのに、周りはなんだかんだで最終的に付き合ったりとかしてて、なんだこれ違うと思って最終的に全然二次創作を読めなくなって、ひたすら自分の設定の中に引きこもってた

一：殺し合う感じでもやっぱり臨静なんだ？それは

A：どっちでもいいんだけど比較的臨静かな。その愛が重い方が攻めで、みたいなところはある。うん、愛が重い方が攻めかな

一：最終的にラブラブになる感じじゃなくても、殺伐とした感じの、でもカップリングなんだ

A：てかなんかそのカップリングっていうのを解釈、付き合っている状態をカップリングとみなすのか

一：あー、付き合ってる状態のカップリングではなくてっていうことですか

A：なんらかの関係性があれば、お互いに唯一無二の関係性があれば、別に付き合ってたかろうが体の関係がなか

ろうがカップリングだと思ってるよ私はね、私は

一：AさんBL論では

A：私の、私の個人的な考え方ではこうなる。これはもう私一人の腐女子として、研究者とか関係なく一人の腐女子としての意見だからね。そう、っていう感じだから自己投影はかなりしてたかな、うん

一：中学校のとき多分絶対してますよね

A：完全にしてた、もう、絶対、だから古泉は私だみたいな感じ

一：完全なる自己投影ですよこれ

A：もう痛々しい。でもそれただ中二病だったっていうのはあると思う

一：あー。そうかも、こいつは私だってなるのは中二病だからっていうあれか

A：そうだね、その時になんかエヴァとかを観たりとかして。もうね、もう分かるでしょ、ああいう感じだよ

一：BLはやっぱ最初の逃避って、まあ前回、前々回かその家庭環境がとか

A：うんうん

一：その学校でのいじめがとか

A：うん

一：家庭環境が一番大きかったのかな、わかんないですけど、でもそういうところからの、なんでしょうね

A：まあそうだね、うん、家庭環境とか学校のいじめとか、てかずっとそういう逃避はBL以外でずっとやってた気がする。なんか他の児童書とか、とにかく本を読む子供だったから

ずっとなんだろう外界から意識を断って、本の世界にのめりこむみたいなことをずっとやってた。だからあんまりこれはBLだからっていうのよりは、そうハリボテとか読んだりとかそういうファンタジックな世界観にどっぷりつかって、なんだろうな今とは全然違う世界のことを考えてたかもしれない。で、BLでまたなんか違う新しいものを知ったっていう感じがかな。それはなんか、そうだね、その時現実逃避してたのはBLだからっていうよりは何かそういうものがあればいいやって思ったんだ

ろうね。それでたまにまななかすごい BL っていうなんか、BL の中でもその特に最初会ったやつがなんかこう今までみたことない話だったからっていうのはあるかな

一：あーじゃあもうなんか、いつも読んでたその児童書とかの冒険ファンタジー物から

A：うんそうそう

一：とはまた違うジャンルだけど、まあ同じようなものとしての BL みたいな感じだった

A：そうそうそう

一：あーなるほど

A：そうね。だから自己、現実逃避、BL だから現実逃避したっていうことではないかな

一：うんうんうん。よくあるじゃないですか、その、周りの人間関係っていうかそのなんだろう、両親の関係性があんまりよくなくて、例えばこうお父さんがすごい女性蔑視みたいな考え方を持ってて、で母さんが虐げられてるみたいなのをこう経験してて、でそこで BL っていう対等な、対等、誰でも対等になれるような世界観で現実逃避するみたいな

A：ああー、一切ないね。だってうちの親はほぼ逆だから

一：そうですね

A：お母さんが力を持ってお父さんが虐げられてるって家庭だから、あんまり関係ないかなって思う、それよかなんだろう、こう少女漫画をずっと読んでて、こうふわふわ可愛いみたいななんか恋愛をばーっと読んでた人間にとって、なんかこうアダルティな大人の雰囲気っていうのを始めて見て、すごいびっくりしたっていうのはあるかな

一：あーなるほど。少女漫画とか児童書とかのふわふわ可愛いちょっと冒険するみたいなものの、一歩上の段階に BL があるんだ

A：そうそうそう、なんか今までと全然違うものをみた、みたいな感じで、まあだからその変わったものにのめりこむっていうのだったのかな。それがまたなんか時間を経て、まあ自分の状況も変わって、全く違う存在になったのかな。まあ自己投影でもあり、中学の頃は自己投影

でもあり現実逃避でもあるっていうような感じかな。なんだろう、また別の可能性みたいな感じだったのかもかもしれない、そういう

一：これが理想だったわけじゃないんですか。自分に近いような物語で、最終的にはまあハッピーエンドになるようなもので、それをこう理想形として追いかけてたわけじゃなくて？

A：あーでもそれもあるかもしれない、けどでも完全に同じストーリーが再現できるわけじゃないじゃん。まあそもそもその時見てたのがハルヒだからだいぶ結構 SF 的な世界観だし、100%同じっていうのはあり得ないから、なんだろう。まあでも確かにこうだったらいいなみたいなのはありつつ、なんだろう、まあならないけどなんだろう、なんか難しいね。でも自分の

一：でも完全に幸せな世界なわけじゃないですよ

A：そうそうそうそう。なんか、なんだろうね、共感できる物語が欲しかった。なんだろう、結局その時の私の状態っていう、周りのたかだか十四歳の子たちが理解できるような感じじゃなかったし、私も理解できなくて、親も親でなんか大丈夫かいいつらみたいな感じだし。なんかこうなんだろう、まあ中二病的な考え方だよ、なんか自分を理解してくれる人がいないとか。自分の感情が、に近いことが描いてある物語がないとか、そういうので BL に、BL という

一：中二病だ

A：中二病です

一：中二病です。いやでもわかりますよ、なんかこう、ただのこう明るい少女漫画じゃだめなんですよ

A：うん

一：もうちょっとダークな部分がやっぱり必要だったり

A：そうそうそうそう。やっぱりその明るい物語だと、なんか自分のどろどろした感情が阻害されてる感じがする。なんかこう、なんていうんだろうな。なんていうんだろう、うまい、うまい例えが思いつかないんだけど、なんかこう、私が好きな児童書で『ドラゴンラージャ』児童書ではないかもしれないけど『ドラゴンラージャ』っていう

のがあって、その中に出てくるなんか印象的ななんか話
逸れるけど、印象的な話があって、なんかその、女盗賊の
子がいて、その子はどこで生まれ、親もいないし、どうい
う生まれなのかもわからないみたいな感じで、まあ結構
いい歳してるんだけど、なんかでも自分で盗賊っていう
結構裏家業であることに誇りを持ってるんだけど、でも
その子が嫌いなのは、なんかこう、なんか夜に家でなん
か明かりがついてて、その窓の中を覗くとなんか幸せな
家族があははみたいな感じで幸せにやってるんだけど、
自分は外にいて、寒いし、それをただ見てないといけな
い。でも向こうの人たちはこっちを見るとなんかこう、
なんか盗賊がいるぞみたいなことを言って、なんかいろ
いろ言われるみたいな。そういうのが嫌みたいな。で、な
んだろう、そういう近い感じがある、それはすごい分か
るその話は分かる。なんだろう、幸せそうな良いよね
って、なんつうんだろうな、中二病

一：なんていえばいいんだろうな

A：なんか

一：素直にいいよねとは言えないんですよ

A：そうなんか、羨ましいみたいな、でもなんか、そっち
側には行けないじゃない、なんていうんだろう。でもそ
っち側の人たちは平気でこっちのこといろいろ言うよね
みたいな、なんだろう

一：中二病

A：中二病だよ、中二病だよーあー

一：やっぱその屈折した愛情みたいなところが、必ず描
かれているようなやつがやっぱり共感できるし

A：そうそうそうそう、そうなの。そしたらなんか、ピュ
アピュアしたのを見ると「けっ」みたいに思っちゃう、中二
病なんだよね

一：高校もなんかデュラとか言ってましたけど、そうい
うところあったんですか？

A：そうだね、それは引きずってたけどなんか高校は、な
んかまたちょっと違う感じかもしれないよね。まあデュ
ラはそうなんだけど、デュラもそうね、まあそういうダ
ークな話が好きだったんだけど、中学の時ほど感情移入

はしてなかった、っていうか

一：さっき殺し合いとか言ってましたけど

A：殺し合いがしたいかっていわれたら、したいわけじゃ
なかったけど

一：なんかそのピュアピュアなその恋愛感情だけではな
い繋がりみたいなのが欲しかったのかな

A：そうね、それもあると思う、多分。そうだね、それは
あると思う。なんかピュアピュアな恋愛感情だけじゃな
いじゃん世の中に存在してるのは、みたいな。そういう
のだって愛情じゃんみたいなのはあったかも。でもなん
か、やっぱり中学校脱すると、中二病脱してまた高校だ
と環境も変わるし

一：中二病は脱したんですね

A：結構脱したし、なんだろう、中二病引きづってんのか
分かんないけど自己セラピーみたいな感じで小説を自分
ですっつと書いてたから、その中でなんか自分の表現した
いことをそっちで表現するようになってったから、それ
はあの普通の小説ね、BL でもないし二次創作でもない普
通の小説を文芸部に入って書いてたから。そこで、なん
かこう自分が書きたいものを書いて、そうであってほし
い世界っていうのが、こう、こういう物語を自分で書く
ようになった。そう、だからまあ BL はまた別に趣味、だ
よね。まあ自分で書、かなり書いてたのは大きかったか
な。すごいあの、人の作品を読むのにのめりこんでたっ
ていうのから、デュラはでもかなり自分で書いてたし、
今と比べればね。なんだかんだで一か月に一作品ぐらい

一：へー結構書いてましたね

A：うんまあ、すごい短いよ。2000 字とか 4000 字とか
だけど、で、まーか月二カ月に一作品とか書いてたし。全
然見てもらえなかったけどね、あのめっちゃトレンドと
かけ離れてたからさ、ひたすら殺し合いするだけの話と
かだから。まあ、あと結構腐女子友達がいっぱいできて、
あの女子高に行ったからなんかいったんそういう恋愛と
か難しい人間関係といったん切り離された感じはしたか
な、うん。だからなんか友達と結構アニメの話で盛り上
がるとか、そういうのが楽しくなってっつし、そうね、そ

ういう時はわりと自己投影とか現実逃避っていうよりかは、まあそういうのはあったけど、そんな程度的には軽くなって、結構わりと単純に BL を…そう、で高校のときに商業 BL を教えてもらって。その時はもう純ロマとかそういうのしかないんだと思ってたら、友達がヤマシタトモコを薦めてくれて、私はもう雷に打たれて、うおおお、こんな、こういうだから私が探してたこう、共感できる物語がそこにあったんだよね

一：ここで戻ってきたんですか？

A：そうそう、戻ってきたの。ヤマシタトモコにね雷を落とされて、うおーみたいな感じで。そう、だから結局、ヤマシタ先生のなんだっけなー、最初に読んだ『ラ・カンパネラ』っていうあの、『ジュテームカフェノワール』の中に入ってる話、あれもさなんかこう、攻めの男の子がなんか、「君を困らせて喜んで俺はおかしい」みたいなことを言ってるところがあって、すげえ分かる！みたいな、なんだろう。そうそうそう、なんだろうね、そういう、ま自分がそうっていうのもあるけど、その男の子が、なんかそういうものをみたかったんだよね。なんかだからそこに感情移入するかっていうよりかは、こう、長らく自分が求めてきたものをやっと見つけたみたいな感じかな

一：あー、なるほど

A：そういう話が欲しかったんだよね。まあずっとなんか物語をずっと読んでたから、自分が読みたい話がないっていうのが、結構、そういうのに飢えてたっていう。自分が読みたい話がないっていう、そういうものに飢えてた気がするんだよね

一：あー。じゃあもうなんかこの辺で読んでたのは、小学校らへんとか、本当に読みたい話ではなくって、だからもうただの趣味になってったってことなのかな？

A：あーそうだねファンタジーは、ファンタジー

一：ここは多分必要だったと思うんですけど、逃避だし

A：うーん、そうだね

一：でも自分に寄り添うものとしては、やっぱりこれじゃなくて

A：ファンタジーとかではなく BL だったってこと？いや

でもいまだにこれ

一：BL のこれだったのかなって

A：あーまあそうだね、でもいまだにやっぱりファンタジーでもそういう部分は、いやいまだに好きだしな、なんか結構ファンタジーはファンタジーで、でもファンタジーってなんだかんだいんな含蓄があるからいくらでも、大人になればいくらでも引き出せちゃうとこはあるから、まあだから

一：あーそうですね

A：そういうところはある。あとはまあそうね、まあでも高校にきて商業 BL に出会え、出会ったので、すごいそれは、うん商業 BL もいいなと思った。でもこの時は確か『同級生』でも明るいなって思った気がする。明るいっていうかピュアピュアしてると思った

一：あー、多分少女漫画チックなところがありますよね

A：そうだね。ただやっぱりなんか商業にハマって全部いろいろ買うようになってから、許容範囲が広がったような気がする。読み漁るようになって、なんだかんだ許容範囲は広がったかな。あああと、なんか逆方向の、なんだろう、自分がそのこういう話が読みたいっていうので読んでて、そういう、なんかちょっと薄暗い話にたどり着いたのとは別に、なんか高校のときはタイバニにハマって、タイバニを読んで逆方向のなんか、なんかその物語が私の方に、なんかこういうなんか価値観みたいなのを、なんかこう貰ったみたいな気はするかもしれない。タイバニで、私は初めてハッピーエンドの話が好きと思ったの。そう、タイバニで結構、ハッピーエンドはやっぱり素晴らしいと思ったんだよ。初めてそう思った私は。そう、結構なんかまあいろいろ辛いことを経験してきた登場人物が多いし、なんだかんだで途中おじさんが死にかけて、うわーみたいな。で、やっぱりハッピーエンドで終わるみたいなの、やっぱりハッピーエンドはいいよねー。普通にね、コロッと。まあなんかその時は、タイバニにすごくハマって、タイバニのなんか世界観みたいなものに、すごいこう、なんていうんだろう、魅了されたっていうのかな、なんていうか。結構それまでは、なんかこう、一

つこう現実と離れた、なんだろうある意味薄暗い話とか執着の話とかってさ、結構相手、自分と相手だけみたいな世界観になりがちじゃん。でもなんだかんだでさ、やっぱり普通に暮らしてたらさ、家族がいてさ、なんかさそんな執着とかやってたらさ、お母さんが出てきて「あんた朝ごはんどうするの？」とかって、言うに決まってるじゃんってさ。なんだかんだでそういうところって大事だよなって思ったんだよ

一：なんか、タイバニだったらこう

A：そう

一：まあいろいろな過去があってまず

A：大変なんだけど

一：そんで娘がいて

A：そう娘がさ、娘の給食代どうやって払うとかさ。そうなんかさ、明日の取材どうしようとかさ、そういうさ、めっちゃさ、日常生活って大事だなって思ったの。だからやっぱり日常生活に即したハッピーエンドっていうの、なんだかんだで幸せに生活して、なんだろう、キャラの幸せを本気で祈りたいなことだよ。本気で思ってた。そう、キャラの幸せを本気で思いはじめた。まじで、おじさんとバニーちゃんが幸せになってほしいんだ。それは私と関係ない話、全然、だって別に、だっていないしさ、いないんだけど、でもなんかそういう、なんか完全に感情移入とかから完全に離れた話にはなった気がする。なんでだろうね

一：高校になってからは？

A：そうそうそう

一：ここもどうなんですか、その、やっとなんかに寄り添えるものが見つかったっていうここは

A：商業 BL は確かになんかまた、だから商業がその結いまま二次で求めてたような話になって、で、また二次はちょっとその別の、今まで二次創作で求めてたところに

一：商業が

A：商業が入ったから、結局また別の

一：二次に求めるものはまた違うものになった

A：違うものになったっていうことなのかな、今話してて思ったけど

一：そう、そうですね

A：多分そうだと思う。結局、安心してキャラ萌えできるようになったのかな

一：なるほど。安心してキャラ萌えできるようになった、っていいですね

A：キャラ萌えしてたけど、今まで普通にそれまでもね。でもなんか、おじさんとバニーちゃんは、なんか感情移入するところあんまないから、まあしてるとは思うけど、なんか今までみたいにく、バニーちゃんは私だみたいなこと思わなかったね。なんだろう、うんそう

一：そうですね、共感って感じですよ、かるーい

A：そうそうそう

一：あ、幸せになってよかったーみたいなの

A：あーそうそうそう、よかったねーよかったねー。よかったねーよかったねー腐女子になったの

一：幸せになってねーって

A：そうそうそう、尊いみたいなの、そういう感じになって。まあ、それからなんか両方あるって感じかな。んーとそのなんだろう、共感できるような話とキャラ萌え両立できるようになったかもしれない。まあ今だとどうらぶに出戻りになってきたけど、どうらぶとかはわりと両方あるって感じかな、キャラ萌えと若干の感情移入。感情移入っていうか、ある程度大学に入ってから、なんかこう理想像みたいなものがあるかも。理想像っていうか別にそうなりたいたいというよりかは、なれないけどなんか憧れの姿みたいなものはある。そういうものかもしれない、キャラクターが

一：あー

A：なんていうんだろうな、難しい。目標とする人物ではないけど、なんとなくこうであつたらいいなみたいな

一：なんか完璧なめっちゃ空高くにある理想像みたいなものが

A：そうそうそうそう

一：キャラ萌えの方に？

A: そうね、そうかもしれない。なんか私が良い、私が良いと思う人物だから、結局は自分の理想だよ。なりた
いわけじゃない、だってなれないしさ、無理じゃん

一: え、じゃあこうよくある、良さが深い、尊いってやつは、理想像的な

A: そうかな。私にとってはね、そういう感じだと思う。なんか本当に、なんか、この時のキャラの行動がもうめ
っちゃ神でみたいなのは

一: あーなるほど

A: まあ最終的には自分が同じ状況になったら自分がそうでありたいってのは、なることはないけど、同じ状況になることはないし、ただなってもできないけど、でもなんかそういう、ところはあるよね。ある意味理想的な姿かもしれない、うん

一: それはなんか別に恋愛において自分が目指したい姿ってわけじゃないんですよね？

A: うーん、そういうわけではないかな。目指しても無理じゃねって。なんかだって大体そういう時の理想像って攻めになることが多いけどさ、自分が攻めの立場に回ることってすごい少なくない？だから結構、それはむしろくちな例っていうか、なんかこう、家から研究室がどこでもドアで繋がったらいいなみたいな話

一: やっぱ現実的な理想像っていったら自分が感情移入してる商業 BL とかの方なのかな？

A: うーん、理想像ってでも、まああるとは思わ、あんまり、まああってほしいけどあんまりあるとは思ってない、のはある

一: どういうことですか

A: なんか、理想だけどそれを起こすために本気で努力したりしないよねっていう

一: あー

A: そういう恋愛を自分がするためにマジで努力したりはしないってか無理じゃないっていう

一: え、でも理想ってそんなもんじゃないですか

A: ま、そうだね。理想像とするならそうか、目標と分か、目標は完全に目指す目標だけど、理想はまあ

一: 理想の恋愛の形っていったら、どうなんだろう

A: そうだね目指すものとは限らないから、そういう感じ。目指すものではないけど理想、だね。まあ今はわりと
う商業 BL はもう、なんていうんだろう

一: 二次よりかは近いぐらいなのかな

A: そうね、二次よりかは近いことが多いかも。ただ、そうなんかいっぱいもう本当に数をこなすようになってるとまあ萌えもある、結構ぐちゃぐちゃになってる本当に。最近ね、最近本当にここ最近、ここ一年ぐらいは、あ
一。ここ一年ぐらいは。のものもあるし、完全。でもわりと私はだからなんかそういう自分が求める…うーん、物語を結局そういう、まあ自分が恋愛として、理想とする恋愛が描かれるものが好きなんだね

一: ものが少ない？

A: ものが好き

一: うーん、そうですね。自分が良くなって思うってことは、そういうことですよ

A: うん、そういうことかなって思う

一: 理想とするっていうか

A: そういうことかなって私は思った

一: 理想でもないなんでもない物語、いいなって思っ
読まないですよ

A: うん

一: 恋愛は特に。まあじゃあこの辺は別に、いつでもわりと自己投影とか共感っていうのはまあ大体はしてたって感じですか

A: 大体はしてたっていうか、完全に切り離して読んだことっていうのはあんまりないと思うな

一: BL、BL だから感情移入したってわけじゃないって
いう時期もあったけど、やっぱり BL だからっていう時期もあったし

A: そうね BL だからってのもさ、どこまでがさ BL だけになるんだろう。だから男同士だからってことなのかな

一: あー男同士

A: 男同士だから感情移入できたのかっていわれると、ま

—そういうこともあったのかもだけど、あんまり意識にのぼらなかった気がする。まあそうねでも、うーん。そうねでも、なんかやっぱりある程度の時期、男女の恋愛が駄目だった時期があるから

—：ま、その時期に読めるような、その漫画とか作品で、の男女の恋愛の描かれ方ってまあちょっと偏りが多分ありますよね

A：そうそうそうそう、だから、結局その男女の恋愛のイメージがステレオタイプなやつばかりだったから、そういうものから離れたくてやっぱり BL、結局なんだろう、女の子がさめっちゃさ男の子にさ執着しまくって相手殺しちゃうみたいなさ、そんなのギャルゲでもなければないじゃん、だってね。ないよね？あとはなんかお互いになんかこう、まあ殺し合いみたいなさ、男女ではないだろう。ま、そうでなくても少女漫画の恋愛は結構普通になんだろう、めっちゃなんかこうすごい、すごいイケメンが現れて女の子がはわわーみたいな、感じだから、違うなって思ったよ

—：そうですね

A：違うよ、完全に

—：やっぱりこう BL だからって言っちゃうと、そのなんかよくある、BL をこうジェンダー論的に読み解きましようみたいなのが、よくあるこう、男同士だからうんたらかんたらってわけじゃなくて

A：うんまあそれもある意味ではなんだろう、その、少女漫画、なんかその世の中に流通する男女の物語ってか結構テンプレートなものだっていうのはあるかもしれない。で、BL だからそれとはまた違う表現ができるのかもしれない、っていうのはあると思うけど、なんだろう、男同士だから感情移入したかっていわれたら、どうなんだろうなー。あんまり私はその、その時はね、その時はあんまり自分が女の人であることをすごい強く意識したりしてなかった気がする。まあ運がいい、ある意味運がいいんだけど、それは、幸運なことだけど

—：こういうときにこう、よくあるなんだろう、FeelYoung とかになるのかな？女性向けの、こう漫画と

かは、には出会わなかったの？

A：うーん、家にはなかったよね。家にあったのは『美味しんぼ』とさ『釣りバカ日誌』だけだからさ、まあないよね

—：ないですね

A：あとエロ漫画

—：うんうんうん

A：だからー、あ、そうねなかった、そのころはなかったな。でも今はね、結構好きだよ。まあフィーヤンにヤマシタトモコ先生がフィーヤンとかにもー…そのころは多分読まな、あーでもやっぱり友情の物語が好きだったんだよね。あーそういう意味ではやっぱり男の子の物語が良かったのかも、おそらく

—：友情の延長線みたいな感じがいいの？

A：そう、友情の延長線、にある恋愛が欲しかった。男女の恋愛でそれが起こるってのはさ、まず少ないじゃん。だからそういう意味で私が好きな男女の恋愛って、男女の恋愛じゃないけど、『SPEC』とか

—：あーなるほど

A：あとは、見てないと思うけど『ダウントン・アビー』っていう話、『ダウントン・アビー』っていうさ海外ドラマがあって、それは割と好きなんだよね。男女の恋愛では

—：『SPEC』意外にいろんな人から出てきて面白いです

A：あ、本当に？複数出て、でも『SPEC』はさ、なんか私の中ではさ、男女の关系的にはすごいなんかあれは理想だよな。でもあれ恋愛って言わない

—：『SPEC』とか『TRICK』とか

A：あ、そうそうそう。でもあれを恋愛っていう風にさ、みなさないじゃん、普通に、なんか世の中の的にさ。だからまあ BL を求める、なんか友情

—：ここで百合は読んだりしなかったんですか

A：このころは、言ったっけ？あのすごい私は女同士の恋愛が嫌いだったころね

—：あ、そうだそうだ

A：自分の、自分とセクシュアリティの関係で女同士の関

係がもうすげー嫌いだったところだから、一切受け付けなかった

一：なんで男同士読めたんですかね。完全に関係ないって思ってたの

A：うーん、まあ自分と関係ないっていうのもあったろうし、あとはやっぱりなんかその、中学とか、その BL にハマりかけのころに、結局その、百合嫌いの腐女子の人って結構な数いたからかもしれない。だからそういうのを、そういうスタンスはありなんだと思ったの

一：あーなるほど、なるほど

A：そうそう、そういう振る舞い方は私が学習したんだと思う

一：うんうんうん、でもやっぱり BL もなんだろう、二次も一次もそうですけど、同性なの A：に好きになっちゃったっていう気持ちの表れ方があるじゃないですか

そういうの確かに私は割と重要視する方。だからなんか中学のころはなんかその、中学、高校に入るころは、なんか BL は、なんか結構マナーサイトの言うことを結構真に受けてて

一：あーそうなんだ

A：BL は同性愛だから人には見せてはいけない、みたいな。なんかその、同性愛を見てる私達はなんていうんだろう、いわゆるさ中世の魔女みたいな感じだよ。なんか魔女狩りされないように、隠れて過ごした方がいい、みたいな

一：うんうんうん

A：そう、なんか、なんか謎のこう、謎のダブルスタンダードみたいなのあるよね。なんかそういう振る舞い方は、当時の腐女子として珍しくなかった、全然。だから、そういうのはありなんだと思った。腐女子で、BL は好きだけど百合は嫌いっていうのはありなんだって。あと二次元は好きだけど三次元は無理っていうのも、そういうのを、多分周りの、多分その腐女子の姿から学んで、そういうのはありなんだと思って、そういう風に暮らしてたんだと思う。あんまり疑問に思わなかった、それは普通だったから。まあ後から気付くとね、おかしいことではある

んだけど。でも気付かなかったんだよね

一：そうですね。じゃあ次行きますか

A：うん

(中略)

一：次は、そうあの一、どこだっけ。BL ハマリ始めたのがその小学校とか中学校とかで、その自分のセクシュアリティの曖昧さみたいなのをちゃんと認められた時期はもっとずっとずっと後みたいない感じじゃないですか

A：そう。ずっとずっと後

一：それまでずっと、いや気のせいだって思い続けてて、だから別にそこが直接的に BL への関心、BL への興味関心とつながったわけじゃないよってお話してて

A：うんそうだね

一：まあ今の話でもそうだったと思うんですけど、あでもこの辺はわりと今訊けたことなのかな

A：ざっくりまとめて話しちゃった感ではあるんだけど

一：そうですね。じゃあやっぱりその、うーん、よく対等な関係性がうんぬんみたいな、ニューウェーブ系うんぬんみたいなのを、この辺はやっぱり好きなんですか？

A：対等な関係性は好きなんだよね。やっぱり BL でも力の差がかなりあるのはなんか違うなって感じ。なんかすごいスーパー攻め様と、なんか無力ななんか可愛い受けみたいなのは、なんか嫌じゃない？結局自分が、なんだろう、それは男女の恋愛のさめっちゃさ、テンプレートをさ当てはめてる

一：少女漫画を読めばよくない？ってなっちゃうんですよね

A：そう、なっちゃうし、結局そういう少女漫画もあんまり好きになれないから。そうだね、なんかこう。そうだね、なんか結局どうしても、うーん。まあだからその、そうねそこで結局自分が女性であるっていうのは関係してくるのかな。なんか結局自分が頑張ってもなんか攻めの方になれないじゃん。攻めになれないじゃん。受けであれ、女の人であれ、まあなんかそういう。例えばあの人があるのかな、なんか弱くて何もできないみたいな感じになるのがあんまり嫌なんだよね。なんか無力な自分みた

いなのを、なんかもっとがんばれよみたいな。なんか、もっと頑張れることがあってよくない？みたいな。なんかなんつうんだろうね、あんま

一：あーでもなんかそういうのって、少女漫画の男女の恋愛よりも、BL で同じようなのが描かれた方がよりこう無力感って増すんですね

A：そう、なんか結局男同士だから、なんか、よく言うのは男同士だから、やっぱりそれはいくら攻めと受けがあっても、受けはひっくり返す可能性はあるんだっていうけど、それは嘘だと思う、私は完全にそれはあり得ない。だって攻めと受けて決まったら、もうひっくり返らないんだから、その力の差は。それはね、ごまかしだと思うよ。だからね、そういうことを言ってる人たちの気持ちはよく分かんない私には

一：うん。そうですね

A：私は本当固定されてると思うから、そういう風にしないでほしい

一：うんうん。まあそういうこと言わないでほしい

A：そう、なんだろう、その、私の立場としては、それは腐女子としても研究者としても、その言説は嘘だと思う。その攻めと受けはいつでも入れ替わることができるっていうのは。入れ替わる、今たまたま入れ替わらないだけで、入れ替わることっていうのはできるっていうのは絶対嘘だと思う。それはない。だから、なんか私的には、なんか、なんだろう、受けにもエンパワーメントさせたいんだよね。受けに力を与えたい。Power to the 受け。受けが自分でなんかちゃんと、自分で選んで恋愛してるような感じに、なんか無力でなんかなんとなく流されてうなっちゃうのって。で、結局攻めのこと愛してくない？それは。それはなんか自分でちゃんと決めて攻めと一緒にいて欲しい感じがする

一：流されてこうなあなあで

A：そうそうそう

一：べたべたに甘やかされて守られて

A：そうそうそう、なんか若干 DV くさいこともされてるのに、なんなんだよあいつもところ、がんばれよみた

いな。なんだろうね

一：あ、なるほど

A：それは

一：関係性はひっくり返らないけど、でも受けもちゃんと自立してるやつがいいんだ

A：そうそうそう、そうであってほしいと思う。あと攻めもなんかこう、なんだろうこう、DV すんなよとか、あとレイプまがいのことすんなよとか、なんかそういうこと考えちゃう

一：レイプ神話みたいなのあるじゃないですか

A：そう、あれ嫌い

一：最終的に愛があればいいみたいな

A：そうそうそうそう。あとなんか、『SUPER LOVERS』もそうだったんだけど、兄貴がつな、血のつながらなさ、年の離れた弟にさ、なんかこういたずらの延長みたいな感じで手を出すみたいだね。「お前、児童相談所に通報するぞ！」って。としか思わないんだよねー。なんだろう。そうもともとこれは自分がこう、自分の考え方もしんない。なんかこう社会と切り離せないみたいな、なんか若干の、最低限の倫理規範を。まあある意味では自分の理想を投影してるんだろうね。なんかこう社会的にこうなってこうであってほしいっていうのをある意味投影してるんだけど

一：へーなんか不思議ですね、もう、あーでもそっか。昔はやっぱ自分の理想だったけど、二人だけの世界っていうのを

A：そうそう二人だけの世界を

一：求めてたけど、最近はまだ社会、社会とその二人っていう関係性をみて

A：そうそうそうそうそう。そうなんだよね

一：社会ありきの理想像が欲しいんだ

A：その二人だけで完結するっていうのは、だからその二人だけで完結するっていうのに、説得力があればいいんだよね。まあだから「とらぶ」とかだと結構もう現実世界と違うじゃん。説得力があればいい

一：へー

A：それは

一：なかなか説得力のある二人だけの世界って難しいですね

A：難しいね、相当難しい。だからその、監禁してても、それは犯罪だっていう意識があればおっけーなの

一：あ、そうなんだ

A：そう、だから監禁してるのに、なんかみんなそれを許容してるみたいなさ、おかしいじゃんか、絶対

一：あー、そっか

A：そんなのさ、ありえない

一：じゃあ監禁してる状態でも、その監禁されてる二人しかいないっていう風に描かれちゃうと、えっ周り、周りのなんか日常生活をこう営んでる社会はどうなってるのって

A：そうそうそう、あとなんだろう、なんかめっちゃ軽いみたいな、なんだろう。「お前早く出せよ」「オホホホー」みたいな、なんだろう。え、お前監禁されてるよね？みたいな。とかさ、監禁してる方もさ、「なんか監禁しちゃいましたあははー」みたいなさ。なんかお前、お前は俺を惑わせるからいけないんだみたいなさ、わけわかんないこと言いだしたりとかさ。監禁するってなったらさ、なんかさ、もうちょっとさ、「こんなことして大丈夫なのか、俺は捕まるのか」とか考えるでしょと思うんだよな。なんだろうね、ちょっとリアル思考が頭から外せないんだよねー

(中略)

一：まあ後はこう、BLの読み方からはまあ離れた形で、自分がBLを好きなこととか、あとBLとは関係なく自分自身のセクシュアリティがちょっと曖昧っていうのを、なんか誰にどの辺まで明かせるかみたいなのを、ボーダーがもし、ちゃんとあるんだったら訊きたいなと思って

A：そうだなー

一：家族には両方とも言っていないですよ

A：言っていないねー。でもそれは家族が多分100%受け入れられないだろうから、っていうのを分かっているから。なんだろう、受け入れてくれないかもしれないとかじゃなく

て、まあ多分100%受け入れられないだろうっていうのが分かっているから。なんかこう、受け入れ、相手が自分を拒絶しても大丈夫な、なんだろう、環境が整うまでは言うことではないな。つまりその、お金の支援とかがなくて、なんか雇用も受けて、自立して生活できるようになったらまた違うかもしれない。親と縁を、が切れてもいいけど言う、みたいな状況になるかもしれない

一：あー

A：そう

一：BL好きもわりとそんな感じなんですか？

A：どうなんだろう、でも、BL好きってもしかしたら大丈夫なのかもしれないけど。ただ私の場合はそれを、なんていうんだろう仕事にまでしているっていうところがあるよね。仕事にして、研究にしてるってまあどっちにしろ、なんかその、生活と切り離せないところにあるっていうのは、うーん、どうなんだろうな。その、ただBLを好きなだけじゃなくて、BLを仕事をしているっていうのは親にどう受け取られるかわからない、から

一：その二つって、例えばその、そういうところで働いてるとか、今インターン行ってるとか、こういう卒論を書いたっていうのは、話してはいるんですか？

A：話してないよ

一：話してないんだ

A：話してないよ。親は私、なんか知らないけどサブカル系の研究してると思ってる

一：へー。え、卒論どんなの書いたのとか見せてとか言われなかったんですか？

A：言われない。だって読んでも多分相手も分からないだろうし、読みたくもないと思うよ、あんな分厚いやつ。うちの親、学がないからそういうこと興味ない、本当に

一：んーなるほど

A：そうどういう研究で今何をしてとか全く興味ない、分かんないから、いいよ話さなくて

一：んー、分かんないから訊かないみたいな

A：そう、訊いても分かんないから

一：うんうん。他の人から、後から聞こうと思ってたんで

すけど、あの。なんだろう、親に話せないっていう人に、
「それはなんか親にすごい申し訳、育ててくれたのにこんななんか間違った方向にいつちゃって申し訳ないって思ってるのか、それともただ単に見せるのが恥ずかしいだけなのか、どっちなんですかね」って話したときに、まあ申し訳ないって気持ちなんだけど、それはその BL を好きであること、自分が好きになっちゃったこと自体じゃなくて、その親に、そのばれちゃったこと、BL 好きな自分っていうのがバレちゃったことに対して申し訳ないって思ってるし、それ自体を好きになることは別にどうでもいいって思ってるけど、それが誰かにバレるってなったときに受け入れられなかったらどうしようっていう怖さがあるって話になって、なんかみんな、みんなそんな感じなのかなって思ってるんですね。その

A: うーんそうなんだ

一: 愛好自体どうっていうわけじゃなくて

A: あーそうなんだ

一: 本質的には好きであることには何にも感じてないけど、それが誰かにバレて、受け入れられなかったらどうしようっていう気持ちの方が強いのかなって思うんですけど

A: そうなんだ。それは私もちょっと意外だな

一: そうは思わないですか、自分では

A: あー私はもうなんかフルオープンにしてた時期があったから、その親以外には、その時の経験から学んで、言う時と言わない時と分けてる。で、言うともめるときは絶対言わない

一: あーなるほど

A: そうだから恥ずかしいとか恥ずかしくないとかじゃなくて、言うともめるかどうかで決める。相手の関係が悪くなるかどうかとか。だから言ってもめ、今のバイト先は結構、そうだね、そう、今のネットカフェの方はやっぱりみんな、いろんな立場の人がいるし、なんだろう、言うともめそうだから言わない。あとなんかちょっとそういう BL とかあとはそうね、まあジェンダー論とか幅広くそういうなんだろう、ちょっとその普通の恋愛に関する

ようなことに対して、ちょっと批判的な人がいるから、多分もめるだろうなと思って、言わない。だから恥ずかしいとか恥ずかしいとかじゃ、恥ずかしくないとかじゃなく、とか恥とかはない。まあ恥とか感じてたら仕事できないからね

一: ああ、そのなんだろう、BL、もめるもめないとかと、言ったらもめるかもしれないっていうのと、言って受け入れられないかもしれない、相手から受け入れてもらえないかもしれないっていうのはまた割と別なことですかね

A: うーん、受け入れられなかった結果、もめるんだけど、受け入れてもらえなかったかもしれない、受け、相手に受け入れられないかもしれないっていうのは、相手が自分のことをなんだろう、マイナスの評価を下すかもしれないっていうことじゃない。それは、マイナスの評価を下されること自体はいいんだけど、相手が私に対してマイナスの評価をした結果、何かトラブルが起こることが嫌なの。だから相手に自分がどう思われたらどうしようっていうか、それに付随して何かトラブルが起きるのが嫌なんだよなー。なんか結局相手が私のことを、なんかこう、嫌いになったら、そこでトラブルが起きるから。まあそれでトラブルが起きなければいいけど

一: 疎遠になって、離れていけば別なら別にいいんだけど

A: そう、でも結局その、嫌いにな、普通のなんか普通の相手に、例えば喧嘩して嫌いになってなんか、相手が離れていくっていうのは別に、なんかいいんだけどさ、いいっていうか、それはそれで普通に起こることだけど、BL の場合は相手がそれで私に対してなんか悪い評価をもったら、なんか私のことをめっちゃ馬鹿にしてくたりとか。なんかしたら、そしたら、例えばバイト先だと仕事に支障がでたりとか。なんか他の人との、全体の関係が気まづくなったり。まあ実際そういうことがあったから、それが嫌なんだよね。結局あとは私を馬鹿にすることで、他の言わない腐女子の人が、結局それを聞いたりするじゃん。そういうことは、なんか嫌なんだよね

一：そっかそっか。あーなるほど。じゃあ全然違いますね、そういう人とは

そうだね、全然違うと思う。相手に嫌われるかどうかで、まあ結局まあでも結局相手を不愉快にさせないようにしてるっていう意味では一緒だけど。自分の評価というよりかは、処世術

一：根本は違いますもんね

A：処世術みたいなもんだな、なんだろう

一：フルオープンにしてた時期もあったんですね

A：うーんでもトラブルが絶えなかった。なんかめっちゃ腐女子のことをさ、なんかからかってたりとかするの。そうすると他の腐女子の人はさ良い思いしないよね

一：それいつごろですか？

A：大学の頃だよ。サークルでもフルオープンってほどではなかったけど、なんとなく伝わっちゃうとかさ、Twitterとかでさフォローされちゃったりしてなんとなく話したり

一：Twitterで書いてましたね、今も書いてましたっけ

A：今も、今も普通に全部BLの話。でも

一：あ、そのプロフィール欄に

A：ああうん腐女子みたいなこと書いてあるよ。うーん昔はどうだっけ、書いてる時期もあったと思うけど、結局あの一つのアカウントで全部済ませようとする、そういうトラブルがおきちゃうんだよ。でもアカウントの使い分けマジでできないんだって。私の友達大学までの友達はさ、ほぼ腐女子100%みたいな感じだから、リア垢とあのインターネット垢を分けるとすごい不都合が起きるんだよね。だから結局一つアカウントで済ませるしなくて。そうするとリア友で合わない話合わない人はどんどん切られると〜。それでもまあフォローし続ける人もいるけど

一：なるほど。でBLは家族には絶対言っていないじゃないですか

A：うん

一：同じBLを研究してる人にはもちろん言ってると思いますし

A：まあそれは

一：同業者の方にも言ってるじゃないですか

A：うん

一：で、この前なんだったっけ、その、LGBTQサークルでは

A：そこが一番難しい

一：まあなんか言ったり言わなかったりみたいな、でもめたこともあるみたいな

A：そこがね一番難しいよね。利害関係者だから。なんかその、大学のLGBTサークルではやっぱり、なんだろう。

まあでも自分の、が作った家みたいなもんだから、言う、まあ家族みたいな感じだし、言ってたけど。家族みになって変だね、逆だけど。まあ、言ってた、けどやっぱりそれで、トラブルは起きたし、まあそれは覚悟、批判されるの覚悟の上だったかな。だからさ相手、それは確かにその、もめたらどうしようっていうよりかは相手を不快にさせたらどうしようってのはあったかもしれない。

そう、相手を不快にさせるんじゃないかなと思って黙った時は何回もあるかな。そう。それはなんだろう、普通のなんだろう、LGBT、例えば特にゲイの人とかバイセクシュアルの男の人とかは特にだけど、まあ普通の人にBLが好きって言って、不快に思われるのとはまた全然違うと思うから。それは相手、相手がなんかその、関係することだから、それはもし、だから結構その、自分が、そうだね最初その、筑波に元々あったサークルAに入った時はそれは一切言わなかった。なんかそれは不快にさせるかなと思ったから。で、まあ、サークルBを作ってから、まあ自分が作ったサークルっていうのもあるし、結局やっぱりなんだかんだで自分、私の研究が、ある程度やっぱり腐女子の人と、そのLGBTとかまあゲイの人とある程度なんていうのかな、仕切りを取るっていうのが私の研究の目的だから、なんていうのかなうーん、変な言い方だけど、研究者とかLGBTのなんだろう活動家っていうのも変だけど、まあ活動家としての私はそういうスタンスなんだよね。腐女子の人とゲイの人とかの、仕切りを取るっていうのが、私のスタンスだから。その、好むと好まざるとに関わらず、自分の政治的なスタンスを表明

するっていう感じなのね。だから LGBT の、うーん集まりとかは、アウェイのとこだったら黙ることもあるし、ただやっぱり自分の立場を表明するために言ったりもする。それは結構自分、個人的な話ってか自分が腐女子だと思われるか思われなかっていうのもそうなんだけど、もっとなんだろう、ちょっと政治的な話になってくるから。BL 研究者とかあとは BL を仕事にしてる人たちの間では、うーん、もやっぱりもめることはあるから、うーん、言ったり言わなかったりかな。でもやっぱり自分、同じだと思う。自分のスタンスを表明するために言ったりとか

一：言ったり言わなかったりっていうのは、BL 読みじゃなくてじゃなくて自分のセクシュアリティ

A：セクシュアリティとか、あと LGBT の活動とかに関わってるってことを言ったり言わなかったり

一：あー

A：でもセクシュアリティは、BL

一：やっぱり言ったり言わなかったり

A：そうだね

一：言う必要があるときには言うって感じですか

A：そうそうそう。比較的、うーん研究者、同業者の間では、セクシュアリティはでも本当に必要があるときしか言わないと思う。研究上では、これ本当にねマジで問題あると思うんだけど、BL の研究してると、BL と LGBT の研究してるっていうと絶対セクシュアリティ訊かれるんだよ。いや、気持ち分かるけど。でもそれはなんかこういう風に調査とか、すごい深い議論してるとかじゃなくても訊かれるんだよね。なんかそれは問題あると思う

一：ゼミ中とかには訊かれないですか？だってテーマを提示したときに、え、なんでそういう、動機が多分訊かれたときに、そこはなんか避けては通れない部分ではないですかね

A：そうね、それは動機を訊かれたときには言うことが多いかな。でもそこまで深く突っ込まれなければ。まあ今のあの指導教官には、結局言わ、言う機会がなかったから

一：あ、そうなんですか

A：うん、そう、言わない。でも多分まあうすうすそうだろうと思ってと思うけど。別にまあそこはつきり訊かないっていうスタンスなんだろうけどね、先生的に。多分訊いて、そうね、その私が話す機会があったのが入試のときの機会だけだから、入試のときに話しちゃうと、いろんななんだろう、難しいことになるだろうなと思って。つまり、それでさ落ちたらさ、私がそういうこと話したから落ちたっていうさ、可能性ない、ないわけじゃないけど出てきちゃうじゃん、それは多分してないと思うけど、相手はそう言われることを恐れるよね。それで私を落と、入れるかもしれないっていう、逆の効果があるから、だから私はあえて言わないことにしたんだよね。

うーん、で、その前になんか、同じ大学の今はちょっとサバティカルに行ってる先生に、相談したときは訊かれたから言った。あとは、そうだなー。でも Twitter フォローされてる人は多分全部モロ分かりだよ、プロフィールに書いてあるから

一：うん、そうですね

A：それ以外だと、そうね、BL の仕事をしてる人は、研究じゃなくて仕事の人は、結構こういう社会的なテーマを入れられることを嫌がる人も多いから

一：あーなるほど

A：まあ相手の関係性によるけど。まあセクシュアリティは言わないだろうな、多分。なんか個人的に仲良くなれない限り言わないと思う。まだ職場では言ってない

一：うーん。なんか一番ちょっと難しいですけど

A：うん

一：お友達って、まあ BL もセクシュアリティもですけど、BL は割と多分好きだよって話は多分すると思うんですけど、セクシュアリティはどのぐらい、そういう話になったら言うぐらい

A：それ難しい話なんだけど、なんかカミングアウト周期みたいなのがあるんだよね。なんか、これはなんか多分私に限った話、じゃないかもしれない、まあでもすべての人がそうではないと思う。ある程度似たような話を聞

いたことがあるから、なんか言わなきゃって気持ちにな
って言って回る時期っていうのがあるんだよね

一：言わなきゃって気持ちになるんですか

A：うーん、なんか多分そういう周期があると思う。なん
かこう、例えばそう、結構よくあるじゃん、あの結構
LGBT に関する大きな事件が起きて、有名人がカミング
アウトするみたいな、そういう感じに近いんだよね。なん
か大きな事件とか、自分の中でなんか大きな意識の変
化があって急に言うっていうのがあるんだよね。そういう
ことがあるから、はっきりこう、でも私は多分、でも
100%受け入れられるっていうことになってなければ友
達には言わないかもしれない。でも私の友達ね、いきなり
めっちゃ否定的な反応する人っていうのは多分いない、
そういう人は最初からさ、普段からそんな深い付き合い
にならないようにするから。そういう人はそもそも友達
に残らないんだよね、あんまり。だから言えなくてみた
いなのは、言うタイミングを逃してしまったっていうの
はあると思うけど、言わなくてっていうのはないな、あ
んまり。言う機会があれば言う。ただなんかそうね、難し
い関係性の子もいるけど、うんまあそうだね、まあどの
ぐらい仲良くなりたいかにもよるかな。結局一番仲良い
人達は全員言ってるから、まあ仲の良さの程度ってこと
になるかな。どれぐらい深く付き合えるか、付き合いた
いかみたいな

一：じゃあなんか友達に限った話だと、さっきその BL は
言うともめるときは言わないみたいな話ありましたけど、
セクシュアリティの方はもめるかもめないかというより
かは、それより一歩手前の段階で受け入れられるかどう
かっていうことなのかな

A：そうだね。受け入れられるかどうか、だね。ま、言う
ともめるような人はそもそも友達に残らないし、多分言
おうかどうか迷わないと思うしな

一：セクシュアリティの話をしてもらってどういうこ
となんだろうって思いますけど、あーでもまあ

A：そうだから相手が

一：そっか

A：私のこと好きになんないでみたいなこと言いだして、
あとはなんかその、なんでそんなプライベートな話を私
にわざわざ話すのとか言われたことあるよ

一：えっ

A：言わなくてよくないみたいな

一：えっそんな

A：本当にあるよ、あるよあるよ。これ結構よくある話だ
よ。そう、なんでそんなプライベートな話を私にするの、
困るんだけどそんなこと言われてもみたいな。その子は、
あんま仲良くしたくない。もう、あ、そういう子なんだっ
て。まあまあでもハマるときもあるからね、うん。めっちゃ
なんか差別的な発言してた子が、こう、なんかきっか
けがあって変わったりとか。そう結構なんか長い目で見
るとよく分かんないから。ま、その時は若干多分離れる
と思うけど。まあ縁を切るというほどではないかな、気
長に待ったりとか、あと、まあ折に触れてみたいな

一：そっか。一個、他の人から訊いてめっちゃ面白いなっ
て思ったことなんですけど、まその人は女性、女性の人
で、こう完全に男の人としか付き合ったことない、まあ
女の人から告白されたら分かんないけど、告白されたこ
とないから分かんないけど、今のところ男の人としか付
き合ったことないです、っていう方なんですけど

A：うん

一：その、男性と誰か付き合うときに、付き合う直前とか
付き合った瞬間に、その実は BL 好きな腐女子なんだけ
ど、それでも大丈夫？っていうカムアウトするらしくっ
て

A：あーでもその気持ちわかる

一：へー。それは、そうなんかそういう話訊いたときに、
まあ男女間だからなのかと思ったけど

A：あー

一：どうですか、男女と女性同士と違うような気がする
んですよね

A：私もし女の人と付き合うことになったら

一：実際したことあります？

A：あー女の人と付き合った時についていうこと？

一：あ、両方、両方で

A：あのそもそも私しばらく、なんかちゃんと付き合ったことが、まあそう、あ、でも、そのすげ一前の話なんだけど中学校のときにそのもめた彼氏とは、付き合うってことになった時に、実は腐女子なんだけどって言った。言ったら大変なことになっちゃったんだけど

一：あっえっそうなんですか

A：大変なことになったっていうのは逆方向で

一：あーなるほど

A：相手がなんか BL っつてものを知らないってことを思い込んで、自分が腐男子、腐男子になってしまったっていうね。そういう、そんなことは私としては本意ではなかった結果を招いてしまった。あーでもそれから私は、言わないようにしたから。だから仲良く、仲良くなっても

一：ハマらせちゃうから？

A：そう、相手が、すごい興味をもってめっちゃ BL にハマられると困るから

一：困るんですか

A：困るっていうか、私、そうねこれはねすごい、すごい

一：ハマるはずじゃなかったのにハマらせちゃうから？

A：いやそれもあるけど、自分の中で深い問題があって。腐女子とか腐男子の人と付き合えるかっていう問題。これね、マジで、あのなんかちょっと

一：なんでなんでなんで？

A：映画祭で仲良くなった女の子がいたんだけど、ちょっといいなと思ってたの。でもその子腐女子なんだよ。その子とね、結構仲良くなるチャンスが色々あったの。でも、かなりためらいもあったよね。相手が腐女子だから
一：それはなんでですか？

A：腐女子だから仲良くなれるかもってのはあったんだけど、でも実際付き合った時に腐女子であることで絶対喧嘩が起きそうって思ったんだよ。相手と

一：派閥争いみたいになっちゃってってこと？

A：相手と自分のカップリングとかがなんか違ったりとか、解釈とか、あとは腐女子としてのスタンスってあるじゃん。例えば隠す隠さないとか、マナー守る守らないとか、

なんかいろいろあると思うけど、あとなんだろう

一：あーそうですね、「ホモ」って言葉使うかわらないかなとか

A：そう、いろいろなスタンスで絶対食い違いが起きると思ったんだよ。だからすごいね迷って、大きな魚を逃してしまった

一：あーでもわりと A さんなんかお話を訊いてるとなんだろう、その腐女子としてのスタンスをしっかりとってるじゃないですか

A：そう、それがねいろんな障害になるときがある

一：だからこその悩みなのかな

A：だから、こだわりがない人は別に気にしないっていうか、相手、だから相手でどう、なんか結構。そうねその人はあとは結構決定的な考え方の違いがあるんだよ。相手は、あの、なんていうんだろう、BL とその他のものをがっちり分けるべきだって思ってるんだよ。あと地雷とかにも配慮すべきだと思ってるんだよ。私はそんなに厳格にやる必要はないと思ってる、そんな自分だけで避ければいいし、マズいもん見ちゃったら自分の中で記憶を消せばいいから。そんなわざわざ注意書きとかやらすことないと思ってるんだけど、相手は絶対そういうことをした方がいいと思ってる

一：えーなんか、注意書き足らなかったら怒るタイプ

A：そう

一：の腐女子なんだ。あーなるほど

A：絶対相容れない、無理。でもそこに目をつぶればよかったのかもしれないけど、いや分かんない、まだ。いやでもね、同じスタッフだから、同じ場所にいる子だから何ともいえないけどね。そういうスタンスが一緒じゃなかったら、その時初めて思った、なんか腐女子の人で、だったら結構仲良くなれるかなーと思ってたけど、そういう問題が起きるということを、その子で初めて知ったかな。男の子の場合は、そういう、ハマられてしまうと困るので、一気に言わないで、小出しに出すように。なんとなく、なんかなんていうんだろう、アニメ好きなんだよねから始めて、なんとなくこう、こうなんだろう、向こうが

急に興味もってドはまりしてしまわないように。こう、慎重になる

一：それは女の子、腐女子じゃない女の子が相手だったとしても、多分小出しにするんですかね？

A：あー。でも腐女子じゃない女の子で BL の知識全くなかってあんまりいない？

一：まあそうですね

A：まあいるかもだけど、そういう子と付き合うことになったら、多分そういうことだと思う。でも女の子に会って結構言っちゃうからね、腐女子なんだ一って。男友達だったら、まあ男友達から、まあ恋愛に発展した場合は既に腐女子であることを知ってるから相手が、と思うんだけど。そうね、でもゼロからあんまり恋愛関係になったことが最近ないから。あでも完全にもしゼロからだったら多分付き合うまで言わない気がするな。てか付き合ってから、なんか、でも相手によるかな。腐女子だって言って、相手がじゃあ別れるって言いそうならまあ黙ってるかもしれない。無理だと思うけど、隠し通せなそうなのもするけど

一：なんかこの話してくれた人は、そうもしその、腐女子っていう自分の属性が、相手にとっての地雷だったらって考えるらしいんですよ

A：あーそうね

一：だから最初に言う

A：あーなるほどね

一：後からもしバレたときに、多分どうせバレちゃうから、後からバレたときにその、ちゃんと付き合ってから関係性も出来上がった後に別れるってなると辛いから、最初に言う

A：あーでもその方が確かに合理的ではあるよね

一：でもなんか、ばら、バラさない自信があるんだったら、言わない方が賢いですよ

A：私の周りにもすごいと思うのは、私の友達でさ、彼氏が BL 地雷なのにさ腐女子オープンにして付き合ってる子がいるんだよ、すごくない？だってどういうことなのか私全然分かんないんだけど

一：あーあーでも、え、それは BL が地雷ってだけで、腐女子が地雷なわけじゃないんじゃないですか

A：でも一緒じゃない？

一：いやいやいやいや、なんか私、の今付き合ってる人そうですけど、BL 絶対読まない気持ち悪いって思ってるタイプで

A：あ、そうなんだ

一：はい。まあ多分こうなんだろう、今は BL にどういう作品があるのかもまず知らない、知りたくない

A：うん

一：ので

A：へー

一：でも別に腐女子は大丈夫。ただの趣味でしょって思ってるので

A：あ、自分に見せなければ大丈夫なの？

一：自分が読まなければ、別に読んでも人がいても、それはただ趣味を楽しんでるだけ？

A：でもさ、(筆者)の家に遊びに来たらさ BL がたくさん置いてあるでしょ？

一：あります

A：そういうのは大丈夫なの？

一：あ、全然大丈夫ですよ

A：置いてあるだけは大丈夫なんだ

一：自分が読めって言われなければ全然

A：そうなんだ。え、でもさ、(筆者)はさそういうこと言われてさ、なんかムカッときたりしないの？

一：ふーんって思いますけどね。面白いのになって思いますが

A：あ、そうなんだ。あじゃあ常に悪口言うっていう感じではないんだ

一：あ、そういう感じではないです

A：そういうスタンスだっていう感じなんだ、常になんかさ

一：俺は読まないよっていうだけで

A：あーそうなんだ。なんそれはなんか住み分けっていうかお互いに距離、なんだろうちゃんと合意ができてるね

一：そうですね、私がぶよぶよ苦手だからしませんが
いうのと同じ感じ

A：そうだね。なんかその子はさ、なんか、普通に相手の
前でも BL 話をするらしいんだよ。それに対して相手が
うわー嫌だみたいなことを言うらしいんだよ。それでも
なんかうまくやって、でもそのカップル、そのカップル
がね、なんかそういう関係性なのかなとは思っ

一：でもなんかその話してる、うわ嫌だっていう相槌が
できるっていうその、一個の会話のパターンですよ

A：かもね

一：それを楽しんでいる節はあるんじゃないのかな、彼
女が

A：あー確かに、確かにね。それはあるかも。でもイラッ
としないのかな。私相方にさ、すげえ、自分のさ推しキャ
ラをディスられたときはさ、すげえこいつ殺してやろう
かと思っちゃったよ。なんか分かってても、お互いの距
離感だっというのを分かってて、相手の嗜好だと分かっ
ててもうわーこいつ家から追い出してえと思った。なん
だろうなあ。だからちょっと不思議な感じがする

一：でもあれじゃないですか、その、その彼女さんと彼氏
さんの場合は、彼氏さんが最初から絶対にそういう世界
を理解できない人っていうのが最初から分かっているから、
BL 全部がだめっていうのをちゃんと分かっているから、分
かってた状態で言うから、否定されても何も思わないだ
けで、A さんの場合は別に、相手の人も BL が好きじゃ
ないですか

A：うんそう

一：好きなのに通じない部分があるから

A：あー。それもあるかも、しないし。あとはなんか、
そうね、なんかさパートナーにさ、価値観のさ、かなり大
きな違いがあっても許容できるかどうかってすごい、な
んか、それはなんか、BL に限らずある気がする私は

一：A さんは駄目なんですか？

A：え、例えばさ、なんかさ、すごい話だと思うん、私的
にはすごいと思うんだけど、右翼の人と左翼の人が結婚
してる話があるんだよ、嘘でしょって思う。私は無理だ

よそれ

一：なるほど

A：どうするの、だって普通に話してたらすぐ喧嘩になっ
ちゃうでしょ、でもそれは

一：話さないんじゃない？

A：その人たちは上手くいってるんだよねー、うわーすげ
え、私は無理だな。例えばあとはさ、あの動物を、動物愛
護者の人とかと付き合えていわれたら絶対無理だと思
う

一：あ、そうなんですか

A：めっちゃ過激派の人ね

一：あーなるほどなるほど

A：なんか動物の毛皮を使っちゃいけないとか、なんかそ
うい感じの人だったら、あと自分はベジタリアンで、
そういう感じの人だったら無理だと思う、私は無理だと思
う、多分。なんかことあるごとに、「こうこうこうだか
ら無理」って言われて、「はあ！？」ってなっちゃう。な
んかしよっちゃうそれで喧嘩起きそうだな

一：あー。こうこうこうだから無理って、こうこうこうだ
からお前の考え方は駄目って言われるのが駄目なんじゃ
ないかな

A：それもあるし、なんだろう。例えばなんかその、お肉
が出てきたときに動物を大事にしたいから食べないって
言われたら、反射的に反論しちゃいそう私は。でもさ

一：あー

A：すげえ嫌なやつだな

一：もう料理になって出てきてるんだから、今食べない
ことこそが無駄にしてるんじゃないのってなって

A：うん、なんかその、多分つい反論しちゃうみたいなの
はあると思う。こう、自分の中で結構ガッツリ決まっ
てることがあれば、そうだね、私は動物に対しては動物ら
しく扱うべきだと思ってるから。そういう、そうね、めっ
ちゃ激しい価値観の対立があったら、やってけないよな
ーと思ってきた。なんか私にとっては BL もその一つだ
から。BL はめっちゃ嫌いな人と付き合うっていうのは、
いやーでも確かなー

一：そっかなんかやっぱ A さん全体的にこう、自分の中にたくさん思想があるじゃないですか

A：そうそう。面倒だね、面倒なタイプ

一：引っかかる部分が多いのかな

A：あーでも確かになんか、なんか恋愛関係的な、恋愛関係になってた人と、面倒くさい言い方だけど。なんかジェンダー論の話で口論になったことがある

一：あそうだ、なんかその実際の、最後に実際の恋愛においてどういうのを重視するのかなって話を訊きたかったんですよ

A：ぐちゃぐちゃですけど

一：あの BL との対比として。さっきジェンダー論でもめたとか言っていましたけど

A：口論になったねー

一：何でもめたんですか？それは

A：なんか、なんだ、なんなのか分かんないけど、なんか話してて、向こうが、「でももうフェミニズムは世の中に必要ない気がする」みたいなことを言ったんだよ。カチンときて私は、すげえ反論して、論破してしまった。だってそれだったらさ、いろいろ言って、「もしそうだったらさ、私ここにいないからね今」って言って。大学で会った人だったから。「フェミニズムがなかったら私大学来てないし、君とも会ってないけど」みたいなこと言って、完全に言い負かしてしまった。もう駄目だ。いやそういうことしないほうがいいんだよね、しないほうがいい、でもなんかねそこまで言われたらなんか引き下がれなくなっちゃって。そうね、実際の恋愛はもう、トライアンドエラーみたいな

一：そうなんか何訊きたかったって、その

A：対等な関係性を求めているか否か？

一：そう、今読んでる BL の作品と、やっぱり似たような関係性の恋愛がしたいなって思うのかなって、その。でもさっきも話したのか、やっぱ BL において、BL とか今読んでる、今好きで読んでる恋愛もの、その恋愛ものの物語には、やっぱり自分の恋愛の理想像みたいなのが描かれてることが多いのかなって思ったんですけど

A：うーん、結局でもね、不思議な話だけど根っこが同じだからね、展開が被ってしまうことがある。そうなりたと思ってそうするとかじゃなくて、なんか、BL に描かれてることと同じことが起きてしまったりする。なんだろう。多分根っこが同じだからそうなる、それか自分がそこに共感して、似たようなものを引き出してのからかもだけど。そういう、でもそういう風になりたいなっていうのは、なんか違うかな。なんだろう、自分の恋愛が先にあって、そこに共感できる話があるから。それを目指すというか、まあでも大抵、対等な関係性ではありたいと思うけど。でもね、男女だと難しいよね、その BL の理想はほぼ、BL を理想とするならほぼ 100% それは達成できないよね、そう思う。から、なんか、そうしようと努力もしないと思う。うーん。割と、まあでもほぼ、まあ、BL は理想とするなら、理想と現実の違いに、なんだろう苦しむみたいなのはあるかもしれない。対等でありたいけど、対等にならないみたいなのは、ならないっていうか。でも無理だよ結局男同士の関係性だからさ、男女でなれるわけないからっていうのは難しい

一：そうなんか、自分が好きになる相手も、そのなんだろう、日替わりじゃなくて、周期的に変わるみたいな話ありましたけど。

一：うーんなんか例えば、やっぱその BL で描かれるその男同士のやつをこう理想に置いたときに、その現実との違いに苦しんだ末に、セクシュアリティのその周期ががらっと変わるとかはあるんですか？周期はまた別なのかな

A：うーん、いや BL は常にあんま変わらない。自分の方が、こうぐねぐねしてるんだよね。自分、なんか BL の好みっていうのは自分の理想だから変わら、比較的変わらないんだよね。理想の方は変わらなくて、現実の自分があっちこっちいたりする

一：現実の自分が、苦しみのピークに達したときに、あーじゃあ今は女の人の方にいこうみたいなのはある？

A：あーそれはある

一：あ、あるんだ

A:男同士でトラブルがあると、あーもういいや私は女で。分かりやすいよね。でもそれなんか BL 関係なくない、なんか、なんだろう男の人、男の子とトラブルが起きると、はーもういい女の子がいい、みたいになるよ。だから女の子とトラブルが

ー:トラブル、トラブルの方なのか、その理想から遠くて苦しい、苦しんだ末にじゃなくて

A: あー

ー:実際にトラブルが起こって、トラブルが起きたから嫌だって

A: そうそうそう。理想と苦しんだ、理想に達成できなくて苦しいっていうのは、なんだろう、常に起こっている状態？だって、まあ普通に考えれば、まあそうだと思う。達成することはできないからね。まあその時々でまあいろいろだと思うけど、割とあるけど。だからでも女の子の方にいこうっていうのは考えたことはないな。そうね、でも女の子はさ、ほっといてもさ、なんていうんだろう、うーん、まあそうとも限らないけど、でもほっといても女の子とは対等な関係性になるじゃん。だからそれはそれなんだよね。男女で達成しなきゃ意味がないみたいなのはあるかもしれない

ー: あー、あーそうなんだ。なるほど

A: 多分、なんか男の子が好きなんだよね。いや、なんか変な言い方だけど。女の子も好きなんだけど、男の子も好きだから、男の子とやりたいんだよね、なんか、そういう対等な関係性を

ー: うんうんうん。へーそっか

A: まあ女の子とちゃんと付き合ったことないから分かんないけどさ、分かんない。仮にその、仮に付き合ってる状態を、なんていうの想、妄想、妄想として相方とお稽古したぐらい

ー: あー、実際にちゃんと、ちゃんとかう、お付き合いしましょういいですよってなって付き合ったことはないんですか？

A: 女の子と、ないねー

ー: あ、そうなんだ

A: ないよ。そう、ないからあんまり信用しないで。ないよないよ。難しいよね、女の子と付き合うの。いや、できる人はさっくりできるんだけど、できない人は難しい。なんかこう、多分コツみたいなのがあるっていうか。恋愛のコツっていうか、恋愛に積極的な人は大体大丈夫なんだよ、男女でも。男女でも女子同士でも。でも、なんだろう、男女の恋愛だと、ほっといてもさ、なんかそうなりやすいっていうか、別に恋愛に積極的じゃなくても。男女の恋愛の關係に陥りやすいから。ほっといても、普通に生活してるだけで。でも女の子同士は普通に生活したら、無理だから、自分からの積極性がかなりないと駄目だから。そうすると、こう、やる気がないやつには、難しい

ー: あーなるほど

A: そうそう。じょう、情熱っていうか、やる気がないと駄目。その、ピアノの人は、別に女の子だけの、女の子の、と付き合うことに全てをそそげばいいから、まあ、別にそういうことはないんだろうけど、そうね。まあパイの人特有の關係なのかもしれない。ほっといても、男女の付き合いは生じるけど、女の子同士の關係を始めようと思うなら、自分の努力が必要、マジで。めっちゃモテるとかでなければ

ー: うんうんうんうん

A: だよ

ー: モテるのもだって同性にモテなきゃいけないから

A: うん、いやでも

ー: また普通のモテとは違くないですか？

A: 異性にモテる人は同性にもモテるでしょ

ー: へー

A: 分かんない。あ、うーん、そうね、顔が可愛いければさ、顔が可愛くてさファッションがさ、ある程度さ今どきの服。でも確かにさ男の子にめっちゃモテるけど女の子にはいまいちみたいな子はいるよね、確かにそういう子は難しいかもしれないけど、そういう子はレズビアンである可能性はかなり低いよ

ー: あーなるほどなるほど

A: そういう人は、だって自分、男に手振るように自分を
しつただけだから、別に、そういう子は多分、別に

一: 別に困ってない?

A: 困ってないと思う。ビアンの方はなんかそういう、な
んか自然とそういうファッションになってくから。なん
かあるんだよそういうのが。なんていうんだろ、分かん
ないけど。中村明日美子の『鉄道少女漫画』あるじゃん?

一: あーはいはいはい

A: あそこに出てくるさ、あのレズビアンのお姉さんと
さ、バイセクシュアルのお姉さんのカップル

一: はいはいはいはい

A: あの二人めっちゃ二丁目にいそうな感じなんだよね

一: あーなるほど

A: すげえ再現率なんだよ

一: へー、あそうなんだ

A: 何の話だ?

付録：Aさん4回目インタビュー

2018/11/17

A:二年前って、あれだよ。私が修士の一年の頃だよ。

一:そうですね、だからそこまで、当時は三次元にはまっていなかったんですよね？

A:全くハマってなかった。でその時は、多分…えーでも…うーん、『青鉄』にハマってたかどうかぐらい。ハマってなかったかもしれない。ハマってもいなかった気がする。いや。

一:『青鉄』…

A:でもなかったかもしれない。なんだったかな

一:『ドラゴンラージャ』の話をしていたのは若干覚えてます

A:あ、『ドラゴンラージャ』はいつもしてると思う。それはもう、オールウェイズの、オールタイムベストだから。多分そんなときは、ま、その前は多分、『とうらぶ』で、とうらぶから『青鉄』にハマって。だから擬人化から擬人化だよ。擬人化、『刀剣乱舞』から『青春鉄道』にハマって、『青春鉄道』で、もう、すごく楽しく過ごしました、一年ほど。あでもだから初めてすごい、あのどっぷり同人界限に浸ったんだよね

一:え、そうなんですか？

A:うんそう、二冊

一:それまでなかったんだ？

A:うん、その、やりはしてたけど。でもそんなに数書いてないし、その一、書いても発表しなかったし、ファンの人とそんなに交流することもなかったけど、『青鉄』の方、方、頃は本当にクラスタとすごいガッツリ交流して、オフ会も、初めてオフ会行ったし、同人誌、結局三冊くらい出したし。あ二冊か、二冊。二冊出して、セットは二冊出して、出したし、うーん、であと聖地巡礼にも行って。舞台にも行ったし、すごいガッツリ、本当に界限にハマった。ただ『青鉄』はすごく不思議、なんて言うのかな一般のジャンルとだいぶ違うから、すごい多分唯一っていいほど特殊なジャンルだから、結構他の界限とは

だいぶ違う、雰囲気違ったかな

一:え、どう特殊なんですか？

A:え、だって作者腐女子だし。だから、だからそういう二次創作が、なんていうのかな。その、要するにさ、なんていうの、固定観念としてさ、BLじゃないものをBLにしてるっていうのはあるじゃないですか、二次創作には。でも、なんか『青鉄』は元々作者が腐女子だから、元々そういう、そこを読める要素は原作からあらかじめあるっていう。だから、BLじゃないものをBLにしてるっていうことではない、んだよね。だから、不思議な感じだし。でも原作も同人誌なわけじゃん。商業コミックスもあるけど、原作も同人誌で。作者も、もう本当にリアルタイムで作者と交流するみたいな、直接お話はしないけど、それこそ「マシュマロ（匿名で質問を受け付けるサービス）」で、質問を受け付けて、それに対して回答するから、どんどん設定が変わっちゃったりとか

一:そうなんだ

A:うん。あと、作者の推しCPもあるわけよ、結局。そこファンの最大手が違ったりとかもするわけ。そういう不思議な。設定の全容も、一応商業コミックスがぜん、一番、も、だから…すっぱりと原作と二次創作っていうんじゃないくて、より、なんかこうキャノンっていうか聖典に近いものと、だんだんそっから外れていくものみたいな何段階があるわけですよ。一番外側にあるのが多分我々の同人誌だけど。なんか、その、作者の、公式同人誌と非公式同人誌みたいのがあって

一:非公式？

A:そう、あの、要するに、その、メインの設定に引き継がれない、その本だけの設定とか、作者がもう奥付に、同、二次創作同人誌って書いてある、自分の二次創作、とか

一:作者の推しCPの同人誌みたいな？

A:そういう位置付け的には。あとファンの同、あのそういう、二、二次創作のあの一、アンソロジーに寄稿したりとかもする。まそのときは…その、色んな設定はおいといて、例えばそのA×Bのアンソロジーなら、A×Bを描

いてくれるわけですよ。その本編で A×B だっていう話ではなく。本編もどれ？って感じだし。でそれで結局しかも擬人化元の鉄道は実際の鉄道もあるわけじゃん、そこで色々な事が起こるわけですよ。だから、ちょっと不思議なジャンルだったかな。だから作者と解釈の殴り合いみたいなことしたことある

一：したことあるんですか？

A：ある。多分私の二次創作を読んで、殴り返してきたことはあるね。全然、痛くなかった。全然痛くもかゆくもない。愛のあるパンチ頂きました。でもそういう人じゃないとやってけないと思うあそこは。作者の解釈が絶対ですみたいな人とか、あとは、逆に、解釈違い一切受け付けませんみたいな人とかだと難しいみたいな。自分の二次創作を、こう、殴り合いの場だと思える人じゃないと、ちょっと厳しい、かなと思いますね。でもなんかこう、あと、助け合わないといけなくて、それもあるってクラスタさんと交流するようになったのね、要するにその「マッシュマロ」とかも、例えば朝四時に投下して、もう起きたら消えてるみたいな。そう、だから深夜一時くらいから「マッシュマロ」を回答し始めて、朝四時に終わったとするじゃん。で、朝もう「あー終わった終わった解散」、ってなって朝十時くらいに起き出してくるじゃん、もうないわけ。跡地が。そうすると、もうその時にスクショを撮って、その人たちが裏、内々で回していかないと、もう誰も出典が分からない。まとめてくれる人がいるから、ありがたういただいたりとか、フォロワーさんをお願いして、「すいません、あの一なんか、こういうのあったみたいなんですけど、ありますか？」って言って訊いたりとか、十年前のその「こういうポストカードがあってね」、みたいな。私もメモ帳とかももらった。メモ帳の剥いだやつ。なんか推し CP のメモパッドがあって、でもうないわけですよ。売ってない。だからそれを一枚剥いで、お近づきの印にっていう。まあ以前いただいたものは、もう家宝として大事に、もうないからね、もう二度と世の中に存在しないものですから。だから、助け合わないと、助け、山岳民族みたいな感じで助け合いながら生きてる、我々。で

まあそこで楽しくやらせてもらったんだけど。うーん、なんで抜けたっていう、なんかでもねー、初めて、これは私の問題なんだけど、初めてその一、同人の人たちと、すごく仲良く交流させてもらって、逆に、なんかすごい私のファンでいてくれる方が現れたんだよね。すごく、その、もう全ファボとかしてくれる人（笑）。そうするともう、ファボ乞食みたいになっちゃって私も、その人からのファボを待っている自分みたいな。承認欲求の塊になっちゃったの

一：あー。いつもファボしてくれるのに今日はしてくれないみたいな

A：今日はしてくれない！みたいな感じになっちゃって。なんかそれも、それは結構精神がやられたし、あとやっぱり推し CP が辛すぎた。辛かったんだよね。今、今考えると全然そんな大したことないような、単純に辛かったし、ってかもう、そればかりになっちゃったから、修論が進まなくなってしまっただけ最終的に。てか私、学会とイベントの二択で、コイントスして、イベントに行ったことある。裏出た、表が出たらイベントで、裏が出たら学会っていう。決めて、イベントに行った

一：それは自分が出す、イベント？

A：出さない。出さない、出したら行かなくちゃじゃん（笑）。出すなら行かないといけないし、学会も学会で自分が発表するなら行かないといけないじゃん。そうではなかったから。どっちに、どっちに、究極の選択だった。すごい色々言われた先生に。「なんで一、行ってきなよ！」みたいな、「何の用事なの！」みたいな

一：それは言わなかったんですか？

A：まああの、実際あの、フィールドワークのあの映画祭の方のイベントもあったんだけど

そっちの会議も大事なミーティングあったんだけど、微妙な空き時間あって、そっちをどっちに行くかっていう、感じだったの。だから、まあ全部は、学会も全部はいれないうことが分かってたから、どうしようかなって言って、迷ってまあイベントに行ったりとかして。でも楽しかったんですけど。あとはその、界限に浸るにあたって、

作者との距離が近すぎるから、私ちょっと自分の素性ほぼほぼ隠してたんだよね。自分の素性を

一：それは、何ですか？

A：なんか、荒れそうだったから。つまり、いつものあの、私が表垢でいつも言ってるようなことをそのまま言ったら、限界が荒れると思ったんだよ。まあ荒れると思う、どここの限界でも荒れると思う基本的に。なので、そういうことを一切伏せて、私もそんな長くいるつもりがなかったから、伏せて、なんでもないただの素性不明のただの大学生として活動してたんですけど、まあちょいちょいなんか、「この人何やってるの？」みたいな、思われていたらしいけど。なんか。「ちるちる」に記事書いたりして、たりとか、研究つれーみたいなことを言ったりとかしてたから、「こいつ何なの？何してる人なの？」みたいに思われてたらしいんだけど、まあ深く言わずに、なんかそういう普段言い、言ってることを我慢してやってた、んだけど、やっぱり原作でもちょっと微妙な描写があるんですよそういう、なんていうのかなー、そういうジェンダーとかセクシュアリティに関して、微妙な描写がある。作者は女性だけでも、なんかちょっとホモフォビアな描写とか、ちょっと女性に対して、どうなんだっていう描写があって、そうきつい結構きついんですよ。きつかったんだけど、それを言いたいんだけど言えないみたいな。みんなも、それはそういうものとして受け取ってるし、多分言うと、そのまま作者にそのまま、伝わってしまうから。限界が一緒だから。うーん、で結構作者の周りに、や、厄介って言うかお友達がついてて、元ファンなのか、ファンでもあり同人も、そのジャンルで活動してて、作者の取り巻きみたいな人がいて、その人たちがなかなか結構あの一、結構ガッチリ脇を固めてらっしゃる。で、そういう批判とかが上がったりとかすると、結構、批判っていうか

一：攻撃しに行くんだ？

A：攻撃しに行ったりするわけですよ。まあ荒れやすい、作者、オタク女子っていうだけでも結構荒れるし、なんか結構あの一、癖のある方なんですよ。作者の方が。うー

ん、私も個人的に仲良くするのはちょっと難しいのかもしれないなとも思ったりとか、結構長いこといる人はやっぱり、ちょっと、こう、タフな方々（笑い）なんですよ。長いこと活動してる方は。うん、だし、ミュージカルもやって、ミュージカルのキャストは全員「デニミュ」キャストだから元。それもあって、やっぱりその一、舞台俳優のオタクと結構やり合いになって作者が結構、ミュージカルの現場に行くと、結構キャストさんと仲良くしたりするんですよ。まあ荒れるよね、当然ね

一：まあ、でも原作者さんですからね

A：でも、毎公演、公演に全部、全通してるのよあの人。自分でしかもチケット買ってるの。それも、ちょっと私的にも個人的にはそれはあんまり好きじゃないなと思った、それは

一：ん？えー、どういうところが？

A：だってさ、その一、席はさ、本来関係者席が彼女には用意されてるじゃん。そこに座ればいいのに、なんで、まあ、だ分かるんだけど、その席はさ、んーなんていうの、これはさ、むしろ私の方が少数派の意見だと思うけど、その席はお客様の為の席だよって思うの。あなたはお客様ではないよね、って思っちゃうわけ。だって楽屋にも入れちゃう人がさ、わざわざ最前で見たっていうのは…うーん、ま、一公演二公演なら分かるけど、全通で、しかも個別ファンサまでもらうっていうのは、ちょっと違うんじゃないかな？って思っちゃったの。あの一なんていうの、楽屋で交流するのは良いんだよ、関係者だから。だからどんどんそっちで交流してくれればいいのに、なんでファンと同じサービスを受けようとするのかな？ってちょっともやっとしてる。お金払うのは良いけど、そこにお金、彼女の一人、席が埋まったら、入れないお客が一人いるわけじゃん。それ、どうなの？って。別に関係者席はさ、そのままキープされてるんだから、そこに座、だからずっとその席は用意されてるんだよ原作者なんだからそれは最優先でそれは入れるでしょ。んなんか、なんでだろ？っていう、ちょっとなんかこう、もやっとしたものを感じつつ

ー：難しい問題だなそれは

A：うーん、色々な意見があると思うんだけど、個人的にはちょっと微妙だった。作者が...まあ好きでも嫌い、本当に嫌いな人は嫌いだけどね本当に、界限にいても「作者無理で辞めました」みたいな

ー：あ、そうなんですネ

A：全然いる。まあそういう感じの人なの結構。私そこまではなかったけど、やっぱり違和感を感じることは、多かったかな、うーん。古参も結構幅を利かせてるし、その、お友達じゃなくても。だから厄介な人はそれなりに。

私はありがたいことに

そのカップリングの村で最古参の、多分各カップリングに、結構村長みたいな人がいるんだよ。もう十年とか続いているから、その長老みたいな人がいて

ー：その人たちは何ですか、SNS 上でこの人が、どうやら長老っぽいという感じの雰囲気を出してるんですか？

A：うん、そういう感じになってるクラスタ内で。「誰誰さんは村長だからね」みたいになってる。別にだから、自分から名乗ることはない、でも色んなことを取りまとめてくれる人ではある。だからその、いい意味でも悪い意味でもっていう感じ。まあでも基本的にはいい意味で言われる、長老とか村長っていうのは。やっぱりイベントとかでも、基本的にその人たちが、色々な率先して、オフ会やってくれたりとかアンソロ興してくれたりとか、やっぱりその、トップオタみたいなものかな、そのカップリングにおける。そういうことをやってくれる人がいて私はなんかありがたいことに、その方に非常に気に入られていて、というかまあうちの村の村長とてもいい人

ー：うちの村の村長（笑い）

A：うん。まあ、あるい、駄目な人はもしかしたら駄目なのかもしれない、距離感がすごい近い人だから、あのなんていうの、もうすごい自 CP に飢えてるから、どんな人でもとりあえず見つけたら全員見るみたいな。あの新規の人は全員とりあえず隅から隅まで全部そのツイートを読んで...「好き！」ってなってフォローしてくれて、全部読んでくれて、「好きです好きです」っていうみたいな。

「何々描いてください！好きです〜」みたいな。すごい、こう 100%光しかないみたいな。ただ、それが逆にうっとうしく感じる人は、ちょっと「うっ」てなるかもしれないけど、私はちょっとありがたかったのも、逆に。その承認欲求の塊だったから、その本当にあの人三回ぐらい私が本出したとき、三回ぐらいスペースに来てくれて、隣なのに（笑い）

ー：隣なのに？

A：隣の隣ぐらいなのに

ー：なのに、こう来てくれる

A：こう来て、「A さん A さん！」みたいな

ー：え、さっきの毎回ファボしてくれるっていうのはその人ですか？

A：その人ではない。私何人かいたの毎回ファボしてくれる人が（笑い）。いやでも本当にそのツイートしかしなかったから、要するにプライベートのツイートほぼ一切せずに、ずっとその自 CP の話をしてたから、ファボがつい、もう全ファボみたいになる。余計なツイートがないからね（笑い）。その話をする、もう、全員、全ファボしてくれるみたいな人がいて、しかももうずっともう 140 字ぎりぎりのやつを十連ツイみたいなことをやって（笑い）、朝方の四時とかに。誰もいないと思って私も、そういうの鬱陶しいと思うか、思うだろうから、一般的に考えて。もうだから本当に最初壁打ちの予定だったんだよ、全然。そしたら壁打ちしてたら人に、ギャラリーが集まってきちゃって（笑い）、「あ、ど、どうしよう」みたいな。ギャラリーのためにもうちょっと壁打とうかなみたいな（笑い）。そういう感じだったんですよ。一回ねすごい、私も、その全ファボしてくれた人の作品を私もすごい好きで、その人は漫画描きさんだったんだけど、すごい好きだったから、「好きです」「好きです」ってお互い、お互い好きだと分かっていたんだけど、実際になんかこうその人が本出されるって、私が本出すよりも前に、その人が本出したんだけど...その時に初めて、挨拶したら、や、向こうすごい、もう、なんつーの、強い同人女みたいな、なんていうの、超美人。も、まあわかる、絵

からもうなん、普段のツイートから分かるけど、すごい美人で完璧メイクで、しかもバリキャリ、みたいな人だから。私...もう小汚い感じの、薄汚れた(笑い)同人女が、ひょーって出てきたら、なんか「あっ」ってなって、世界違うみたいになったんだけど、それか、からちょっと疎遠になってしまっ。お互いにね。なんか私もそうだし、向こうもなんか、うーん、やっぱなんかちょっと、こういう感じの人じゃないと思われてたんだろーな一みたいな。ちょっと悲しかった。でもその人のファボ、だからその人に執着しすぎてヤバかった情緒。顔が綺麗すぎてね(笑い)。駄目だ、綺麗な、綺麗なお姉さんに弱い(笑い) すぐ

一：そうなんですか(笑い)

A：別にそういうあの、やましい感じは、ただあの美しいものは良いよね。そうだって美しい同人お姉さんに全ファボとかされてみ？(笑い) 執着しちゃうよ

一：(笑い) それまでは美しい同人お姉さんか分からなかったわけでしょ？

A：まあね。よりでもそう、そういう完璧像が仕上がっちゃったから。完璧な像が仕上がっちゃった。まあ、ということもあったんだけど、うつたか村の村長と仲良くしつつ、まあ他にもその、うつたか、の界限の人と、勿論、あってもちょっともめたこともあった、やっぱ。うつたかの、トゥトップみたいな、トゥ村長じゃないんだけど若手ナンバーワンみたいな人で

一：次期村長みたいな人？

A：そう次期、でも村長と、全然宗派が違うんだよ。二大巨頭みたいな感じ。村長の派閥と、その人の派閥みたいのがあって

一：え、同じ村の中に二派閥ある？

A：そう、解釈違い。だから攻め最良か受け最良かみたいな、単純に言うとその話なんだけど、私は村長なの。もうごりごり、だってもう村長の方が本当はね少数派なの

一：え、そうなの？

A：うん、だってまあ当然受け最良のが多くない？村長攻

め最良だから、ちょっと違うわけ。でも、私が、入ったことにより、そう、村長が触発されて、今までそんな言っていなかった攻め最良をガンガン全面に推してくる。ただまあ村長基本何でも読むから...そうなんだよね。ただ、なんかそのだから、私が色々、書い、考察とか解釈ツイートみたいなのはやっぱりだったから私の場合。新しくこう、その二人が付き合ってるのを妄想するとかいうよりは、季節折々のそういう妄想とかではなく、解釈をひたすら掘り下げていくみたいなことをやったの。でその、その、ナンバーツーの人も解釈厨みたいな人で、ゴリゴリにぶつかっちゃって(笑い)。なんか一、すごい、なんかエアリプで、「それは違う」みたいなことを延々言われるみたいなことがあったの。(笑い) 怖くて、なんか。いや、なんか一、なんでそんな、いや分かるんだけど、なんか、こわ、みたいな。周りからも、みんな、だからそんな時に入った、新規の人たちも「うえ、こんなこと言われんの？こわ一」みたいな感じの空気になっちゃって一。向こうはそんなつもりなかったみたいな、言ってたんだけど、だから村長通して謝罪みたいなきた。でもなんか、うーん、もう仲良くする気、なくなっちゃって、絶対合わない、私は割と彼女のツイートは嫌いじゃないんだけど、そんな、そんな私解釈離れてると思ってないんだけど、ただ向こうからするともう私の解釈は絶対あり得ないみたいな感じなんで。まあ、うん。向こうから...なんかだから、私のツイートを見れないようにするためのアカウントみたいなを作って、向こうが(笑い)。私は私でフォロー外したし。お互いにフォロー外して、なんか、そういう。だから、三つ隣ぐらいにいたけどスペース的にも、そんな感じになっちゃし数が少ないから、もう全然交流は全く。しょうがないよね。ちょっと仲良くできない。厳しい、っていうこともあった。うん、なんか派閥争いみたいなのも多少、やっぱあった

一：なんか『青鉄』にハマる前って、さっきも言っていたけど『とらぶ』とか、なんだろう。もちろん作者さんは、こう腐女子の人ではないわけじゃないですか。だからこう、なんだろう、BLを匂わせるみたいなことも、な

いわけじゃないですか。そういう風にこちらが見ない限りは、そういう風には解釈できないように

A: まあまあそうね、いろん、そういうことになってる、建前上はそういうことになってる

ー: まあ女性向け作品とかあるからよくわからないけど

A: まあ、その、建前上そうなの。うん、『青鉄』はその建前はない

ー: そうですね。なんか、少年漫画とかにハマったりはしたの？

A: その間ってこと？近況ではないけど

ー: 近況じゃなくて

A: これまで？

ー: これまで

A: 全然あるよ全然ある。それこそスポーツ漫画とか大好きですし

ー: なんか、『青鉄』と、そうじゃないものたち、少年漫画とかを比べて、やっぱ作者さんが、そういう公式に BL 的なものを匂わせているか、匂わせてないか、そういうのを意図してないかだと、やっぱり二次創作で BL するときの抵抗感とかも変わるものなんですか？

A: 抵抗感っていうものは、ほぼ全くないんだけど

ー: そもそもないんですか？

A: ないけど、ただなんか、これが真実だと思うようになった（笑）。つまり、あの自分は、その少年漫画をやっているときは、これは...こう別の可能性っていうものを書いているわけじゃないですか。正しい世界線があって、そうではない世界線を書いているわけ。そうじゃないから『青鉄』の場合。これが正しい世界線。これが正しい、こっちが現実なんです

ー: 原作と地続きの世界線でそうなのって思えるんだ

A: だから、そこは微妙な解釈の差はある。例えばこの時、A っていうキャラがどう思ってたの、どう思ってこの行動をしたのかっていう、解釈の差はあるけど、ただその間に、なんか何も無いのが真で、何かある、私達の方が別の可能性を作り出し、わざわざ作り出してるっていう

のではなくて、これが正しい世界。だ、例えばだから、キャラ A×B のカップリングがあって、原作でもそこが仲良し、だとして、B が女の子と付き合ってるっていう設定があるとしたら、そっちの方が、あの、別の可能性なわけですね

ー: なるほど。え、公式で女の子と付き合ってるって設定があったとしても？

A: 公式、いやだから公式で女の子と付き合ってるって設定があったらそれはそうなんだけど、なんていうのかな、結局その A×B っていう関係性があるから、そこをメインに描いてるわけだから作者は。B が女の子と付き合ってるとしても、優先されるのは A と B との関係性で、それは原作でも私達の二次創作でも一緒っていう。その。まあそういう、作品は他にもあると思うのよ、別に原作が、女性が描いてなくても。ただ、なんて言うのかな、こう、そうね確かに二次創作してる、なんかこう間違っことしてるみたいな、なんていうのかな、抵抗感っていうか、そういうものはないよね、ない、こっちが正しい。我々が正しい

ー: どうなんですか、そもそも A さん抵抗感さっきないって言ってましたけど

A: あんまりない、基本ない

ー: 少年漫画とかで、全くそれを意図せずに描かれてるものを

A: うーん。でもそもそも私全く何もないところで、二次創作したことがないんだよね。だからさ、原作でも何かしらの特殊な関係性として描かれてるところしか、いじったことがないから。なんかだからその人たちが女の子と付き合ってたとしても、なんて言うんだろう例えば。そうね、難しいですけど例えば...『タイバニ』とかだと、私普通に、あの一、兎虎が好きですけど、バディが好き。虎徹さんは、友恵さんっていう奥さんがいたじゃないですか。でもメインで描かれてるのは、そのバニーちゃんとの関係性の特別性、なんだよね。だから、無ってことはないんだよね。だから、その、ただ、その、それをそんな時は、『タイバニ』にハマってた時は、要するに虎徹さんが

友恵さんよりもバニーちゃんを優先するってことに対しての抵抗感はすごいあった。私の中で、自分の中で、その虎徹さんが、友恵さんを捨ててバニーちゃんを取るのかって問題に直面したけど、それは『青鉄』の中ではない。でもそれはもう原作がそうなるから、作者が腐女子だからっていうより、そういう書き方をしてるからっていう。その一、まあ女の子と付き合ってる人はいないんだけどぼぼぼ。でも女の子との関係を匂わせてくる、こともあるわけですよ、キャラクターが。ただ、それよりも、基本的に、その、男同士の関係性が優先されてるから。そっちの方は、なんか、それで正しい、それが正しい世界

ー：すごい世界だ

A：だから（笑い）特殊極まりない世界

ー：『青鉄』とかも、関係なく、そもそもその男同士親密な関係性っていうところでは、二次創作をしないから、そんなに、あの一

A：うん、そんなに、捻じ曲げてる感自分の中ではないんだけど、自分でもこの、これが正しい、自分の中ではこれが正しいっていう感はある。でも『『青鉄』』は公式的にすべての人が、だから誰も、だから、わざわざ男同士で、みたいな、実際付き合ってるところはないわけだよ『『青鉄』』でも実際に、本当に付き合ってるわけではない。BL 商業 BL じゃないから。だけど、だからわざわざそうでもないものをそういう目で見やがってみたいなこと言う人はいない。そういう頓珍漢なこと言う人はいない誰も。そうじゃないから。明らかにそういう目で描かれたものをそういう目で、同じ目で見てるだけだから（笑い）。そこは特殊

ー：それは特殊ですね

A：そういうので悩んでる人はおすすめのジャンルですね。自分は違うことしてるみたいな、思ってる人がもしいるなら、それを考え、そういうことを考えてること自体がちょっと残念なことではあるんだけどね。や一、『『青鉄』』でそういうことを言ったら「何言ってたお前」みたいな感じになっちゃうから（笑い）。女の子と付き合わせる

方が、「注意」みたいな書かなきゃいけない、多分ー：「女の子と付き合ってます」って

A：そうそうそう。そういう感じになるから。不思議なジャンルですね。結局でも、抜けちゃったのは、偶然だった本当に。あの一、なんかもうハマり込みすぎて修論進まなくなっちゃったから、一回絶たなきゃって。すごい供給が激しくてなんかもう本当に強すぎるの。だから、普段は何ていうのかな、普段食べてるものは全部偽物だ、みたいな感じになる、くらいのことばっか起こるわけですよ『『青鉄』』は。ストレートに、そのままのものがサツてくるから、受け止めきれなくていつもなん、無、みたいな。みんな、みんなそういう感じ。みんな苦しんじゃうみたいな。普段はこう加工されたものを食べてるんだなっていう、感じる、から、供給が激しいと、もう、そっちにばっか頭がいつちゃって修論が進まなくなっちゃったから、一旦こうシャットダウンしようと思って、アカウントを一回ログインし、あ、ログアウトして、で全部見ないっていう期間を作ったんだよ。でもなんかそうしたら、なんか、うん、なんにもなくなっちゃって、逆に、こう、なんか欲しいみたいな、なんか BGM でも何でもいから、なんかちょっと、休憩のときに

ー：あ一、息抜きみたいな

A：そう、息抜きがないみたいになっちゃったから。その時に「M マス」を観始めて、元々観てたんだけどアニメ始まるって感じで、てか元々私サービスリリース開始後ぐらいに友達から布教されて、ちょろっとやってたの。まあ CV が付く前の話ですけど。けど、なんかその時、もう本当に、ランキング、あのイベント走るのきつくて、うん。推しの SR が取れないの悲しくて、その当時の二次元の推し、外側のキャラの SR が取れないのが悲しすぎて、一回出ちゃったんだよね。でも作品自体は好きだったから、アニメ始まるって聞いて「あ一、絶対観よう」と思ったし観たし、で、久しぶりにその一、古参の、本当にサービス開始からやってる子と、推しは違う、推しユニットとかは全然違うんだけど、話したら、「いや音楽がいいから、音楽聴きなよ」みたいな。でその時に、その一、

「M マス」が結構その、そういうその、そういうセクシ
ュアル、マイノリティ的な部分までカバーしてるユニッ
トがあるよみたいに聞いて、その音楽がすごい良いんだ
よみたい。で聴き始めて、そっからどンドンどン
色んなものを聴くようになっていって（笑い）。で、つい
に伝説と呼ばれているライブがあるんですけど、その
画像を見てしまって、そっからもうずぼっとその、今の
その、センターユニット？「ドラマチックスターズ」って
言うんですけど、の中の人たちにずっぽりハマってしま
って、そっからラジオを延々と聴いて、そっからさらに
どンドンどンドンどンハマっていってしまい

ー：なるほど、新しい沼が

A：沼にハマっちゃったの。沼から出ようとしたら、違う
沼にハマっちゃった。おかしいなあ

ー：修論は無事だったんですか？

A：だから、推しにハマって、もう二進も三進もいかない、
「もう駄目だわーもう私駄目だー」みたいな、こんな三
次元の推しっていうのにハマるのは初めての経験だった
から、すごい戸惑っちゃって、これはガチ恋なんじゃない
かってすごい悩んで

ー：悩んだんですか？

A：悩んだ。三次元の人間を好きになるっていう、そうい
うアイドル的なことをしたことがなかったから、「こんな、
私がそんなことになるなんて」みたいな。なんか不安に
なっちゃって。結構、つら、つらかった。色んなことを考
えて辛くなったりとかしてたんだけど推しのことを考え
て辛くなったりとかしてたんだけど。え、でも、なんか
一、こう...生きてる人間...その時に相談したのがその、
声オタの友達？この前一緒にイベントに、あの一攻めさ
んのイベントに行った友達で、その子に、「や、推しの前
で、胸を張れる自分でいようよ」みたいなこと言われて。
その子は光のオタクなんだよ。てか私の周りにいるの、
基本光のオタクなんで

ー：そうなんですか

A：そう。光のオタクだったから、そういうことを言っ
てくる。あーでも確かにさ、推しにあった時に、「修論落と

しました」って言えないよって思って、「あなたのせいで
修論落としました」ってなるのは絶対だめだから、ちゃ
んと修論書かなきゃって思って、ちゃんと終わらせた。
頑張った。その時は、そんな推しが駄目な人間だと思っ
てなかったから

ー：その時は全然そういう面は見えてなかったんだ？

A：推しは頑張ってるって思ってたから。頑張ってる今の地
位を得てる

ー：だから自分は頑張んなきゃって

A：そうそうそう。推しが頑張ってるから私も頑張んなき
ゃって、頑張ったんです

ー：それで、就職して泥沼に落ちたと

A：そう、その後の話は、お察しの通り。推し、まあでも
ハマったきっかけは何かっていうと、なんか推しドMな
んですけど。あーでもそれもまた、分かんない、その時
は、一応そうってる。今はなんか、あいつ言ってること
適当なんだよ（笑い）。何が本当なのかももう分かんなく
なってる、人間不信みたいになってるけど、その当時は
ね、推しドMなんですけど。あの一なんか、最初に推し
がいいなと思ったのはやっぱりそのライブの映像で、す
っごく踊ってる、っていうことで、そっからラジオ聞き
始めたら、すごい三人とも仲良しなんだよね、ユニット
がもう異常なまでに。本当にもう異常、あいつらは。だっ
て一緒にベッドに寝てさ、ベッド壊したりとかしてるか
らさ、三人で。以上だよ

ー：壊しちゃうの（笑い）？

A：だってさ、成人男性三人シングルベッドに乗ったらさ

ー：無理ですね

A：折れるよねそれは

ー：仲良いんだ？

A：仲良いね。最初すごく仲良しだった。でも、あの一、
そのラジオも長くて、最初一、二年やって後に、別のユニ
ットがたん、あの本当は当番で回るんだけど、アニメが
始まったからアニメで、アニメ記念でまた戻ってきてセ
ンターたちが、センターユニットが、三人で戻ってきて、
何年かぶりにまた始まったんだけど。やっぱり関係性が

ちょっと変化してて、その変化を聞くのがすごく辛かったっていう。やっぱり、前みたいに仲良し、なだけじゃないっていうかも本当に、ド新人だったから、ラジオの右も左も分からないところからわちゃわちゃわちゃわちゃ三人で、それこそ本当に、推しが、「俺たちそのうち三人で結婚すんじゃないね」みたいなことを言えるぐらいには仲良しなところから、だんだんこう、別の、どんどん他のメンバーが増えてきて、三人だけじゃなくなるとさ、もっと気が合う人とかもっと趣味合う人とか、あと仕事も、こう差がついてっちゃって（笑い）。やっぱり、そろ、全員揃わなかったりとか、するようになってこう距離が離れていってるのが、すごい悲しくて。でもやっぱり、なんだかんだ言いながら、その三人でいることをすごい大事にしてるのが私は推しだと思ったのね。それが辛かった結構。色んな事、考えちゃってるのが推しだと思って、すごい辛かったのね。だから、そういうこと考えて一旦推しに落ちた後に、そう好きなんだけど、こう、素直に好きって言えないみたいな感じがあったから、当時の推しは。その二人のことが好きなんだけど、表には出さないみたいな。でその後に推しは、なんかこう別のラジオを聴いたら、性癖を大暴露してて、なんかすごいド M、振り切ったド M で、なんかこう...まあいじられるのも好きだし、なんかそういう、なんか一番ヤバイなと思ったのはその一、要するにさオーク×姫騎士みたいな漫画あるじゃん。そういうのを読むときに、自分は姫騎士側で読んじゃう。だからオークに...

ー：それをラジオで喋ってたの？

A：そうそう。あの杉田の、杉田のあに、アニゲラです

ー：なるほど

A：ね、アニゲラなら分かるよね。アニゲラでそういうことを、言ったり、してさ衝撃を受けたんですよ。なんかもう分かんない、その時私は、「自分ド M の男が好きなんだ」って気付いて

ー：あ、そういう驚きだったんですか

A：なんか、ド M、たぶんそれまでも好きだったんだよ。でもなんか、なんつーの、みんなド M 好きだと思ってた

から（笑い）。違うこれ私の性癖だって思って。なんか、こう、なんだろうな...うん、私が S だからとかじゃなくて、私、なんか、私どっちかっていうと M 寄りだと思うんだけど、単純にド M の男って存在がエロいっていう。エロくない？だって、エロいよね？（笑い）。そうそう彼はちょっとセクシーな感じなんで、セクシーっていうかあの一、映像を観ても、すごいね、私は今まで多分エロスについて一ミリも理解してなかったなって思えるぐらいに、そのエロスに対する表現力がすごいね、彼は。セクシーなんですよ。ジュノンとかにヌードとか載せてて、それもまたなんか、すごいんですよ。そこでもう、ドンって。あでも、

ー：またハマリ

A：うん。ただそれも、ハマってから思い出したことなんだけど、その一本当に全然ハマっ、全然知らない頃に彼の名前を。なんかその「ちるちる」で仕事してて、なんかそんな時は、あの一「とうらぶ」が好きだったから、樽助さんが好きだったからね、まあでもそれは別に樽助さん本人がっていうより長谷部の声の人だからみたいな、感じで好きだったんだけど。そしたらそれを聞きつけた社長が、「A さんこれ、樽助さん受けだから読みなよ、あ、見なよ」って CD を貸してくれて。それが八代拓×新垣樽助で、推しが攻めだったんだけど。で、「この八代さんっていう人はどなたですか？」みたいになって訊いたら、知らない人だったから、「この人は新人さんだよ」みたいなこう教えてくれて、「へーそうなんだー、新人かー」って聴いたらめっちゃ上手いっていう、「この人、上手くね？」みたいな「こんな人が新人なの？すごいな今の新人は」みたいに思ってた。ただすぐにそのことを忘れて私は、完全に。で、ハマってから思い出したんだよ。「あっこの人あの時の新人さんじゃん」みたいな。だから最初から好き、ではある。声聴いたときから好きだった。演技が好きなんだよね多分。そのときは上手いんだって思ったけど、まあ上手いは上手いんだけど。多分私が彼の演技のしかたが好きだから、そういう風に感じた、っていう。そっからハマり込んで（39:15）

～三次元の推しに対する混乱（42:10）

二次元と三次元の違い。結局は三次元＝現実が良いんだという気付き（43:30）

三次元でのカップリング

三次元での二次創作の抵抗感とやりすごし方（本人をキャラ化する）

本当にカップルかもしれない、不安

M マスの良くない面が見えてきた。声優＝そのキャラだけじゃない（55:30）

キャラ・声優の関係における問題を解消したコンテンツ 2 つについて

M マスは「危険だから」流行ってる

アイドルじゃなくて人間が好き

『『青鉄』』作者の嫌なところ再び（1:04:35）

配慮のないゲイネタ、女性蔑視ネタ（1:14:35）

作者＝女オタクのミソジニー好きじゃない（1:14:40）

作者の鉄道（国策）賛美思想（1:18:05）

比較して M マスは配慮があるから合ってる（1:19:00）

推しは分からない。推しじゃない人は合わない（1:25:00）

今腐女子と付き合っている話。幸せ（1:25:40）

1:30:40「ホモ」について

A：言わないのはポリシー、本当に。ただ、なんかこう...完全に話が分かる人しかいないときに、どうしてもその、言葉が必要なら、言う

ー：どうしても言葉が必要っていうのは、それ以外に言いようがないっていう？

A：そう。なんて言うんだろ...うーん、なんだろうなあ、B...。あそれこそその一...実在の人たちで、付き合っているけど、彼らはなんかこうなんらかの性的な関係があるみたいなことを表現するときには使う。まあでも、ほぼ使わないな。ここ一年使った記憶はほぼないもん

ー：それは使わないように

A：うん、してる。あ、そうね後はその、なんか常にイデオロムになってる場合とかは使っちゃうかも。使っちゃ

うってのは話が分かる人がいる時には。あの所謂「同時多発ホモ」とか。そういう言い方、は、一応一言添えるけど、使う時あるな。基本、ほぼ、99%使わない。

ー：え、何を一言添えるんですか？

A：え、だからさ、「こういう言い方良くないけど」って。とか、「この言い方好きじゃないけど」...うんそうね、「この言い方好きじゃないけど、同時多発ホモって考え方があるじゃん」って。そういう言い方する。その言い方はする。固有名詞だと使わざるを得ないのね、（以下カット）そういう言い方はある。そんな感じです

ー：使わないですよ

A：うん。他の人が使われても不快な気持ちになるしね。基本。よっぽど...なんか仲良い人で使われると、「うーん」って思うよね、どうしようかなと思うその...うん、言いたい事はわかるから...そうね、ちょっと本当に仲良い人が使われると、なんかちょっとどうしようかなと思う。

「そういう言い方は良くないよ」って言うときもある...し、でも言えないときもあるよやっぱりなんか...うん。結構、幼馴染で、結構言う子がいるんだけど。その子はまあ、普通に付き合い長いし、私ともフランクに接してくれる、それこそ私が彼女と付き合ったときはめっちゃ祝ってくれたから、そういう、気持ちが一切ないっていうのは分かっている...けど、でもやっぱり使う、んだよね。私が、使わないでほしいっていうのを、あーでもそれもある程度使わないでって言うのを、こうその子に向けてじゃないけど全体に向けて言うようになってからは、あんま使わなくなったかな。それまではそう、使われてて。

「ホモ」とか「レズ」とか使う、子だった。うん。ちょっと。全く知らない人が使ったら、普通にその人と関わるの、避けるようになるだろうな。ただまあ分かんない、当事者でも使うからね。当事者の人に使われたら、「あ、なるほどな。この人はそういうスタンスの人なんだな」と思う。それはまあいい、それは何ていうのかな...当事者が使う分には、それは別に許される、ことなんだけど、ただ勘違いさせるから、その周りの人に。そういうのが嫌な人もいるけど、そういうの言っても OK だと思わせ

やう、っていうところもあるから。うーん複雑だよな。
ま、言う人なんだなって思って、その人と話すときの喋り方を気を付ける、しかない

ー：気を付ける。気を付ける？

A：そう。だから他に、なんか何も知らない人がその場にいたときに、その人と一緒に乗っかって、ホモとかレズとか使っちゃうと、その人も、もうそんななんも知らない人も覚えちゃうかもしれない、と思って、多少気い遣う、かな

ー：自分は言わないようにするとか

A：とか

ー：こういう言い方良くないけど、言ったりとか

A：そうそうそうそう。なんだよねー。難しいそこ。まあ私は基本、ポリシー、ポリシーというか、公のスタンスとして、「それは良くないし、使わない方が良くないし、自分も使いません」ってスタンス

ー：いつからですか？そういうスタンスになったの。何がきっかけですか？

A：やっぱりその、LGBTについて深く知るようになってからかなー。だから大学の二年生

ー：サークル入ってから？

A：そうそうそう。サークルに入って、ある程度自分でも調べて、やっぱり良くないなって思って。そっから、でも、そのー...その、ただ、だから本当に、侮辱する意味で普通に使う人とき、BL的な意味で使う人、がいるじゃん？でもBL的な意味ではっきりと、やっぱりそう止めた方が良いつて思ったのはやっぱり卒論書く、ってなってからかなー？はっきりそれを、皆にも言うようになったのはそのぐらいかもしれない。なんかよく、もうよく覚えてない、なんかでも、なんかのきっかけ、Twitterとかよく見てて、「やっぱり、こういう言い方止めようって言った方がいいな」と思って、呼びかけるようにはなったかもしれない、うん。何がきっかけだったんだろ。うーん。でもやっぱりそうだよな、大学二年のときだわ、一回炎上したとき、そういうことをまとめて書いて

ー：炎上？

A：あの一、なんかそういう、もっと腐女子の人は、そのー...LGBTとかセクシュアルマイノリティに配慮した方、配慮というか、そういうことを知った方が良いみたいなことを書いて炎上したことがあって。この話したっけ？

ー：Twitterでそれは燃えたんですか？

A：うーん Twitterで書いて、それとうげったーにまとめたら燃えちゃった。あの当時、そのなんか一、その、BLを隠すか隠さないかみたいな論争があって、隠すべきじゃないっていうか隠せっていう人が間違ってるみたいな派閥の人たちがいて、結構過激派で、タグなしで腐向け作品を、投下して、それを、なんかそれを、周りに腐女子テロみたいなことを言われてた、ことがあって。彼女たちの、で、私はそういうのは、なんか理解、意味は理解できたから、隠せっていう人たちは、ホモ注意って書く人たちは、自分がやってることが何、どういうことなのかっていうのを、もうちょっと知るべきだと思って、それはLGBTの人に対しても失礼なことだから、同性愛っていう全般に対して失礼なことなんだよっていう。BLのことしか見えてないかもしれないけど、そういうことじゃないっていうの言いたい、言ったんだよね。ただ、その、実際にその行動に移してた、その活動家グループみたいな人たちの意図っていうのは、女性には特に、特にそのー...BLはなんでそんな風に叩かれるかっていうとそれはやっぱり女性がやってることだからだっていう考え方の人たちで、若干私と考え方違ったんだよね。私はやっぱり、LGBTに配慮し、っていうかそういう人たちに気を遣おうっていう部分から出発したけど、彼女たちはやっぱり女性、だから叩かれてる、女叩きをするなっていうところから始まったから...普通に荒れた。普通に、あの、私も周りから叩かれたし、向こうとの関係は悪化した。そこで、ちゃんとはっきり言った気がする。ホモとかいう言い方はしない方が良くない。てかまあホモ注意ってなんだよって感じだしね。そうね、ホモ注意って...そういう感じですね。

ー：結構なんだろう、Aさんって、その...LGBTの映画祭のスタッフとかをやって、界限の人たちとも、結構交流

があったりするじゃないですか

A: うんうんうん

一: なんかその中で、腐女子がホモって使ってて、「あれ
ないわって思った」みたいな話聞いたりするんですか？

A: うん、聞いたことある。それこそその修論の調査中に
そういう話を聞いたことがある。うん、これは、修論私誰
にも見せてないんだわ、そういえば。まずい...それ、もう
どうにかしないといけないんだけど、この一年全然そん
な感じが...なかったんだけど。そうね、それは私が聞いた
話としては、その一、あそうねその一、結局、BL 班つ
ていう班が映画祭にあるんだけど、その BL が好きな人
たちで集まって、ま当事者かそうじゃないかっていうの
は色々なんだけど、BL が好きな人たちで集まって、腐女
子の人とか、ま BL が好きな人にもっと映画祭に来ても
らおうっていう班だけど、そこでなんかその腐女子の人、
とか BL 好きな人と呼んで、ちょっと、その一映画鑑賞
会みたいなのをやろうみたいな、なんていうのかな、観
て感想を言い合うみたいな、会をするときになったとき
に、「やっぱ注意書きみたいな必要じゃないですか」つ
ていうのを私が提案したんだよ。フィールドワークつ
ていう形ではあったんだけど、色々、そのフィールドワ
ークの中のスタンスとして、私は、その一、あーそうねこの
へんの話、結構使わない方が良い(カット) 最初は「うー
ん」っていう感じだったんだけど、ちょっとその一「やっ
ぱりホモとかいう言葉をああいう場で使われるのは嫌、
ちょっと困りますよね」みたいな話をしたら、「そうだね」
っていうことになって、注意書きを書くことになったん
だけど、注意書きを書いている中で出てきた話が、その一
...BL 班の、結構中心的な人、人物の人が、昔その一、あ
の映画祭をやったときにその一、それこそあの表参道
でやってるけど、あの表参道でその、結構その一ゲイの
お友達とその人が一緒にいたときに、そのゲイの人は結
構、ホゲってるって分かるかな

一: うーん、分かんないですね

A: あの、オネエっぽい感じの、いわゆる、あのオネエつ
ぽい感じの振る舞いをする？手とか、喋り方とか、をす

る人で、結構見た目にも「あー、オネエの、オネエキャ、
オネエっぽい感じの方なんだな」っていうのが分かる感
じなんだよ。したらそれを見、なんか見かけた女の子た
ちの集団で、その多分オタク、ていうか腐女子だろうっ
ていう

一: それはもう全く知らない？

A: 全く知らない、通りすがりの人で、その、話してくれ
てた人は、結構何十年もオタクやってて、腐女子の人だ
から、ま同じ仲間だなんてのはすぐわかった。そしたら
その女の子たちが、その一お友達のゲイの人見て、「ねえ
あの人ってさー」みたいな、「もしかしてホモじゃない？」
みたいな、ことを言っ、ざわざわやり始めたんだって。街
中の、ど真ん中で、表参道の。そしたら、それはしかも、
ゲイのお友達の彼氏さんと待ち合わせしてる、時だった
の。そしたら彼氏さんがやってきて、二人が、なん、ハグ
みたいな、したら、「きゃー」みたいな感じになってしま
って、でしかもその後寄ってきて、「あの一、もしかして
一、ゲイの方ですかー？」みたいな。っていうことがあつ
たらしくて

一: そんなこと本当にあるんですね

A: うーん。まあいつの話かっていうのは、結構、最近の
話ではないと思うんだけど、あったらしくて、それはや
っぱ良くない、というか、だめでしょ。どんな立場でも駄
目でしょ

一: 相手が誰でも駄目ですよそれは

A: っていうことがあったりとかして。とかあとは、実際
に会場でホモとかいう言葉を使ってきゃーきゃー言っ
てる女の子たちがいて、それを実際に注意した、その人が
ね。「ホモっていう言葉は、ここではちょっと、ちょっと
あの一、他のお客様がいるので、控えてくれませんか？」
みたいな話をしたら、なんかぼかーんみたいな顔されて
しまったみたいな。だから、使っちゃう人は使っちゃう
し、やっぱ注意されても気付けない人はたくさんいて、
やっぱそういうのはちょっと、どうかと思うっていうの
はすごく、感じていたみたいですね。その、人がね。うん、
そういうことはあったね

ー：なんだろう、その BL 文脈でホモって使う人って、なんだろうな、そのホモって言葉が、元々差別的な言葉だっていうことを知ってる上で、使う人って一定数いるじゃないですか

A：いるいる

ー：その中の人たちはやっぱりこう、「私達は BL の文脈の中でだけ使ってるんだからいいでしょ」って言ってる人は多いですね

A：そうだね。うん。だし、あのなんかやっぱり最近のパワーワード的なこれさ、昔は使ってなかったと思うんだよ。本当に大昔って言うか十年前にそういう、言い方が流行ってたとは思わないだよ。あの使ってる人はいたと思う全然。でも今みたいな感じですごく流行ったのってここ何年かの、話で、それってなんかちょっと...パワーワードみたいなものが、こう、より、こうパワーワードである方が良いみたいな文化が、生まれてきつつあって、その中の、こととか、あとやっぱり BL って言葉がみんなにフィットしなくなってしまったっていうのがあると思うんだよ。やっぱりその、使いたくはないんだけど使ってるみたいなのもいる、んだよね。その中でやっぱりよく聞くのはやおいて言葉も BL って言葉もフィットしないみたいな、ホモシかない、ホモっていう表現でしか表現できないものがあるから使ってるみたいなことをいう人もいるから。そう。うん、BL っていう言葉も何らかの、もっと、すごいこう、その、フィットしない感じができちゃったのかなって思う。うん、そうねー。でもやおいに戻そうって言ってる人いるけど戻らないと思うんだよ。多分、無理だと思う。そう言ってる人はある一定の年齢以上の方ではある。我々同世代

ー：リアルにやおいて言葉を使った人たち

A：そうそうそう人たち、そう。同世代的には絶対ないと思う。戻らないよ絶対。新しい言葉を発明する、なりしないと。でも最近それこそ男同士の感情みたいな言い方がさ、流行ってきて、それはなんかちょっと、はや...でも長いっていうのは確かにそうなんだけど

ー：なんか百合も最近あれじゃないですか、最初クレイジ

ーサイコレズとかレズとか

A：そうそうそう、あれどうかと思った。うん

ー：だんだんこう、巨大不明感情、女同士の巨大不明感情とか

A：いや、ひらりさんの功績がすごい。あの人だね、巨大不明感情とか言い出したの

ー：いやでも本当に大正解だと思うあは

A：うん。だから良かったですね、それは本当に。うん、ただまー、うん、だからこのまま...いってくればある程度減るのかなっていう気持ちはあるかな。そのやっぱりそのホモっていう言葉を使うのは良くないっていう価値観と、その、やっぱりなんかこうより、パワーワードとして、男同士の感情みたいなのが流行ってるっていうのを合わせれば、ま、多少減ってく、一時期よりは減ってく気がす、しますけど。うーん、どうなんだろう。ただなんか、話はずれ、ちやうかもだけど、なんかさー、腐女子の腐っていうのがさよくないみたいなさー、話ちょっとあがったじゃん。私ちゃんと追ってなかったんだけど、同性愛を下に見てるっていうか蔑視的な感じ、だから一腐女子の腐ってるっていうのは、良くないみたいな。あれそういう意味だっけって思っちゃって（笑い）。違うと思って、まあ結果的に最終的には●ってくところもあるんだけど、表面的にはあれは一自分たちのことを下げてる？言葉だよ。自分たちのことを、下げたうえで、結局その一結果的に、同時に、同性愛も下げてるっていうのは分かるんだけど、ただなんかそのあの一、ちょっと一時期わーってきたの、こうバズった話の流れだと、ちょっとなんか、逆になんかこう...腐女子っていう言葉の中にあるなんか、「腐ってますけど何か？」みたいな、こう、その...周りからのその、「なんかあいつら男同士の、で妄想してて気持ち悪りー」みたいなのを、「そうですよ腐ってますけど何か」みたいなひっくり返す意味があるっていう、部分は私はそれなりに評価してるんだけど、なんか、ちょっと、その...理論の理屈は逆にむしろ、なんか全然その...うーん、腐女子が自虐するっていうことに対抗できないっていうか。自虐が問題だと思ってるんだけど

私は、その、「所詮腐女子なんで」みたいななんかこう...

「腐女子ですいません」みたいなこう態度？の方が問題だと思ってて、それに対して、全然悪化させちゃいそうっていう感じがして、その、うーんその...「ゲイの人たちに失礼、な私達」みたいな感じで、悪化させちゃいそうだなっていう。まあそういうのは考えなきゃいけないことなんだけど。なんかこう、なん、なんだろう...腐女子の人っていつも自分を卑下する口実を探してるっていう、気がしてて。なんかそれは良くないというか、結局自分を卑下するところから一緒に同性愛も下げちゃうっていう現象も、は、始まってから、まず、そこは、同性愛だけを上げるのではなくて、自分も一緒に上げないと、絶対同じ現象はまた後で起こるって思う。から、あの一腐女子を、腐をカタカナに言い換えるみたいな最近流行ってるけど、それだけで解決する問題じゃないなって思って、ちょっと使いたくない。ま、良いんだけど、気持ちは分かるから別にそこ、やりたい人はやっていいんだけどー、なんか、それ解決策じゃない、よって思っちゃうなー。うーん...どうなんだろう。うーん新しいなって思った。これが2018年かーと思って。その腐女子、っていうのは同性愛に対する、なんか、よく、下げてるみたいな、のが出てくるようになったんだって。それは単純に新しいなって

ー：確かに、そのなんだろう、直接的に同性愛を下げてるっていう風に言ってるのは新しいなと

A：そうそうそうそう。それは...まあそのそういう直接的に下げてるって思ってる人は、結構いるみたいだけど、それは単純に勘違いだよ。勘違いというか、違う。それは、ね、その、言葉の発生、のしかた的にそれは間違ってるんだけど、最終的に突き詰めてくとそうなるっていうのは分かる

ー：そうですね。自分の趣味を卑下する一環で、最終的にはそこまで下げてるっていう

A：そうそうそうそう。その、「同性愛が好きな私達なんて」みたいな、ところから始まってから、最終的にはそうなんけども。まあ新しい現象だなってちょっと思

ったなー。どうなんでしょうね

ー：どうなっていくんでしょうね

A：いやーでもやっぱりなんかこう自分...自分というかこう...うーん、自尊、感情、がない、のが一番やばいなって思っちゃう。なんかこう、白、か黒かしなくて今。なんか腐女子の人たちって、うーんなんだろう、例えばそういう「気を付けましょう」っていうことを言った時に、まあ批判とか受けたときに、すごい「あいつは腐女子叩きをしている、腐女子アンチだ」みたいにすごいキレ散らかす人と、「ああすいません、生きててすいません」みたいな人の、二パターンしかいないとはどういうことだ？っていう。二択しかないのでかみみたいな。だからまあ必ずしもそう、じゃないかもしれないけど、そういう人たちが目立ってるなーって思って。なんか、そう、そのどっちでもない、健全じゃないと思うんだよね両方とも。そのひ、批判、他の人の批判を受け止められないっていう、自分に対してこう何か言ってくる人は全部敵だみたいなのも違うと思うし、かといってちょっと言われたぐらいで、全世界に否定されてるとか生きてる価値がないまでいくのは、流石にいきすぎだし

ー：あーでもなんか、生きてる価値がない系腐女子と、この前あのインタビューでお話したんですけど

A：ほー、そうなんだ

ー：なんか結構...でもそこまで自己卑下がは、自己卑下っていうか、自己肯定感が少ない人ではないんですよね。だから、なんか思うに、そういう自己卑下をするスタンス？が、形式として自己卑下をしますみたいなのが

A：そう

ー：すごい根強く残ってると思います

A：そうなんだよ。いや、それは完全にその通りだと思うなー。でも本当に確かに本当に、多分一部には自己肯定感が低い、本人の自己肯定感が低い人もいると思うけど、でもやっぱ形式化してるその一、それは歴史的にもそうだから、自己、否定の、様式美みたいな。形式美、あれ悪しき習慣だよ、断ち切ろ、本当に。良くないよあれ。なんかそういうやれば許されるって思ってる。駄目、それ。(笑

い) ちょっとき、きつい言い方だけど、なんかそういう、
なんか...人から批判されるのを回り道して防ぐみたいな
感じだから、それはちょっと違うと思いますよ。なんか、
「やってても良いんだよ」っていう、別にそれが悪いわ
けじゃないっていう。ただ、どんなものにもそうだと、って
いうことだね。異様に腐女子が叩かれるから、悪いこ
としてるみたいな感じで言われるけど、それは、違うと
思う。どんなものにも、なんかこう、別にやってて良いけ
ど、ちょっと気を付けないと、危ないみたいなものは何
でもあると思うんだけど、腐女子が異様に叩かれる、そ
れはでもみんなでもなぜ叩かれるかっていう仕組みを理
解してない、まあそこをね過激派とか言われてしまう(笑
い)。全然いいんですけど過激派だからー。まーだからち
ょっと、あのか、そういう自己形式的な自己否定とか、そ
ういう過剰反応をやめてこう、健全に対話する環境が整
ったらいいなーと思うけど、まー無理(笑い)。難しいで
すねなかなか

ー: 難しいなー。でも自分のねー、自分自身とかね、自分
の趣味ぐらい肯定的に見てほしいなもっと

A: うん。まあ難しさは感じるんだけどね。多分今中の人
ってジャンル、だから余計そう。なんかちょっと良いな、
好きなオタクがいたんですけど、オタク的に、こうファ
ンの人がいたんだけど、その人が、なんか、本人も腐女子
なんだけど、なんかイベントで、その、『バナナフィッ
シュ』のイベント、に行って、その人はおな、私と同じく
「ドラスタ」のファンで、内田雄馬を観に、『バナナフィ
ッシュ』のイベントに行ったんだけど、そしたら、そこで
アッシュとエイジがキスするシーンで腐女子が沸いたん
だって。すごい結構「ぎゃー」みたいな感じで。そしたら、
その内田雄馬が結構、ドン引きみたいな

ー: あ、え? 声優さんが?

A: うん。引いた顔。引いたってそこまでではないけど、
多分困惑みたいな。まあそりゃ、そりゃまあそうかもし
んないけど。1000人ぐらいの腐女子に前にいて沸かれた
ら困惑しちゃうけど。それねえやっぱすごい、嫌な気持
ちになったらしいその、人はなんか、そんな顔、推しが、

推しにこんな顔させる腐女子って何? みたいな

ー: あ、そういう、そっち?

A: 私ら気持ち悪い、汚いみたいな。あーみたいな。気持
ち分からなくもない、推しをなんかこう不快にさせてる
やつ全員さ、もう、まじぶっ潰した方が良いつて思っ
ちゃうのは(笑い) 分かるんだけど。でも、でも、あそう、
ま『バナナフィッシュ』がそういう、なんかジャンルじゃ
ないっていうのは 100%間違い、だと思うんだよね。『バ
ナナフィッシュ』は元々BL 的な文化から生まれて、BL
的な文化として育ってきたものだから、沸いて良いんだ
よ、沸くのは正しいというか、別にそういう読みが間違
ってるわけじゃないんだよね。それはそういうジャンル
だから、それはそういうものだとしてもう。ただまあそ
の、中の人...に対しても、そういう目で見てしまうって
いうのはどうしたらいいんだろうなあっていうね、思う。
中の人に対しても、性的な目で見てしまうっていう。そ
れに対して、やっぱり拒否感を感じる。難しいねそこ、
BL、CD とかみterと、やっぱり。

ー: なんかそう、中の人に対しても、そういう目線で見て
しまう、うんなんだろう...外側の、人たちのカップリン
グが好きで、その中の人たちも、そういう感じで仲良く
してるとちょっと嬉しいみたいな

A: そうそう

ー: そういうのってちょっと複雑ですよ

A: 複雑、本当に。だからその、ただそれは BL だから駄
目っていうのではなくて、一応ね、それはそこは最低限、
その、あらゆる人に対してやっちゃ駄目だと思うんだよ。
そういう、男女でもやられたら不快じゃんだって(笑い)。
なんか許される空気になってるけどさ、普通にさ、全然
付き合ってもないのに「あいつら付き合ってるヒューヒ
ュー」みたいなこと言われたら不快じゃんマジで。関係
性壊れ、あとはやっぱりやっちゃいけないっていうのは
本人たちの関係性が現実で壊れちゃうかもしれないから
っていうのはあるよね。そういう風に冷やかされたりと
か、実際もうあるしねその例、としてさ、あのワン...結局
「1D」は解散しちゃったのはそれが原因だし。だからや

っちやいけないんだけど、ただそれ...ま、どうしたらいいんだろうねって。でもそれを売ってくるコンテンツがあるわけじゃん？それをそれがもうメインの商材なところがあるじゃん。それを私達に消費しなさいっていう風に出してくるっていう、悪徳商法だと思うよ（笑い）。それ良くない。ただやっぱり...それをみんなどうしてもその、買っちゃうから、うーん...だってしないなんて無理だよ。なんかだってアイドルグループいたら仲良くして欲しいもんね。そら、それは難しいよね。なんか仲、仲良くしてほしい、だからアイドルグループで仲良くして欲しいっていうの...願望とさ、彼女と付き合わないでほしいっていう願望のさ、そこの差ってある？って思っちゃう私はね。過激だけど人間関係を操作するっていう点

においては同じだよ。だって、さ、あの一、嫌いすっごい嫌いかもしれないけど、嫌々仲良くしてる、かもしれないじゃん

ー: そうですよね、ただのビジネスパートナーかもしれないですもんね

A: そうそうそうそう。だからそのビジネス以上のことはしたくないと思ってるけど、プライベートでも仲良くして欲しいっていうのは、その彼女、と付き合わないで欲しいっていうのと、そんな違うことか？と。なんか後は、そのそもそも性的な目で見てほしくないみたいな、でも人を性的な目で見ないことってすごい難しすぎるんだよね、あらゆる意味で（以下、推しについての雑談）

付録：Bさん1回目インタビュー

2016/08/24

(雑談：Aさんとの繋がり・サブカルチャー愛好者サークルに所属し、イラストを描いている話)

B：そういう世界があるって知ったのが、大体中学あが、くらいかな？くらいで。で、まあほん、そのなんだろう自分も、そうです、なんかそう…えーと、中三、歴で言うところからまあ、大体十年ぐらい、ですかね（笑い）。でもあの私は

ー：Aさんだー

B：そうなんです（笑い）。でもAさんの影響とは全然、まあAさんの影響はあるんですけど、Aさんのせいではまったとかではないんで一応。彼女結構自分がはめたって責任感じてるところあるんですけどー。全然そんなことなくて、私普通に自分でネット経由ではまってるので。その辺も話した方がいいのかな、なんか、普通にこう、ゲームを買って、その攻略サイトとかを調べてたら同人サイトに行きついちゃったみたいな。で、そっからまあこうリンクをこう辿ってそういう世界を知り、みたいな感じで、今に至ります

ー：あー、そうですね。私もそんな感じだったな。（中略）ネットの力は怖いですねー

B：怖いですね本当に

ー：あれがなかったらハマってなかったんじゃないか

B：ハマってなかった、知らなかったんだ、知らずに、済んだかもしれないみたいな（笑い）

ー：初めて知ったのって、周りの人が見てたとかそういう感じですか

B：あー、いやーそういうわけでは、なくって、やっぱりネットでそのなんだろう、最初はわりとゲームの性質上っていうか、ゲームが「ポケモン」なので、あのなんだろう、わりと男女CPとかが多かったんですけど

ー：あ、ああじゃあその時が

B：そうですね

ー：そのさっきお話ししてたのが初めての

B：そうそう初めてのそうファーストコンタクトで、はい。本当にその、飛んだ先でそういうのがあって、最初は意味わかんなかったんですけどまあ、大きくなってじわじわ意味が分かってきたみたいな、感じ、です、ね

ー：中高とか、まあAさんはあれですけど、こう周りの友達と、こう一緒にその趣味を共有したりとかはしたんですか？

B：私…そうですね、Aさんとかはもう貴重な友達みたいな（笑い）感じで、でも本当にでも、部活の中だけ一みたいな感じ、そう部活の私とAさんとあと何人かな、仲の良い子がいて、まあそういう子と漫画を回し読みしてきやーきやー言ったりとか、そういう感じ、で盛り上がりたりはしてました、ね

ー：なんか、あんまりこう周りでオープンにしている子がいないと、見つけるの大変ですよ

B：そうですね、大変ですよ。どう、どう、なんで、察知したのか良く分かんないですけど、なんか気づいたらなんかこう…でも、ハマりたての頃ってわりとなんだろう、恥じらいみたいなものがなくてポンポン話しちゃうみたいな、あれが、ある気がするんですよね。为什么呢、なんか

ー：新しい世界を知ったぞって

B：そうそう知ったぞ、みたいな、それで多分こう周りに伝播して、それがこう、みたいな、イメージなのかな。でちょっと経つと、ちょっと恥じらいを覚えてこう、控えるみたいな

ー：そうですね、集まるとなんか逆に、隠れるみたいな

B：そう、そう、みたいな、感じなんだと思います。でまあ…そうですね、今もあんまり、私、はーそうですね、なんだろう、こう、オタクであることをそのオープンにしている人には腐女子、あのそういう趣味があることも全然隠していないんですけど、オタク…なんだろう、ないんですけど、だから腐女子趣味だけをこうとりわけ隠してっていうわけではないっていう感じですね。だしげんしけんの中でも普通にBL、あのあんまり、読むアピールしないから、そう思われてないかもしれないんですけど、

「まあ一応 BL もいけるクチだよ」っていう風に普通に、
訊かれたら普通にそういう風に答えるようにしてます、
ね

一：そうですね、こうなんか、リア充、リア充の中で、「こ
ういうの読むよ」って言えないですよ

B：言えない。だから学類の子？ちょっと、内緒にしてま
したっていう、I さん（B さんと同じ学科で、筆者と共通
の知人。）にも内緒にしましたっていう。まあ漫画読む
っていう、漫画普通に好きなんで漫画の話とかするんで
すけど、そこまではその、同人に手出してるとかそうい
う話はしないんで、必然的に BL 趣味もみたいな。あん
ま言わないですね

一：相手もそういうの好きそうだったら、みたいな感じ
ですかね

B：そうですね、普通に。だから学類の子にも普通に腐女
子の子がいたので、その子には全然、普通に

一：えっ、医療科って、そういう子がいないイメージがあ
るんですよ

B：そういないイメージがあったんで私もだから、と思っ
て（サークル名）に入ったんですけど、後になってこう、
友達もなんか、実はみたいな。その子は大学来てからハ
マったみたいな感じだったので（笑い）

一：全然そういう人いないんだろうなって思ってた、連
絡いただいたとき「医療科！」って

B：そうなんです（笑い）

一：めっちゃびつくりしちゃって

B：一応何人か、いますね

一：そんなに大勢ではないけど

B：そんなに大勢ではない本当に、だから女子…学年が大
体 35 人ぐらいで、本当に 2、3 人みたいな感じなんで、
全然多くはないんですけど

（中略）

一：で、今読んでる、今っていうかなんだらう、そのハマ
り始めてから今までで、よく読んでる媒体って何です
か？

B：媒体だと、やっぱ Web が多いです。私二次創作ばっ

かり読んでるクチなので、どうしても Web に偏っちゃう。
大学来てから、こう、同人誌を買うようになったんです。

いかに、いかにもなあれなんですけど。東京出られるよ
うになったんで（笑い）。それまでは、ネットでもんもん
とってという感じでしたね。一次はもう全然読まないんで、
読まなかったのかな、今はたまに、興味があれば読むん
で。基本的に、そう、二次創作が私は専門なんで…ネット
で読みますね

一：そうですね。あー、えー一次創作は全然？A さん
が色んな人に貸して今薦めてるって

B：そうなんです。それで、そのおこぼれでちょっと最
近読むようになったかなっていう感じで

一：私もそんな感じだったんで

B：自分からは、特に読まないかな。元々まあ私あんまり
自分からこう漫画あれこれ読むとかってタイプではない、
なかったんです今まで

一：普通の漫画もって感じですか？

B：漫画も、まあ読むには読むんですけど、なかなか…手
を出すまでにすごい時間がかかったりするので

一：じゃあ普通の、なんだろう、うーん、その何だろう、
二次創作の素になる作品っていうのは

B：あ、それはもちろん漫画が、漫画と後はアニメ…です
ね。漫画アニメが多かった。最近はソシャゲとかもほら
色々出てきてるんで、それだったりとかもするんですけ
ど、根本的なのはアニメが一番多いかなー、っていう気
がします。アニメ、漫画…っていう順番かな？

一：ちなみに今季の推しは

B：今季、今季何観てたかな…えっとねー待ってください
（笑い）、今季は『ツキウタ』を観てるのと、えーと『防
衛部』を観てるのと、なんか（笑い）今季すごい女性向け
が多いイメージが、あるので、やっぱり忙しい。と、あと
何観てたかなー…パって出るのが多分、面白いと思っ
てるからパッと出るんだと思うんで、その辺だと思うん
ですけど。その、えーと後は、あと『ラブライブ』も一応観
て、ます。とか、うーんと、あと何観てたかな、あと『D
グレ』は私の中学時代の思い出なので、一応『D グレ』

も観てます

一：そうですね、ちょうど世代ですね

B：とか、えー、とそんな感じかな？アニメはそんな感じですね今季は。割と流行ってるものは一通り観るみたいなタイプですね

一：ありがとうございます。（以下雑談～14:00）BL 以外に、二次創作とか二次創作の元の作品の他に、普通に読書とかって

B：あー読書も、そうですね、最近は本当に忙しかったりとかで（読書の雑談～17:25）

一：中学生ぐらいから読み始めてっていうお話だったと思うんですけど、そのなんだろう、自分が、あつ自分腐女子だって思った時っていつ頃ですか？

B：は、その中学生でそういうの読むようになったタイミングですね。割と当時同じタイミングでそういう言葉がありそういうの好きな人を腐女子という、みたいな感じ、同時に知ってたんで、もうそういうの読んでる時点で「あーもう私腐女子だわー」って。当時はなんかこう、腐女子って言葉になんかプレミアみたいなのを感じてるのも、あったので、まあ。なので全然、気にせず、そういう言葉を使ってみましたね（腐女子・オタク自認 19:00）

一：多分ネットとかでその腐女子って言葉を調べてく内に、多分どこかで行きついたかなって思うんですけど、その、BL 読むときに、その、読んでることを隠さないと駄目、とか

B：あー、ありますよね

一：腐女子趣味隠さなきゃダメとか、あとなんだっけ… BL 読むときは、壁になりなさいとか、公共の場でもありますがカバーかけてとか

B：壁になりなさい？

一：そうそうなんだろう、

B：あ、自己投影をするなという？ああ、ありますね

一：あれ、どう思います？

B：どう思いますかって、個人的うーん、難しいですね。私は二次が、二次ばかりで読むので、まあ二次に関してはちょっとまあ、ね、あの一応隠してるというスタンス

は個人的に持っていて欲しいなと、私は A さんとちょっと意見が違うかもしれないんですけど。私割と子供向けアニメとかもそういう文脈で見ちゃったりするタイプなんで、私余計そう思うんですけど。なんで、割と二、二次に関してはまあちょっと距離、あのね、表には出さないようにしてるかなって、同人とか。でも一次の BL が好きっていうのは…まあ、ね、理解してもらうのは周りが難しいとは思うんですけど私は別に、一次の BL 好きだよって言われても「へー」みたいな感じで。まあ私がそういうタイプだからそう思うのかもしれないけど。そんなに気にしないかな、と…思います。（笑い）すいませんなんか曖昧で。かなー、そうですね

一：二次だと、やっぱりその、その作品を純粋に楽しめる人とか

B：とかもいるので。それこそあの子供向けアニメだと純粋な子どもが観てるので。私割と漫画アニメを子どものものっていうイメージがすごいなんか固定観念みたいなのであるところがあるので余計にそう思っちゃうんですけど

一：あー、私も一瞬特撮のどこに入ったことがあって

B：そうですね、特撮はすごい

一：厳しいですね

B：あそこはすごい気使いますよね。そうなんです。なので余計そう思っちゃうんですけど…ただまあもう隠すのも、ね、もう企業が積極的にエゴサをする時代になっちゃっているんで、難しいところはあるんですけど。絶対隠すなっていうのも無理だけど、まあ一応、距離を置こうしてる姿勢だけは見せて欲しいみたいなイメージ
一：うーん、そうですね。見せびらかそうとするなって感じですね

B：って感じですね。そう絶対隠せとは言えないんで、難しいですけど

一：えー、じゃあこう割と、外で、そういう、例えば、東京のとあるあれからの帰りに、外で読んでるとかだったらもう「本当やめてくれ」って思います？

B：あー確かにちょっと、「えっ」ってびっくりはします

ね。「えっ？」ってなります、ね。うん、そうだな同人誌…はちょっとあれかも。別に、普通の本だったら、ね、あの、なんだろう、ISBN ついてる本だったら全然気にしないですけど（笑い）、薄いと「えっ？」ってなっちゃうかもしれないです

一：そうですね、薄くてなんか外側ツルツルしてて

B：そうそう、ツルツルしてるとちょっと、ぴっくりしちゃうかもしれない、かなー、うーんでも、どうだろう。でも表紙がすごいピンクピンクしてるととかだと流石にやめてって思っちゃうんですけど、こう、なんか小説本と違ってわりと分かりにくいじゃないですか。そういうのだったらもしかしたら気付かないでスルーしちゃうかもしれない。まあそうですね、わりとそうだな、そのエロの有無とかもわりと、その辺はその見せる見せないは絡むかもしれない

一：そうですね、オールキャラギャグ本とかだったらまあ、良い

B：まあ、うーん、って感じかなと思うんですけど

一：えー、うーん答えづらかったらで良いんですけど、そういうエロの有無とか気にしないで読みます？

B：エロ、そうですね、うーん、そうですねなんか読んでから「これエロあった」みたいになることもあるし、あるしー、どうなんだろう…時と場合による、よります、なんかこうエロがあると分かっ、てて、こうなんだろう好みの雰囲気でしたら読むし、なんかこれ苦手な雰囲気だとなったら読まないみたいな感じ、完全にケースバイケースになっちゃってます

一：なんかもう本当にギャグ本しか読まないよっていう人もいたりとか

B：そうですね、健全だけみたいな。ものによるって感じですね。なんか、作者さんとか、わりと

一：やっぱ漫画だと作者さん大事だったりとかしますよね

B：大事だったりします、んで。この人のエロのノリは好きだけど、みたいな。あとはそのカップリングの、状況にもよります（笑い）。プラトニックなのが良いのと、そう

じゃないのとあったりとかする。その辺で本当に全然変わっちゃうんで、一概にこれっていうのはあんまりないかもしれないです

一：別に、エロい作品が嫌っていうわけでは

B：嫌ではないですし、別に読んで、周りが普通にエロいの読んで、読んだり描いたりしてるの別に気にしないし、自分も、普通にそういうこと考えたりしますから（笑い）。妄想したりするんで、あまり。あんまり気にしないです

（自己投影に関する話 24:40～）

B：キャラにその共感するという意味では自己投影してるかもしれないですっていうのが一応答えです。すいませんまとめるところです（中略 28:55～29:50）尊いと思う気持ちの根源ってやっぱ共感から入ってるんで。どうなのかな、あまり、何とも言えないんですけど。そういう感じでいいのかな？（以下「自己投影するの恥ずかしいみたいな風潮」があるという話）

B：世間のイメージ的にまだ腐女子ってマイナスイメージなんですかね？なのかなあ、っていうイメージが私の中ではあるんですけど。まあネットに行くとどうしてもそうなっちゃうのかな（35:40 くらい）

B：イメージがあるかもしれない。頭ではね、すごい分かっているんですよあのなんかね、最近商業 BL の作品こうアニメ化したり映画化したりとか、してるので、まあ受け入れられつつあ、あるのかなーという感じは、あるんですけど、割と私一、そのなんだろう、オタ、もう腐女子じゃなくてこの、大枠のオタクっていう言葉のイメージにまだちょっと、引け目を感じてる、自分で引け目を感じている節があるので、自虐的になっちゃうというか。で、必然的に腐女子もちょっと、マイナスの目で見てしまう、ところがありますね。ただもちろん周り見て「うわ引くわー」みたいな思うことはもちろんないんですけど、割とまだちょっとマイナス、どうしてもねあの一、それは多分歴が古いから、故の弊害だと思うんですけど。若干、あとそのさっきも言ったんですけど、漫画アニメは

子どものものみたいなのがイメージがあるので、どうしてもこう漫画アニメがいまだに好きだと、なんかちょっと引け目をまあ。今はね、もう全然そんなことないんですけど、ないって分かってるんですけど、どうしてもそういう引け目を感じてしまう、ところが若干あるんで、マイナスに

一：じゃあ逆にそのマイナスなイメージ、って仰ってましたけど、わりとそのオタクを、自称する、なんか、ウェイ集団いるじゃないですか

ああはいいますね

B：ちょっと言葉が悪いですけど

一：あーでもわかります

(ライトオタクの話〜38:25)

B:それ言ったら私も腐女子ってかちょっと微妙なラインのところなんで、二次しか読まないから、微妙なラインなので、あんまり、責めるアレではないんですけど

一：腐女子っていうと、やっぱり両方ガッツリ読んでる、どっぷり漬かってる人みたいな

B：なんか、とか、そうですね、わりとっていうイメージが、ありますね。なんか…あと私別になんだろう、BLしか読まないとか、ねそれこそ男性向けとかも普通に読んだり、普通になんだろう

(以下雑談)

付録：Bさん2回目インタビュー

2016/09/27

B: お品書き漁りのときしか pixiv 行かなくなっちゃってる。Twitter でたまに流れてくるの見て「ふふふ」ってなるぐらい…になっちゃってる（笑い）。

一: pixiv に行かなくても今 Twitter とかで普通にあの流れてきますよね

B: そう最近ねなんかみんな Twitter で…動画とかもニコニコ行かなくてもなんか、MM、ちょっとした MMD とか Twitter でもう流せるようになってるからなんか時代の流れを感じる（笑い）、なーと思って、ます（雑談）

一: Bさんのお話のなかで、なんだろう、こう「一般的であるべき」みたいな「普通であるべき」みたいなのが、そういう感じのニュアンスがすごい強かったなーと感じたんですけど…なんだろう、なんだっけ、「大人が漫画とかアニメ観てるのは」

B: そう、あー

一: 「普通ではないよね」っていう。そこがすごい強いんだなって感じたんですけど

B: ちょっと抑圧的なところはあります

一: そうですね。そのオタク趣味っていうのが普通じゃないなって感じたきっかけって何かあるんですか？

B: なんだろう、きっかけ…あんまりいし、意識をし、どうなんだろう、でも、なんかこう、小学のときってみんなアニメ観たり漫画読んだりとかしていて、だんだんみんなこうほらファッション誌を読み始めたりみたいなの、それでいまだに自分はこう漫画読んで。で、当時そのハマっていたのがポケモンからはいつ、オタクから入ってで、あの学年誌とか？（笑い）、普通にあの、小学校卒業してからもその何だろう、情報のために読んだりとかしてたのもうそれ、そういう、のとかがわりと（笑い）。ジャンルの特殊性みたいなのはあるかもしれない。もう多分すごいさかのぼるとそこが、多分一番なのかな。多分、周りがこう卒業していくなかで自分はまだね、な

んか子ども向けのコンテンツを観てみたいいな

一: 周りっていうのは周りの友達って感じですね

B: そう友達、そう、ね、今どきの子は…そうね

一: そういう趣味持ってる、友達がいじめられてるの見たとかそういうのはありませんでしたか？

B: あー、そういうのは、なかったと、思います。なかったかな

一: 小中高って結構、どういう感じの学校だったんですか？

B: 小、えーっと小中はえーっと公立のあのー、普通のあのなんだろう市でこう、町の普通の何だろう、色んな子が集まるタイプの公立で、高校はまあ女子、Aさんと一緒なんですけど女子高…あの公立の女子高。でわりと偏差値高め、まあ筑波に来るぐらいだから、まあ自称進学校みたいな感じの女子高に通ってました

（学校の話）

B: 主流なんだろうなみたいな感じで、（オタク趣味は）マイノリティなのかな、みたいな

13:00～美術部・文化部の話

16:30～先生からの抑圧

18:40～腐女子っぽい腐女子からも疎外感。中途半端が気になる話

20:15～「腐」についての意識

22:10～世間への引け目。子どもに向けて作ってる作者に対する引け目

27:30～百合について

29:00～セクシュアリティについて。

B: 私もよく分からない、って言う感じ、で、多分男性、だと思っへテロセクシュアルだと思うんですけど。性自認は女で。なんですけど、多分性指向も、多分ヘテロだと思うんですけど…あんまり気にしたことがないというか。なんか、自分でもよく分かんないで、分かんない。パイって名乗ってもいいのかな一分かんないんですけど、でも女の人を別に好きになったことがあるわけではないので。あまり名乗ってもなんか違う気がするんで。(中略)そもそ

もそう、ね、恋愛にそんなに興味がないので(笑)今は。
なんで、そうよく分からないっていう感じなんで、すよね。

一：お付き合いされた経験とかは…

B：も、実はないんで(以下雑談)

一：BLとか百合を読むことで、同性愛を身近に感じる機会があるなって思うんですけど、どうですか？

B：私は一、あんまりないかもしれない

一：フィクションはフィクションって感じですか？

B：そうです、フィクションはフィクションって割り切ってます。でも…別に同性愛に限らず…あでもどうなのかな…どうだろう、あまり…この男女の恋愛ものを読んだからといって男女の恋愛が身近に感じるかっていうと、感じ、るのかな…感じるかもしれない(笑) どうだろう。あんまり意識したことがなかったんで、ちょっとわかんないですけど。なんだろう、BLとか読んで…

(中略)

B：完全に同性愛者の友達はいないですけど、なんか、バイで、バイかもみたいなこと、友達は何人か、知ってますね

一：女子高出身だとそういうのってあるのかなとか、すごい偏見ですけど

B：でも男の人でも何人かバイの、わかんないですけど。ファッションなのか本当なのか、ファッションって言い方がよくないですけど(中略)具体的に体験談とかを本人たちから訊くわけじゃないので、そこまで身近かと言われると…そうでもないかも

一：前回と、今回もそうですけど、同性愛に対して否定的な人たちがいる、みたいなお話したときに、ピンとこないっていうお話をされてた気がするんですけど、身近になんかそれっぽい感じの人がいると、そんなに意識しない

B：かな一と思うし、私自身がそのね、あの、性指向が迷子みたいなどころがあるので、まあ好きになった人が、ね、別にだったんなら別に性別どっちでもええやんみたいな感じなので、あんまりそういうのはそうですね、感じ

ないかもしれないです。なんか普通に、なんか普通にヘテロの人に対してもたまたま好きになる、好きなタイプが男性ただただでなんか、っていう。背の高い人が好きとかとそんな変わらないんじゃないみたいな、言い方をしてしまっているんで私自身が

(中略)

一：そういうこうふわふわした感じは、別に BL 読み始めたからふわふわし始めたわけじゃない、ですよね？

B：わかんない、どうだろう。どうだろう、あ、でも BL…でも BL を読ん、同性愛の存在を知ったのは BL が先、だと思うので。多分。中学、小学校、中学校ぐらいのときで、だと。で、そうですね、それでそういう BL とかみて、あ、こういうのもあるんだみたいな感じだったんで、もしかしたら影響を受けてるかも、しれないですね。多分また昔、10年ぐらい前ってそんな同性愛のなんだろう、権利問題みたいなって、なんだろう私がお供だからしらないだけかもしれないですけど(中略)本格的に恋愛するより先にそれを知ってしまったっていうのが影響してるかもしれないです。あまり、明確に自覚はしてないですけど、可能性としては十分あると思う

(以下雑談、関係の深い発言のみ抜粋)

39:40～

B：市民権を得てるのは分かるんですけど、なかなかまだ身体が馴染まなくて

そろそろ、前向きに、なりたいたんですけど

40:55～学類の友人との付き合いについて

45:40～業務連絡

47:15～高校の雰囲気について

51:00～中学校と学力について

56:40～高校の校則について

59:30～理系と女子について

1:03:00～将来の進路について

1:04:10～百合と BL の読み方の違い。百合の方が性別一緒だから感情移入しやすいかも。気持ちは分かる

1:08:00～恋愛だけの少女漫画読まないはなし。二次 BL

が好きなのも、原作要素と恋愛要素の両方が楽しめるから

B: 少女漫画でもなんだろう、ファンタジー要素とかなんかそう、恋愛以外の要素を含んでるものだったら、多分、特に楽しいんですけど、恋愛だけで本当に終わっちゃってるやつはなんかちょっと…まあ、読んだらハマると思うんですけど、多分、読むときのモチベーションが…違うみたいなのはあるかもしれない。あんまり、恋愛だけ

…を、だけっていうのは、あんまり、まあ BL とかでもそうなのかなー

B: 多分二次にはしるのはそれもあるのかもしれないです。なんかその恋愛以外のその要素が欲しくて、二次に走る…そうなのかもしれない

B: 性別問わず魅力を感じないのかもしれない、ない

1:13:45～

B: 心が可愛いのはちょっと。対等でいて欲しい

付録：Bさん3回目インタビュー

2018/11/03～12/15（メール）

一：お疲れ様です！

早速おはなし伺っていきいたいと思うのですが、答えづらいものがあつた際は、もちろん無理にお答えいただく必要はありませんので！！よろしくおねがいします。

はじめに、Bさんの最近の状況についておききたいのですが、今年の春からお仕事を始められている？ので合っているでしょうか…

就職されてからの生活で、大学生活と変わった部分はあるでしょうか？

特に、趣味や人間関係の変化・費やす時間の変化などお聞かせいただければ！（実は個人的にも、来年から気になっているところではあります……）

お時間ある際にお返事いただけるとありがたいです

B：こんにちは！

早速お返事が遅れてしまって申し訳ありません

（筆者）のおっしゃる通りで、今年の4月から、栃木県の某病院で検査技師として働いています

（中略）

基本は月曜～金曜、7:45くらいから勤務を始めて、18:00くらいにぼちぼち退勤する感じです。

それから月2で当直（16:00～21:00）、月1で日直（休日出勤）があります。

当直があるおかげで夕方一般的な社会人よりも早く帰れますが、その分朝が早めかな？と思います。以上を踏まえて趣味との関連ですが、まず朝が早いので深夜アニメのリアタイ視聴ができなくなりました（笑）

また、夕方早く帰れると言っても勤務で結構へとへとなる（1年目でまだ慣れていない&地味に立ち仕事が多い）ので、夜も思ったより趣味には費やせない印象です。

平日の休みは日直の代休という形で割りと自由にとることができます。

でも、休日出勤のシフトそのものは上が勝手に決めるのと、シフトの発表は早くて3ヵ月前になるので、半年先の土日の予定を確定させたい（イベント的な意味で）オタクとしてはちょっと不満があります

シフトを代わってもらうことはできますが、手続きがめんどくさいので……

なんだか愚痴っぽくなってしまいましたが、平日休みはとりやすいので、どこか出かけるときに混雑が避けられるのはいいかもかもしれません。

また、したっぱのうちはデスクワークがほとんどなので、家に仕事を持ち帰ることがなく、土日（体力が残っていれば平日夜も）は自分のことに集中できるのはありがたいです。

それから、金銭的にはやはり余裕ができましたね！田舎なので他に費やす娯楽がないとも言えますが……笑

私服通勤ですが、通勤時間は徒歩10分で着いたらすぐ制服に着替えちゃうので、服装にもそこまで気を使わなくて済むというものもあるかもしれません。同期は6人で、ほぼ例年通りのようです。

二次オタ、腐女子を公言している人は同期先輩含めあまりいませんが、ジャニオタ、俳優オタの人が割りというからか、その手のことには比較的 understanding の人が多い印象です。

あとうちは飲み会や休日の交流行事的なものはほとんどないですね……（他所主催の学会や勉強会があります）。

車通勤の人が多く、近隣にお店が少ない、当直や日直の関係で予定を合わせるのが難しい、あたりが理由かなと思います。

仕事は仕事、プライベートはプライベートと分けて考えている人が多い気がします。

長々と語ってしまいましたが、まとめると、
時間面：平日趣味に費やせる時間は減ったが、休日はアルバイトや課題などの必要がない分ゆっくりできる

金銭面：金銭的余裕はできたが、時間面との兼ね合いもあり実際の消費額はそこまで増えていない

人間関係：サブカル方面にも理解のある人が多い、公私を分けて考えている人が多いのかプライベートでの付き合いはあまりない

趣味：アニメやソシャゲを中心にしている点は変わらず、創作活動に費やす時間は減った

といった感じですね……！

専門職なのであまり参考にならないかもしれませんが……

思い付くままに書いてしまったので、分かりにくい点もあるかと思います。

何か有れば遠慮なく訊いてください！

一：ありがとうございます！まとめまでつくっていただいて、

検査技師さんにも当直があるんですね…！

お話を受けていくつか伺いたいのですが、

- ・深夜アニメのリアタイ視聴ができない、という点で、今後アニメを全く観なくなることはありそうですか？

- ・休日出勤があるとのことで、これまでの趣味友達（大学までの友人や創作関係の方々）と会う頻度は変わりましたか？

以上いかがでしょうか？

B：1つめの質問ですが、アニメを見なくなることはないかなと思います。

個人的にリアタイで見る意義として大きいのは、ツイッターで周りと一緒に盛り上がるころだと考えています。

ただ、私はあまり交流を得意としていないので、この場合の「一緒に盛り上がる」というのは、「(周りもそういう空気なので) 感想を連続ツイートして

も顰蹙を買わない」「他の人の感想ツイートを探しやすい(時間が経つと他のツイートに紛れて探しにくくなる)」くらいの軽い意味合いです。

加えて、学生時代も遅めの時間のアニメは録画や配信で後から見るようにしていたので、実はリアタイ視聴にはそこまでこだわりはないんですね……

時間の関係で1期あたりに見る本数は減ったような気もしますが、やはり気になる作品は每期何かしらある……というか、ツイッターでの評判が入り口になることも多いので、ツイッターをやめない限りは何かしら観てしまうのではないのでしょうか。

こうやって考えると、私のオタ活はツイッターに支えられてる部分が大きいかもです。

2つめの質問の、会う頻度についてはあまり変わっていないと思います。

だいたい1~2ヶ月ほど前に関東近辺で1日遊ぶ程度のことが多いので、予定を立てるのはそこまで難しくないんですね。

ただ、何ヵ月も前から泊まりがけの旅行の計画を立てるとなると土日の予定が不透明なのは響きますね……

いくら平日休みは融通が利くといっても、さすがに連休創成は顰蹙を買ってしまうので、どうしても土日を利用せざるを得なくて。

旅行の計画を立てたものの、候補日が軒並み私の仕事の都合で潰れた、ということが実際にありましたこんな感じでいかがでしょうか？

一：なるほど、ありがとうございます！

1つ目の質問は、個人的にも気になっていたところまで…知り合いから、社会人になってからアニメを追えなくなる・脱アニオタするとかいう話を聞いていたので、

リアタイ視聴の習慣が特になかったのであれば納得です！

やっぱり旅行となると厳しいんですね、

ちなみにAさんとは今でもお会いする機会などあ

りますか？

B: 社会人の脱オタはやっぱり心配になりますよね……！
私もそうでした。

アニメにせよソシャゲにせよ、優先順位をつけたり
妥協ラインを下げたりして、こだわりすぎずに柔軟
に対応していくのがいいのかなと思います。

先ほど話した旅行の件は、実は A さんを含む友人
数人との話です……笑

A さんとは今でも仲良くさせてもらってます！

一: 趣味がなくなってしまうのはやっぱり怖いので……

あまりこだわらず、気楽にやっていきたいです！

そうだったんですね…！

あつ、少し確認したいのですが、B さんは現在も BL
コンテンツに触れることはあるでしょうか？

次回から、BL に関わるお話を伺っていきたくと思
っているので…

B: 商業 BL は相変わらずほとんど読みませんが、一般作
品のそれっぽい描写から妄想を膨らませたり、二次
創作 BL を見たりしている点は変わっていません！
笑

その程度で大丈夫でしょうか？

一: よかった！！笑 大丈夫です～。

長々とお付き合い頂いてすみませんが、また近いう
ちお聞きしたいこと LINE します！！

一: お疲れさまです、松崎です。

前回から間空いてしまつてすみません！

またいくつかお伺いしたい事があるのですが、お時
間ある際に確認して頂けるとありがたいです。

1. 卒論時にお話を伺った際、「サークル等で、セク
マイの友人と交流がある」というように仰っていま
したが、どの程度の交流がありましたか？

2. 1 のようなご友人に対して、BL 趣味の話をする
ことはありましたか？また話をする際に気をつけ
ていたことがあれば教えてください

3. BL の文脈の中で、「ホモ」という言葉を使うこと

はありますか？その際にはどういう意味で使ってい
ますか？

以上になります！

B: こんばんは

ご質問ありがとうございます！

解答は以下の通りです。

1. サークルで知り合ったセクマイの方とは普通に
雑談をする程度で、とりわけ仲がよかったというわ
けではありませんでした。元々そういったことに理
解のあるコミュニティに属している（オタサーです
しね）からか Twitter 等で普通に公言していて、そ
こから当事者であることを知った……という感じ
です。

2. BL を嗜んでいることは特に隠してはいませんで
した。

私が知っているセクマイの方は BL・GL を積極的
に読んでいる人ばかりだったので、特に抵抗はあり
ませんでした（と言うより、そういった作品を読む
人であることを互いに開示してから彼らが当事者
であることを知ったので、隠すもなにもなかったん
ですよ……笑）。

元々対面で萌え語りをするタイプではないのでデ
ィーブな話をすることはあまりありませんでした
が、後述の「ホモ」など、同性愛を揶揄したり、変
わったもの扱いしたりするようなことがないよう
には気を付けていました。

3. 以前は流行に便乗して使っていましたが、最近
はポリコレ的なあれそれから控えるようにしてい
ます（一人のときはぼろっと出てしまうこともあり
ますが……）。

一般的な意味合いである「男性同性愛者」を指して
使うことはほとんどなく、「男性同士の、恋愛に近
似できるような関係性そのもの」を表すときに使っ
ていることが多い気がします。

一: お忙しいところありがとうございます…！

お答えいただいたなかで、

"「ホモ」など、同性愛を揶揄したり"
"一般的な意味合いである「男性同性愛者」を指して"

という部分について伺いたいのですが、

Bさんご自身は、「ホモ」という言葉が使われる際に、どのような印象を受けますか？揶揄するような雰囲気を感じることはあるでしょうか？

B：早速ありがとうございます！

正直なところ、私自身は「ホモ」という言葉にそこまでマイナスイメージを持っていません。

世間知らずなものでして、揶揄の意味で使われる

「ホモ」より、生物学的用語として、あるいは腐女子がそういった関係性を前向きにとらえる（これも賛否ありますが……）意味での「ホモ」を先に知っ

てしまったので、そちらのイメージが強いんですよね。

ものを知るにつれて、一般的には差別的な意味で用いられることが多いということ、そういった意図はなくても「ホモ」という言葉を使うことで揶揄されているも感じる人が多くいるということが分かり、認識を改めた、といった経緯があります。

一：ありがとうございます。

詳細にご回答いただけて、とても嬉しいです！

B：お役に立てれば幸いです

また何かあればいつでも聞いてくださいね！

一：また何かありましたらご連絡させてください！本当にありがとうございます…

付録：Cさん1回目インタビュー

2016/09/09

C：えっとAさんとは一、元々Twitterで知り合いで、なんかそこからちょっとやり取りをしてたんですけど、明治大学の大学院に入るっていうことが決まってから、えっと一緒にゼミになりました

一：Twitterでの知り合いっていうと、やっぱり趣味、的な…研究

C：そう、ですね。趣味。研究、あー、そうですねAさんが呟いてた、なんかBLの研究についての話、が面白かったんで、私がフォローしたって感じです

一：面白いですね

C：(笑い) そうですね

一：Cさん、BLはお好きで読むっていう…

C：そうですね、BLと少女漫画と女性漫画と百合が好きなんですけど、その中で一番好きなのは百合ですね

(中略)

一：BL歴みたいなのはどのくらいですか？

C：BL歴が、中学校の美術部の時に、友達がBL好きな子が多かったんですけど、その時は全然はまらなくてむしろ嫌いだったんですけど、でーなんか『ハリーポッター』、高校の時に『ハリーポッター』の同人にはまってから好きですね。なんで、そんなに長くないですね

一：高校ぐらいだから、10年いかないくらい

C：まあ8、9年ぐらいですね

一：『ハリーポッター』の同人にはまったのは、同人誌にはまったのは、最初はノーマル？みたいな

C：ああいや、ハリーとロンなので、なんか、なんだろう。携帯で、検索したのかな、それで、なんか小説みたいなのを読んで、面白いなと思って

一：携帯小説のサイトみたいなのを見つけて、って感じですか

C：うんうんうん。その前からその「AKB」の百合が好きだったんですけど(笑い)

一：「AKB」にもあるんだ

C：そうですそうです。うん、そんな感じですね

一：じゃあ読むのは割と二次系？

C：今はもう、普通、普通っていうか…まあ、商業的に売られているものを読むことの方が多いです

一：BL好きな人って、自分のこと腐女子って言ったりするじゃないですか？自分の事腐女子、「私、腐女子だな」とか思います？別に読んでるけど違うかなとか？

C：分かんないですね。でも自認はしないですねあんまり。腐女子って言われたら、「うん」って言うんですけど、自分から名乗ることはしないです

一：それは何か抵抗がある、とか

C：ありますね抵抗(笑い) えなんかその周囲が、求めている…その、腐女子っていうなんか人物像みたいなのと、自分がちょっと違うような気がして、うん。なんかそれで、あんまり自認はしないのかなと思う

一：腐女子ってどういうもの、なんか確固とした像があるんですか？

C：あーでもなんかその一、前にその、なんか『腐女子っす！』とか、なんだっけ、『腐女子彼女』？とか流行ったじゃないですか。なんかそのときに、なんか「ホモオ」みたいな感じでこう…(笑い) 分かります？キャラクターが出てきて

一：こう丸くて、こうなってるやつですね

C：そう。そのイメージがすごい強いですね。なんか、その、男男で結構見境なくくつつけてしまうっていうか、そういうイメージ、が、なんか周囲から持たれテルのかな、と思います

一：男同士のカップリングに食欲に行く感じ…

C：そうそうそう(笑い)

一：もっと大人しく楽しみたいのに、みたいな感じですか

C：そうですね、うーん。なんかそれだけでは、私は思えないから、なんかちょっと違うのかなって思います

一：自分自身がそうではないから

C：そうですね

一：じゃあやっぱり、その中学校の時に、その一…その周りの人たちが、その腐女子っぽい感じで、自分だけでも BL 好きになれなかったっていうのは、その周りの人たちの、その人自身の振る舞いとかに影響…

C：かなりありますね（笑い）。その時その、『リボーン』のムクツナがすごい流行ってて、で私は普通にその、なんか油絵とか描いてたんですけど、その油絵を描いてる途中のそのキャンパスの隅に、なんか「ムクツナムクツナムクツナ」みたいに書かれて、めっちゃそれが嫌で（笑い）。でなんかその全然興味ないのに、すごい布教してくるから、なんかそういう、なんか「腐女子」、みたいな人たちが苦手でした（笑い）

一：え、でもそれは友達、だったんですか？

C：うん、友達なんですけど（笑い）

一：強引ですね

C：すごく強引で（中略）なんかそこ、その時は BL も好きじゃなかったし腐女子も好きじゃなかったんですけど

一：『リボーン』とか少年漫画自体を読んでたりはしたんですか？

C：あー全然読まなかったですね。今も全然読んでないんですけど。苦手で

一：少女漫画は大丈夫だけど

C：少女漫画の方が好きですね

一：少年漫画はどの辺が駄目とかありますか？

C：そうですねやっぱ『ジャンプ』中心としたその、「努力」みたいな「勝利」みたいな（笑い）その、暑苦しさがちょっと苦手で（笑い）。あとスポーツ漫画ってその結構長いじゃないですか？一つ試合が終わるのが。それが面倒くさいなって思って読んでないです

（中略）

一：二次創作とかも、そういう少年漫画のっていうのは読まない？

C：あんまりないですね、『デュラララ！！』とかはあるんですけど、ちょっと少年漫画ではないかなって思うんですけど。うん、そうですね。あとアイドルとかも好きですね、うん。アイドルの二次創作が結構

（中略）

一：周りの友達からの影響はなかったんですか？

C：あーなかったですね、あんまり。周りの子はジャンプ系にはまってる子は多かったけど、ハリーとか好きな子はあんまりいなくて、でしかもそこをくっつける人たちがいなかったの。人っていうか男同士？（中略）（ハマったきっかけは）映画かな？炎のゴブレット（笑い）。そこでハリーとロンの喧嘩のシーンがあって。それがすごい可愛くなって思ったんだと思います多分。それで検索したんだと思います

一：検索したらあった

C：はい。鍵付きみたいな、サイトがあって、そういうので読んでました

一：なんかパスワード入れたりするやつですよ

C：そうそう。ちょっと面倒くさいですよ今考えると（中略）

一：もうその時には、そういう BL とか腐女子に対しては、そこまで、昔ほど嫌悪感みたいなものはなかったんですか？

C：あ、なかったですね。なんかアニメを自分が好きになったことによって、ちょっとオタク化してたので、あんまり抵抗はなかったんだと思います

一：高校入ってから

C：うん

一：アニメ、何はまったんですか？

C：私『けいおん！』です（笑い）。本当少年漫画とか好きじゃなくて（笑い）

一：『けいおん！』も、百合ありますよね

C：そう、そうですね。本当にそっち系なんだと思います私は

一：今も継続して、アニメとかは観ているんですか？

C：アニメはもう観ないです、漫画だけ読んでます、うん

一：『けいおん！』以外に

C：そうですね、『ゆるゆり』とか『ごちうさ』とかの方が好きですね、アニメは。日常系

（中略）

一：じゃあ最初二次から入っていて、BLの一次創作っていうか、商業系のやつにはまったきっかけみたいなものってありますか？

C：商業系…えー…あーうんなんかでも私も多分百合が最初で、その後BLを読んだって感じなんですよね。商業系も、『マリみて』にはまって、でなんか『青い花』とか読んで、『ストロベリーパニック』とか観て、「女の子同士いっぱいあるー。で、男の子同士もあるのかな？」って思っ、て、読んだんだと思う。うん。ハリーとロン以外にその辺は全然はまってなくて、あと『デュラララ！！』とかですかね

一：順番的には、めっちゃ突き詰めちゃってあれなんですけど…中学があって、中学の時は何も

C：何もなかったですね

一：「腐女子嫌だ」って思っていて。高校入って、で

C：オタクになって、で

一：アニメ観てオタクになって

C：で、『マリみて』とかにはまって、その後『デュラララ！！』にはまって、BLを読むようになったって感じです

一：少年漫画には一切

C：触れないですね。でも結構珍しいんじゃないかなと思います。『弱ペダ』とか好きですもんね

(中略)

一：ゲームとかはされないんですか？

C：あー全然したことないです。『艦これ』はやろうとしたんですけど、途中でやめました、面倒くさくて

(中略)

一：BLでなんか、一次でも二次でもいいんですけど、こういう作品は読めないみたいなのってありますか？

C：あー、多人数ものとか、鬼畜ものとか、あまりに激しすぎるもの…なんか最近結構流行って、ますけど、あんまり読めないですね

一：そうですね最近こう、暴力…

C：そうそうそう

一：あれですね

C：あんまり、好きじゃないですね、うん。あと王道すぎるのもあんまり好きじゃないです

一：あー…こうキラキラした感じの、ピンクの表紙で、みたいな

C：っていうかなんかその…かっこいい

一：受けが可愛くて

C：ああそうそんな感じです

一：性描写があるものは全部読めないとかではないですか？

C：あー、ではないですね。でもなくてもいいかなとは思ってます

一：話上あつたらしょうがなく読むけど、ぐらい？

C：そうそうそう（笑い）。あの雲田はるこさんとかは結構好きなんですけど、あつても、うん。でも、基本的に商業でも好きなのは、そのAさんが言うような「ニューウェーブ系」？の作品ばかりですね。ちょっとなんかフェミっ気入ってるような感じの

一：そうですね。(Cさんのインターンシップ先の発行するBL漫画雑誌)って割とそういう系じゃないですか？

C：あーそうだと思います、うん。楽しかったですバイトしてて

(中略)

一：高校から読み始めて、BLとか、まあ百合とかもそうですけど、そういうのをお家で実際に雑誌とか単行本買って読むっていうのは結構ありました？ネットとかもありますけど

C：雑誌はほとんどなかったですね。やっぱり単行本が一番多かったですね、うん

一：ネットで個人の作品を読んだりすることってありました？

C：そうですねー、でも一、『ハリーポッター』とかの時は全然やったことないです。pixivでたまに見ることはあるんですけど、うん。そんなに多い方ではないと思います

一：例えばネットで見たときとか、お家で本買った時とかって、こうネットの履歴削除したり、本どっかに隠し

たりしてました？

C: あー、私が買い始めたのって、実家を出てからなので、全然そういうことはしてないです、はい

一: 大学入ってからってことですか？

C: 大学入ってから

一: そうなんですね。高校までは、実家にいるときは、全然何も買うこともなく

C: なかったですね

一: そうなんですね。それまではどうやってその、供給を受けてたんですか？

C: なんか『マリみて』とかは、図書館に行ったらあったので、それを読んでました（笑い）

一: その時は百合期だったんですね

C: そうなんです。全然読ん、読んでないわけじゃ、あの『純ロマ』とかは、あ漫画、アニメは観たんですけど漫画は買わなくて、で買う、買わなかったのは、やっぱりその、親にバレるとやばいから（笑い）。って理由なんですけど、そうですね

一: 『純ロマ』観てたんですか

C: 観てました

一: 『純ロマ』割とさっき言ってたその、なんだろう

C: 王道？

一: 王道、古典的なこう可愛い受けとカッコいいのみたいな感じですけど、それは別に読めたんですか？

C: あ、その時は読んでましたね

一: でもだんだんこう今に至るにつれて

C: 読まなくなりました、うん

一: お家の方にバレたらやばいっていうのは、なんだろう、恥ずかしい？

C: え、いやーなんか、あー（笑い）なんか私、その、セクシュアル、セクシュアリティ的に、あの微妙なので。微妙なので、なんか、そういうものを、置いていると、ちょっと自分もそういう風に思われるんじゃないかっていう、ちょっと恐怖感があったので、そういう、オープンにはしてなかったです（中略）そうですね、ちょっと一、バレるとやばいかなみたいな

一: 自分の理由的に？

C: そうですねー。まあでももちろんその...ちょっと、持ってるの恥ずかしいものっていう認識はありましたけど。その二つですかね

一: 持ってたらずかしいものっていうのは、周りの人から言われて？

C: そうですね、「あり得ないよね」みたいな（笑い）、言葉とか結構聞いてたので

一: それは好きじゃない人からですか？

C: そうですそうです

一: お家の方から、なんだろう、そういう隠さなきゃいけないって思うに至ったきっかけってなんかあるのかなって思ったんですけど、お家の人からの、そういう、性に対する教育とかって結構厳しいお家だったりとかはしました？

C: んー、なんか私はそうでもなかったんですけど、弟に対してはかなりその男らしさ？みたいなものを強要する父親ではありました

一: なんか、「ちゃんとスポーツやれ」とか「野球やれ」とか？

C: そうですね、「なよなよするな」みたいな。まあ山口県の人って、そういう親が多いんですけど

一: 山口県のご出身なんですか？

C: そうです。うん。だから結構出身って割と関係あるんじゃないかなって思うんですけど

一: みたいです。山口から、高校まで山口県

C: そうですそうです

一: で、こっちに越してきて

C: うん

一: 「なよなよするな」って言われるんだ...こわいなー。でもご自身には別に、そんなに厳しい感じでは？

C: 私に対してはなんかその一大学を選択するときも、別に理系でも文系でもどっちでも良いよみたいな。でも一、まあ女の子だから、文系の方が良いんじゃない？みたいなことは言われましたけど（笑い）。よくわかんないですけどね。今考えると

一：「女の子だから理系はちょっと」みたいな感じ、ですよ

C：うーん、多分結婚相手が、見つからなくなるとかそういう理由なんですかね

一：なるほど。なんでだろう（笑い）

C：分かんないですけど（笑い）。だからその、弟よりも、勉強とかに対する教育っていうのは緩かったんじゃないかなと思います

一：逆になんか、読書たくさんしろとか、言われたりはしなかったんですか？

C：読書はかなり言われてましたね

（中略：読書教育について）

C：小説は、あの木原音瀬さんは、全部読みました。あと三浦しをんさん。その辺くらいですね

一：三浦しをんさんっていうと、やっぱりこう BL と、親和性の高い方っていうイメージがあるんですけど

C：もろ、っていうか自分、多分三浦しをんさんが好きなので、かなりそれっぽい感じが、含まれてますね

（中略）

一：BL とか百合とか読むときに、その...百合界限でどうかは分からないんですけど、そのよく BL 読んでる腐女子の方って、読むときに、なんだろう。主人公二人いるじゃないですか、なんかこの辺の草になって、なんかどこにもこう感情移入しないで読みなさいみたいなことを、腐女子の方がよく言ってる...

C：あ、壁みたいなことですよ

一：壁とか天井とか。聞いたことありますか？

C：自分がですか？

一：なんかこう、周りの腐女子から、こういうポジションで読むんだみたいなことを言われたりしました？

C：あーでもありますね。その、中学校の時の、美術部の人たちは、「なんでそういうものを読むの」って私が訊いたら、なんか「そういう風に読んだら萌えるよ」みたいな（笑い）、ことを言われて。あ、そういう、よくわかんないなって思いましたそのときは

一：今読むときはどうです？BL、百合含めて

C：あ、百合は多分、ちょっと違うんですけど、自分が感情移入してるんですけど、その二人に。BL の場合は確かに壁とかになってるのかな、全然関係ないところで、その物語を楽しむっていうか、関係性を楽しんでるようなところはあと思う

一：どっちかに共感したりとかは、しない感じですか？それはする？

C：あーうんしますよね、やっぱり。なんかうん、するとは思うんですけど。でもその二人の間に入りたいとかは全然なくて

一：どっちかの片方になりたいとかはなくて

C：そうですね、うん

一：でも百合はやっぱり自分を重ねて読むとかも

C：ある、あると思います

一：やっぱり百合と BL だと、なんか、なんだろう。どういところが違うと思います？性別以外に

C：あー、何かー、百合の場合は、寄り添いみたいなイメージが強いですね

一：あーそのキャラ同士の

C：うーん。なんかもっと優しい感じがするっていうか柔らかな雰囲気がありますね。BL はなんか激しいっていうか。肉体描写なんですかね？（中略）だから百合を読む人って、あんまりなんか肉体描写を求めているわけではないのかなって。あのエロは別ですけど

一：そしたら BL 読むときは、なんか、エロを求めて読む感じがする？逆に

C：私全然なくても大丈夫なんですけど、あったら読むって感じです

一：あとこう、腐女子全般の中で、BL の話ですけど、BL を読むときに...BL って実際の同性愛ではない、そのファンタジーみたいな捉え方と、あとファンタジーって言ったら同性愛者に申し訳ないと思わないのか？みたいな

C：あーあります

一：あるじゃないですか？ああいうなんか、同性愛者に申し訳ないとか、そういう視点ってどう思います？

C：あー、同性愛者に申し訳ない...ん？

一：BLを読むことで、同性愛者を馬鹿にしてるんじゃないかとか、同性愛者に対して罪の意識をもって、とかはしないんですかね？

C：あー、あでも、えー、どうなんですかね...もし私が、セクシュアリティが、ノーマル？ノーマルだったら、感じたんじゃないかなと思うんですけど。私が、女の子が好きなので、あんまりそういう風には思ったことないですね。むしろその一、Twitterとかで結構学級会的に盛り上がってるじゃないですか。なんかこういう表記は良くないみたいな、そこまで、熱くならなくても良いのではと思う、思ってます。まあ確かにその気を付けることは大事なんですけど。そうですねー、読むこと、に対し

(笑い)、えーどうなんだろう。でもなんか本、うーんどうなんですかね、本人たちがどう思ってるのか分からないですよ。なんか分からない、のに、なんか外野がとやかく言うのってなんか、どうなんだろうとか思いますけど

(中略)

一：外野ですよ、要は。そういう人たちがとやかく言うのって、ちょっと、アレだなと思いますけど、イラッしたりはします？

C：あーでも私、BLに対しては当事者ではないので、全然そういう風に思わないんですけど、まあ似たようなことが百合にもあって(笑い)。百合の場合はやっぱりあるんですよ(笑い)えだから、まあ私は百合がすごい好きで、ずっと読んでたから、その一、なんか自分たちが好きな百合、を一なんかずっと続けていってほしいなと思うんですけど、やっぱりそのなんか「百合っていうものは男が読むものだ」みたいな。で、その「エロが至高で、別に感情とか関係」みたいな人、言う人もいますよ。やっぱり。まなんかまあBLと逆転したみたいな感じなんですけど、そういうことを言われると、ちょっとイラッとはしますね、やっぱ、うん

一：BLはなんか過激なBLと、(Cさんのインターン先)とかでやっているような物語を読ませるようなBLっていうのが出ているじゃないですか、ちゃんとそういう住

み分けがあるのに、多分百合にもそういう住み分けがある、あっていいはずじゃないですか。どっちが至高って言うと、こっちを読みたいのにイラってする...

C：そういうなんか、その一。まあ百合って結構高校生同士が多くて、「そんな生々しいものは読みたくない」とか逆にそういうことを言う人もいますよ。なんか『マリミテ』の世界だけで完結して欲しいみたいな。なんかまあ卒業したら男と付き合う、そういう女の子を描いて欲しいっていう要望もあるんですけど、そういうことにしても私は、「ちょっと、どうなの？」って思うんですけど、フィクションなので、うーん(笑い)。もやもやするだけです

一：そのなんか卒業したら普通に男の子と付き合っほしいってなんかすごいファンタジー的な感じじゃないですか

C：『ごちうさ』とか、いろいろありますよね、『ゆるゆり』とか

一：やっぱりそういうのは、イラってしちゃう

C：もやもやしますね(笑い)

一：それはやっぱりこう現実的な視点と、こうなんだろう、現実的な自分の視点とかも含めて色々考えるとモヤッとする？

C：そうですね

(中略)

一：ご自身のセクシュアリティのこととか、オープンにして

C：全くしてないです。んーしてないですね、特に百合好きは言ってないです。腐女子は言ったりするんですけど、百合好きは言ってないです

一：百合好きの人に対してってことですか？それとも

C：全体的に、百合好きってことを、オープンにはしてないです

一：それはなんか、身バレしちゃうから

C：そうですね

(中略)

一：百合好きの中で、女の子が百合好きっていうと、ちょ

っと疑われちゃったりとか、そういうのを目にしたこと
ってあります？

C: それはないんですけど、女子大だったんで（笑い）、
そこが大きいのかなっていうのはあります

一: え、具体的に言うと

C: もうなんか女子大で百合が好きっていったらもうガチ
すぎて（笑い）

一: あ、なるほど。そうなんですか？

C: うんなんかそういうニュアン、うんそうですね。うー
ん、いやでもちょっと言えない雰囲気はありましたね

一: 大学はその、あれなんですか？明治ではなくて

C: あ、そうなんですよ、京都女子大ってところで
（中略）

C: なんか腐女子っていうと、腐女子のキャラクターを演
じなきゃいけないみたいなありません？面倒くさいで
すね

一: その通りですね

C: そういうことじゃないですか？

一: そういうことありますね。腐女子の、あーでも腐女子
ではないんですもんね

C: 分かんないです

一: 周りでキャラ演じてた人とか

C: いまいました。でもまあそれが好きだったのか、
分かんないですけど。でもなんかあれ、「○○と○○、なんか
こういうポーズしてよー」みたいなのはあった（笑い）。
で、嫌がりながらするみたいなことはありましたね（中
略）これぞ腐女子みたいな人はたまにいますけどね

一: あー、例えば

C: 二次創作が好きで、なんか、まあその人幼稚園の先生
なんですけど、幼稚園の子どもをみて、この子とこの子
が将来結ばれる二次創作を考えているみたいな。そうい
う人はもう、まさにって感じのイメージあります

一: キャラじゃなくて本気でやってる感じがするんです
か

C: 本気でやってるし、そういうのが好きなんだろうなっ
て思う。自分、自身も描いてるんで、絵とか漫画を

一: その人がですか？

C: そうですね。コミケとかにも出してて

一: そうなんですね。C さんは出したりはしないんで
すか？

C: 出したことないです

一: 書いたりとかはするんですか？

C: 書いたりしますね、百合ですけど

一: 小説？

C: そうですね

（中略）

一: お家の方にはやっぱりその、百合じゃなくて BL も、
BL 好きっていうことも隠してるんですか？

C: あーでもその一、一回その一、編集部のバイトをする
ことを、言ったんですよ。そしたらお父さんが、会社名を
調べて、BL の出版社だっていうことを知ってしまって、
ちょっと問題になりましたね

一: えっ問題...「なんだこれは」みたいな？

C: そうですね、なんか「こんなものを出版する編集部で
働いたら、お前もレズビアンになるぞ」って言われて、
「マジか」みたいな（笑い）。「あ、でも良かったバレーでな
かった」って（笑い）思ったんですけど、ちょっとまあお
父さん変な人なんで、変、変？分かんないですけど

一: なんか昔気質な感じが

C: そうですねもう、頭固いですねかなり

一: 漫画っていうところには別にこう抵抗はなかったん
ですかね

C: そうですね。ただそういうものがうん、嫌なんだと思
う。同性愛的なものが多分嫌いなので、うん

一: BL 読むと、そのなんだろう、男の子が BL を読んで
たらその、ゲイになっちゃうみたいな言い方だったらな
んか納得できるような感じはするんですけど、女の子な
のにその BL っていうその男性同士のものを読んで、そ
の女性同士の恋愛をするようになったらどうっていうの
は、なんか今面白いなって思ったんですけど

C: あー

一: 同じ同性愛だろうって感じ？

C: うん多分そのくくりなんだと思います。なんかお父さんで結構標準から外れた考え方をあまり好まない人なので、そういうところも関係してると思います

一: なるほど。お母さんはそうでもないんですか？

C: お母さんは寛容ですね割と

一: 結局バイトはできたんですか？

C: こっそり（笑い）。こっそりしました

一: じゃあもう絶対お父さんには、今後一切そういうことは言えない？

C: 言えないですね

一: お母さんにもじゃあ言っていないんですか？

C: 言っていないです言っていないです

一: なんかバレちゃうから？

C: あーでも、お母さんは多分、私がそういうのが好きなのは知ってると思うんですけど、あえて言っていないという感じです

一: まあ直接ばらすのもあれだなっていう？

C: うん。別に言うことでもないような気もするし、っていうか

一: 弟さんに、実はばれてるとかってないんですか？

C: あ、弟は多分私のセクシュアリティにも、気づいてると思うんですけど、でも言ってこないですね。百合が好

きなことも、知ってると思いますね

一: 弟さんも百合、『ゆるゆり』って百合なのか私はよく分からないんですけど、そういうのにはまっちゃったりとかはしてないんですか？

C: 弟はそうですね、弟は全くオタクっ気がないので、うん。ザ・リア充みたいな感じの人なので

（中略：大学・大学院での研究の話）

C: 最初は百合研究したかったんですけど、ちょっと怖いので、やめました

一: 怖いっていうのは、周りにどう思われるかっていう怖さですか？

C: それもあるんですけど、就活の時にやっぱ研究テーマ絶対に訊かれるので、まず「百合って何？」っていうところから話を始めなきゃいけないし、そうなるちょっと自分の話にもなるので、何でその研究をしたのかっていうことを訊かれるので、やめようと思いました

一: 何でその研究っていうとやっぱりそこも結構絡んでくるんですね

C: 絡みますね、うん（笑い）。でも就活、経験してて、本当に研究の話ばかりするので

（以下雑談）

付録：Cさん2回目インタビュー

2016/10/28

—：家族との関係性みたいなのとか、やっぱりそのご自身のセクシュアリティ的な部分をより、もうちょっと訊いてみたいなのという感じに思ったんですけど、ご自身のセクシュアリティについてなんですけど、うーん、なんかAさんとこういう喋っていると、こういう質問って適切じゃないのかなって思うんですけど、なんだろう

C：Aさんなんて言ってたんですか？

—：なんか、セクシュアリティはこう色々、なんだろう、日々変化していくものだから、自分はこういう、こういう性別の人が好きですとか、こういうセクシュアリティをもっていますっていうのは、なんだろう断言することはできないっていう風におっしゃってたんですけど、

C：はい

—：そうだよなーって思いながら聴いてたんですけど。私もその、なんだろう、男性しか好きじゃないって断言できないので。どうなのでしょう、女性が好き、なんですか？それとも両性なのかな

C：うーん、なんか、子どもの時は男女区別なく、多分バイミたいな感じだったんですけど、中高で付き合ったのが女の子で、大学でも女の子だったので

—：あ、お付き合いの経験もあるんですか

C：そうですね二、三人あるんですけど。でまあなんかうん、女の子が好きな方なのかなとは思いますが

—：あー。ありがとうございます。そういう、自分のセクシュアリティがもしかしたら同性にも向いてるかもっていう風に気付いたのって、BL好きとか百合好きとかそういう物を読み始めたことと、なんか関係があったりとかするんですか？

C：あー、そうですねBLが好きだから、そっちにいったってわけじゃなくて逆ですね多分。なんか、そうですね中高で、なんか一女性の先輩にすごいあこがれていて、その辺から百合を読み始めてBLを読んだって感じなんで

—：なるほど

C：なんか、むしろなんかBLとか百合を、あもう自分の物語だって読んでる方が強いと思います

—：ありがとうございます。前回なんか、百合はやっぱりこう、自分を投影して読むっていう風におっしゃってたと思うんですけど、BLはでも、やっぱり客観的にしか読めないかなって言ってたのは、自分の性別みたいなのところが関係あるんですかね？

C：んー、そうですねー。なんかやっぱ女性男性となんか、その育ってきたバックグラウンドが違うから、入りこむ余地がないってところはあります。でもなんかそのBLの男性同士の葛藤みたいなのところには、その自分も覚えがあるというか、まあこういうことあるよねって共感する部分はあると思うんですけど

—：あー。やはりBLって、その二人とも、男同士の恋愛ではあるんですけど、まあ作者さんは女性が多いじゃないですか？でもやっぱり描かれてるのは男性だしっていうところでちょっと入りづらくなるんですかね？

C：そうですね、うん

—：他にインタビューした方もおっしゃってたんですけど、同じようなことを。やっぱり百合っていうか、女の子が出てると、やっぱりその子のお部屋の中にある小道具だったりとかお化粧品だったりとか、そういう小道具だったりとかが自分に身近に感じて、やっぱりこう感情移入しやすくなるかなっていうのをおっしゃってたんですけど

C：あー、あそうなんだ

—：やっぱりそういうのあるんですかね？

C：小道具（笑い）あー、あんまり意識したことないですけど、可愛いものはすごい好きなので、なんかコスメとかがすごい可愛く描かれてたりとか女の子の服装が可愛かったりしたら、なんか普通に、読んで面白いですけど

—：見た目というよりかは、やっぱりこう心の動きじゃないですけど、なんかこうバックグラウンドというか背負ってきてるものとか、そういうところなんですかね

C: そうですねー

一: ありがとうございます。やっぱり BL は、うーんなんだろう。発表の時にこう色々こう、こういう本をこういう視点でこの人は読んでますよっていう表を作って発表したんですけど、やっぱり百合だと感情移入をガッツリする、んですかね？ BL はそんなことないっていう形ではないんですかね？

C: うーん。あんまり、どうなんですかね？なんかところどころするとは思んですけど、でもなんかそれは多分私、だけではなくて色々な人がそうだと思うんですけど、どうなんですかね

一: その辺をどうカテゴリ分けしていったらいいのかわからないのはちょっと迷ってるんですけど。まあグラデーションなので、カテゴリ分けするのが正しいってわけじゃないんですけど。でも百合、の方がより感情移入できるものっていう感じですかね

C: それはあると思います

一: ありがとうございます。あと、そのご家族との関係性についてなんですけど。えっと前回、仰っていたのが、お父さんが、えっと同性愛者のものをすごい嫌っている方

C: うんうんうん

一: でちょっと昔気質な方、っておっしゃっていたのと、あと弟さんはリア充っぽい感じが。で、多分廣政さん自身のセクシュアリティにちょっと気付いてるかも、っていうのを話されていたと思うんですけど、お母さんってどんな感じの方なんですか？

C: あー、お母さんは一。うーん（笑い）そう、どんな感じ、お父さんの言う通りにしてたんですよちっちゃいときは。なんかかなり、うんなんかその一、昔ながらのお父さんに合わせて、ご飯ちゃんとしたり、その家事のこともがんばってやったりっていうキャラだったんですけど、でもなんか最近結構自立しているというか、お父さんに言い返すようにもなってきて。そんな感じですかね。私との関係は結構仲いいと思います

一: あ、そうなんですね。お父さんとか弟さんとかとはよ

く、お話されたりするんですか？

C: うーん、お父さんと私と、お父さん、あとお母さんと私は仲いいんですけど、弟は結構、ぼつんとしてますね

一: えー、反抗期的な何か？

C: というかちょっと距離作ってると思います家族に

一: それは、別に仲が悪いわけじゃないんですか？

C: うーん、そう、まあ色々あつ、て（笑い）まあ色々、ん？なんか弟は多分お父さんのことがすごい苦手だったので、ちょっと距離置いてるのかなと思いますね

一: あ、反抗してる感じではなくて、こう距離をちょっと置いてる感じ

C: うん

一: なんか大人、大人な感じですね

C: そうですね

一: 弟さんと C さん自身は結構お喋りされる？

C: うん結構、映画とか一緒に観に行く関係ですね

一: 映画観に行くとか仲良しですよ

C: いや、どうなんだろう、でもそんなめっちゃ会話するわけではないんですけど、うん

一: 趣味が合うみたいなのところですか

C: そうですね

一: なるほど。あと前回その、同性愛的なものとか、多分 BL とかも嫌いなようなお父さんに、そのバイトのお話をされたりとか、あったじゃないですか。そのバイトするときの報告を、その編集社で働きますっていうところを、なんかもしかしたらその BL 関係ってバレちゃうかもしれないのに、編集で働きますっていうところを言ってしまったのは、なんか、どういうあれだったのかな。どういう気持ちでそのお話をしたのかなと思ったんですけど

C: あー

一: だいたいバイトするときは報告とかされたりしてたんですか？

C: あーでも。うん結構してるかもしれないですね毎回。訊いてくるんで

一: あ、こまめに連絡取ってたりするんですか

C: うんうん

一：まさかその、(編集社名)を調べるとはみたいな感じだったんですか

C：あーでも一、そんなに嫌がるとは思ってなかったっていう部分が大きいですかね、うん。なんか私が BL を読んでもることもなんか気づいてはいたみたいだったんで

一：お父さんもお母さんも？

C：うん。うーん、そうですね。でなんか普通にその(雑誌名)の方も作ってるし、女性向け漫画？

一：ああ、はいはい

C：うん、なんかそっちの方がメインだから、まあ言ってもいいかなって思って

一：あーなるほど。へーじゃあその時までは別にその、BLまでは嫌ってはないだろうって感じだったのに、

C：うん

一：言ってみたら、バレてみたら、すごい怒るみたいな

C：そんな感じですね(笑い)

一：えー。お父様が同性愛者みたいなのを嫌いなって、なんか、「あー嫌いなんだ」って気付いた切欠とかってどういうところだったんですか？テレビとか？

C：テレビですかね、やっぱり

一：オネエキャラみたいなのが駄目だったんですか？それともこう、そういうわけではなくて、もう本当に男性らしいゲイの方が駄目だったんですか？

C：まあ多分どっちもだと思いますね、うん

一：へー。そのなんか、女性のことが好きで男らしい男が、良い、良いみたいな感じなんですかね？

C：あーでもお父さん自体、男らしくはないので、なんかコンプレックスはあると思います

一：あーなるほど

C：逆に。なんかすごく人目をすぐ気にする人なんで

一：あ、そうなんですか

C：うん。そうですね、なんか、ノーマルとは違う同性の人たちは結構嫌うタイプです、ゲイに限らず

一：そうなんです。なるほど。あとはその、なんだろう。進学をするときに、あ、えっと、学部時代って研究内容ってどんなものをされてましたっけ？

(中略：研究について)

C：ああでも(文学研究で取り上げた作品名)は結構百合でしたね(笑い)

一：そういう、のを進学するときに、お父様お母様に話されたりとかはしたんですか？

C：話さなかったですね(笑い)

(一時中断)

一：なんかそういうものを、こう C さん自身に押し付けることによって、逆に C さんが BL とか百合っていうコンテンツと、同性愛っていうのを、深く結びつけて考えてしまうっていう、なんか逆作用みたいなのがあるんじゃないかなっておっしゃってたんですけど

C：へえー。え、どういうこと？私が百合と同性愛を、深く結びつけて考えてしまう？ってこと？

一：うーんと、そうですね、BL とか百合と同性愛を

C：をゴッチャにする、みたいな

一：ゴッチャに、ゴッチャにして。うーんなんだろう、百合を読んでもるからって、同性愛に流れちゃだめだぞって規範を押し付けられるによって、「あ、百合を読んでもることは、同性愛者になる可能性があるんじゃないか」って逆に考えちゃう？ちょっと説明が難しいんですけど

C：うーん、なんかな、とりあえずお父さんに百合を読むみたいなの、なんかとりあえずお父さんに直接的に、なんかその BL を読んだらレズビアンになるから、(インターン先)の編集になるのはやめろって言われたのは、大学院入ってからだから、それまではずっと読んでて

一：あー、そしたらあれですかね、なんだろう、お父様がその同性愛者なんか駄目だみたいな感じの気持ちを持っていると、逆にその同性愛者っていう存在を意識して、自分がそっちの方向に流れちゃった、みたいなことってあるのかな

C：あー、反発的につてこと？

一：反発的とか、意識せざるを得なくなって、そういう存在を

C：うーん。それはいつの話？(笑い) 難しいね

一：そうですね

C：うん。いつによってか、で違うし、なんかもう百合とかそういう、そういうのを意識する以前、中学校の時に、その同性の先輩に憧れは抱いてて、でそれはなんかもう親しい友達？以上みたいなのそんな感じだから、でまあその時には百合読んでなくて、うん、そうだな。どうなのかな。だからその先輩に対する憧れの気持ちがあって、そのあとに百合を読んだから。あんまり反発とかは考えたこともなかったけど

一：あー。憧れの気持ちがあってその後に百合、読んでことで、なんだろうその百合を読むことによって、憧れの気持ちを持っていたことが、こういう憧れの気持ちって百合でいうこういう関係なんじゃないって、逆に後から気付いたみたいなのはあるんですかね？

C：いや、どうなのかな、とりあえずなんか、百合を読む前に、中学校と女の子と付き合ってた、一年くらい続いてまあそういうことにもなったので、あんまり、関係、はないような気はするんだけど

一：百合 BL を読んだことはあんまり関係なくて、って感じなんですかね

C：多分元々だと思うけどな、どうなのかな。でもお父さんは関係あると思うけど、自分のセクシュアリティに

一：お父さんが関係ある？

C：なんかお父さんがすごい嫌いな時期があって、それで男の人も嫌いになったから

一：あ、そうだったんですね

C：そうそうそうそう。うん。それで女性の方が良いっていうのはあると思うけど。どうなんだろうね。そのあと BL を読んで、百合を読んで、百合の方が自分にとってすごい近い感じがするから好きになったっていうのはあるけど

一：男の人があんまり得意じゃないっていうのは、今でもずっとなんですか？

C：最近は改善されたけどね、大学の時は殆ど接触もなかったし、苦手だったし、避けてたけど

一：そういうとき、でもなんだろう、フィクションである

BL は読めるんですか？

C：読めたね。でも、なんかそのフィクションの中の男の子が、まあなんか男女差別的な発言をするとすごいイラストとはした（笑い）

一：あー

C：物語として楽しんで読めたって感じかな

一：あーそっかその、フィクションでもやっぱりその中にいる男性が、その女性を見てる感じになると

C：嫌だった

一：じゃあなんだろう、BL への思い入れみたいなのところは、百合ほどはないのかなって感じがしたんですけど

C：うーん、ないかしんない

一：なんか、カテゴリ分けすると、やっぱり BL 読者というよりは百合読者って感じになるんですかね？百合愛好者という形の方が近いって言えるんですかね？

C：うん、そうだね

一：なんか前回その、腐女子としての自認はそんなないって話だったんですけど、やっぱりそこも、そういうことなんですかね？そこまで BL に思い入れがあんまりないから

C：うん。そうだねなんか、すごいとつ、うーん、すごいハマるジャンルがあったときは、なんか自分が腐女子だになって思うけど、今そういうのがないし、継続して好きなものもないから、かな？

一：最近のなんかそのニューウェーブ系みたいな呼ばれてるところは結構好きなんですよ？

C：好きだね、うん。でもあれはなんか漫画として面白いみたいな感じで読んでるから

一：あー

C：どうなんだろう

一：じゃあ男性同士である必要はそんなにない？

C：うん。百合だったら、その女性同士だからっていうので読むけど、BL はもう面白い BL しか読まないから自分が面白いって思うやつしか

一：じゃあそういうときって、なんだろう、そういう面白い BL 読んだ時って、別にこの二人女性同士でも良いじ

やんとか思ったりするんですか？それはまた違うのかな

C: あーでも思ったことはあるかも。これ女性同士のやつも読んでみたいなって思うことはある

一: こういう話を、むしろ女性同士で描いてくれた方がもっと面白くなりそうとか

C: あ、そうだね。百合は結構まだ狭いから、あんまり面白い話がないから（笑い）

一: あー、そうなんだ。多分これで最後ぐらいになると思うんですけど、弟さんはあれですけど、ご両親にいっそ自分のセクシュアリティバレちゃった方が良いかも、とか思ったりしないですか？

C: ないです（笑い）

一: ずっと隠していききたい？

C: なんか隠した方が親のためになると思うから、うん

一: なんかもしそのなんだろう、編集で働きたいみたいなところを、お話したのって、そういうなんか深層心理みたいなのところがあったりするのかなって思ったんですけど

C: あー、どうなのかな。なんか親のことはすごい好きで、受け入れてくれるなら話したいって思うんですけど

一: あー、それはありますよね

C: でもそれは多分ないから、隠しておきたいですね

一: お母さんも絶対無理ですか？

C: お母さんも多分理解はできないと思います

一: 弟さん経由でバレる心配とかはないんですか？距離を置いてるから

C: そうですね、多分言わないと思います弟は
（中略）

一: あと、今回その色々まとめる時に、中間でまとめる時に、腐女子を自認しているかどうかっていうのと、その腐女子って言葉のネガティブな部分、自分が BL を愛好していることに対して誰かに恥ずかしいって思ったりとかこういうのは罪だって思ったりとか、そういう気持ちを抱いているかっていうところも、色々まとめたんですけど

C: あー

一: C さんご自身たしか前回のときには、BL とか百合愛好へのそういうネガティブな意識っていうのはないっていう風におっしゃってたと思うんですけど、それよりかはやっぱり、ご自身ももってるセクシュアリティへのなんだろう、それがバレることへの恐怖みたいなのところが大きいのかなって思ったんですけど。そういうところで間違いないですかね？

C: あーでも腐女子に対して、え？って思う気持ちはあります

一: 腐女子に対して、

C: うん、ネガティブな印象はありますね

一: それは腐女子全般に対してってことですか？

C: 一部の（笑い） まあでも大体そういう回答になると思います

一: どういう人ですか？

C: うーん。まあやっぱ電車内で大声でしゃべってるような人たち、というか。なんか結構こういうところで、話をするのも若干こう、気が引ける部分があるので

一: すいません（笑い）

C: いやいやいや（笑い） そう、なんかまあ、そういうところは気になるかなっていう

一: まあそうですね。こうなんか、なんだろう。例えば学校だったらクラスの中でめっちゃくちゃ大声でこう、アニメ雑誌とか観ながらしゃべってるような人たちとか

C: あーそうですね。なんかその BL って結構その、18 禁な部分も多いから、BL の話をすごい大声ですのって男子が AV の話を大声ですのと結構似てるかなって思うんで

一: あー、なるほど

C: そのへんはやっぱ自重して欲しいかなと思うんですよ

一: あー、じゃあそう BL 全般っていうよりかはやっぱり、エロ部分を

C: そうですね、なんか

一: でかでかとお出してる感じが

C: ちょっと（笑い） 嫌かなって。まあキャラクターの名

前とかだったら、まあ多分分かんない人は分かんないからいいと思うんですけど、うん

一：別にその、ご自身が BL を読んでたり、BL、こういう BL 好きだなんて思うことに対して、誰かに引け目を感じたりとかは別にしないですかね

C：そうですね、ただ言わないですけど。言わないけど、特に思わないです

一：百合とかはどうなんですか？

C：百合はちょっと自分、言うと、自分のセクシュアリティに関わりそうだから言わないです

一：あー。別にそういうことを抜きにしたら、百合を読んでいること自体は

C：うーん、特に、引け目とかはないですね。なんかそれをオープンにすることに、引け目はある

(以下雑談)

付録：Cさん3回目インタビュー

2016/12/01

一：他の対象者の方からなんですけど、その方ふつうに女性の方で、男性と何人かお付き合いされた経験があって、今もお付き合いしてるんですけど、その、男性とお付き合いする時に、お付き合いする直前というかお付き合いすることになった時点で、「私BLを読む腐女子なんですけど、本当に大丈夫ですか？」って確認をするらしいんですね。今までお付き合いしてきた相手の方に、そういう確認を取ったことってありますか？

C：あー、んなないかな

一：あ、全然ないですか？

C：ない、ないですね。あの付き合ってきたのが女性だったからっていうのもあるんですけど。別に訊くような話でもなかったと思う

一：あー、それはもう、元からバレてたってわけではなくて、

C：あー

一：別に言わなくてもいいかなって感じですか？

C：あー元々バレてたと思います

一：あ、そうなんですね

C：あの「AKB」とか好きって言ってたし、なんかそういう会話になることもあったし

一：あー、なるほど

C：うん

一：それはBLも百合もですか？

C：あーうーん。まあでも二人しか付き合ったことがなくて、一人目は中学校のときでオタクではなかったし百合もBLも読んでなかったんで

一：そうですね

C：特に言う必要がないけど

一：はい

C：いわ、言わなかったんですけど、二人目はお互いに結構、アニメとか漫画とか好きだったから

一：あー

C：その延長線上で、相手もちょっとBL読むっていう子だったから

一：あ、そうなんですね

C：特に言うことはなかったかな、はい

一：やっぱりそうですね、なんか一応お訊きしてみたものの、やっぱりこう男性と付き合う女性だからこそ、カミングアウトするっていう部分は多分ありますよね

C：そう、そうだと思いますね

一：ありがとうございます。で、あと、えーとここからちょっと前回のお話掘り下げる感じになるんですけど。あの、BLと百合どっちに重きを置いているか、みたいなお話をしたときに、やっぱりその、BLの良さとか思い入れみたいなのこって、そのニューウェーブ系？いわゆるニューウェーブ系の、その二人が対等な関係性である部分が好きっておっしゃってたと思うんですけど、でもそれもやっぱり百合の、なんか代わり？なのかな、っていう感じの印象を抱いたんですけど、どうなんですかね、その

C：代わり？

一：代わり、その百合でもそういう作品がもしあったらそっちの方を読みたいっていうな、風なのか

C：あー

一：それとも感情移入しないBLだからこそその楽しみ方みたいなものがあるのかな、どっちかな、なのかなって思ってたんですけど

C：あー。え、どうなんだろう。あーでもBLには感情移入を全然しなくて、なんかもう自分から全然離れたところで楽しむことができるっていう面では、あの違った楽しみが、方があるんじゃないかなって思うんですけど。うん。なんか本当は、なんか百合って結構その王子様とお姫様みたいな展開のものが最初は多くて、で最近は結構その関係性が対等に近づいて来たんじゃないかなって思ってるんですけど、私はそっちの方が好きです

一：あ、百合の中でもそっちが好き

C：うんうんうん

一：BLと比べてってわけじゃなくて、百合でもやっぱ

りそういうのが好きっていう

C: はい。あの、全然違うんですけど、『ズートピア』とかもすごいハマって

一: ああ、はいはいはい

C: なんかあれもそれに近い関係性だなんて思ってた

一: うん、そうですね

C: あと『TRICK』の山田と

一: あー

C: あの阿部さん?

一: はいはい

C: ああいう二人も好きだし、そのノーマルとか関係なくそういう物語が好きなのかな

一: そうなんですね。分かりました。これもやっぱり他の方からお話を訊いてて、その方は少女漫画と BL を読んでいる方なんですけど、少女漫画はやっぱりこう主人公の女の子になりきって、ではないんですけどこう、男女がこういう感じの仲になってきて男の子がこうサプライズをしてくれた時に、「あ、こんなこと自分もされてみたいな」という風を楽しむタイプなんですけど、でも BL はそうじゃなくて、まあ共感ぐらいはするけど、その俯瞰して二人をこっそり覗き見てる感覚がすごく楽しいんだっていうお話してて、それと近い、のかな?

C: うーん、そうですね、うーん。なんか百合は結構その自分にも覚えがあるなこの感覚、みたいに読んでるんですけど、BL はあんまりそういうことがなく、ないから

一: そうですね

C: そうですね、俯瞰してみれるのかなと思いますね

一: ありがとうございます。で、あと、えーと前回多分ご家族との関係性みたいなお話訊いたと思うんですけど、えっと、一時期お父様のことがすごい嫌いな時期があった

C: うんうん

一: でも今は全然仲良いついていうお話訊いて、それはなんか反抗期的なものだったのかなって思ったんですけど、そういうものの克服ってどんな風に? 自然な感じだったんですか?

C: あーそうですね、その、高校までは本当に仲良くなって、でも大学に入ってから一人暮らしするようになってから、その両親にほとんど会えなくなって

一: あー

C: まあありがたみが分かったっていうのもありますし

一: あー、なるほど

C: 離れて、距離ができて、精神的にも気持ちのゆとりができたっていうか、そういう部分もあると思います

一: うーん。あーなんか、私全然あんまりこう、父親がすごい嫌いになるっていう経験があんまりなかったんですけど、なんだろう。いわゆる、よくある反抗期思春期的なものなんですか? だったんですか?

C: あー、やーでもそれよりは多分、なんかもっと、暗い? (笑い) っていうか、うーんそうですね、やっぱりその思春期ってなんていうかな、理由がなく反抗するみたいな、ことがあると思うんですけど、そういうのではなくて、なんかお父さんのこういう部分が本当に無理みたいにしてたし、今でも許せないところがあるし

一: そうなんですか

C: そう、過去の話がされるのは苦手なんです、お父さんとかに。だから、うーん克服っていうか対処の仕方を身に着けたみたい、そんな感じですかね

一: あー。そのなんだろう、その過去のことはあんまり考えないようにする

C: そうですね、はい

一: あ、今あんまりお話伺わない方がいい感じですか?

C: あ、親ですか?

一: あーそのなんだろう、過去いろいろあったことっていうのは、やっぱりこういう場でもちょっと喋りづらいところは今でもありますか?

C: あー親はもう大丈夫

一: そうなんですか?

C: うん。やーなんていうのかな、なんかでも思春期みたいな軽い感じではなくて本当に嫌だったみたいな

一: あー

C: そういう意味合い。なんかとりわけこういう出来事が

あつて嫌いになつたってわけじゃなくて、そのお父さんが、女性全体を見下すような発言が本当に多くて

一：そういう感じのお父さんだったんですね

C：あ、そうですね。で、そういう行動、一挙一動がちょっと嫌になってしまったみたいな

一：あーなるほど

C：今でもそれはお父さん変わってないので、それに対して私がどういう対処をするかみたいな

一：なるほどー

C：そんな感じですね

一：ありがとうございます。あと、もし答えづらかったら全然いいんですけど、その前回お話を聞いたときに、弟さんもやっぱりお父さんのことすごい嫌いになった、みたいな距離を置くようになったみたいなお話があったと思うんですけど、それもやっぱり同じような理由なんですかね？

C：うーん。弟の場合は、うーん、どうなのかな？ちょっと弟とあんまり仲良くないんで分からないんですけど、多分そのマッチョな精神なのでお父さんが、その運動ができないと男じゃないみたいな。そういう発言があったりとか、ま勉強を本当にさせられるんですよ、うちの家庭って。それで学、成績が下がったら親とかその本人のせい、あのお母さんとかその本人のせいにされるので

一：お母さんのせいにもされるんですね

C：あ、されますね

一：へー

C：お前の教育が悪いからだみたいな、そういう発言が本当に多かったの。そのお母さんに対しても申し訳なさがあるし、自分ができないことに対しても、罪悪感があるしで。まあ好きではなかったと思います

一：そうですね。同じ親なのにお母さんだけ怒られるって

C：そうなんですよ、大体そうです

一：それはあれですか、勉強以外の場でも

C：うん勉強以外も

一：その教育っていう面では全部そうなんですか？

C：そうですね、小学校四年生の時に目が悪くなって、そのお母さんとメガネを作りにいittedことがあるんですけど

一：はい

C：そのときは、なんかお父さんがちょっと酔っ払って、殴っちゃってお母さんを

一：えっはい

C：それで、「なんでそんな目を悪くさせたんだ」みたいな

一：えー

C：まあそういうことがありました

一：えー。それはなんか、重いですね

C：うん

付録：Cさん4回目インタビュー

2018/11/18

(雑談：編集の仕事のこと、趣味について)

一：唐突なんですけど、BLのことを…創作とか妄想とかで、男性同士が絡んでいる、こう、かなり親密にしている状態のことを、「ホモ」って呼んだことありますか？

C：あーえっと多分大学のときは、あ、違う、高校か大学のときは呼んでたと思います

一：あ、そうなんですか。それは周りも言ってたからって感じですか？

C：私高校のとき、あの美術部とかやってたんですけど、そこで、なんか周りの人たちが結構言っていて、それにつられてって感じで。伝染してましたね

一：結構なんか高校とか大学とかでそういう言い方流行ってましたよね

C：流行ってましたね。えなんか、多分そんなに周りは悪意なく使ってたし…最近はその言い方っていうこと気を付けるようになってる人多いじゃないですか。でもなんかそのときは全然、そういう、意識、がなかった感じが

一：そうですね

C：うん

一：ご自身はあんまり、これ本当はいけない言葉だよなとかそういう意識はなかったんですか？

C：あ、あ、ありましたね多分

一：あ、本当ですか

C：うん。なんか中学校のときに初めて女の子と付き合ったんですけど、そのあたりからちょっと…なんか大丈夫なのかな？みたいな（笑い）その言葉自体が。思うようになって、うん。なんか周りが使ってるから、なんかわざわざそこに突っ込むのもなーみたいな感じで（笑い）流れるように使ったりとかはありましたけど

一：そうなんですか。なんかこの言葉はあんまり使っちゃいけない言葉だっていうのは

C：うんうんうん

一：どの辺で知ったんですか？

C：なんでだろう？なんか…あの一、結構その、中学校のときにその目覚めてからは一、なんかコミュニティみたいなところに所属してて

一：あ、そうなんですか

C：うん

一：学外というか

C：あ、そうですね。なんか、ネットとかにもそういうのあるし一、大学になってからは、なんかフリーペーパーのサークルでLGBTのフリーペーパーのサークル、に入ったりとかしてたので、うん。なんかそういうところで、みたいな

一：え、フリーペーパーのサークルなんですか？その、なんだろう…Aさんとかが入っているような、完全にLGBT活動をするサークルではなくて

C：えーと、なんか「ガールズラブ」っていう、なんか、あ、大阪…私京都の大学にいたんですけど、そこで大学のサークルみたいな感じでやってて。それは完全にフリーペーパーのサークルでしたね。なんか、うーん、レズビアン、イベントとかがあるじゃないですか。そういうところに取材に行ったりとか

一：へー、面白そう

C：うん。なんか、そこにいるファッション？スナッフみたいな（笑い）そういうのもやったりとか、うん。あとは、そういうサークルっていっぱいあるじゃないですか。その学校までインタビューしに行ったりとか。フリーペーパーで、企業からちょっとだけお金をもらいつつやっていくみたいな

一：へー。え、企業からも協力がもらえたりするんですね

C：あ、そうですね。あのLUSHとか結構協力的で

一：へーそうなんだ

C：はい

一：それは、学内で配ったり？学外でも配ったり

C：あ、そうですね。あーえっとインカレみたいな感じで、いろんな大学がきてるので、うん。置いていただけたところがあれば置きに行くし、みたいな

一：へー面白い。そういうサークルもあるんですね

C: ありますね。なんかちょっとフリーペーパー古い感じ
しますけど

一: そうですか

C: なんか今やるんだったら WEB じゃないかなって

一: あー確かに

C: うん

一: でも逆にその WEB が今盛り上がってるから、逆に
なんだろう、その紙で、物理的な媒体で出版しようって
流行ってるところありますよね。その雑誌関連とか

C: あ、ZINE とかね、ありますよね

一: フリーペーパーに特化したサークルがあるのは知ら
なかったですちょっと。すごい。そのサークルは、なんだ
ろう…その一、レズビアンの方とかバイセクシュアルの
方以外の方もいる感じなんですか？

C: 少なく、私が入ったときは六人くらいしかまずいなく
て、一人くらいかな？なんか全然そういうセクシュアリ
ティじゃない人が一人くらいいたのかな

一: あーそうなんですね

C: うん。こじんまりとした感じで、やってましたね

一: じゃあもうそのサークルに入ってた、あーなんか、
なんだろうセクシュアルマイノリティの人なんだな一み
たいな目線で見られるってことはそんなじゃない？

C: あー、どうなのかなー。まあでも、なんか、周りにま
ずそういうサークルに入ってるってことは言ってなかつ
たし…なんかそういうイベントに行って、ファッション
スナップとかしてたら、なんか基本的には、私もそうい
うセクシュアリティな、のかなって思われるじゃないで
すか。なんだろう、なんかそこはそんなに、周りにも隠し
てたし、周囲からなんか言われるってことは特になかつ
た

一: あーそうなんですね。あの、以前お話聞いたときに、
やっぱりそんなにおおっぴらにはしてなかったっていう
お話だったので、その辺の線引きがどうなっているのか
なってちょっと

C: あーなるほど

一: 気になったので

C: 言っていないです

一: そうなんですね。そっか。じゃあそこまで、そのサー
クルも、学内でも、インカレサークルなので学内での、な
んだろう、知名度というか、こういうサークルがあるん
だって知れ渡っている感じではそんなじゃないんですか？

C: ないですね。なんか Twitter とかでメンバー募集して
たりしてて。そんな…うん、私もなんかそれを見て、やっ
てみようかなって思った感じなので。宣伝とかもしては
なかったですねおおっぴらには、うん

一: じゃあちょっと入りやすいというか

C: そうですね

一: そっか逆に Twitter とかそういう SNS 上だけで…な
んだろう、広報というか勧誘とかをするっていうのは、
そういう良いところもありますね

C: そうだと思いますね。なかなか、ビラとかも受け取り
づらかったりとかする人いますね

一: あー、それはありそう

C: 渡す方も絶対そうだと思うだろうし

一: 別に全然悪いことじゃない、はずだけど

C: そうですね

一: やっぱりこう心理的にありますよね

C: うんうんうん

一: 貰いづらいとか渡しづらいのは。じゃあえっと、話戻
りますけど、そういう「ホモ」みたいな言葉が、なんだろ
う、ちょっと侮蔑的な意味とか、言っちゃ悪いことって
いうのは、そういう中学生、ぐらいのときに関わったコ
ミュニティとかで勉強していったっていう

C: そうですね、自然に、うん。だと思います

一: それはリアルではなくて、ネット上のコミュニ
ティとかですか？

C: ネット上ですね。あんまり…なんか周りにはそういう
ことに敏感な子はいなかったの。まあ先生とかも結構、
まあ割とホモホモ言ってたような気がするんですよ
(笑い)

一: 先生がですか (笑い)

C: そうなんですよ。なんかそんなになんか差別に、敏感

とかはなかったので

一：でも最近ですもんね、なんかそういうの

C：本当最近だと思います。今が転換期っていう感じはありますよね

一：うんうんうん。そうですね。先生も率先して言ってたら生徒は何も思わないですよ、それは

C：思わないですね。田舎とかは特にそうだと思います。田舎出身なので

一：そうですね。都会だとやっぱりまた意識違うんですかね、東京近辺だと

C：そんなにその他者に、関心がないような感じはありませんよね（笑い）

一：確かに（笑い）そうですね

C：高校生とかみても

一：ちなみにあの、不勉強であれなんですけど

C：はい

一：Aさんとかこういうお話をすると、その、まあ「ホモ」っていう言葉も、結構差別的だけど「レズ」って言葉もそうだよってお話が出ますけど、どうですかご自身的には

なんか最初、あの大学に入ってフェミニズムかじりたてのときは、なんか「ピアン」っていう言葉じゃないと嫌だ、嫌だって…その一、まあフリーペーパーのサークルいたときも、みんな「ピアン」って使ってたし、「レズ」って言う人はいなかったですね一人も。この界限に関しても、その言葉は言わないし、ただ最近はなんか、そんなに言葉に敏感にならなくても、その個人としては良いかなって思うんですよ

一：あ、そうなんです

C：うん。なんかそんな…うん、使われても、そんなに、嫌じゃないっていうか、なんか、よく分かってないからただ使ってるだけなんだろうなみたいな（笑い）ことを考えるようにはなってきたのかな

一：まあしょうがないかなっていう感じですかね

C：うん。なんか、そんなに、そこにこだわっても仕方がないというか…うん。まあでもそれで嫌な人は多分い

るんだろうし

一：あー、そうですね

C：思ったりしますね

一：結構なんだろう、百合愛好界限の人たちとか、かなり使うじゃないですか

C：使いますね

一：クレイジーサイコとか

C：うんうんうん

一：おお…って「おお…」って思ったりはする…？

C：確かに確かに…うん。…（笑い）

一：（笑い）しょうがないかって思っちゃうところはあるんですね

C：ありますね

一：ご自身では使わないですか？

C：使わないです。なんか正直「ピアン」って言葉もなんか微妙だなんて思うときもあつ、なんか…結構、人と乖離してるっていうか（笑い）その、そういうセクシュアリティじゃない人は絶対使わないだろうし

一：うーん、確かに

C：って思って。なんか自分でそれを言うのも、なんか、なんですかね？その言葉自体が結構肉体的な感じがするので、割となんか、女の子が好きなんだよねみたいないざかしては言います。自分でそれを自称したりはしないです。普通、普通っていうかなんか、日常生活

一：うんうんうん、なんか直接的というか

C：そうなんです

一：確かに一。難しいですね。ここからはこの、周りの人たちのことについてお話して頂ければと思うんですけど。えっと、さっき言ってたその、中学時代のコミュニティっていうのは、そのなんでしょう、レズビアンの方とか女性の方が多いコミュニティだったんですか？男性もいたんですか？

C：男性はそんないなかったですね

一：あ、そうなんです

C：うん、女の人ばかりだった気がする

一：そうなんです。やっぱりそういう、女の人が多いと

いうか女の人がいるところを選んでいった感じなんですか？

C: それはあると思います。女子大にしましたしね

一: じゃあなんだろう、その一、ゲイの男性とかバイセクシュアルの男性とかはどう、今まで交流した経験とかっていうのはそんなにはないですか？

C: うーん。なんか二丁目に行って、なんか誰でも OK みたいなのところに行って、ちょっと話すくらいですかね、ほとんどないです多分

一: そうですよ。大学も女子大だと、そういう友達はできたりしないですよ

C: ないですね。大学までかなり男性嫌悪気味だったので
一: そうですよー

C: あんまり近づきたくなかったです

一: そうですよ。え、じゃあ二丁目でそういう人とちょっと話してみようって思ったのは何がきっかけだったんですか？

C: あれは、なんかあの一、同じように女の子が好きな子と、一緒に、なんだっけ、なんかゲイバーに行こうみたいな行ってみようみたいな話になって、その時にいた人、なんかノリで行ってみた感じですね (笑い)

一: なんだろう、その、普通に、普通のって良くないな、あの異性愛の男性と、そういうゲイバーにいる男性ってやっぱり、なんだろう、接してみても違うところってありました？

C: うーん、まあ見た目も違うし、喋り方…なんですかね
結構中性的な印象は受けましたけどね

一: そうなんですね

C: あんまりその一、なんかぐいぐいとか来ないし (笑い)

一: あー (笑い) 話しやすいとか

C: 話しやすいですね

一: あーそうなんですね

C: うんうんうん。なんか女性と話してるような感じではないんですけど、なんだろうなんか大学の教授と喋ってるような、まあそれはその人限定かもしれないけど (笑い)

一: あー

C: なんかこう色々考えてこられた人なのかなとか思ったり

一: なるほど

C: 結構、つつこんだ話もしたので

一: あー、そうなんですね。さっき男性嫌悪みたいなのところがあるっておっしゃってた、じゃないですか。そういうゲイバーの方と喋ってるときに、「あ、怖」って思ったときとかはない、ですか？

C: いや、全然ないです (笑い) なんか二人とも、ま男性が好き、二人、二人いたんですけどそこに、二人とも男性が好きな男性だったので、それがなんか分かっていると、安心するっていうか

一: あー、確かに安心感はあるそうですね。絶対ぐいぐい来ないの分かっていると

C: 喋り方もなんかそういう、中性的な感じだし。なんかその辺歩いてる男性とは明らかに違いましたね

一: あー、なるほど、そっか。ちなみに、男性のどういところが苦手ですか？ 苦手でしたか？

C: あー、なんだろう…あ結局父親に起因するんですけど。まあなんかお母さんに対して結構物言いがきつかったりとか、する、ところで…なんか女の子だから、そんなに、あの一私結構浪人したかったんですけど、浪人とかしなくて、いいみたいな (笑い) お金は出せないからとか、そういう感じだったしー、うん。で、お父さんから結構、そういうの、締め付けられたっていうか。あと学校も結構…山口って割とどー…なんだろう、なんか例えば生徒会長が男性で副生徒会長が女性みたいな、決まりなんですよ (笑い)

一: え、決まり、決まってるんですか？

C: 決まってる、なぜか。でその、生徒会長だけでなく、クラスにもあるじゃないですか、委員長みたいな、それも男性だったりとかして

一: あーなんか、委員長と副委員長どっちかを女性に、男女にきなさいとかそういうわけじゃなくてもう

C: もう決まっちゃったね

一：こっちが男性って決まってるんだ、へー

C：そういう風土なのかもしれないけど。ほとんど働いてる女性はいなかったし

一：あーそうなんですね

C：まあ時代かもしれないですけど。なんかそういうところで、あんまり、女の人が前に出ちゃいけないんだろうな一みたいな。それで、なんでなんだろうって思い始めて、フェミニズムにあって、なんか、男の、人を、極度に嫌うようになってしまって一時期は。なんかフェミニズムって結構、攻撃的なところあるじゃないですか性質的に。それを一気に受けてしまうと、なんかそれが…なんか…宗教みたいに思えちゃうっていうか（笑い） うん。それでなんか、一気に、その、フェミニズムに反する男性を嫌いになってしまったりとかして…うん。って感じですね

一：そうなんですね、そうなんだ。結局お父さんに戻ってくるんですね

C：お父さんはそうだと思います

一：うんうんうん。でも、一番近いじゃないですか家族って、その影響はやっぱりでかいですよ

C：でかいですね

一：学校の環境もそうだったっていうのはあるかもしれないですけど。そっかー。ここではその、なんだろう、セクシュアルマイノリティの男性っていうのは、そこまでは交流はないけれども、ま、なんだろう、ゲイバーみたいなところには行ったり、二丁目で出会ったりみたいなことが若干ある

C：ありましたね

一：みたいな感じですかね。そういう、その、そのなんだろう、男性であるその人たちと、女性である自分たちって、なんだろう、どのぐらいの距離感でいると思いますか？なんだろうな、最近だと LGBT っていつてくくられがちなところあるじゃないですか。くくって、まあみんな同じものだよみたいな形にされてるところありますけど…そこまで同じってわけじゃ絶対ないじゃないですか。その辺のくくられ方とかってどう思ってますか

C：うーん。そうですね。まなんか、電通とかが示すよう

な LGBT はまず論外として（笑い）。でもまあ便利な言葉だとは思います

一：うーん、そうですね

C：その…そうじゃない人たちが、くるのには便利な言葉で、多様…なんかそれを使うと…うん…なんか結構良いことをしてる感あるじゃないですか（笑い）

一：そうですね（笑い）

C：周りが使うと。それで使ってたんだろうなと思いますね。なんか自分、からみたらあんまり使わないっていうか、その、そういうセクシュアリティの人は、あんまり好まない言葉だから、あえて使う必要もないかなって。でもそれにかわる言葉がないから（笑い）

一：そうですね。なんか色々今出てきてますけど、やっぱり、なんだろう、使いづらかったりとか

C：使いづらいですね

一：浸透しなかったりとかありますよね

C：あの、双葉社で、発行してる、あの本で、「弟の夫」ってやつがあるんですけど

一：あ、はいはい、読みました

C：あれも、なんか編集者が LGBT を帯に使おうとしたら、やめてくれて言われたらしいですけど。だから、そんなに、多用は…なんていうんですかね、ああいうコンテンツとかを発信するときに、多用は控えた方がいいかなって考えるかな

一：そうですね。今後お仕事を、そういう機会があったら、絶対使わない？

C：使わないと思います。なんかそれで結構手に取らない人もいると思うんですよ。あ、こんな…なんか…うーん…みたいな感じになる人もいると思うし。誰に向けた本かは分かんないんですけど

一：そういう文字が書いてあると、当事者の人たちにとっては逆に、本を手に取りづらいというか、受け入れづらい

C：受け入れづらくないと思います。まそれが企業とか、なんか学校の先生とかに向けて書かれた本とかだったら、まだありかもしんないんですけど

一：確かに。難しいな

C：ま、手に取りやすく感じる人もいないですか

一：はいはい、そうですね、「あ、流行ってるやつだ」って

C：流行ってるし、なんかどういう本なんだろうって興味持つかもしれないし。そこをなんか、あえて「セクシュアルマイノリティ」とか書いたらすごく重い本なのかなとか、そういう印象も受けてしまうと思うので。使いどころによって使い分けるべきみたいな（笑い）感じですかね

一：Cさんにとって、そのなんだろう、同じ、女性の人たちと…セクシュアルマイノリティの男性の人たちっていったら、どっちのほうが距離感的に近いなっていう風に感じますか？

C：あー…えっと、私前なんて言ったか分かんないんですけど、なんか最近私男の人と付き合っていて

一：え、そうなんですか

C：そうなんです

一：前回なんか、婚活してるって話を、頑張って婚活を無理やりしているって話をきいてたんですけど

C：えでもなんか、三月くらいから付き合ってるうん…なんかそれで、なんか、セクシュアリティが自分がどういうものなのか分からないんですけど。初めて好きになったレベルでだと思います

一：え、そうなんですか

C：半年なんですよ

一：おめでとうございます

C：（笑い）おめでとうなのか分からないですけど。なの

で…うーん。そうですね、最近そのマイノリティ側にいるっていう意識がまったくなくて

一：あ、そうなんですね

C：それで。なので一般の女性の方が近いかなとは思いますが、うん

一：そっか。えー、じゃああんまり、自分自身が、もう女の子しか好きじゃないっていう感じではないんですね

C：そういう風には…思わないですね

一：えー、なんか、恋バナ的なやつしてもいいですか（笑い）

C：いいですよ（笑い）

（中略）

一：え、じゃあ初めて好きになった人なんですか？

C：本当そうなんです。だから、なんか、それ、結構流動的なものなのか分かんない、なーって思いながら

一：うーん、確かに。その人はもう全然、女性蔑視的なところもなく？

C：うん、ないと思います。まあまだ分かってないだけかもしれない

一：嫌だなーなんか。へー。お仕事関係で出会ったり？

C：あれは、なんかゴールデン街の、月に吠えるっていうバーがあるんですけど、そこにたまに行ってて、そこで会いました。向こうも百合が好きなので

一：あ、そうなんですね

C：そうなんです。なのでね、なんかそんな、オラついたタイプじゃなくて

（以下雑談）

付録：Eさん1回目インタビュー

2016/09/23

(雑談：サークル・大学での研究について)

—：えっと、BLはどのぐらい読んで、いつから読んでるんですか？BL歴みたいな

E：中学校2か3ぐらい。2…か3…

—：1…10、10年11年ぐらいですか

E：うんうん

—：うーん。え、でもBLは好きで読んでるんですよね？

E：うん

—：一応確認しておこうかなと思って

E：好きで読む以外に何があるんだろう(笑い)

—：普通にこう、読書として。別に特に好きじゃないけど読む、みたいな

E：ああ

—：感じの人もいるのかなって

E：ああこういうのもあり、みたいな。うん

—：じゃあ腐女子っていう自認はある？

E：うん。好き好んで読んでる。うん

—：じゃあ自分で腐女子って言う？自分の事

E：うん。言う

—：うんうん。えーじゃあなんか、よく読むそのBLの媒体、は偏ってたりします？

E：媒体…

—：なんか漫画ばっか読むとか。小説読まないわーとか

R：小説か漫画かだったら漫画が圧倒的に多いかな

—：あー。それは紙？Web？

E：紙…紙よりもWebがちょっと多いくらい

—：うーん、Webだとなんかそういう、なんだろう、Webコミみたいな感じで読むのか、Pixivなのか

E：あ、Pixiv多い、Pixiv多い。Pixivと、あと個人サイト

—：あーうんうん

E：個人サイトは結構好きなの何個か持ってる

—：あ、そうなんですな

E：持ってるっていうか、なんか

—：ブックマ

E：ブックマしてある

—：全体的にその、漫画とか小説とかWebとか紙媒体とか含めて、商業一次と二次創作はどっちが多いですか？

E：あー

—：半々ぐらい？

E：うーん。半々ぐらいかな。あんまりなんか、意識して、これ一次だから二次だからってのは読まないかな

—：あー。じゃあ自分で買って持ってるのはどっちが多いですか？

E：買って持ってるのは一、買って持ってるのは一次が多い。二次は、やっぱWebかな。で読む。個人サイトさんとか。あのランキングで、検索して

—：うんうんうん

E：なんちゃら同盟みたいなので

—：なんちゃらサーチとかで

E：そうそうそう

—：じゃあ別にその、なんか二次も紙で、紙でっていうかその現物が欲しいってわけじゃない？

E：うん。現物、現物はやっぱりね、なんか学生の頃？学生の頃、中高ぐらいのときはさ、あれじゃん？親の、親元だからさ

—：うんうん

E：あんまり増やせないじゃん。その習慣からかな

—：別に現物を欲しいってのはなんない感じに、今までなくて

E：そうそうそう

—：あーそっかそっか

E：まあ読み返せばいいかなってまあ、思うから。それはWebでもできるし

—：うんうん

E：紙で持つとく必要ないかな、って感じ

—：じゃあ別にその、現物にこだわりがあるわけじゃないんですね？

E：うん。まあそれでも高校のときも何冊か買ったけどね、

こっそり

一：こっそり？

E：こっそりね

一：え、その薄い、薄い系？商業じゃなくて

E：商業系

一：ふーん

E：だったなあ。小説と何冊かと、漫画何冊かと買って

一：うんうん

E：本棚の一番下の段の一番奥に。壁沿いにこうやって

一：うんうんうん

E：置いといた

一：隠して？

E：うん

一：一番最初にハマったのはなんだったんですか？ハマったきっかけみたいな

E：ハマったきっかけ？なんか何回か話してると思うけど、『ダ・ヴィンチ』の特集をお父さんが買ってきたのが、運の尽きで。話す、話さなかったっけ？

一：それ初めて聞いたかもしれないです

E：あ、本当に？なんか、その、「何で好きになったの？」ってかよく聞かれるんだけど、実はお父さんのせいで。なんか私が読書すきって言ってたから、なんかお父さん、なんか毎月ダヴィンチを、なんかもう発売日にコンビニ行って買って、Eの元に届けてくれてたの

一：へー。めっちゃ良いですね

E：そう。ま、それで、ある月に、なんかまあそういう特集があって

一：うんうん

E：なんか、BLの世界みたいな。よしながふみがどーちゃらこーちゃらとか

一：あーうんうん

E：『トーマの心臓』とか。色々特集されてて、なんじゃこりやって思ったのがきっかけで。んで、そこに紹介されてた、えっとね、思い出せないや。なんか、あのね、なんだっけ。刑務所のやつ、刑務所のやつ

一：刑務所のやつ？

E：小説なんだけど、なんか

一：漫画ですよね？

E：いや、小説

一：小説？あそっか小説って今言いましたね

E：うん。えーつとね、なんて調べ…なんて調べればいい…なんかキャラの名前しか出てこない

一：なんてキャラですか？

E：ディック。なんか結構

（ネットで検索する）

一：『デッドロック』？

E：あ、それ。良く分かったね

一：やったー

E：よく出てくるな

一：出てきた出てきた

E：出てきた？

一：あ、これ読もうと思ってたやつだ

E：あ、本当に？

一：読もう

E：それを

一：うん

E：買って…買った。んで、ふあーってなって、で、それは、ま小説だし、なんか見つかったてもじっくり読まれなきや分からない、かなと思って

一：あ、そうですね。表紙も別にそんな

E：表紙もなんか、ね

一：こんなですもんね（検索結果画面見せながら）

E：そうそう。なんか、ハー、ハードボイルド系なのかな、ぐらい。だから、普通に、この表紙なら買えるなって思っ
て買って、置いといて。でも、なんか漫画とかも読みたいけど、ちょっと買うのは、厳しそうだと思って。んで、どうしようどうしようなってたら、なんか、結構ネットでもあるぞってなって、そっちの方面に行った

一：あーなるほど。最初に、その『ダ・ヴィンチ』で特集読んだときに、ぐってきたんですよ、多分

E：ぐってきたね、多分

一：なんか元々そういうのに興味があったとかじゃなく

て？

E：うーん

一：いきなりそれ（ダ・ヴィンチ）読んで、「えっこれ面白そう」ってなったの？

E：なった、うん

一：うーん。それまでは普通に少女漫画とか読んでたんですよ？

E：うん。少女漫画普通に読んでた

一：少女漫画とか、あと普通に小説とか

E：うん。あーでも、『カードキャプターさくら』の桃矢と雪兎の、には、なんの偏見もなくいけたから、最初から偏見はなかったんだと思う

一：うんうん。別にうわっとかは

E：嫌悪感はなかった、うわってはなってなかった、けど、なんかさ、さくら読んでる時点でさ、そういう世界があるとは思ってなかったから

一：うんうん

E：うんうんなんか、「あ、なんか、まあ世の中にはこういう人もいるんだよね」で終わってたから、そういうなんか、趣味のジャンルがあるっていう感じにいかなくて、でも多分、雪兎と桃矢の関係性にはいいなって、心の中では思ってた。で、その、お父さんが買ってきたダヴィンチで、なんか「あっこういうのを、なんか好き好んでいる人たちがいるんだ」みたいな。好き好んでというか。しかもなんかこういうの、がもう、世の中に用意されてるんだって

一：ああそういうのが結構主軸におかれたやつが

E：ことに気づいちゃった、うん

一：あるんだって

E：あるんだって気づいちゃった。でしょうね、うん多分

一：で、読みやすそうなやつから、読みやすそうっていうか買いやすそうなやつから買って読んでみよう、みたいな

E：うんうん

一：じゃあ最初が二次創作から、同人からハマったとかいうわけじゃなくて

E：うん

一：そこが本当に最初で

E：うん、そう

一：周りの友達に、そういうの好きな人たちはいなかったんですか？

E：あーそう、周りの友達に、あそう、なんかねー、一人で買いに行くのはちょっと怖かったから

一：うん

E：怖かったっていうか、なんだろう、ガチっぽいじゃん？なんか

一：玄人みたいな感じしますよね

E：うん、だから、家に遊びに来た友達に、その『ダ・ヴィンチ』の特集を見せて

一：うんうん

E：そうなんか、「こういう特集があったんだよね」みたいな話をして。そしたら、なんかいつも遊んでる、二、三人友達が「へー面白そう」ぐらいには食いついてきてくれて

一：へー、あ、その子たちはもう、なんか元々本の趣味とかも合うような友達？

E：そうそうそう。本の貸し借りとかはしてたから

一：あ、そうなんですか

E：漫画とか。「へー面白そう」みたいに言って、「なんか一個買ってみる？」みたいな感じになって、一緒に本屋さん行ってそれを買った

一：あー、そうなんだ

E：そうそう。で私がそれを取りあえず読んで、「え、結構やばかった」みたいな感じで。なんか、「え、読む？」みたいな感じで貸して

一：え、やばかったっていうのは面白かったの方？それとも、描写が

E：なんか、結構、なんかディープだった。えなんか「いやいやで終わり、みたいじゃなかったよ」みたいな。びっくりした、みたいな感じで。なんか私も、他の人の反応がこれからどうなるか分かんないから。なんか、「えーめっちゃ良かった」って感じでは貸さずに、なんか「え、

やばいやばい」みたいな、「こういう世界もあるんだね」みたいな、感じでとりあえず回して、んで一、なんかもう仲間内三人で「うわー、うける」みたいな感じになって。で、「続編も買うか」みたいな感じになって、続編も買った

一：Eさんが？

E：そう。んでなんか、でも、結構友達はあるのかその、続編二冊目ぐらいで飽きはじめて。んで、「あー飽きるんだ」みたいに思いながら、私は普通に、なんだろう、その子たちには、なんか一過性の盛り上がりだった、って仲間内ではなってたけど、私はそのまま、どっぷりって感じ

一：あー

E：うん

一：その後は、なんかネットでそういうの検索したりとか

E：そうそうそう

一：したりとかして

E：そうそうそう、それで友達が結構飽きたっていうのが強かったかも。続きが買え、続きっていうか現物で揃える方向にかなかったのは。貸し借りしなくてもいいじゃん。なんか、あの、貸し借りしなくてよかったら現物いらないじゃんなんか

一：うんうんうん

E：うん

一：それはなんか一人で買いに行かなきゃならなかったから、っていうのもある？

E：そうそうそう。なかなか一人で本屋さんに行く機会がなくて、中学校の頃とかだったら。中学校って、その、ま、地元歩いていける距離に、本屋さんがしょぼいやつしかなくて、なんか駄菓子屋さんみたいな規模の

一：うんうんうん。個人でやってるちっちゃい

E：そうそうそう。しかなくて。そこでさ、そういう本買うのってさ、地域に知れ渡りそうで嫌だし。で、本買いに行くっていったら友達と遊びに、なんか三十分ぐらいかけて電車で行ったときとか、お父さんお母さんと一緒に行くときとかしかなくて、そこで友達に隠して、親

に隠して、買うのはちょっと厳しいかなってなって、そうなった

一：うんうん

E：うん。一人で電車に乗って本買いにはあんま行かないから

一：あーそっかそっか、中学生？

E：そうそう

一：結構なんか電車乗って何十分とかかかるような距離なんですか？

E：うん。電車乗って十五分ぐらいかな？電車乗って十五分でそこから歩くから

一：あーそっか、そうするとアレですね

E：うん

一：友達と喋りながらとか親に連れてってもらって感じですね

E：そうそうそう。それで中学校時代って感じかな

一：うんうん。中学時代はなんか周りに、その一緒に読んでた友達以外に、ちゃんと腐女子みたいな人たちとかいなかったんですか？

E：いなかったと思う、多分。いなかったってか多分、公にしてなかったんじゃないかな？

一：あーじゃあもう気付かなかった？

E：うん、なんか、うーん。なんか、なんだろうな、うちの地元は、あれだから。なんか、ヤンキー系が。ヤンキーギャル系がほとんどで

一：うん、秋田ですよね？

E：そうそう。秋田の片田舎なんだけど、ヤンキーギャル系が八割占めてて

一：結構クラス数少ない感じだったんですか？

E：二クラス

一：二クラスなんだ

E：二クラスで、一学年47人だった

一：え、少ない

E：少ない

一：で、その八割方がヤンキーギャル系だったんだ

E：そうそう

一：ストリート系の学校みたいな

E：ね。妹のクラスとか、妹の学年ね、39 人だったから一クラスだった。クラス替え九年間なし。めっちゃかわいそう

一：九年間。小学校からずっと持ち上がりなんだ？

E：うん。そうそう

一：学区も全然変わらないんだ

E：変わらない、小中で。保育園小中でずっと一緒だから。ね、町に一つある小学校にみんな通ってるって感じ。んで、八割がたギャルで、女子は八割がたギャルで、残りの二割が普通に普通に勉強する、勉強して普通に悪いことはしない子たち、校則守りますみたいな子たち。で、その中に私がいて。なんか、クラスに一人二人ぐらい本当に、なんか根暗みたいなの、なんか学校あんまり来れないみたいな子がいて。学校にあんまり来れない子は、なんか趣味とかを、さ、人に言えないから、分かんないけど。多分その子はジャニオタだったな、うん。ジャニオタだった、うん

一：その二割の中は、E さんの入ってた二割の中にはそういう感じの子はいなかった？

E：うん。なんか普通に普通の女の子みたいなの

一：うーん

E：かな？

一：で、中学の頃はそんな感じで、最初にハマった小説読んだり、後は全部 Web で個人サイトとかみたり

E：うん

一：それは二次も含むって感じですよね？

E：うん、うん、せやな。二次も含む

一：二次読み始めたのは、何、なんか元々ハマってた少年漫画の、とか読んでたんですか？

E：何、何が、二次は、うーん、何が一番最初だろ？

一：ハマってないけど、とりあえずいい感じのキャラを読んでた？

E：あー

一：なに読んでたか覚えてます？当時。そこまで重要じゃないけど

E：でもね、『Holic』か『ツバサ』だと思う。そこあたりだと思う

一：CLAMP あたりのを読んだ？

E：うん、うん、うん。あ、あとあれだ、あーでもそれ高校かな？あれ、『戯言』シリーズ

一：あー

E：は、結構早い段階からだった気がする

一：うんうんうん。でも、あんまりこうなんかジャンプ系に

E：あうん

一：ハマったりとかはしてないですね

E：そうなんかね、なんかね、いかにもなのは好きじゃないの

一：少年漫画読んでました？中高時代

E：少年漫画は『ツバサ』『Holic』読んでたのぐらい、あ、あとねー『ゼロサム』が好き

一：少年漫画、あー

E：『ツバサ』は少年漫画じゃない？『マガジン』

一：『ツバサ』はそうですね

E：『Holic』はどうなんでしょうね？青年？

一：『Holic』も多分青年？

E：青年か

一：『ゼロサム』も青年かな？

E：青年か、うん。じゃあ違うわ。ジャンプ系ハマらないんだよね私

一：あ、そうなんだ

E：『銀魂』とかそういうことっしょ？

一：『銀魂』とか、今だとあれですね、なんだっけ『ハイキュー』とか

E：『ハイキュー』はね、『ハイキュー』は好き

一：『ハイキュー』は好き

E：『ハイキュー』マガジン？あ、違うかジャンプか

一：ジャンプ

E：うん。で、ジャンプとマガジンどっちかっていうとマガジン派で。ダイヤのエースはハマった。でもそれも、マガジンだからとかそういうわけじゃないから。そう、そ

うだな

一：えーなんか、周りに、中学の話ですけど、そのなんか、いかにも女オタクみたいな子もいなかった？ジャンプめっちゃ読む、みたな

E：あのね、あー。いた、けど転校した、うん。なんかねーミスフルってジャンプ？『ミスターフルスイング』

一：あ、えー？あれは、なんだろう。あれ読んでたんですか？

E：『ミスフル』、『ナルト』、『銀魂』とかそこらへんがめっちゃ好きな子たちが、女の子が二人いたんだけど、二人とも転校したわ。こう、ね

一：それは別に、あれですよ、そういうやつじゃないですよ？

E：そういうやつ？

一：なんか、それによっていじめが起こり、みたいなそういうやつではなくて？

E：ああうん、ではない。でもいじめによる転校っていうのは、ある。そこも話すと闇が深いけど

一：別になんか、そのオタク趣味的なのが原因ってわけじゃないの？

E：うん、うん。ではない

一：じゃあなんかその、オタクとかそういうのを、迫害する雰囲気があったわけじゃない？

E：うん、そうではないと思う

一：え、じゃあなんで E さんは、そのなんだろう、最初に BL とかハマった時に

E：うん

一：これなんか隠さなきゃいけないみたいな、周りのこういう反応、ちゃんと読んで、みたいに思ったのかなって

E：うーん、なんだろう、やっぱりなんか、『ダ・ヴィンチ』の特集みてても、一般的な趣味、一般的に認知されてるわけではないんだろうなっていうのが分かる書き方だっと思う

一：あーなんかこういう人、こういうのが好きな人たちがいるんですよみたいな？

E：そうそう一部の女子の間で、みたいな、話題みたいな。

まあなんか、あと、まー、自分もさなんかさ、小説読んでてキャラ読みとかする人があんまり好きじゃなかったから。なんかそれと同じ感覚なのかなっていうのはある

一：キャラ読みっていうと、「あ、このキャラかわいい」ってやるやつですよ？

E：そうそうそう

一：このキャラが好きで読んでるってやつですよ？

E：そうなんか『テニプリ』を好きなのか、跡部様が好きなのか？みたいな、そんな感じ。なんかそういう読み方されると嫌だなんて思う時もあるっていうのは分かってたから。なんかその、キャラに主軸をおいて読む人が嫌な人もいれば、なんかその、組み合わせ？交友関係に主軸をおいて読む人が嫌な人もいるだろうなって思っ

ストーリー、ストーリー性を楽しんでほしいって思う人もあるかなって思うから。あーでも、そうだな、それも、多分ちょっとあったんだろうけどやっぱりなんか、やっぱり一般的に知られてないからかな？なんかあの、本が好きとか、小説が好き、スポーツ漫画が好きとかとは違ってたってのはなんとなく分かってたと思う

一：うんうんうん

E：一般的な趣味

一：さっきのキャラ読みとかカップリング読みが

E：うん

一：良くないっていうのは分かってたっていうのは、まあ二次だったら分かるけど

E：あーまあ確かに

一：一次だったら、一次でもやっぱ『ダ・ヴィンチ』の書き方的に、ちょっとなんか、その BL 全般はそういう風な感じのコンテンツなのかなっていう風に思った？

E：うん。そうだね、なんかオープンになろうって感じではなかった

(一時中断)

一：…その時はもう、一緒に買った友達以外には誰にも言っていなかったの？親とか

E：うん

一：兄弟とか

E：うん。妹には言ったかも
一：妹さん何個下でしたっけ？
E：二
一：あ、二個下なんだ
E：うん
一：あ、ちょうど同い年ぐらい
E：うん、そうだね。(LINEの通知が鳴る) なんだよー。
なんか妹にはバレたっていうか
一：うん、部屋一緒だったの？
E：ううん。でもやっぱりその問題の『ダ・ヴィンチ』が
家にあるから
一：あーそっか
E：妹も読んで、「お姉ちゃんこれ見た」みたいな感じ。
で、「あーみたみた」みたいな。なんか妹も若干興味はあ
ったらしくて、なんか「お姉ちゃんこういうの好きそう
だと思った」とか言われて、なんか「はあ」って「ああ、
そうだよ、そうだね」みたいな感じになって。なんか、貸
したのかな？ なんか漫画を
一：あ、そのとき漫画もってたの？
E：漫画、うんなんかね結構、結構経ってからだった気がする
一：あ、その『ダ・ヴィンチ』バレたのが？
E：そうそうそう
一：高校ぐらい？
E：うん。んで、なに読ませたんだっけ？ あー、多分一番
最初に買った漫画だな。なんか小説よりは漫画が良いっ
て言ったから、漫画を貸して。そしたら妹は「いや、違っ
たわ」って
一：ハマんなかったんだ？
E：ハマんなかった
一：あ、そうだ。『ダ・ヴィンチ』買ってきたのお父さん
なんですよー
E：そうそう
一：お父さんは、えだって特集が組んであったら、特集っ
て本誌があってこのへん(表紙)にばーんって書いてあ
るじゃないですか

E：うん
一：何も思わないで買ったのかな？
E：あ、多分毎月買ってるから、なんかその号だから買わ
ないっていう選択肢はなかったんじゃない？ お父さんの
中で
一：あー、なんか「今月こういう特集だけどまあ買うか」
みたいな感じだったのかな？
E：うん
一：別に渡されたときに何か一言あったりとかはなかつ
た？
E：なかった。なんかあれってさ新刊本とか全部載ってる
から
一：ああそうですね
E：そうそう。あれを私が毎月これは買うこれは買わない
ってチェックしてるのを知ってたから
一：あーそうなんだ
E：そうそうそう
一：すごいですね。なんか毎月めっちゃ本買ってたんだ
E：毎月めっちゃ本買ってた、その時期は
一：漫画小説問わず買ってたの？
E：そう
一：へー、すごい
E：これは面白そう、面白くなさそうみたいな
一：うーん。なんか親からその、なんか、ちっちゃい頃か
ら本いっぱい読みなさいみたいな教育とかあったんです
か？ 自発的に読んだの？
な E：んか家に元々本はいっぱいあって。おじいちゃん
もお父さんも本読む人だったからなんか、なんだろう、
小川未明全集みたいなのが家にいっぱい、芥川龍之
介全集短編集みたいな
一：うんうん
E：のがいっぱいあって元々本読んで、んで親も本読み
たいって言ったら買ってくれる人だったから。そうそう
そう。なんか、あれなんだよね、なんか「ゲーム欲しい」
「だめ」「本、じゃあ本欲しい」「いいよ」って。なるから、
そうそう

一：それは漫画じゃなくて小説ってことですよね？

E：そうそう。だから、まあ買ってもらえないよりは、なんか楽しいものを、まあゲームだったら買ってもらえない、本だったら買ってもらえる、じゃあ本にしようっていう感じになっていったのはあると思う

一：うーん。漫画もやっぱ「だめ」って？

E：漫画も中学校になるまでだめだった

一：自分で買うのもだめだったの？

E：うん、自分で買うのもだめだった

一：あーそうなんだ。え、じゃあ『ちゃお』とかも買っていなかったんですか？

E：あ、『なかよし』を小学六年生ぐらいになってやっと買ってもらえるようになって、ぐらいかな？

一：そうなんだ。じゃあそれまでは、「ゲーム、ゲーム買って」「だめ」「漫画」「だめ」「本」「いいよ」

E：うん。中学校、高校なるまでお小遣い制じゃなくてそもそも

一：あーなるほど

E：うん。なんか服とかも文房具とかも、「まあ必要なんだったら買うよ」みたいな感じだった

一：あそっかそっか

E：うん

一：だからその中学で初めて買ったのも、中学で初めて買ったのが小説だったのもそこがちょっとあるんですか？

E：うん多分

一：漫画にはお金使えない

E：うんそうだね。それもお小遣いもらってないから、うん、なんだろう、そうそうそうなんかその、なんだろう「本屋さんがある駅まで電車で遊びに行くよ」ってお母さんに言うと、その時に電車賃とちょっと遊べるくらいのお金を渡してくれるっていう感じなんだよ。なんか、お小遣いないから。秋田市行くよって言ったら秋田市に行くだけのお金と、秋田市に行くんであればこのぐらいは使うんだろうなっていうお金を渡してくれるっていうだけだから。その中から、お昼代は取っという買い物代

が何円って、千円ぐらいかな、残って。千円、その千円ぐらいの中でちっちゃいお買い物をして帰ってくるみたいな感じだったから。そのお金で買った感じかな。だからそんなに一気にはいっぱい買えないし、うん、って感じだった。他の本はお母さん全部買ってくれるから

一：あー別にこの本を買いに行くよとか、そこまでの詳しい説明はしなくて良かった？

E：そうそうそう

一：これ買ってきたよとか

E：そうそうそう。その都市の名前が本荘なんだけどよく遊びに行く、「本荘行ってくる」って言ったら、まあ本荘ならこのくらいかなっていうのを渡してくれる。ってだけ。遊びの内容も、カラオケは禁止だったけど、ただファミレスでくっちゃべるのもよし、公園に行くのもよしって感じだったから。そこは帰ってきてから「今日何して遊んだの？」って訊かれるぐらい

一：うーん。割となんだろう、過保護、とまではいかないけど

E：うん、過保護結構うん

一：カラオケもダメなんでもんね、中学生でしょ？

E：そう。なんかカラオケは子供だけで元々カラオケは行っちゃいけませんっていうのが中学校の校則であって、謎に。でも高校のときもだめって言われてたから

一：親から？

E：そうそう。カラオケはね、なんか飲酒とか喫煙の温床なんだって、知らんけど

一：あーでもその

E：まあ分かる

一：時代的にってのはありますよね、親御さんの

E：うん、わかるわかる。まあ内緒で行ってたけど、高校のときは

一：高校からはだってお小遣い制になったんでもんね

E：うんそうそう。ぐらいかな

一：じゃあ高校になってからは、そういうの買えるようになった？

E：そうそう、だから高校、高校ってから漫画とか買い

でした。自分のお金で買いたしたのは高校からかな

一：普通の漫画もってことですね？

E：うん普通の漫画も

一：え、『CC さくら』とかは借りて読んでたの？

E：あ、『さくら』はね、お母さんが買ってくれた

一：へー

E：中学校になって、あれ NHK でやってたじゃん、さくら。

だからお母さんはなんか、CLAMP になんか、全信頼を置いてるらしくて、なんだろう

一：お母さんも好きなんですか？

E：うんうんうん。好き？うん、嫌いではないと思う

一：一緒に読んだりとかしたんですか？

E：うん貸したりしてた

一：あそうなんだ

E：なんかさくらは、なんかビデオとかもゲオで借りてきてくれたりしてたし。で、なんか、ずっとずっと漫画欲しいって言ってて、なんか「漫画買ってよー」みたいなこと言ってたんだけど、なんかある日突然中古で 12 冊全部そろえて買ってきて。多分揃ってるの見たからなんだろうね。あるわ、みたいな感じで買ってきて。まあ中古だったけどそれが初めて買ってもらった漫画だった。わーいつつて

一：そっか。え、お母さんも読んでたってことは、やっぱなんかその、トウヤくんとあれとか、E さんが読んでたその『ダ・ヴィンチ』の存在も知ってるし、お母さん側からおやおや、みたいなことはなかったんですか？

E：おやおやはね、一回ね、バレたんだよね

一：いつ頃？

E：あー、中学校ぐらいのときかな？

一：それはあれですね、小説買ったぐらいのときですか？

E：うん。んで携帯でそういうサイトを開いたまま寝て、朝、多分寝落ちたんでしょね、読んで寝落ちて、で朝お母さんが起こしに来て、「なんだこれは」みたいな。朝から結構修羅場

一：えー

E：でとりあえず、なんか、その画面移動されちゃうと困るから…あでも違うなそれ高校か。携帯持ってたの高校だわ。高校だわ、うん

一：中学は別にバレずに？

E：うん、多分

一：普通にダヴィンチで特集読んでても、別に何も言われず？

E：うん、いやまあまさか娘がハマるとも思わないでしょきっと、うん

一：え、で、高校

E：高校のときに、多分、んでバレて、なんか朝から修羅場で。いつも携帯高校に持って行ってたんだけど、なんか「いやとりあえず今日一日預かるわ」みたいな感じで。うん。しかもね、うん。あれだったんだよね、こう、うん、ピュアな感じじゃない

一：ちょっとなんか、エロいシーンもある、みたいな？

E：うん、そうそう。小説だったんだけど、「なんちやらくん、ハァハァ…」みたいな、場面。んで、うん。確かおお振りだったなあ

一：でも、読んだまま寝落ちしちゃったんだ

E：それで、お父さんとお母さんに怒られ。まあでも怒られ方、なんで怒ったんだろうね、あーまあでも

一：どの部分に怒ったんだろう？

E：うん、でもまあ多分やっぱりあれじゃない？ピュアピュアじゃなさじゃない？ピュアじゃなさ

一：あー、BL かどうかっていうよりかは、ピュアじゃなさ？

E：うん

一：BL っていうのも含めてピュアじゃなさなのかな？

E：分かんない。なんか怒られたときのセリフとしては、「こんな変なもの読んで」みたいな

一：覚えてたんだ

E：うん、「こんな変なもの読んで、勉強もしないで」みたいな

一：あー

E：なんか「携帯開いたまま寝てたっていうことは夜、ベ

ッドの中で夜更かししてたんでしょ」みたいな感じの怒られ方だった

一：うんうんうん

E：かな？

一：うんうん。じゃあ特に内容部分をめちゃくちゃ怒られたってわけじゃないんだ？

E：うんうんうん。そうそうそうそう。うん、変なもので、ぐらいたったかな？

一：うん。今まででなんかその、性的なものからすごい遠ざけられた感も別になかった？

E：んー

一：「変なもので」ぐらいで収まったってことは。いや、例えば月9でそういうシーンがきたら、お父さんがチャンネル変えるとか

E：うーん、なん、うーん、それは多分一般家庭と同じぐらいたと思うけど、なんだろうね、どうだろうね。まそこらへんは、そこらへんの子供と一緒にだったと思う

一：特に厳しいわけじゃなかったから、ま「こんな変なもので」ぐらいで収まった？

E：うん。なんか厳しいっていうか、干渉しなくない？なんか、普通の家庭だったらなんか

一：そうですね

E：自分から教えたりもしないし、ま目に触れ、学校、家の外だったら何してるか特にわかんないじゃん？なんか例えば図書館でそういう大人向けの、普通の小説でそういう描写があるのを読んでるかもしれないし、まあ実際なんか恋バナってなんか流行らなかった？

一：流行りましたね

E：あの、赤と青のやつ

一：うんうんうん

E：うん。あれとかがなんか中学校でめっちゃ流行って。あれ結構過激だったじゃん

一：うんうん

E：描写が。なんかこう、図書館から消えるみたいな、みんなで回し読みしてるみたいな感じのがあったけど、そういうのはバレずにやってたから、過干渉っていうほど

ではなかった。何も言わないし、まあそういうことはいけませんよみたいな教育もなかったかな

一：うんうん。向こうから干渉もされないし、こっちもあえて読んでるよってところは見せないし。普通に、みんなと同じ感じの、一般家庭と同じ感じの接し方だった？

E：うん

一：えーじゃあその、なんだろう、BL バレちゃった事件の後って、なんかこうありました？過度にこう、例えばこう、同性愛ものから遠ざけるみたいなこととかはなかった？

E：いや特になかったと思う

一：「またこんなの見て」とか

E：それからはバレないように気を付けたし、うん。あーでもどうだろうね、今はどう思ってた？

一：今もまだバレてはいないんですか？っていうか公言してはいないですか？

E：公言はしてない。公言はしてない。まあでも多分、そろそろ腐女子っていうのが一般的になってきたから、「もしかしたらうちの子はこれだったのかもしれない」って思ってるかもしれない

一：あー

E：うん。ぐらいの感覚。自分からは言ってない

一：へー。親とかに隠す気持ちみたいなのは、隠さなきゃって思ってるの？それともあえて、別に訊かれないから言わないぐらいな？その事件の前後で。前はどんな感じだった？

E：なんかその事件で、変なのって言われたからやっぱり変なんだって思って、いい印象は持ってないんだろうなっていうのは分かったから、ね、お父さんお母さんどっちも。なんか、なんだろう、普通の、私が漫画すきって言った時の反応とは違うなって思ったから、まそうであってほしくないんだろうなって思った。から、別に隠すっていうかなんか、絶対バレちゃいけないバレたら殺されるって感じじゃないけど、なんかうーんと、これはやめられないけど自分から「私こういうの好きだから」って言うのはかわいそうだなって思ってるって感じかな。なんか

—：かわいそう？

E：かわいそう。なんか、なんだろう、うーん、なんだろうな

—：親の意志に反してる、みたいなところ？

E：うんうんそうなんか、別にもう意志に反しちゃってるんだけど、自分は。でもそれをわざわざ、「あなたたちが嫌いなものを私は好きですよ」ってわざわざ言うのは意地悪かって感覚。

—：あーうんうん

E：グロいのだめって言ってる人に私グロいの好きだよみたいな、なんかこうお化けとか無理って言ってる人に私お化け好きだからみたいなこと言ったら、えそうなのみたいな、お化け好きなんて信じられないみたいな、相手がなっちゃうだろうなっていうのと同じ感じ

—：うんうん。じゃあなんかその、親にそういうなんかエロいのも含んだそういうのを読んでもことがバレて恥ずかしい、みたいな感じじゃなくて

E：あ、恥ずかしさもあったけど、恥ずかしさよりかは、その「あ、嫌なんだ。嫌なんだったら言っちゃだめだ」みたいな感じ

—：罪悪感みたいな感じ？

E：うん、うんうんうん

—：親に対して

E：なんか、親の嫌いなものを好きになってしまった、みたいな、どうしよう、みたいな。子ども心に

—：そっか。それが高校ぐらいで、さっき言ってた中学のころは、やっぱりそのダヴィンチに書いてあったように、一般的じゃない趣味だからとりあえず隠しとこう、みたいな？

E：うん、とりあえず隠しとこうみたいな。反応がね、なんか分かんないからね、なんか

—：その時も別に読んでて恥ずかしいものだから隠しとこうみたいなのは、そこまで強くなかった？隠すものなんだな、みたいな

E：うん、うんうんうん。隠すものなんだなっていう漠然とした

—：うーん

E：うん。感じかな

—：そっか

E：うん

—：なんか、「隠すものですよ」っていう腐女子ルールあるじゃないですか

E：うん

—：腐女子全体で共有されてる感じのやつ、よくネットとかに書いてあるやつ。ああいうのに触れたのっていつ頃でした？なんか、背後注意とか

E：あーうん。それは結構なんかあれかも。なんか個人サイト回るときにさ、なんかもう結構嚴重じゃん、警備が

—：うん、ありますよね

E：そこらへんで色々ネット、なんか「ネットマナーを読んでから来てください」とかいうやつあるじゃん

—：あるあるある

E：なんかそれで、いろいろ学んだ感。あそうだね、なんか、なんかダヴィンチの特集読むじゃん、小説買うじゃん、仲間内でちょっときやつきゃ。多分やつぱりいけないものっていう意識はあったと思う、エロいし。うん。だから仲間内できやつきゃエロ本回し、なんか男子たちがエロ本回し読みするぐらいの感覚で、ちょっと罪の意識を持ちながらもきやつきゃきやつきゃ読んで。その後、あの個人サイトとか回ることになるけど、そのときにもう、ネットマナーとか腐女子のマナーとかは見かけることになるから、その時点でもう、多分隠すものなんだっていうのは、多分自分の中では、うん。隠すものなんだっていうのはその時点で気づいたんだと思う。ね、あのパスワード入れないと読めなかったりさ

—：そうですね、リンクが変なとこにあったり

E：そうそうそう

—：うーんそしたら、うーんでも割といい感じなのかな。

なんかこう、他に BL 以外のオタク趣味って持っていたり…自分、腐女子以外にオタクだなんて思う瞬間あります？

E：オタクだな？

—：Eさんオタクなの？

E：ハロプロ？

—：出たよ

E：でもね、元から結構ね、オタクか

—：中高のときオタクだったとかないんですか？でも別に少年漫画読んでないんだもんね

E：うーん、なんか、少年漫画読んでないんだけど、なんか逆にっていうかなんだろう、それこそゼロサムとかウィンズエースとかそっち方面にいったオタクだった。なんかあの、ね。ゼロサムとか、あれなんだっけ、ミスターモーニングとかやってるのなんだっけ？

—：ミスターモーニングは、あれ？あれもゼロサムじゃないですっけ？

E：あれもゼロサムか。とか黒執事とか

—：あーGファンタジーとか

E：うん。を読む方向にいった

—：あー、そのジャンプ系じゃない

E：じ、そうジャンプの奥にある棚にあるやつを表紙買いするっていう方向にいった、友達も結構そっち系だったんだよね

—：中二病を患ったりはしなかった？

E：中二病を患ったり？中二病

—：わりとさ、黒執事読んでたりすると思ってたりするじゃないですか

E：あ、多分大丈夫だったと思う

—：あー大丈夫だった？

E：うん

—：そっか

E：友達に面白い子がいたんだ、なんか、「中学校のとき自分は中二病だった」って言ってて。(以下友人の話)

—：へーそっか。えーじゃあそしたら、さっきそのなんか個人サイトで色々腐女子ルールみたいな話しましたが、他に腐女子ルールのやつで、キャラに自分を投影して読まないで、その辺の草になって読め、みたいなのあるじゃないですか？

E：うんうん

—：ああいうのなんかどっかで聞いたこととかある？

E：うんうん

—：なんか個人サイトとか？

E：うーん

—：それともダヴィンチ？最初の

E：なんかでもそういうの、それはなんかかなんだろう、夢小説と、区別とかでだんだん学んでいくものでは？

—：夢小説読んでたんですか？

E：読んでた…なんかさ、あれじゃん、BLの中でも男の子の名前変えられるやつない？

—：うそ

E：あるある

—：初めて聞いた。えーそれ知りたいな

E：あるある、あるんだよ

—：男の子の名前を変えるの？

E：なんかそう、なんか完全オリジナルの、オリジナルの小説サイトで、男の子の名前変えていいよっていうやつ、があって

—：それはあるかもしれない

E：うん、そうそうそう。あって、なんかそれに出会ったときに、なんか違うなっちは思っ、ああそう、なんか違うなっちは思っただよね。なんか、その自分の好きなキャラクターにすればまだよかったのかもしれないんだけど、自分の、自分が男だったらこの名前が良いなっていうのを入れてやってみて、なんか、なんだか違うぞみたいな。「私がキュンキュンさせられるんじゃないんだよ」みたいな感じになって

—：なんか受けの名前変えられるやつですよ？

E：うん、そうそう。それでどうやら、こういうジャンルもあるらしいが違うらしいっていう、みたいな

—：別に完全に夢小説読んだわけじゃなくて、ちょっと夢感のある、そういう創作BL読んで

E：そうそうそう

—：違うなって？

E：うん

—：って思ったから、自分がそのどっちかのキャラにな

るんじゃない、なる読み方をするわけじゃないんだってなったの？

E: うん。なんかその草か木のような気持ちで読めっていうのは、明確になんか、メッセージを受け取った感じではない気がする

一: うんうんうん

E: そのメッセージを受け取ったのは多分大学にきてからぐらいかな。あの Twitter で。Twitter をやるようになって。そうそうなんか他の、高校の何人か仲間の友達を見つけたんだけど

一: あ、高校のときはすでに、腐女子っぽい友達がいた？

E: い、た。いた、カミングアウトをしたんだな多分

一: へー。この人にならイケるなって思って？

E: うん

一: この人も同志っぽいなーみたいな

E: うん、で

一: それはなんでかぎ取ったんですか？気になるな

E: えーなんかね、好きになる漫画の好きになるシーンが一緒とか、かな。キャラ、好きになるキャラが一緒とか

一: あーたとえばおお振りとかをお互い好きで

E: 阿部くん、阿部くん好きみたいな。阿部くんいいよねーみたいな感じになって、阿部くんのどこが好きみたいになったときに、なんかこう三橋との関係性、に言及し始めたから、「あ、これ、これ違うかなー」とか思って、そういうのが続いたから。んで、そうなんかね、その子が擬人化が好きだったんだよ。んで、なんか「サーティワンとか全種類擬人化してみたいよね」とか言い始めて、それで「あーわかるわ」ってなって

一: 元々その子はじゃあオタクっ気がある子だったんだ？

E: そうそうそう。んで、なんかそれで、あーなんかこういうの言ってくれる子なら、なんか別に違ったとしても、なんかそんなに、「あつ、あなたはそっち系ね」で終わってくれるかなって思って。でなんか、「あ、擬人化とかいけるんだー。私はうん、私結構 BL とか読むんだけど」みたいな「読むんだけどそれはどう思う？」みたいな、感じ

の流れで訊いたんだと思う。でなんか「私も読むよ」みたいな感じになって。んで、えーよなーって。えーよなーえーよなーって

一: その辺でこう仲間を獲得し

E: そうそう

一: 同様の手順で仲間を増やし

E: そうそう。でもその子ぐらいたったかも。その子と、その子はなんか普段も友達で、そういう趣味も一緒っていうのはその子ぐらかな。で、なんかクラスの、クラスの友達でこの子そうだよなって思うのは他に何人かいたぐらいで。でもなんか普段から喋る、本当にクラスメイトの女の子ぐらいの立ち位置だったから、なんか「あ、それ買ったんだ」みたいなのを話しかけるみたいなのはあるけど、普段から語り合うみたいな感じではない、って感じ。感じかな

一: え、その子から、なんだろう、そういうルールみたいなのを聞いた覚えも別にない？

E: うーん

一: やっぱその創作 BL 名前変えられるやつから知ってたって感じ？

E: うーんなんかそうだね、その、草、草のようになっていうのは、やっぱ明文化されてるのを見たり、人からはつきり言われたりっていう記憶はない

一: それは大学からってことなのか

E: うん、かな、うん

一: じゃあ別に人に強要されたわけじゃないけど、自分でそういうものなんだなって思って、ってか感情移入する読み方が、に違和感覚えたから、そうじゃなくて俯瞰して読んでた？

E: うん、俯瞰して読んでた。まあ多分そうなるよね、なんか多分そうなるよ。なんか、少女漫画じゃなく BL 読みたいっていう気持ちは、きっとそういう気持ちだもん

一: うんうんうん。少女漫画はじゃあ E さん読むときは、どっちかにこうがって入って読むのかな？

E: あー、がって、どっちかに入るっていうよりかは、自分もこんなことされたらいいなとか。自分もこんなこと

され、自分もこんなことされたらどんな気持ちになるだろうとか考える

一：うんうんうん。BLは考えない？

E：うん、なんか、このキャラかわいそうとか、切ないとか、なんかあっこりや嬉しいわみたいな

一：共感ぐらいはするんだ？

E：うん、共感ぐらいはする。つらいよなあみみたいな、そうだよなつらいよなあみみたいな

一：わかりーみみたいな

E：わかりー

一：うんうん

E：多分本当にガッツリ感情移入したいなら多分、どっかを女にするんだらうね

一：うんうん

E：ね

一：自分が入りやすい方を

E：うん

一：女にするんだ？

E：うん。でもそうじゃないからね

一：別にがっつり感情移入したいものじゃないからって？

E：うん

一：もういいかな。あ、ちなみに中高って部活何やってた？

E：中高吹奏楽だよ

一：あ、両方とも？

E：うん

一：ああじゃあそのときに、その中学で仲良かったその何人組かとかも？

E：あでもね、それはねー、吹奏楽、吹奏楽、帰宅部。あ、違う。吹奏楽、剣道

一：あ、強い

E：吹奏楽、剣道、吹奏楽途中で辞めた帰宅部

一：別にじゃあ吹奏楽の繋がりがってわけじゃないんだ？

E：うん

一：元々仲良かった？

E：そうそうそう。なんか一緒に勉強する仲間、みたいな
(中略：吹奏楽部の話)

E：その仲間の、仲間で喋ってたいつもの子も吹奏楽の子で。特に仲がいい子で、って感じかな。高校のときはいつも四人でいたんだけど、私とその仲間の子と、普通のオタクの子と、もうちょっとライトな普通のオタクの子みたいな

一：あー。あーなんかオタクの子って、イメージ的にやっぱ文芸部とか美術部とかパソコン部、男の子多いけどパソコン部にいたりとか、そういうイメージがあるんですけど

E：うん

一：そういう部活なかったんですか？

E：文芸部あったけど、部員二人ぐらいの。私文芸部入ろうか迷ったんだけど

一：え、それはなんでですか？そういうのに、書くのに興味あったの？

E：書くのに興味あった。てかなんか、中学校の時点で吹奏楽やめようと思ってて

一：え、なん、なんで？なんかあった

E：いやなんかね、なんだろう

一：練習辛かった？人間関係？

E：新しいこと、あーでも、なんだろう中学校の部活がなんだかんだいって好きだったのと、なんか吹奏楽ってメンバーありきなところがあるからー

一：そうですね

E：だから、メンバーと先生ありきなところあるから、結構中学校の先生が良い先生で

(中略：中学・高校の吹奏楽部の話)

一：うんうん

E：お母さんとお父さんの母校だから。で、あこがれの先輩も行ってたから、観に行こうって思ってたけどそんなにうまくなくて。だから別にここでやなくていいかな、とか思ってたんだけど、なんかやっぱり、あの、クラス友達と仲良くなるきっかけ？

一：うん

E: が、なんか「中学校のとき何部だった？」って訊かれるじゃん。でなんか、吹奏楽部って言って、「えっ私も」みたいな「何吹いてたの？」とかなって、フルートとか言うと、なんか「えー楽器体験一緒行かない？」みたいな、流れになっちゃうじゃん

一: そうですね

E: で、一緒に行って、でまあ結局取り込まれるみたいな。んでまあ結局やってみたら、なんか先生変わったし。結構すごい練習も熱心に来てくれる先生で、まあうつ病で結構言葉が辛いときがあったけど

一: ん、E さんが?

E: ん、先生が。先生うつ病だったの。んで薬飲んでるから、情緒不安定で、突然怒りだして、なんか「お前らはこのバンドの癌だ」とか言い始めて

一: 男の先生?

E: そうそう。で、トランペットパート全員泣き出すみたいな。あったけど、普段は良い先生だから、まあ、まあまあ。って感じで結構なんか頑張って、その地区大会ケツから二番目から、県大会銀賞ぐらいまで。一年で上り詰

め。で、三年生の頃には、上の大会いけるかな? 県大会の上いけるかな? ぐらいまでなって、でも結局ぎりぎり行けなくて。いわゆるダメ金っていうやつなんだけど。

なんか、で、私の次の年に東北大会決めるぐらいの。結構真面目にやってた

一: そうなんだ

E: うん

一: でもそしたらそうですね、兼部するみたいな余裕はない

E: そうそうそう。なんかやっぱりね、なんか中学校でのなんか基盤があったほうが、友達関係は作りやすいからなって感じ。結局その仲いい、なんか高校、中学校から高校に上がった、一緒に上がってた吹奏楽部の友達も吹奏楽部入るって言ってたから。そう、そのさっき言った四人のうちの、この子。普通のオタク、ジャンプとか読んでやう、系のオタクの子が、その、中学校から一緒に上がった子だったんだけど、やるって言ってたから、やろうってなった

(以下雑談)

付録：Eさん2回目インタビュー

2016/11/15

一：BLを読む人＝腐女子って教わったから、言葉自体に違和感を抱かなかった？

E：うん。そうだね

一：今まで出会った腐女子の中で、典型的腐女子はいた？

E：なんだろう。なんか、喋り方がすごい独特な人はいるよね。なんか。それは腐女子っていうかオタク女子に、あることなのかもしれないけど。なんか自分のこと「おれっち」っていたり、は一なんか…ちょっと、あれかなー、私はやりたくないなーって思うと思うかなー（中略）典型的な、典型的なに入るのかな…？なんか典型的な、オタク・腐女子と、普通のオタク・腐女子と、ライトな、オタク・腐女子がいて、その典型的なのは、その濃いというか、なんだろう。いい悪いかかわらず、キャラが濃いまいたいな。と、典型的な、に。なんか、ディープな、イコール典型的なみたいなの、感じに、心の中で思ってるかもしれない（中略）E：でもあれだよ。悪いイメージがあるっていうけどさ。他の趣味でもさ、あんまり自分、たちの趣味のことをさ、素晴らしいみたいなの名前を付け方をしないから、それと同じ感覚かも。ハロプロオタクも自分たちのことハロオタ、ハロオタっていうけど、オタクってそもそも、あんまりそんないい意味で使われてなかった、じゃん。電車男のときとか。でもそれでも、なんかハロプロファンとか言わないでハロオタって言い始めるからそれと同じような感覚なのかもしれないとは思っている。ね

（中略）

E：うーん…なん、卑下なのかなーなんか。あんま意識しない、ね。ふざけて言ってる感じ？ふざけて言ってるっていうか…やっぱりなんかさー…なんだろう、あの、「男同士の恋愛を好きなんだよね」って、はっきり、いう、いうのよりはさ、なんだろう、ちょっと滑らかになるっていうか。なんだろう、大体みんな察してくれるけ

ど、なんか実際にどんなことが好きなのかは言わなくていい

E：って使ってるからー。うん、自分がこういう人だよって説明するだけで使ってて、だからなんか…腐って腐ってるから、ごめんみたいな感じでは使ってない、かな

E：なんかちょっと、趣味が変わってるんだよねーみたいな、感じかな。実はミリオタなんだよねーみたいな、そんな感じ。あつでもうーん。でも、こう…彼氏と付き合い始めは、ごめんねとは言ったかもしれない。ごめんねっていうかなんか、い、いいの？そ、そ、そんなでみたいな。そんなときはちょっと卑下みたいなの。なんか、うーん。そう、普通のきゃぴきゃぴしたなんかお洒落なお洒落大好きで、なんかかっこいい男の子が大好きでドラマとか見ちゃうような女の子ではないよっていう意味では使う。卑下として使ったかもしれない

（彼氏は）高校で1、大学で3…？か、うん。

申し訳なさもあるしー、なんか言っとかないと…あとで、バレたときに、それが致命傷だったら嫌だなーって思っている

なんかどうしても許せないみたいなのあるじゃん、なんか…ね。うん。彼氏が左翼だったら嫌だみたいなの。それは最初に言っというて欲しかった、みたいな感じにそれと同じように思われるかもしれないという危機感をもっているよ

E：（女性への恋愛感情について）あつもおかしくな、おかしくはないかなーとは思ってる。なんか、いつか自分が、女の子好きになっても、多分そんなに違和感…とかなーかなー

なんか…いやでもどうだろうなんかー…なんかー、うーんと、男の子でいう、ちょっとなんか、二人きりでいると緊張するぐらいの…感じを思った女子は結構いるかも。いるかも。でもすごく好き、みたいな（中略）中学生、高校にかけて

(腐女子友達とは深い話をしたことがなかった→読みの視点の共有もなかった)

E: あとさー。多分そもそもなんか…なんだろう、普通、NLに比べてBLが好きだと思っ…てる、なんか、なんか別々の良さがあるじゃん。その別々の良さって感情移入できないってことにあるのかもしれないって最近思ってる。そもそも論。感情移入できないから、好きみたいな。なんかさー、男女の恋愛だとさ、なんか、なんだろう、なんか女の子だからー、女の子は弱い方がいいとか、男の子は頼り甲斐がある方がいいとか、なんか、ね。女、女はわがままなものだとか、男はそれに付き合っ…てあげるみたいなそんななんか、暗黙の了解みたいなものがある。

E: しかも、自分女子だから、男子の、本当の気持ちみたいなのかんないじゃん、なんか、ね。本当は女の、女の化粧のこと面倒くさいと思っ…てんだろみたいな、もの、なんか本、なんだろう…いやでも自分の為に可愛くしてくれるのは嬉しいと思っ…てるのかも全然想像できないじゃん。でも、その同性の人たち同士は、なんか、男ってこういうもんだよねみたいな、共通認識がありつつ、一緒にいるわけじゃん。そこはなんかその二人の世界なわけで、なんか自分が、なんか、「あーなんかその気持ち分かるわー」って、ならない？なんか…BL読んで、なんか「うわっこの気持ち分かる」って思うことってあんまりないようにできてない？

E: なんかさ、その切なさとかもさ、「いや私こういう切ない思いしたことあるわー」みたいな、感じにはならないというか。

E: 自分がさ、もう友達ではいられないって言われて傷ついた気持ちにはならないみたいな。「うわっこれはつらいわー」みたいな感じじゃなくって、「うわーこの子つかかったんやろうなー」みたいな、感じになる

E: (王道モノは) なんか、それ女の子でええやんってなるやつはあんまり好きじゃない。もう。普通の、普通の少女漫画描けやっ…てなるやつは、あんまり…

E: そういう過激なシーンは、完全になんか、なんだろう…なんだろう…ミュージカルの中の殺陣シーンみたいななんか。ね。戦闘シーンぐらいに考えてるからー。戦闘シーンは、なくてもさ、なんか…(話つながるみたいな?) そうそうそうそう、あの一。負傷、負傷した兵士が「うう…」って言っ…てるだけでさ、戦いの結果は伝わるじゃんだから、あんまりそこについては深く考えてないというか。深く考えてない、深く考えてないから、感情移入しようと思ったこともないかもしれない

E: 男の世界を覗き見てる感じが良いんじゃない? と思っ…ている

E: 元々、そういう、男女として描かれてない、なんか恋人として描かれてない、ところから入っ…てるから…その、王道モノ? にはハマらなかったのは自分でも納得いく。なんかその最初から、恋人として描かれてる。なんか恋人としてっ…ていうかなんか、学園の姫みたいなさ、「あ、こいつがなんか、女の子役なんだろうなー」みたいな、のとか、もうそれ前提として描かれてるやつが好みじゃなかったのは、二次創作から入っ…たからだと思う。友情関係があっ…て、でもそこに、なんか実は恋愛が起こっ…ちゃって、それをなんか覗き見させてもらっ…てるみたいな。感じになるから、その覗き見させてもらっ…てるって意識があるから、感情移入はしないし、天井のシミになるし

E: そもそもそのキャラ同士を好きだから、ね。日向も好きだし影山も好きだから、どっちになろうとか起こらない

E: 軽音、サークルに、入ることは私の勝手だと思うし、親もそれを文句言う必要はないんだけど、軽音サークルに入っ…てることは…なんか、いくら何でも、親にばれるじゃん? で、多分ああいう、なんだろう、ガチャガチャした音楽を好きじゃないタイプの親だから。学祭とかも、「親に行くよ」って言っ…ちゃうタイプの親だから、そこに関してはごめんねって思っ…てるけど、軽音サークルに入ることに関しては私の自由だから私は何も悪いことは

してない。けど、なんか付き合わせる羽目になっちゃってごめん、みたいな感じはある。そんな感じ

一：正統派な趣味じゃないところに娘を近づけたくない？

E：多分あると思う。多分ねジャズ研を続けてくれた方が親は嬉しかったんじゃない、だろうかと思う。

一：ご両親二人とも先生？

E：うん。

E：でも趣味に関していえば、お父さんはクラシック音楽が結構好きで一。ピアノとかも結構自分で弾く、しー。小説も結構、なんだろう、純文学的な楽しみ方をする…人だと思うんだけど。お母さんに関しては、いえば、無趣味というかなんだろう…なんか、ただのミーハーみたいな、なんか、「あーこの月9面白いわねー」おわり、みたいな、感じだからさっき言ったみたいに。だから一なんか、そんなに趣味に関しては…なんだろう、これを、私がこれを好きだから、あなたもこれを好きになってみたいと考え方はしない人だと…思うけど、でも変なことは趣味にしてほしくないって思うタイプ。自分が趣味ないから、その一…ハマる気持ちも分かんないし。例えばハロプロとか。も一、ハロプロとか、バンドとか…

でも本当にバンドは多分嫌だと思ってる親は。

一：ミスチル、ビートルズ世代なのに？聴いたことない？

E：それはあるけど一、なんか、多分、軽音、あつ、軽音サークルっていうサークルへのイメージが悪い。のはあるかな、うん。あと、なんだろう…結構メタルとかさ、パンクとかもさ、一緒に語られちゃうときがあるじゃん。だから結構嫌なイメージついちゃったのかな金髪で一みたいな。

E：うん、感じがあるから多分あんまり好きじゃないと思う。はっきり、はっきりとは言われたことないけど

E：なんか、「好きなんだからしょうがないじゃないー」っていうよりかは、「まあ好きなんだろうけどなんか…危ない、ことならやらない方がいいんじゃない」みたいな方に走るかも

付録：Eさん3回目インタビュー

2018/12/23～12/24（メール）

一：Eさん！突然すみませんが、卒論の際にお世話になったインタビューのことで、お尋ねしたいことが！

修論にも、あの時のインタビュー内容を使わせて頂きたいのですが、内容の確認のために、二、三質問に答えていただきたいです

このLINE上で大丈夫なので、お答えいただけないでしょうか、

E：大丈夫！返事遅くなり申し訳ない

一：ありがとうございます

いつでも空いてるときに回答いただけたら嬉しいです！

以下質問ですー

①BLに描かれるような関係性について、「ホモ」という言葉を使ったことがありますか？

②「ホモ」という言葉の意味をどのように考えていますか？

という感じでお願いします！

あまり堅苦しく考えず自由に答えていただけると有り難いです

E：①あります。

少しライトな感じで、BLを指す際に使います。

イメージとしては、年下好きをロリコンと呼ぶ感じと似てるかな、と思います。

②単純に、性的嗜好や好み的一种として「男性が好きな男性」と捉えています。

BLと言うと小綺麗にまとまりすぎている感じがあるので、ホモのほうが日常っぽいかな、とは思います。

あとはBLは、男性同士の恋を指している気がして、恋愛をしている当事者単体を表せないような気がするので、そういう意味でも使い所によってはホモを使います。

こんな感じでよきかな？

一：ありがとうございます！！

E：修論ふぁいと…

一：あ、ちなみになのですが、Eさんのこれまでの人間関係で、セクマイの方と交流されたことなどはありますか？

がんばります

E：うーん、高校の時の友達(女)と久しぶりに会ったら彼女出来てたってことはあるけど、根掘り葉掘り話は聞いてない、って感じ！

一：なるほど！ありがとうございます～

付録：Fさん1回目インタビュー

2018/05/08

(雑談)

一：読書趣味みたいなものって

F：少女漫画好きだったな、ずっと

一：ご兄弟とかはいらっしゃる？

F：お姉ちゃんがいて。三個上の姉ちゃんがいて。ま、で、姉ちゃんが結構男勝り、な人で。でなんか、いつも、「性別逆だよ」みたいなこといつもよく言われた。お姉ちゃんと俺、ってなんか、姉ちゃんが男勝りで、俺いつも女々しかったから、性別逆だよみたいなこと言われて(笑)。なんかずっとそれを言われてたんだよね

一：ちっちゃい頃からずーっと？

F：ずーっとずっと。でね、物心ついたころ、ときから、ずっと、なんだろう…恋愛対象は男性だったの、だから途中で変わったってことはなくて、ずっともう…物心ついたときからずっと、男性を目で追っていたって感じかな。で、それでなんか、ドラマとか、そういう少女漫画的なものを読んで、なんで、なにがきっかけかな、なんか、ドラマ？とかアニメとか観たのかな？アニメとか観たときに、純ロマあるじゃん？(笑) あれ観て、

一：あれを観たんだ

F：あれを観たんだよ。中学校ぐらいかな、うん

一：そっか、そのぐらいですね

F：そうそう。純ロマを観て、「あれこれだ！」って。これだっというかなんか(笑) うん。なんかすごい…なんだろう、キュンキュンした？っていうの、キュンキュンしたし、すごい面白かったっていうのがあって、たぶんそこから(BL人生が)始まったんだと思う俺は、BL人生が幕開けっていうか(笑)。でも、元々はそう、なんだろう、男性、同性に興味があって、小学校とかもずっとそんな感じでいて、で、中学校のときにそれをみて、でこう、そっちの、BLの方に少し興味をもった、っていう流れかな？

(中略)

F：バイセクシャルはまあ、いいとこどりっていうのが俺の中ではあるから(笑)。まあ周りもみんな言ってるけど

一：そういうのあるんですかやっぱ

F：うーん、やっぱあるよね。だって全、全人類が対象みたいな、ことがあるから。「なんかいいよね」とか言いながら、って感じかな

一：女性はどう無理、というか、対象外なんですか？

F：うん…そうだね。恋愛対象にはならないかな、うん。なんかなんだろう、よく飲み会とかでさ、なんかサークルとかの。結構、男女のあれがあるじゃん

一：ありますねー

F：気持ち悪くてあれが

一：一、そうなんですか

F：うん。同じ空間にいられないんだよね

一：もう、他の人たちがそういうことやってるのを見るのももう無理？

F：うん、無理っていうか。別に知らない人とか、だったらいいし、誰も見てない空間だったら構わないけど、なんかそういうなんだろう、駆引きみたいな、なんかちょっと、俺にはちょっと、だから気持ち悪いなってすごい思ってしまうんだよね。なんか、つらい、くなるときが(笑)

一：男性女性関係なく、自分が、そのなんだろう、自分と何か異質なものを見るわけじゃないですか？

F：うん…そうなんだよね

一：ちょっと、「え？」ってなりますよね

F：そうだね、たぶん、価値観というか、違うから、多分そこで俺は一種のなんかあれを感じるのかなとか思ってるけど、かな？で後何話せばいいの？

一：そうですね。純ロマから入って、それが中学校ぐらいからなんですよ。中学校から今まではずっと、そういうコンテンツにも触れ、少女漫画にも触れつつ、みたいな感じなんですかね？

F：うん、そうだね。オールジャンル読んでたけど、どちらかというとなんか、なんだろう、心の癒し的な？心の

癒しているかなんか、共感できるところがたまにあったりする、から、なんか、自分の中では、どちらかという
と脳みそというかは、考え方的にすごい女性寄りっていうか、恋愛においても女性の脳をしてると自分では思ったりするので、なんかすごい、共感できるところがあるから、なんか多分のめりこむっていうか、のめりこむ
っていうかなんか共感？できるかなっていうか

一：よく、BL って、なんだろう…まあ女性が描く、よく
女性の人が多く描いてるからっていうのもありますけど、
少女漫画の文脈をくんでるって、その、文学的にはよく
言われてるんですけど、少女漫画よりも BL のがやっぱ
共感できる部分って多いんですかね？

F：そうだね、やっぱね、禁じられた恋、みたいなことがあるし、なんだろうあと、目の付け所がなんか結構似てる？相手の事どうやって見てるかみたいな

一：あー自分と似てる？

F：うん、結構似たりするので。多分、少女漫画よりかは
やっぱ共感することはあるのかな？みたいなのはあるね
ー

一：その両方男性だからっていうの以上に、何か共感できる
ポイントはあるんですか、やっぱ

F：うーん。男性だからまあねえ、なんだろうなー…うー
ん。まあでも、なんか、自分の恋愛観と結構似、近接する
ときが結構あるから、そこで結構引っかかったり、引っ
かかるっていうか、似てるなっていうので、感情移入し
て、読むかなっていうのはあるかも

一：ちなみに読んでるジャンルって、やっぱ純ロマ系の、
なんだろう、いわゆる王道？になるんですかね？

F：王道系と、かは、あと、なんかね、なんだろうなー、
そんなに過激な見ないやっぱ。結構きれい目なやつ
(笑い)、見るかなー。大学のときはまあ、なんだろう、
BL 好きな女性の友達がいたけど、その子は結構オールジ
ャンル読んでるけど、一回借りただけど、すごい…内
容だったので、これちょっと違うなーと思って (笑い)

一：過激すぎて、引いたんですね (笑い)

F：過激すぎてちょっと (笑い) びっくりしちゃったなー

あれは。あれはびっくりしたなー、(中略) 異文化交流的
な感じで (笑い)、それは面白かったけど、ちょっと違う
なーと思って。なんか、何だろう結構心理描写？が、上手
く描かれて、あと日常、系っていうかなんか、絶対ないっ
ていうかは、なんか結構日常なこと描いたりするのが、
なんか、そういうので、「あ、そうだよな」みたいな感じ、
共感が生まれるのかな、って感じです

一：なんか、強い、石油王ものとかじゃなくて、大学生同
士みたいな

F：そうそう

一：日常に寄り添ったやつが

F：うーん。がいいかなー俺は、どちらかというとその方
が、なんか現実味もてるし。うーん、ありそうだよな確か
に、ってなる。そうなんだよなー

一：やっぱりありそうなシチュエーションってやっぱり
あるんですか？

F：うん、ある。あるよ意外と (中略) えっとね、高校生
とかだと、あるんじゃない？高校とか、二十代前とか、大
学生とかだと。多分ね、これ、勝手な俺のあれかもしれないけど、こっちの人って結構、なんだろう、恋愛とかを始
めるのが遅いんだと思う。俺もそうだったけど。なんだ
ろうな、何歳ぐらいかな、だって俺も初めて付き合った
のが、19 才とかだから、大学入ってからだから。ずっと
それまで好きな人はいたけど、なかなか一歩踏み出せな
くて、相手は、なんかそうであるかもわからないし、確証
はないから。だから、それで、なかなか何も言えなくて、
で、初めてあ、付き合った人は…そういうアプリとかで
知り合った人だから、同じあれだし。それで、付き合った
っていうのはあるんだけど。だからなんか、まあ地方に
住んでたってことはあるんだけど。都会とか…

一：高校までどちらに住んでたんですか？

F：高校まで山梨に住んで、大学で浜松行って、今東京
にいるって感じなんだけど。そうだね、だから、そう、遅
いのかなーとか思いながら。うーん。あとね、メディアが
やっぱ普及したってのが一番大きいかなこっちの業界、
業界っていうかあれだと。そう、だ、そういうのに会え

る、会えやすくなったというか

一：連絡取りやすくなった

F：なったっていう。昔はなんなら掲示板みたいな？うん、のでやってたっていうのが俺の一回り上ぐらい、三十代ぐらいが結構言ってる、で俺が高校らへんとか大学からそういうのが普及し始めて、で、もうあの、まあ二丁目とか行かなくても、普通に、ま地方とかでも、会いやすくなったというか、分かりやすくなったっていう。でもそのぶんなんか、大量消費みたいな（笑い）のが始まってるのは俺は思ってるけど

一：へー。アプリ使う人は結構多いんですか？

F：多い多い、みんな使ってる。そこしかない、んだよ。そういうバーとか、そういうところに行けば出会いはあるけど、世の中って分かんないじゃん、道歩いてても、その人が同士かどうかっていうのはわからないから、やっぱりそこに一番走っていくのかなくて感じかな。全然BL関係ないけど（笑い）

（雑談）

F：親がすごい放任主義で、自分のことは自分でやりなさいみたいな人。（中略）明日食う飯も自分で確保しろみたいなとこだったからさー（笑い）。ほんとほんとほんと。だから、なんだろう、ビジョンをね、人生のビジョンを（笑い）

（雑談）

F：（虹色のタトゥーシールを触りながら）ちょっと…

一：ぼろぼろに…

F：ほんとボロボロになってきちゃった

一：くまでですか？かわいい

F：そうそうあの一、レインボープライドのときの、GAP？あれでつけてもらった。ボロボロ。しょうがない。もうくまちゃんボロボロだから（笑い）

一：手がボロボロに…意外と残るんですねー。ぺたって貼る奴ですよ

F：なんか意外と残った一。そうそうそうそうタトゥーシール。しょうがない

一：街中でこういうのつけてて、知らない人に見られる

の嫌だったりしないんですか？

F：だからちょっと見えるか見えないかのとこにつけてるけどね（笑い）そう見えるか見えないか。可愛いからさー、可愛いから付けようと思って。でなんか半袖、最近半袖だからさー、こうまあちらっとなっちゃうけど、いいやと思って

一：知らない人が見ても分からないですもんね

F：そうだね、当事者とか、これを知ってる人が見れば分かるけど、「レインボー、そういう意味なのね」みたいなのが分かるけど、まあでも学校とかではまあ、学校、今の大学院だと、俺がそうだっていってるのは一人しかいないから、女の子なんだけど、その他には言ってないから、まあ、隠しとこみたいな。隠しとけば大丈夫

一：ちょっと羽織って

F：そう羽織って、羽織って。まあここに来ちゃえばもうね、色んな人がいるから（笑い）、別にみられてもそんな、別に嫌じゃないし

一：そうですね、都心まで来ちゃえば、新宿だし

F：新宿だし、いっぱいいるし

一：じゃあ、あんまり人には言っていない？友達とか

F：あのね…言っていない、けど、性格的になんだろう、分かるときがある、テンションとか高くなったり、テンパると、こうなんか、オネエ言葉、が出ちゃう。で、前酷かったのが、面接してたの、これ M にも言ったんだけど、そう面接してて、学生 2 で、あー、面接官 3、で集団面接してて、なんか、ちょっと、テンパってて、そういう言葉遣いになっちゃってたらしくて。そしたらなんか面接官の一人が、「君ってもしかしてコレ？」みたいなこと言われて、「はー？」と思って、面接の場でそういうこと言わない？普通、とか思って

一：そういうこと訊いてくるんですね

F：そうそう。個人のセクシュアリティを訊く？

一：コレ？ってやってくるんですか？

F：うん。「もしかしてコレ？」って

一：手振り付きでやってくるんですか

F：そうそうそうそう

近？では「昔だと男女とかそういう区別があったけど、最近では本当にそういうのなくなってきたよね」とか言ってたから。別にそういうのは言われるけど、特にはないかな。意外と自分の周りもそういう系が多かったから、普通に、異性愛者とかでも、男女仲良くしている人が多かったから、あまりそういうの同級はいなかったかな。上がすごい言ってくるくらい。やっぱ上だと固定観念もあるから、すごい言ってきた

一：ご両親は（筆者注：Fさんがゲイであることを）知らないんですね

F：そう、知らない。多分感づいてるとは思うけど

一：皆さんそうおっしゃいますよね（笑い）

F：多分感づいてると思うよ。でも、でも一応俺に彼女がいるっていうのを、本人、なんか言っ、なんか思わせてる

一：彼女がいるそぶりをしてるんですか？

F：そうそうそうそうそう。その方がね色々、なんかやるしかないかな一と思って

一：一番いいですね

F：架空の彼女を作って

一：彼女いるよとも言っていないからあまり踏み込んで来ず

F：そうそうそう。まあ彼氏はいますけどね

一：彼氏さんとは付き合ってずっと、長いですか？

F：7か8カ月くらい

一：そうなんだ。もうすぐ一年

F：そうだね。ヤツもBLは好きだよ

一：そうなんだ。趣味の話とかされるんですか？

F：あ一するする。「これ面白かった、読んでみ」つつつて。（中略）最近だとさ、ドラマで「隣の家族は青く見える」？見た？見た？

一：見ました観ました

F：そう、あれ一の話したりとか、あと「おっさんズラブ」の話したりとか。好きなんだよねそういうのがね

一：ああいうこう、なんだろう、ドラマ系も見erんですね

F：見る見る見る。俳優がイケメンだからね。もうね、最高だからね、見ちゃうよね。結構観る人が多いよ。こっち

の、こっちの人で。なん、まあなんだろう俺の周りの人は、多分こっちの人でも、そういうのが好きっていう人と、見ないって人で分かれるすごい。本当に好きな人は好きだし、嫌いな人は全然見ないみたいなこと言ってる一：それは年齢層とか関係なく？

F：うん関係なく、うん本当に。でも俺の、イメージって言うか、俺の調べ、俺調べだと、なんか言うと、受け気質の人は見る。で、タチ気質の人は見ない。多分ね、受け気質だと、なんかやっぱ女子の脳みりたいなのがあるから、乙女脳みりたいな。そのあれで見erのかなって。でも例外はいると思うけど、でもなんか、似てる感じを読むみたいなの、受けの方が多いかな

一：共感しやすいんですね

F：うん、だと思う。BLもどちらかというとなんか受け目線から描かれてるのが多いじゃない。多分それで共感することが多いのかなと思うし、純ロマもね、美咲たん目線でめっちゃ描くからさ。でもたまになんかさ、ウサギさん目線で描くときがあって、珍しいとか思いながら（笑い）

一：めちゃくちゃ読んでますね

F：めっちゃ読んでるよ一。読みこんでる読みこんでる。全巻揃ってるからもう

一：すごい。あ、そういう漫画を、お家でどうやって扱ってましたか？実家とかで。実家にいるときは読んでなかった？

F：実家にいるときは買ってたけど、他の少年漫画と一緒に、がって買ってた、買ってた（中略）でも基本段ボールに入れて。なんか、進研ゼミの、段ボールに入れたりとかさ（中略）まあ一人ぐらしのときは全然、ばんばんね、置いてたけど。そう、で、（笑い）一つ段ボールに入ってる、あのMとかに「もし俺が不慮の事故で死んだらこれだけは燃やしてしてくれ」つつつて。親にバレルじゃんだって。親にバレルから、その前に家に入って、これだけは持って帰ってくれって（笑い）言っつて、あらかじめ（笑い）

（中略）

一：学部時代の大学でもそういうサークルってありました？セクマイの…

F：ないない、ちっちゃかったから大学が。あったとしても多分行かなかったし。今もあるけど、行かない

一：行きづらいですか

F：だって嫌じゃない？(笑い)だって嫌じゃないなんか、嫌じゃん

一：嫌ですか

F：嫌じゃん(笑い) えーなんか、確かに活動とかやってみることは素晴らしいと思うけど、そこに身を投じるってことは、当事者ってことを、まあ暗に示しているようなものじゃない。だからなんか、友達とかにそういうのをカミングアウトしてる人だったら全然良いと思うけど、なんか隠れて生きたいって人だったら、ちょっと行きづらいかなって俺は思う

一：そこはもう、大々的に活動とかをしている、オープンなサークルなんですか？

F：うん。っていうイメージが俺はあるから。だからなんかちょっとやっぱり行きづらい(中略)俺は、相手のことをなんか、まで考えてしまう。言って、言っちゃって、自分は良いけど、相手はどうなのってことになっちゃうから、なんか、俺はちょっと言いづらいかなってのは、思ってるんだよね

一：そうですね。直接言わなくてもそういうサークルに入ってしまったら、なんだろう、そこに入っているってことが知られただけで

F：もうそういう

一：もしかしてって思われちゃって、余計考えさせちゃうみたいなことってありますよね

F：うん、そうなんだよね。まあ入るには入ってもいいけど、なんか、人前に出るとかは嫌だな。陰の、陰から支えたいな(笑い)

一：活動自体は嫌じゃないけど

F：オープンに自分から出るっていうのはちょっと嫌だな

(中略)

一：そうですね。自分がどう思うかっていうよりは、相手のことが気になっちゃう

F：そうそうそう。このモスオさん(FさんがTwitterでフォローしている漫画家のゲイ男性)も言ってたけど、確か、相手がどう思うか、自分はすっきりするけど、相手には押し付けてしまうよね、みたいな。確かにそれはあるなと思って。まあカムアするのが絶対正解ってわけではないと思うし、うん。(中略)何が正解かも謎だけど、俺はあえて自分からは言うことはないかな。まあ、心おきなく話せるようになったらまあ、言ってもいいと思うって感じだけど。まあ難しいよね、線引きがね

一：BLだけでなく少女漫画も読むってお話だったんですけど、百合漫画って分かります？読めますか？

F：百合見ないんだよね、全然百合は見ない

一：見たこともない？

F：えっとね、アニメでcitrusってあった、あれは観た。なんか面白かったから

一：私も漫画読んで、面白いですよ

F：ちょっとね、展開が早すぎるなとは思った。ちょっともうちょっと踏もう、踏んで欲しかったなっていうのはあるけど。百合はね、あんまり見ない。なんか、友達のオタク、普通のなんか異性愛者のオタクは百合好きでよく見てるけど、俺はあんまり見ない。うん。まあなんだろう、感情…

一：感情移入難しい？

F：うん、なんかね、なんか違う。女の子同士のなんかやっぱあるじゃん。間の取り方とか。ちょっとあれが違うのかな。なんか女の子同士だとなんかさ、普通に、街中で手を繋いでもあんまり違和感ないけど、男同士だとね、そういう、すごい際立つちゃうじゃん。なんかやっぱ、そこでなんか、そういう描写が描かれたりすると、なんか普通に女の子同士だったらこう、漫画の描写的に手繋いでも違和感ないんだけど、男だと違和感あるから、そこで「きゅん」って(笑い)。「きゅん」ってね。なんか背徳、背徳感？っていうかなんか、あんまりしないようなことをやってたりするから、「きゅん」ってね、くるよね

一：確かに、百合漫画だと普通にそういうシーンがなんだろう、自然に描かれてますもんね

F：そうそうそうそう。あるように描かれてるから

一：別に「きゅん」とするポイントじゃなくて描かれてるから

F：そうそうそうそう。そうじゃないからさ

一：そういうところも違うんだな一

F：だからなんかさ、イベント（筆者注：レインボープライド）にも行ったけど、まあ彼氏と行ったんだけど、普通に手を繋いでたし、全然周りもそうだったから、全然それで楽しかったし。まああと、二丁目とか行くと、やっぱクラブが好きで、EDMとか。DJの人とも仲良くて、やったりして。まあその日曜？一昨日か、の夜にも行っ一緒に。だとまあ、なんだろう、まあ二丁目だから全然、雰囲気があるから、より積極的になれるみたい（笑い）。なんかやっぱ、変わるよね。気持ちが違う。やっぱ一目気にしないでいいってのはあるよね

一：女の子同士だと別にそういう、場所とかシチュエーションが特別っていうだけじゃない、こういう普通の街中でも手繋いで、自然と喋ってたりするじゃないですか。そういうところ全然違いますよね

F：あとやっぱ、女性同士は距離が近いじゃん。一緒に、普通のなんだろう、異性愛者でも、女の子同士だと距離がかなり近い、じゃん。そういうのちょっと違う。だからやっぱそこで近づいてたりすると、あーって感じ

一：漫画とかでも描かれ方違いますね

F：そう、違う

一：ずっと何が違うんだろうっていうのを考えてたんですけど

F：うん。パーソナルスペースの取り方みたいな、違うから、なんかそこらへんで「キューン」って来るんだよね

一：そうですね、突然距離が縮まったりしたら「あっ」ってなっちゃう

F：そうそうそうそう。作者分かっているってなる（笑い）
（中略）

一：二次創作とか読まれたりするんですか？少年漫画は、

その前に読みます？

F：少年漫画読む読む。二次創作もね、好きだった、あのね、一番好きだったのがね黒子だな、一番（笑い）。青黄が一番好きだったな（笑い）。青黄めっちゃ良くて、青黄ばっか（笑い）。サイトがあつてさ、どれだっけなーこれかな一。そういう二次創作限定のさ、やつがあつて、あ、これかな？（中略）そうそう、それで結構読んでたりして、うん。いやーね、青黄は良いよね。（笑い）。黒子の原作知らないのにそれだけ読んでるからさ

一：原作全然読んだことないんですか？

F：ないね。どういう人、人物かは知ってるけど、青峰君がね元彼にそっくりだったの。なんかそれで多分読んだの、きっと

一：それは、元彼になってからですか？

F：そう。あ、違う、え、元彼…いや付き合ってた時から読んでたな。似てるなって思いながら。黒さといい、あの感じといい、似てるなと思って多分、重ね合わせて読んでたね

一：性格もってことですか？

F：性格もそうだね、結構似てたかもしれないね。すごいサバサバしてたし。青峰君ねー。青峰君好きだったな。青峰君いいよね

一：青峰君…何かしらのギャップにきゅんとくるかもしれないですね

F：だよ、そう一。偶に青峰君がね、なんか受けのねー、ストーリーとかがあつて、めっちゃ萌えるよね。なんかあいうなんか、屈強な男が、こう打ちのめされてる、めっちゃ面白いじゃん（笑い）

一：固定じゃなくて良いんですね別に

F：うん。どちらでも、良いですね。まあ青赤とかも好きよ。二人ともなんかごつい系だけど。ごつい系だけど良い、それも良い

（中略）

F：（筆者注：ゲイ男性の中には、）BLというよりかはなんかね、ゲイ漫画？なんかもう、描写がやばいやつ、もう

細部まで描かれてるやつね、ああいうのを好きな人もいるから。俺は好きじゃないけど。俺はちょっと無理だって。それは別に描かなくていいかな。妄想を楽しみたいじゃん

一：妄想を楽しみたい派なんですね

F：そうですね妄想を楽しみたい

一：妄想楽しいですからね

F：そこが一番ね。細部まで書かれちゃったらね、違う、それは違う。エロマンガと同じ。そうじゃない、それじゃないから

一：求めているのはエロじゃない

F：そう。心の充足感、満足感、だからな。エロ目線では

いかんな

一：やっぱなんか疲れたときとかに読むんですか？BLとか

F：そうだねなんか、移動中とか

一：移動中とか？

F：電車とか

一：あーそっか、スマホで見るのか

F：そう、スマホで。漫画は買うときあるけど、今はこういうサイトとか。微笑んで。微笑み。微笑みを頂けますねあれは。最高ですね（中略）現代のおかげですよ本当。

SNSのおかげですよ本当

付録：Fさん2回目インタビュー

(Mさんを含めた三人でのインタビュー)

2018/06/08

(雑談)

F：やっぱね、男がBL買うとちょっと抵抗あるからね

一：熱い友情を、垣間見ている…

F：(笑い)。いや本当は見たんだよ。本屋さん行って、
しっかり、表紙とかさ。人がいなければいいよね

一：確かに。でも人が全くいなくても、「もし人が来たら
どうしよう」って思いながら

F：そうそうそうそう。だからさ、意外となんか、あの、
本屋さんってさ、BLコーナーとなんだろう、青年誌？結
構18禁ぎりぎりのところをなんかね、かぶせて横、隣同
士が結構多くて、こっち見てるふりして実際こっち見て
る

一：(笑い) ギリギリのところに立って

F：そうそうそう。ギリギリの中間領域に立って

M：なるほどね

F：見てたりするんだよね

一：でも買えないんだ

F：買えないねー。そういう恥ずかしさがなくな、ればい
いんだと思うけど。まあなくなったらなくなったでなん
かな(笑い)。振り切れるのもなんかちょっと。そうだか
ら、もうちょっと配慮して欲しい本屋さん

一：あー。もっとこうがちがちに固めてとか？

F：そう。それかもう少年誌の間に置くみたいな(笑い)。

M：それもそれでさー、多分別の方向からさ苦情来る(笑
い)。

F：本当だね。俺の、俺得だけだもんね

(中略)

F：カムアウトはしてないけど、俺が、なんだろう、腐男子
っての知ってるのは、学校の中で

M：そうなんだ

F：腐男子だよとかいって、すごい、あれじゃないけど、
なんかこういうの読むっていったら、読むよって

一：それは今の学校の？

F：今の学校の後輩。同じ研究室の後輩なんだけど。そう
だから、男同士でいちやいやしてると、「N見て」って
一緒に見てる。「ちょっと、Fさんー(笑い)」って言われ
て。面白いんだけど。「どっち、どっちだと思う？」って
言って。「どっちがどっちだと思う？」って。「右？右？」
って言われて

一：すごいなー

M：えーでも、セクシュアリティとかは知らないんだよ
ね？

F：知らない

M：そういう愛好

F：そうそうそうそう

M：コンテンツ愛好してると思われてるんだ

F：なんかオタクの延長線みたいな感じになってる。その
後輩ちゃんと、俺の同期が、付き合ってた、研究室内で
ね。それ、その同期もオタクで結構、色々見てたりで。で、
その子も、そんなにオタクじゃないんだけど、まあ漫画
とかアニメ好きな子で、結構理解があるんだけど。それ
で結構ネタ的に言ってるだけ(笑い)

一：へー。あ、でも腐男子だっということはある？周
りの人に

F：言ってるっていうか、「そういうのも好きだよ」って。
「幅広く読んでもよ」とは言ってる

M：前の大学でそれ知ってるのってさ、私達界限以外だと
誰かいた？

F：だから(友人女性)とか。あとは、Pの取り巻き、取
り巻きっていうかあっころへのコミュニティ

M：外国人グループみたいな人たちがいたの

一：うーん。サークルみたいな？

M：いや、サークルじゃないんだけど

F：じゃない。あのー…浜松自体が外国人がすごい多くて、
日系の子とかいっぱいいたりとかで。で、入学したとき
もいっぱいいたから。元々高校時代つながりがあった人
がやっぱ多いから

M：でももう一人のその、四人組の、もう一人の男の子が、

ブラジルとペルーの、ハーフなんだよね

F : P ?

M : P

F : P、うん

M : だから、そういう人たちと関わって、つるんでるから、それ関係で

一 : それでそのグループとも仲良くしてたんだ

M : うん

F : そうそうそうそう。でも仲良かったよね？

M : うん、良かった

F : P…なんか、面白いのが、Pいわく、その一日系とか
なんかそういう、外国に縁がある男は、日本に大体住ん
でるやつは、大体こっち系とかみんな言ってた

M : そうなんだ一。でも結局そうだよな

F : そうだったよね。やっぱなんか

M : 多かった、だから

F : 多分抑圧された人生過ごしてきたから、なんかそうな
っていくのかな

M : そうなのか

F : 自分もそうだったしさ。抑圧された人生だった(笑い)

一 : 抑圧されてたんですか？

F : 抑圧された人生(笑い)

M : 何で抑圧される(笑い)

一 : 放任だったんじゃないんですか(笑い)。放任がゆえ
に？

F : そうそうそうそう

M : F のライフヒストリーだからね。抑圧が何なのかも
我々は知りたい

F : まあでもなんか昔からずっとなんかね、おかまっぼい
とかすごい言われてたからね。自分は別に女の子になり
たいとか思っていないし、ないけど、でもなんか仕草的に
出ちゃうんだよね、うん。なんでだろうね？てか、同業者
とも喋るんだけど、みんなやっぱ、オネエ言葉が出る。で
も「あなたオネエですか？」、まあ「心女の人ですか？」
って訊くと全然そうでもない。普通に男の人が好きだし、
自分も自認、性、ん？自己認識も男だから。でもなんでそ

ういう言葉使うんだろうってなったときに、結構疑問が
あったりする

一 : お母さんとかお姉ちゃんとかとすごい仲良くしてた
とかじゃないかな

F : 仲は良いよ、すごい。やっぱ大切にしなきゃっていう
のは昔からあったから。反抗期だからなかった、うん。全
然なかった

一 : ずっと仲良かったんだ

F : うん。なかったね。ないかも。あるかもね、なんかそ
ういうの。反抗期ない人…はなんかお母さん大切にして、
てなった

M : そもそもお姉ちゃんいるとさ、割と何か、女の子の趣
味…

一 : 振る舞いとかも似てくるのかな？

F : えーでも一、うちは姉ちゃんが男勝りだったから、逆
だったんだよすごい

一 : あ、そういえば少女漫画ってお姉ちゃんから借りて
読んだわけじゃないんですか？

F : 少女漫画はお姉ちゃんから借りた。なんか小学校ぐら
いから『花男』とか。でも普通にバスケやってたから、少
年同士のバスケ？スラムダンクとか、バスケ漫画とかも
見てたし。でもなんか俺は昔から、『カードキャプターさ
くら』とか、そっち系が好きだったね

M : (笑い) 言ってるよね

F : そう。『おジャ魔女どれみ』そういう系が好きだった
んだよ。あとなんか俺が、保育園の時に、クリスマスブレ
ゼントが、なんかおばさんから貰ったのが、おジャ魔女
どれみのステッキだった

M : えー。理解あるな

F : そう、理解あるな一とか思っ。よくそんなもんくれ
たよなとか思っ。なんでかなって今思うと。その翌年
は仮面ライダーだったけど。全然興味なかったんだけ
ど

一 : えー。突然の

F : そう、何でかな。そうなんだよ。なんか昔から好きだ
ったんだよ。別に女の子になりたいと思ったことはない

し。なんだろう

M: でもね、分かるよー。私だってガンブラめっちゃ好きだったしさ

F: あーそっか

M: 仮面ライダーフィギュアとかめっちゃ欲しかったよ
(中略)

F: 俺は別にそういうのなかったよ全然。なんでも見、なんでも見ていいなみたいななんか、放任主義だったからやっぱり、(Fさんの母親の名前)が、お母さんがね

M: (Fさん母) (笑い)

F: お母さんが放任主義だったから

一: 名前で呼んでるんですか?

M: 私も(名前)って呼んでる

F: みんな(名前)って呼んでる

一: なかよし

M: Twitter までフォローされてて
(中略)

一: 親と SNS で繋がってるのって面白いですよ

F: まあね確かに

M: Twitter って特に珍しいよね、Facebook はあるけど

F: だよ、Facebook はあるよね。Twitter がね、レアだよ。あーでもなんかお母も最近、インスタ? は、姉ちゃんの子ども? が

M: あー。お姉ちゃん子ども、そうじゃん

F: 一歳なったの

一: あ、もう結婚してるんですか。お子さん…

F: 見るー?

M: 見るー

一: 三歳年上でしたっけ?

F: そうー

(中略)

一: お姉ちゃんともじゃあ頻繁に会ってるんですか?

F: 頻繁ではないけど、まあ、インスタとかで、よく上げてから、俺が見ていいね押してるぐらいかな

M: 私お姉ちゃんと会ったことないんだよね

F: まだ会ってないの? 前回、なんだっけ、二人が泊まり

にきたとき、ゴールデンウィークのとき、いたから

M: いーな一行けば良かったな

一: そっか、泊まりに行くって行ってたもんね

M: そう

(中略)

一: どう出会ったの? って話は電車でちょっと聞いたけど

M: あれだよ。入学式のさー後にさ、パーティーでさ

F: そうだそう。あれね、いたよね

M: そう、仲良い四人グループの、三人はその同じグループだったの。その入学式の、ウェルカムパーティーで

一: 学部単位でやるの?

F: 全体だったよね

一: 全体で同じグループになるのすごい

F: 確かにね

M: デザインの子とかもいたもんね

F: いたいた。でやっぱその時に仲良くなって、でなんか色々ね、紆余曲折経て、授業が全員フランス語同じだったりとか

M: そうだね

一: すごいな

M: あとなんか、二回目か三回目のときには、もうお家にお邪魔してご飯を食べさせて貰った記憶ある

F: そうだったね確かに

(中略)

F: ちっちゃい大学だったから

M: ちっちゃかったね

F: それで多分出会ったんだよね。でさー、俺がさ、カミング、カミングアウトしたのが、確か

M: 二年

F: 二年の

M: 秋

F: 秋だっけ?

M: うん (笑い)

一: すごい覚えてる

F: そうだね、二年の秋だね、そうだね、よく覚えてる

M: なんか (笑い)、もう片方の子はそうなんだろうなっていうのはあったの。で、もう一人女子いたんだけど、さっきからよく出てくる、もう Q ちゃんっていう子なんだけど。(中略)「お前もか」みたいになって。「F も？」みたいになっちゃって。だからすごい、衝撃的だった、から覚えてる

F: そうだね。四人の中の男二人がそうだから、全員対象が男性だから、皆でイケメン探してたよね

M: そう分かる

一: 楽しい

F: そう楽しいんだよ (笑い)。全員がね、Win - Win になるやつね

一: なんか、あれなんだ。重苦しい空気の中で告白したとかそういうわけじゃなくて

F: もう全然だよ

M: なんか私も、その Q ちゃんも全然驚かないし。「あー、そっか」みたいな。なんか腑に落ちたっていうか。だって二人とも女の子と浮ついた話、私が知っている限りではないから

F: ないよ。大体浮つく前にぶちるもん、ぶちるっていうか、壁つくるから

M: あーそうか、壁つくるんだ

F: うん。そういうのになりそうだったら、回避するから

M: あれでも高校時代は?

F: 高校時代は一、なるべく、そういう雰囲気にならないように

M: そっか、あれでも彼女いなかったっけ?

F: いた、よ。いたことはあるけど、別に何だろう、友達だった

M: あー

F: あっちは多分恋人的な感じをしたいんだけど、なんか自分の中ではあって。こう、葛藤が

M: その折り合いがついたのが大学時代だった

F: そうだね。でもなんだろう、やっぱ、狭いじゃん。高校までのコミュニティって

M: 狭い狭い

F: 学校が全部でしょ?

M: だしなんか、そんなにオープンなさ、同性愛の世界があるって知らずにずっと育ってるよね。私も山口でそうだった。とてもじゃないけどそういうのに気付くのすら無理だった

F: 無理だよ。でも自分はなんだろう、小学校ぐらいから、気づいてたから、やっぱ、違うんだって

M: そっか、そんなに早かったんだ

F: うん、もうもう、本当に。そっか周りはみんな女の子好きになるけど、俺、多分自分は違うんだろうなって思ったから。でやっぱその当時から、メディアとかでそういう人が出、始めてきたから、あやっぱこういう人がいるんだ一ってなって、結構、悟ってたってか、達観してたかもしれない

M: そっか、あーそうだったんだ。知らなかったそれは

F: 本当そうだった。小中とは、普通に、同級生の男の子が好きだったし

M: まあそうなのね

F: まあ告白はしないけどなー。そんな勇気はねえかなー
一: まあ確かにね、相手がそうとも限らないし

F: 限らないしねー。言ってその関係が崩れたときが一番怖いから

M: そうだね

F: 怖いんだよね

M: 高校時代はそういう気持ちを押し殺してたの?

F: そうだねー

M: 苦しかったね

F: 苦しかったよー、苦しかったねー (笑い)

一: えー、それでだって女友達、ただの女友達なのに彼女っていうていで接しなきゃいけない、んでしょ

F: そう

一: それは

F: 本当はねー、好きだった子がいたんで。でも好きな子がいたら結構ぐいぐいいくんだけどね俺は。でも絶対告白はしない。あくまで友達みたいな感じ。(笑い) これさー、俺の彼氏に話したらさー、彼氏も結構そういうのが

あったらしくて

(中略)

F: 当時は、やっぱ同級生が良かったし、なんだろう、なんだろう

M: タイプ、タイプ

一: そうそう前、青黄好きって言ってたじゃないですか

F: ん、もう一回言って

一: 青黄が好きって

F: 青黄いいよねー、分かるー

M: (笑い)

一: 青峰君推しがすごかったから、リアルでもそういう人好きなんですか？

F: あー好き好き

M: 本当ー？

F: えーでも、こっちいるとね、いかにも系っていうのがあって、短髪で、髭はやしてて、ちょっとなんか鍛えてますよ系？は、無理。髭いらないし。別に短髪じゃなくてもいいけど、その前髪系…っていうなんかすごいジャーズみたいな感じじゃなくてもいいんだけど、爽やかなリーマンがいいな

M: なるほどね (笑い)

F: 分かる。スーツ似合う人が好き。それで身長が 180 越えてたら、もう最高ですね

一: 今の人は爽やか系なんですか？

F: もちろん

M: うん、イケメン

(中略)

F: 結局顔なんだよ (笑い)

一: 性格的にはどうなんですか？さっきさ昔のあるある話を彼氏さんとして共感したみたいな。性格的には似てる？

F: 性格的にはねー、なんだろう…どっちかがいいんだよね。何もできない人か、すごいできる人。本当にクズみたいな人、なんか「もう、俺が居なきゃなんもできないじゃん」とかっていうの、かー、俺よりすごい、やっぱいろんなことに長けてて、すごいリスペクトみたいな人、がい

い

M: 極端

F: 極端なんだよ。クズだったらクズでいいし

M: 極端、なんでなんで

F: なんで？

M: それってさ、両立可能なものの？

F: うん、俺的には

M: そうなんだ

一: M さんは違うんだ？

M: うん

(中略)

F: クズだったらクズでいい。普通にまあ仕事は行ってもらいたけど、家帰ったら本当何もしなくて別に良い。家事やってあげて

一: それか何でもかんでもできる人がいいんだ？

F: そう、何でもかんでも。まあちょっとたまに抜けてるところがあったりすると良い

一: あーなるほどね

M: ふーん

F: じゃない？

M: そうなんだ、そうなんだ

F: じゃない？え、そうじゃない？てかなんか、パツとしない

M: じゃないです。えーそういうのもあるんだ、面白い

F: パツとしないのは分かんないね。どっちつかずが一番嫌いかも

一: 何かしら自分をもってる人がいいんだ

F: そうだね。芯がやっぱあって、る人がいいな。それが俺が尊敬できる対象だったらもっと良い

M: 難しい

F: 難しいね

一: それでやっぱイケメンがいいんだ

F: もちろん

M: 難しい

(中略)

F: 昨日さ酷かったのが、初めてゲイバー行っただ。友達

と、一緒に行ったんだけど。で、違うまた二人組の人が来てて、なんか喋ったんだけど、その俺の友達は、その人になんか「初めて来たんですよ」とか言って、「あ、そうなんだ」ってなって、で俺もちょっと「俺も初めてです」つつたら、なんか、風貌と、なんか話し方的に、「絶対お前違うだろ」って、「何回も来てるやろ」みたいなこと言われて。なんか結構、なんか動じない？人ってすごい言われる。物怖じしないよねってよく言われる。で、後輩からもすごいよく言われるんだよ

M：物怖じしなさは一緒だな

F：そうだから多分、あらゆることを経験してるから多分、物怖じしないんだよね。だから、強くなってくんだよ。恐ろしいよ

(中略)

M：でも小学生の時には、あったんだね、そういう気持ちがある

F：そうだね、そうだね。だと思うよ

一：そういう気持ちに気付いてる、気付いてる状態で、その周りの、同級生とかから抑圧受けるのってすごいきつくないですか

F：だったし、自分の性格的になんかすごいやっぱ、オネエ言葉っていうかそういう、女々しい感じ？っていうの？それで結構いじめられたりはしたから。でも自分負け、負けない精神強いから、「は？」つつつて。「お前そんなのも受け入れられないなんて死んでんな」って

一：つよい

F：つよい（笑い）

一：強い子どもだ

F：強い子どもだったよ

M：想像できる

F：そう、そういうの言っちゃうからね。そうだったね。かな。何話そうか

一：地元の友達って、なんて言うんだろう、ちっちゃい頃からずっと仲良かった子とかそういうわけじゃなくて、直近の高校の友達とかになるのかな？

F：あー、本当に子どもの時から仲良かった子もいるし、

今ね、地元の方でも、言ってる子はある、自分がこうだっというの

一：あ、そうなんだ

F：なんか女子ばっか

一：あそうなんだ

M：なんか、地元の友達と遊んだっていうかプリクラ見せてくれたんだけど、女ばっか（笑い）

F：そうそうそうそう。なんか、行きやすいっていうか話しやすいんだよすごい。なんか男同士というよか、女同士といた方がなんかすごい楽。俺はね、俺はすごい、楽なんだよね。だからすごい昔から、女子との方が話しやすかったし、初対面でも女子のが話しやすかったし。男子と話すときちょっと抵抗はあった、最初

一：うーん、話が合う？女の方が

F：そう、話が合う。多分自分も頭的に多分女子の脳してるから、これ自分の自論なんだけど（笑い）。話が合う

一：どう？

M：いや私より女の子っぽい面もあるよねたまに

F：だよね。だよねって分かんないけどさ（笑い）

M：なんか、まめやかさとか。細やかさみたいな点で。なかなか男の人ってそういうまめやか細やかみたいな苦手な人が、割合多いじゃん？そういうところはやっぱり、女性脳？でも女性でもない人いるから（笑い）

F：確かになー

M：私みたいに（笑い）難しいけど。何が女性的かはよく分からない時代だよ

F：あでもね、どちらかというとなんだろう、喋ってても、なんだろうな、趣味のはな、なんていうの？結構流れる会話す、なのね。あんまり、男の人でそういう話しないから。自己顕示欲の塊っていうの、なんていうの、全然言葉が浮かんでこないけど。なんか男の人が喋ってると、なんか、すごいこう、マウントしてくるっていうの？

一：へー

M：あーでもーあー

F：それが苦手だったのかな？

一：そうなんだ

F:なんか良く分かんないけど。「俺の方が偉いぜー」みたいな

M: そうなっちゃうんだ

一: 我々はね、男、男という顔面で男の人と接して喋ることができないから、男として男と喋ることがね、難しいからね。男同士のその、会話っていうのが良く分からないけど、そんな感じなんだ、マウンティングし合いみたいな

F: マウンティング…なんかちょっと緊張しちゃうってか。あー多分ね、結構ね、沈黙ある。のが多い

一: へー。沈黙苦手なタイプなんですか？

F: あまり好きじゃなかった昔は。最近はどうしょうがねえなと思ってるけど。ずっと喋ってないと、なんか、相手つまなくさせてんのかなみたいなのがあって。だから女性と喋ってるとずっと喋、ってるじゃん

M: ずっと喋ってるよね

F: どっちかずっと喋ってるよねずっと。だから合ったんだよそれがすごい

一: へー、そうか

F: 多分用、男だと用件だけ済ませて終わり、用件言って終わりで

一: あー、確かに確かに

M: 話のトピックがちゃんとあるよね男の人の会話

F: そうそうそうそう。だからまあビジネスだったらそれが良いんだけど。普通になんか喋ってるんだったら、なんかもっと、紆余曲折経て喋ろうよみたいなさ、そういうのが俺はどちらかというと好きだったからさ

一: もっと流れてく感じの世間話みたいな話がしたいんだ

F: そうそうそうそうそう。だから井戸端会議とか好きだからさ

一: うんうん。確かに男の人そういう話し方しないね

F: しないでしょ。おじいちゃんとかみても全然

一: 「今日はこの話をします」って多分頭の中で決まってる、その話したらおしまいって

F: そうそうそうそうそう。すごい話題に困るんだよ

だから

一: そっか、それは緊張するかも

M: 確かに

F: だから苦手なのかな。分かんないけど

一: じゃあ本当にずっとちっちゃい頃から友達のが多かった？

F: うん。多かったな

M: 多そう

F: 多かった多かった。今も多いもん

M: 学部時代も圧倒的に女友達が多かったよ

一: 小中学校とかで放課後遊ぶっていっても女の子？

F: うんとね、それは意外とね、男女混ざって。なんか、もう一人、俺と、今も仲良いんだけど、結構同じ？そういう子がいた、いて、なんかその子と結構喋って、遊んでいた。別にその子はこっちじゃないんだけど。普通にノケの人なんだけど。あでも前、その子の携帯見たら、こっちの人が使うアプリがあって、「え、お前どっち？」って一瞬思った。「まじかー」とか一瞬思って。ちょっと最近グレーになってる、友達だけ。その子と、あと、女の子たちと、よく遊んでたな、四人とか五人とか

M: いつもそんな感じなんだね

F: うん。だから本当Pみたいな感じ、の人。まああんな、あそこまですごくないけどね。あそこまですごくないけど（笑い）

M: (笑い)

一: すごいのか？

F: すごいね、あの子はすごい

(中略)

一: じゃあその小学校、の友達は、ずっと仲良い？

F: 仲良い仲良い

一: 中高も一緒だったんですか？

F: 中学校は同じで、高校は違うんだけど、でもよく会ってた、高校の時も。やっぱ家が近かったから。たまーに一緒になんか、まあ他の女友達、友達も呼んでたり、家きたことある。楽しかった

一: そういえば学校って全部共学？

F：共学共学

(中略)

F：そうだね、その子はずっと友達だったね。高校、から別になって、今看護師で働いてるけど

一：へー

M：誰の話？

F：俺の友達

M：その男友達？

F：うん

M：看護師なんだ、ふーん

F：看護師看護師。頑張ってる。けど、どうなんだろうな一と思って。多分バイだと思ふ、彼、うん。やっぱ性格似てたし、自己主張激しいし、うん、結構合ってたから(笑い)。そうだね

一：自己主張激しいポイントはやっぱり、一つの見分けポイントなんですか？

F：激しいよ自己主張基本こっちの人って。自分アピールしてなんぼってのがあるから。多分だから二丁、えでも激しくない人もいるよ、それは。でも、母数的に多いかも一：ああそうなんだ

F：うん。多いよ

M：そうかもね

F：うん。多いと思う

一：なんかね、結構、テレビ越しにそういう人たちを見るってことが最近多くなってきて、こうステレオタイプのイメージがあるじゃないですか。なんか自己主張激しくて、なんかこう、ずけずけものを言って、女の人の相談をめちゃめちゃ聞く

F：それね一。だからなんか、昨日バーとか行ってやっぱ、聞いたんだけど、それを求めに来る人がやっぱ結構多く来るらしいんだけど、別に、そういうお悩み相談所でもないし、仏に楽しくお話しするだけ、だし、まあこれで媚びへつらってもどうせ相手女性だし対象、恋愛対象じゃないから、多分ずけずけ言ってるだけだよ、としか言っていないから

一：なるほどねー

M：多分、それが、逆にもう、こっちからも居心地が良いんだと思います

F：そうそうそうそう。もう、何も媚びへつらってくわけじゃないから、多分受け手としてもいいんだよね。って感じになるんだろうね

M：需要と供給が成り立ってんだわ

F：そうそうそうそう。店子からすると、すごい面倒くさいって

M：そっか

F：後々になってくるとね

M：金づるになってくれないの？

F：金づるっていうかまあ営業になるんじゃない？まあ全員が全員そのオネエってわけでもないから。普通に男性の恰好をして男性の…人もいるし

M：女性の恰好をしている人もいるんだ

F：いるいるいるいる

M：あ、そうなんだね

F：逆もあるよ。女性が男性の恰好してる人もいるし。本当色んな人いるよね。るつぼって感じ。一回行ってみると良いよ

(中略)

F：いろいろ変わったもん俺。こんなだっけとか思っ

一：何がどう変わったんですか？考え方？

F：なんだろうな、うん。なんか、なんていうんだろう…(笑い)

M：え、なに？

F：なんかすごい俺の中で、その一、なんだろう、相手と付き合って、なんかなんだろうな、恋愛をするっていうのは、すごい…素晴らしいことだなって結構思ってたんだけど、でもなんか実際色んな人の話聞くうちに、なんか今日友達と、なんか夜、と、一緒に友達となんか一緒に…それこそやったとかいうのが結構あったりとかで。付き合っていないのにだよ？で、そういうのが結構聞いたりとかして、なんか自分の中でなんかそういう理想論、なんか理想論っていうの？考えてたものが結構崩れたりとかして、なんか付き合うって何なんだろうなって最近思

って

M: (笑い)。なんかでもそれ別にさ、セクシュアリティ関係ない

F: でもどちらかというと男性、とかの方が、ハードルが低いじゃん。その行為に至るまでの、プロセスが、すごいハードルが低いから。だからなんか、彼氏いるいないに関わらず、そういう人が普通にいるんだ、それがまかり通ってる世界。なんかオープン・リレーションシップとか言ってるらしいんだけど、彼氏いるけどお互いが別に、そういう相手と、別に恋をするのは、いとわないよ、みたいな、関係性があって。結構それがあったりするから。

「え、彼氏一筋じゃないの？」みたいな。っていうのを結構俺は思ってしまうんだよね。

M: かわいい

F: かわいいの

M: 一途だね

F: 一途なの

M: そういうところ、なんかそういう文化の中でも…そういう気持ちをもち続けていることが偉いね。なんか染まっちゃったりする人もいると思うんだよきっと。みんなそうだしって諦めちゃって

F: なんかねー。ちょっと違う、んじゃない？って俺は思うんだけど。でもやっぱそういうのが日常茶飯事とか起きてたり、話聞いてたりすると。なんかねー、とか思ってた
ー: みんな今までこう地方で抑圧されてたものがね、都内にきて、はじめて

F: やっぱ地方ではね、一人の人に、一生尽くしていくのがすごい理想なこと言ってるけど、まあ結局まあ、男女でも、結婚した人でもね、旦那が風俗行ったりとか、そういうのあるわけだけど。なんかそれがすごい、日常茶飯事に行われてたりするから。ちょっとカルチャーショックだった。おじさんちょっと怖くなっちゃった

M: おじさん (笑い)

F: 隣にすぐそういうのがあるんだ

(中略)

F: なんか男女ってなんか、デートして、でも一回デー

トして、またデートして、なんか夜ご飯食べて、綺麗な夜景見て、なんか「付き合う？」みたいな感じ

M: (笑い)

F: じゃないのかと思うんですけど。ドラマとか観てそうだと思ってんだけど。な感じで、でもこっちだと、一回会う、やって付き合う

ー: あー、そっかそっか。順序逆なんだ

F: そうそうそう

(中略)

F: そう、だからちょっとショック、カルチャーショック、まあ俺が大人になったのかなと思ってたけど

ー: うーん、そうなのか。そういう知識はやっぱその、二丁目関係の人から、得たの？

F: ここやばいね。俺の多分今の人生結構作ってるよここ。なんか、社会勉強させてもらってる感ある。本当色んな人からもう、知識がね

ー: 大学来てからって感じ？

F: こっちきてから。やっぱ行けば絶対、いるから、こういう場所があると。でも地方だとなんところもあるじゃん、本当に。そういう人が集まる場所さえもないから。ちょっと怖い、もう近づかないようにしようか (笑い)。ちょっと闇とか見たくないな。一生なんかそういう白い世界で生きていたいんだよね

ー: そうなのかー。地方で抑圧されるっていうのもやっぱりきついけど、

F: こっちはこっちでね。だからなんか、こっちってすごいいっぱい人がいるから、別にこの人じゃなくても、違う人で代替できるよねとかいう感じになるんだよ。まあ地方だと人がいないから、すごい一人を大切にしようっていうか、それがあって。なんか都会って別になんか、いても、あなたでいいよねっていうあれがないから、すごいなっちゃうんだよね多分。なんか本当個を失うって感じ

(中略)

ー: 男女の恋愛ってこう、私と彼氏ってなったときに、あんまり関係性が対等じゃないと思うみたいな

F: あー釣り合っていないみたいな

一：そう、釣り合っていないから、結婚するってなったら私は仕事辞めなきゃいけないかもしれないとか

F：あーなるほどね

一：女らしく振舞わなきゃいけないとか、ね。そういうところでもっと対等な恋愛がしたいって。その点で「やっぱBLって良いよね」と言ってる子が多いんですけど

F：確かにね

M：言われてみれば分かるけど

F：確かに確かに。でも意外と、まあBLはそうだけど、実生活っていうか実体験、まあ実生活、としてはやっぱこっちの人たちは二人とも男でずっと働けるから、そういうあれはない、と思うよ。対等、だと思う。現実世界でも、BLも多分対等だと思うし、実際も多分対等だとは思うけど

一：あんまり意識して読んだり、その生活の中で意識したりはないんですよね。それは普通なのかな

F：いやでも同棲はしたいなってね。「一緒に同棲してる」って、いいなーって

一：ゆくゆくは同棲したいんですか

F：いいよねー、同棲。やっぱ同棲してる人見てると楽しそうだもん。別に、隣にずっといて欲しいってわけじゃないけど、なんか、ね、ね。愚痴相手が欲しいじゃん、愚痴相手っていうか。愚痴相手というかまあなんというか。まあそれぞれ自分の部屋もってて、リビングとかで、誰かいればいいかな、って感じです

M：対等な関係性かー、みんな抑圧されてるのか。でもそれはあるよね

F：それはあるでしょ

M：私も仕事をやめるっていう話になったら私がやめるんだろうなって思ったことは何回もある

(中略)

F：いいよねー。俺もああいうなんか、ドラマティックな出会いとかしてみたい。実際さ、アプリとかじゃん。アプリか、そういう場所に行って、出会ったりとかじゃん。最近アプリばっかだな。そういうのばっかだからね。そう手っ取り早いんだよね

一：そんな大学の構内でばったり会ってとか、運命的な出会いを果たすなんてね、ないですよ

F：でもそれをしたい、したい。目と目が合う

M：でも男子いないじゃん、前の大学

F：それなー

(中略)

M：一目ぼれはできるよね

F：両思いになりたい

M：両思いになれないけど

一：一目ぼれからの両思いなんですよ

M：つらいー

F：めちゃいいじゃん

M：まーなかなかそれって男女でもハードル高いからな

一：そうだよ。お互いに一目ぼれしてなんてね

M：なかなか

F：まあでもね、結局ね、あれだよ、中身だよ。それでゲスだったらクズじゃん。結局中身じゃん。まあとっつきは外見だけど、結局中身だよ

(中略)

一：横澤さん単体で推してるんですか？それとももう

F：単体単体。俺は単体だよ横澤さん一筋

M：私禅様も好き

一：あ、派閥が(笑)。

M：(笑) ここで今日は争っちゃだめだから

F：横澤さんと、あとなんだろう、禅さんの娘ちゃんの日和ちゃんか、あの三人は可愛い。可愛い。可愛い。俺もああいう生活したいもん。俺もああいう生活したいな。俺もああいう生活したいな(笑)。

M：理想形だもんね

F：子供欲しい

一：どういう感じなの？

F：禅さんが元々嫁さんがいて、その下に子供が産ま、日和ちゃんっていう娘がいるんだけど、その嫁さんが

M：禅さんの職業なんだったっけ

F：編、ジャブンの編集長、編集長

M：少年誌の編集長で、横澤さんは営業なの、同じ出版社

の

F：で、その禅さんの奥さんは、奥さん死んじゃってて、で二人で、娘と二人で暮らしてたの。で横澤さんは横澤さんで、高野さんっていうあの、少女漫画の編集長のことが昔から好きで大学時代同じだったから。で、それですっと片想いしてて、告ったんだけど結局振られちゃって、やけ酒を居酒屋でしてるときに、禅さんが来て、んで（笑い）飲みすぎちゃって、後分かるでしょ

一：すごいな

（中略）

M：横澤さんの何がクリーンヒットだったの？

F：えと、キャラが良いし、キャラがねツンデレなの。ツンデレなんだけど、本当はすごい優しくて、なのにツンデレで、なんか子どもとか動物からすごい好かれるの。でなんでもできちゃうキャラで…顔、顔も良いよね

一：（笑い）何でもできちゃうと顔がもう、全部もっていききましたね今

M：（笑い）

F：（笑い）えっと一、なんだろうね、身長？（笑い）

一：（笑い）最初の話に戻った今

F：あとスーツがやっぱり

一：スーツか

M：でもなんか、セクシュアリティの話を除くと、少女漫画が好きなの女の子の話と何ら変わらない気がする

F：そう変わらないよ、変わらない

M：私も同じようなコンテンツを消費してるけど、全然理想の男性像が違うもん

F：えーでもなんか、俺が読んでるそのなんていうの、横澤さんは結構実生活に近いじゃん、その、なんか銃とか撃って魔法とか使わないじゃん。現実味あるっていうか、すごい良いんだよね。いそうでいないみたいな感じだからさ

M：確かに。実際にある生活の、一部だもんね

F：だから良いんだよね。良いんだよ。だから今、就職先で、探してるもん。いないかなイケメン、いないかなー（中略）

F：結構今やっぱピークだな

一：ピーク？人生のピークですか？

F：そう人生のそうね、こういう、自分のセクシュアリティをオープンに出せるか出せないかのグラフ（手元の紙に書いている）。抑圧されていた闇の時代、高校まで、18？そっから大学んなってはじめて彼氏ができて、楽しかったね

一：あまずつぱい、あまずつぱいなー

F：（笑い）めっちゃ嬉しくって。めっちゃ嬉しかったな。すごい尽くしてた

一：出会いはアプリ系だったの？

F：そうそうそうそう。あっちからアプリで、メッセージくれた。で会ってみて、すごい、かっこいいし、まあ性格はあんま好きじゃなかったけど

一：そうなんだ

F：かっこよかったし。良かったかなー

一：その人は青峰君似の人ですか？

F：青峰君似、本当。本当青峰だった。バスケしてたしさー。本当青峰だったよあいつは。あれ見せたっけ？見せたよねなんか、見せなかったっけ写真

一：写真は見てないかも

F：見てないっけ

一：そんな似てるんですか？

F：そんなでもないけど、雰囲気なんか似てたんだよね。なんか青峰君っぽいなーと思って。うん、良かったね

一：元恋人の写真とかずっともってる派ですか？

F：そうもってる派なんだよねー。一緒に撮ったやつとかめっちゃもってんだよねー

一：捨てるに捨てられないかも

F：そうなの、捨てられないんだよねー。良い記憶じゃんだって

一：そうですね、楽しかった記憶ですよ

F：楽しかったんだから。その記憶ぐらい、ね、後で…もう一回美味しく、できるじゃん

一：今の恋人さんとか別に、嫉妬深い人とかじゃないんですか？

F: 全然もう、意味が分かんないほどなんもあれ。えなんかほんと前、半年前くらいまでは、半年、一月ぐらいまでは、すごいなんかべたべたしてきてくれたの。なんか突然なくなったそれが

一: えっ、うんうん

F: なんか違うなみたい。全然触ってこなくなったし、すごいなんか、なんでなんだろうと思って訊いたら、「いや、家族みたいになった」とか言って。「いやお前半年で家族になるわけないだろこのブス」って言って。なんでかなーとか思って、浮気でもしてんのかとか思った

けど多分、性格的にしない人だから。でもやっぱその、人は昔からなんか二丁目とか行って、なんか友達も結構いたりとか、でなんかやっぱ飲むのが好きでみんなと、だからなんか、居酒屋で飲んだりとか、なんかバー行って飲んだりとか結構好きな人だから、まあ実生活結構充実してる人だから、なんか別に俺と…会わなくても、楽しくやってんじゃない？

一: 悲しい、切ないですね

F: そう悲しい、切ないのね。俺に構ってくれなくなった
(以下雑談)

付録：Fさん3回目インタビュー

2018/07/27

(雑談)

一：結構わりとこう、広範囲の人に対して BL 好きなのを隠しているじゃないですか。隠してる？それとも訊かれないから言わないくらい？

F: 訊かれないから言わないね。訊かれたら言うよ、別に。

俺はそういう系読むし、とか言ってるけど

一：ご両親からは何も言われないんですか？

F: 知らない…？でも、なんかね、昔から…『CC さくら』とか『おジャ魔女どれみ』とか大好きで。多分そういうのの一部？だから別に、俺がそれ (BL) 好きでも何も言っていないと思う。かな？

(中略)

F: いやなんかさー、付き合う前が楽しいじゃん！(笑い) 付き合う前が楽しいんだって。付き合ってからなんていないんだよ！

一: いないの、付き合う前が良いんだ。出会ってから、付き合いましょってなるまでの間？

F: そう、紆余曲折がいいんでしょ。だってそこが楽しいじゃん

一：付き合った後はどうでもいい？

F: どうでもよくはないけど、大体パターン決まってくるじゃん付き合った後って、その、ストーリー的にね。三角関係に絶対なるし。絶対なるでしょ、鉄板だなこれ。なんか三角関係で嫉妬して、ぐるぐるして。でなんか、そう、仲直り、みたいな。それしかないじゃん！で、第三の刺客？そういうのがいっぱい出てくるだけでしょ？でしょ？だから大体見えちゃうから。やっぱ、王道だよな。付き合う前は、やっぱね、いろいろ葛藤がある。「え、まじ」みたいな、そう。そういうのが良い。

一：付き合う前の色々は、別に

F: そこは多様じゃない？そこは多様でしょ？多様じゃん。なんか色々なアプローチの仕方があるからやっぱ。付き合ってからだと、もう単調？どういう組み合わせにす

るかだから。そうそう。どういう組み合わせにするかだから、なんか…結構全体に

一：結構漫画って、付き合った後のこと描いたり、付き合った後メインで描かれてるやつとかたまにあるじゃないですか。そういうのよりかはやっぱ、両想いになるまでのやつが好きなんだ

F: そこが良いんだよ

一：中村先生はそうだな

F: 中村先生 (の漫画は) そう (付き合う前のアプローチが多様) だからさ。中村先生も付き合った後 (の描写) って結構そんな感じなの。誰が仲良くて、第三の刺客が現れて、なんかこう、嫉妬。なんか自分とこ帰ってきて、結局お前ら仲良いじゃんみたいな。で、して終わりみたいな。そのパターンばっか

一：それ嫌なんだ？

F: 嫌じゃないけど、なんかもう、なんかね、出尽くしてる感ある。

一：付き合うことになって、その二人の同棲の話とかは別に？興味ないそこまで

F: あー、そこに興味はあるけど、別に良いんだよ？そのラブラブしてくれる割には、それは尊いなって思うけど、その運び、ストーリーの運び方的に

一：三角関係になってとかは

F: そう。絶対あるじゃん。いや、(三角関係になることは実際) ねーからって毎回思うんだけど。ねーからって思うんだけど、そればっか来るから、またこのパターンかって。はいはいって感じで

(中略)

一：BL 好きの人に良く訊いているんですけど、バレそうになって焦った経験って。隠してないわけじゃないけど、でも訊かれないと言わないわけじゃないですか、バレそうになったら焦るとかない？

F: (笑い) 無くはないかもね。確かに前、その、実家いたときに、高校生の時に、通販で漫画買ったわけじゃん。でもそんなときの漫画は、なんかそれプラス違うのがあったから、少年漫画みたいの。いろいろ読むから。だからそ

れで、何買ったのって言われたから、これだよってダミー、ダミーの見せた。読むけど、ダミーのそれ見せて。(本命の BL は) 下の方に入ってるじゃん。ちょっと一気見したいから買っちゃったわ、って。だから絶対に単品で買わない、んだけどね。まあ今は一人暮らしだから何買っても別に良いけどね。

(中略)

一: BL を本屋で買えないって話のときに、「だって男の趣味じゃないし、おかしいじゃん?」「男が買ってるのおかしいじゃん」って。

F: そうだね、それはある。

一: 男が買うとおかしいんだやっぱり

F: なんかやっぱ、(書店での) 配置が良くないと思う。少女漫画の横にあるから良くない。少年漫画の横においてくれば全然行くし。

一: 間違って買っちゃうから、うら若き少年たちが

F: いいじゃん別にね、多様性だから。でもジャンルの的にもまあそうだね、恋ものだからやっぱり

一: 少女漫画の隣に置いてありますね、隣ってか奥に

F: なんかお姉さんが読む、みたいなどこに置いてあるから、やっぱ行きづらいよね。それも影響してるし、後なんだろう? まあそれかもね。あと、メインターゲットが女性で描かれてるっていうのもあるかもね。読み手っていうのが。

一: それは感じる? 読んでても

F: それはかなり感じるかも。だってね、あんな深く感情、ならないもの。もっとね意外と単純だよ、本当に。単純に動いてるから。

一: あんなに情緒が爆発したりしない?

F: ないないないない。あんなの男だったらメンヘラだよメンヘラ (笑い) メンヘラだよほんとに、でも俺はメンヘラだから (笑い) 共感しちゃうんだよ (笑い) 俺はメンヘラだから共感しちゃうから…かもしれない! こっちで、

BL 好きな人メンヘラかもしれない。その説はあるかも。

(中略) 意外と、俺喋ってても別にメンヘラっぽくない

でしょ? 意外とメンヘラなの、本当に。自分でも驚くぐ

らいメンヘラなの

一: 恋愛ってなっちゃうと?

F: うん (中略) メンヘラが読む読みものなんだよあれは

一: 腐女子はみんなメンヘラなのかな?

F: それはあるかもしれない。メンヘラがこじれて、解消するために読む。(中略) 俺の周りでそのなんか BL 好きな人は結構メンヘラが多い。やっぱ。女性でもね。

一: 周りの BL 好きな人って大学で出会った人ですか?

F: 大学とか、そうだね、大学とか。あとまあこっちの人とか。俺の彼は、別に BL 好きだけど、別にメンヘラではない。

一: 反例が。

F: ちょっと違うんだよね、覆っちゃう。でも意外とメンヘラなのかも、いやわかんないけど。そんなメンヘラではない、結構さばさばしてると思う。

(中略)

一: 中高とかで、腐女子、ザ・腐女子みたいな人いなかったんですか?

F: いるには、あでも、大学のときはすごいいた。

一: 大学はそんなにいたんだ。

F: だから M…M もいた、そうだけど、その、グループがあって、結構仲のいい。その中の女の子二人はすごい、腐ってて。毎回話題、話してた。やばいよ、すごい、すごい腐ってる。(中略) 今静大の院に行ってる、同期の、その仲良かった子は、その女の子は、すごいメンヘラ (笑い) で腐ってたから、多分当てはまってる。結構重度。重度な腐り具合、でメンヘラね

一: 重度って例えばどんなことしちゃうの?

F: 重度、なんだろう、ちょっと家庭の事情とかもいろいろあったからあれだけど、結構、依存するみたいな感じなのかな。

一: うんうん。あ、腐り具合ではなく、メンヘラ、ということ?

F: 腐り具合はすごかった。自分で描いてたりもしたから。

一: あー、それはもう、すごい

F: 描き手さんだったから。

一：極めてる。

F：極めてる。すごい極めてた。だから色んなの読んでて色んなの貸してくれたから。俺が読まないような、なんか、目をつぶりたくなるようなジャンルまで。

一：前言ってたやつだ

F：そうそうそう。

一：女友達から過激なやつ借りちゃってってやつ

F：その子だね。いやーすごかったね、びっくりだよあれは。ちょっとね、違う。あれはもう BL じゃない。もうガチだった。

一：自分が望んでたものじゃなかった？

F：そう。絵は良かったけど、内容がもうねガチだった。なんか怖かった。

一：キュンキュンとかじゃなかった？

F：キュンキュンじゃない。(中略) なんか監禁してて、それで愛情があるみたいなさ。全く理解できなくて。ちょっと俺にはハードル高くなって思って。

一：すごい、突然アブノーマルなやつが

F：そうそうそうそう。いやまさしく「アブノーマル」って書いてあったなんか、冊子、雑誌だった気がする。雑誌？本。怖かったなー。怖い怖い。

(中略)

F：こっちの人が読む雑誌があって、そこにも漫画が連載されてるんだけど、やっぱ BL じゃない。なんか本当ガチ。細部まで描かれちゃってるから、もう読まない。俺が求めているのはそれじゃない！って。どちらかというね、ストーリーっていうよりかは、行為中の、その描き方が、描き方に重きを置いているから。こうなんか、キュンキュンっていうよりかはエロ本みたいな。好きな人は好きなんだよね。エロ漫画みたいな。

一：エロ漫画を読みたいわけじゃないんですよね

F：違う。キュンキュンしたい

一：そこに至るまでのキュンキュンが欲しい

F：そうそう。やったら終わり。と思ってる勝手に俺は。

一：BL が好きな人も、なんだろう、そこに至るまでが好きな人と、もうそっからが好きな人とやっぱ二極化し

てますよね

F：やっぱり？そうだよ、そうだと思うよ俺も。(中略)

プロセスだよ、プロセスが大切です。

一：どうそこに至るかっていうね

F：そう、そこだよ。多分行為が好きな人は、まあエロ本っていう認識でしょ。で、プロセスが好きな人は、ある意味小説、の延長線みたいな感じで読むから。そういう目的で。純文学だから(笑い) 勝手に俺は分析してるけど。

一：小説って読みます？

F：小説読むよ。そのだから、『横澤さん』小説しかないから。だから小説だけ。

一：他のも読む？

F：他のも読んでるよ。他のも読んでるけど、でもやっぱ基本漫画が多いかな。けどでも、全然、活字でも、好きだから、俺は全然読みます。だからあれだよ、森鷗外だっけな？『キタ・セクスアリス』？あれ漫画になったやつ、原作読んだけど、良かったねー(笑い)。なんかこう明治とかさ、あそこらへんの時代背景と上手くこうね、「この感情はいったいなんなんだろう」みたいなその感じが描かれてて、すごい原作良かった。読みな！読みなあってあれだけど、読んでください。結構そのなんか、文豪が描いたので、そういう系のあるから、そういうの読むの結構好きだよ。(中略) 高校の時は(周りに) 言ってなかったし、俺がそれ好きと言ってる人いなかったから、あれだったんだけど。地元だったからさ、やっぱ、コミュニティが狭いから、誰にも言えなくて。だからネットとかでこう探して、こうなんだろう、二次創作してる人の奴読んで。それで満足してた。(中略)

一：結構、なんだろう、俗にいう腐女子の人って分かりやすくないですか？

F：あ一分かりやすい、分かりやすいよ。それは分かりやすい。俺が男子といちゃいちゃしてると、すぐ見てくる。あー、なるほどって。だから俺は…サービスって思ってた。サービスだよって思いながらいちゃいちゃしてたけど俺も、別にその、嫌ではなかったから、いちゃいちゃし

てた。

一：違うんだけどか思わなかった？こいつじゃないんだけど、とか

F：いやもうそれはもう、特定の人にしかいちゃいちゃしなかったから（勘違いされて嫌だということはなかった）。で、腐ってる人はすごい見てくる。腐ってない人は、「きもいー」みたいな。そう言うてくるから。こいつは違うなって。

一：何も言わずちらちら見てくる人たちが？

F：そう、そういうことだよ。すごいねー、だからまあ俺は、まあ、腐ってる人にはサービスって思いながら。

一：サービス精神が

F：そう、旺盛でしょ？まあ俺得なんだけだね。

一：得してるんですか？見られてて嫌じゃないんですか

F：別に（みられるのは）構わないけど。

一：あることないこと妄想しやがってみたいな

F：どんどんしてください。それフィードバックしてほしい。してほしかった。いちゃいちゃもさ、二人っきりでしたらガチじゃん。俺ともう一人だったら。みんながいる中でいちゃいちゃしてたら、なんかギャグかお互いって感じになるから、まあいいかってなるけど。まあなんかみんなの前でいちゃいちゃしてた。二人っきりでいちゃいちゃしたらガチだからさ。

一：みんないる前だったら絡みやすいからね。切ないななんか

F：切ないでしょ？ちょっと書こっかなー。（中略）俺のその時の心情でも書いておこうかな、「本当は二人っきりでいちゃいちゃしたい。でもなんか、二人っきりだと、相手から、ガチだと思われてしまうから、みんなの前でできない。」（中略）

一：大学入るまでは、なんか、オタク友達っていうか、BL友達いなかったんですか？

F：いなかったね。オタク友達って、まあアニメが好きだったから、そういう系（の友達）はいたけど。なんかそういう BL の話はしなかった。大学入ってからはやっぱり県外だし、自分の知らない人ばっかだったから、別に言っ

てもいっかと思って、まあ BL が好きみたいな話になって、俺も好きだよって言って、そこで色々教えてもらったりとかしてたりして。

一：確かに芸術系の学科あると、そういうの好きな人多分多い

F：文系女子ばっかだったから、文系女子はそういうの、好きでしょそういうの。勝手なアレ（笑い）

一：そうだと思いますよ

F：でしょ。だから、好きな人多かったから、そこで色々お話して。別に俺はカミングアウトしてないけど、俺は BL 好きな男の子、みたいな。っていうポジションだった。

一：地元だと、やっぱコミュニティ狭いと言いつらい？

F：なかなかね。言いつらいよー。まあ今はもう言っちゃってるけどさ、地元の人にも。やっぱ信頼できる人しか。

一：やっぱ趣味、趣味から派生してそういうこともバレちゃうかとも思う？

F：それは多いね。腐男子でこっちじゃないって、その方がレアかもしれない。（中略）俺はそこまで当てはまってないけど、こっちのひとで BL 好きな人は、ジャニ系が好きな人が多い。そういう可愛い系っていうか。かつ可愛い系が好きな人が読んでる、っていうイメージが俺はある。俺の周りもそうだから。なんでか分かんないけど。まあ（BL は）絵が綺麗だしね。前髪系が好きなんだって。別に俺はそこまで好きじゃないけど。どちらかっていうと爽やかリーマンイケメンが好きです。短髪で爽やかでリーマンのイケメンが好きです。高身長で 180 cm 以上が最高なんだけど。

一：もう青峰君しか出てこない。

F：あー尊い（笑い）尊いですね。

（中略）

一：彼氏さんは駄目なんですか？あれー

F：やっぱあれじゃん。理想と現実の違いってことよ。やっぱ理想はそういう爽やかリーマンイケメンが好きだけど、まあ結局現実だもん。実用性とあれだよ、なんか、実用的かどうかだよ。まあ今の彼びっぴは…もうそろそろ鞍替えしよっかな。

(中略)

一：リアルでも、こうなんだろう、正式にちゃんとお付き合いしますってなる手前までのその過程が良かったりするんですか？

F：意外と、こっちの人はね、そのなんだろう、付き合っているもののハードルが高いっていうか。難しいんだよね。体が基本目当ての人が多から。付き合うけど、一緒に住んだりとか、どっか一緒に行くっていう考えをもった人が少なすぎる。ワンナイトやればいいのか、そういうフレンドであればいいとかそういう人が多いから。俺はしっかり一人の人としっかりお付き合いしたいなとは思ってるけど。

一：別に派閥に分かれてるわけではなくて、なんだろう、しっかりお付き合いしなくても全然いいし、そうじゃない方がありがたいみたいな人たちのほうが多いんだ？

F：多いね、身体目当てが基本多いね。

一：需要と供給がままだらないな

F：そうそう。恐ろしいよ。怖いよ一。だから本当にね、前も言ったと思うけど、俺は一緒に住んで、結婚、結婚までできるかわかんないけど、そういうとこまで考えてるから。そういう、考えを持ってる人って非常に少ない。のが現状だね。だから今でも付き合ってる人も、そういう意識もってないから、まあ未来ないなって思ってる。

(中略)

一：何もできない人も良いとか言ってたじゃないですか、一緒に暮らすの大変じゃない？

F：そう。別になんもできないって分かっているんだったら。

一：分かっているんだったら良いんだ

F：全部やるから良いよみたいな

一：お世話焼いてあげるんだ

F：そうそう。その代わり働けよしっかり

一：外で働いてもらって

F：外で働いてお金はしっかりいれよう、と

(中略)

F：ヒモよりかはなんか自分の意見しっかり言ってくれた方が俺は好き

一：自立、適度に自立してもらって

F：そうそうそう。どっかに落ちてないかなー。爽やかリーマン高身長イケメン。収入しっかりあって、そういうなんか、先まで考えてるような人。

一：ちょっと家事が苦手で

F：そう。家事が苦手はポイント高い。そう、俺が全部やるからって。(笑い) つらいー。

(中略) 今もそうだけど、相手から好きって感情が伝わってこない。あっちから全然触っても来ないし。なんかもう、ある意味あっちも自己中心のなんだって。

一：最初べたべただったんでしょ？ギャップもあって辛い？

F：おかしいよ、なんなのかと思って。

(中略)

一：前回、女の子にもめっちゃモテるって話してたじゃないですか。(中略) そういう雰囲気にならないように気を付けることあるみたいな

F：それは正解です。目合わせないとかね。こっちすごい見てくるけどこう(目をそらす) やったりして。触ってきたら「は？」みたいな。

一：触ってきたりとかするんだ

F：怖いね最近の人は。(中略) 第一印象でそういう風にみられるとまあちょっと困るけどね。特にまあ、あれだよ、年下でなんか大学入りたてとかちょっと、やっぱあれだよ。恋愛経験がそこまで多くなかったりすると。そうなるのかなーと。

一：初対面の人あたりの良さできつとドキドキしちゃう

F：優しくされた、とかね。優しくしてくれる人はもっとたくさんいるから。俺はそういう下心出ないやさしさで、「そういう下心もった優しさもあるから気を付けな」って(中略)

一：下心見えないところがね、逆に良いのかもね。そこで惚れちゃう

F：そうなのかな。でもすごいやっぱ話しやすいっていわれる、女子から。でしょうね！って思う。お前らと脳は同じだから。脳は同じだよ。考えは同じだから。

(中略)

一：女の子とそういう雰囲気にならないように気を付けてるっていうのは、お付き合いしちゃった経験ありきのことなのかな？それは関係なく？

F：関係なく

一：じゃあ、逆にお付き合いしちゃうときも、一応気を付けてたけど好意をもたれちゃった？

F：あー、あの時は本当に友達の延長線上って感じだった。なんかもう、

一：すごい仲良かった？

F：仲良かった仲良かった。本当に。一緒になんかはしゃげるみたいな。俺は全然そういうあれはなかったけど、なんかすごい

一：向こうから告白されたしみみたいな

F：そう、アプローチされて。なんか周りのそういうなんか、中学校だったから、ここで振ったらなんか言われるじゃん。

一：言われるし、その子とも疎遠になっちゃうし

F：そういう関係崩したくないなって思って。付き合ってたあげたの。卒業して、すぐ別れたかな。

一：卒業するまでは付き合ったんだ。

F：半年ぐらいいかな。

一：そっか。振っちゃったら友達じゃなくなるの辛いかな？

F：結局なんかさ、関係修復できないからさー。どう、なんか話せばいいのか分からなくなっちゃうから。つまらかった。すごいね、気が合うから、話せば楽しいし、良かったんだけど。ちょっと困ったねー本当。困るなー。だからそれがきっかけでというに変だけど、なるべくそういう風な感じにならないようにはしてた。高校とか大学はね。なんかまあ、女の子と喋るのは好きだから全然良いんだけど、ああいうなんか、いかにもこう、なんだろう、清楚系なんだけど実はそビッチみたいな人と話すのが大好き。(中略)

一：結構ご自身のことを、BL好きみたいな形で言うじゃないですか、腐男子ってあんまり言わない？自分のこと

F：自分がそういう趣味もってるって？言わないな。(中略)相手に合わせるかな。(中略)腐男子でもまあ二パターンいると思ってて、俺みたいにこっちの人で腐男子の人もいるし、普通になんか女の子が好きで腐男子の人もいるから。それで見方変わってくると思う。

一：なんかそこで違うのかな？

F：なんか普通に女の子好きな人の腐男子は、コンテンツとして好きみたいな、少年少女漫画と同じ部類で好きみたいな。こっちの人だと、自分の恋愛経験とかと重ねて、生き様みたいな。こういう人のなんか生き様みて、あー共感すごいできる、みたいな感じなんだろうと思う。なんかすごい事例を見てみたい。事例っていうの？こういうのあるよね、分かるわかるみたいな感じ。(中略)自分と重ねられる。

一：こういうやついないだろうって思ったりしない？

F：それはあるそれはある。(逆に)いやこれねえからとか、そんな簡単に入らねえからとかね。(中略)

一：腐女子に悪いイメージとか抱いたことは…(中略)

F：自分がセクマイだから、他の人とは違うんだって感じだったから、いろんな人がいて良いと思ってたから、別にそういうのはなかったし。俺もアニメとか好きだったから、そういうのが好きだったらそういうのが好きなんだねみたいな。ある意味こっちの人だとそういう壁にぶち当たってるから、周りと違うんだみたいな。だからなんだろう、別にそういう人もいていいよって。気持ち悪がりはいしない。別に俺はそれを大っぴらに言うことでもないし、他人にそれを押し付けてもおかしいなって思う。その人が好きだったら別にそれでいいと思う、って感じ、かな？

(中略)

一：男の人相手に話すときの方が緊張するって、なんだろうね、それは、自分と同じ側じゃない人と話すとき？それとも男の人全般的にそうなのかな

F：昔は全般だった、特に自分のタイプとかだったり好きとかそうなるけど、タイプじゃなかったら普通に喋るよ。自分のタイプだったらこう…って感じにはなるけど。で

も今は社会にもまれたので、あらかた大丈夫。でもやっぱりなんかそういうバーとか行ったりだと、ちょっと緊張はする。どうみられるとかすごい怖い。どうみられるかをすごい気にする人だから。そういう、変に見られたくないなって気持ちから多分緊張する。怖いよね。怖いよね本当。第一印象を操作できればいいんだよね。(中略) 話すまでのその、もやもや?のときに緊張するかなって感じで。普通に最初打ち解ければ基本喋るの好きだ

から、ぐいぐい行く、人です。だからその、最初のその、なんだろう、喋るまでの過程が、俺的にはちょっと怖い。自分から話しかけて、拒否されたらどうしようみたいな。という感じになっちゃうから、それが怖い。だからなかなか自分から行けないんだよね、アプローチとか。待ち子?待ち子っていうの?

(以下雑談)

付録：Fさん4回目インタビュー

2018/11/10

一：「BLって純文学だよな」って

F：(笑い) なるほどね

一：純文学って…Fさんの思う純文学って何ですか？

F：(笑い) そんなこと言ったんだ。あーでもまあ正解だと思うそれは

一：純文学なの？

F：純文学だよな。いやなんか…俺が読むジャンルっていうかに多分絞られると思うんだけど、かなりもう、そんなすごい…表現がすごいあれって、少女漫画みたいなきゅんきゅんした感じって言うか。きゅん…きゅんが多いやつ

一：きゅんが多い

F：きゅんが多いやつ(笑い) きゅんが多いやつねー。なんだろうなー…。なんか、なんだろう。なんだろうね(笑い)。なんだろうね、結構小説でなんか読んでるけど、本当にそのなんだろう、そういうジャンルじゃなくって、なんていうんだろうね…いやなんか二つ？なんか、なんていうんだろう…描写がすごいやつと、それとなく、表現するみたいなあんじゃない

一：匂わせる感じのやつ？

F：そうそうそうそう。匂わせるのがいいんだよね(笑い) そのまま描写をぼーんと出すんじゃなくて、そういう匂わせるなやつが一番…好きだな。なんかすごいあれになってるけど

一：上品な感じにこう、表現するやつ？

F：上品。そうそうそうそう。が、なんかすごい、読んでて、「あーすごい、きれいな表現だな」って思いながら

一：うんうん、あーなるほど。きれいな表現だなとか思うんだ

F：そうそうそうそう。「そう言っちゃう？」みたいな

一：あーなるほどね(笑い)。そういうことか

F：(笑い) 言っちゃう、なんか直接的じゃないっていうか。えーなんか、よく小説の方とかも読むんだけど、結構

描写で、もういかにもな文ってあるじゃんやっぱ(笑い)。そうじゃなくて。踏み込んでないみたいな

一：あー。あーでもあるかも。小説とか特にそう、だよな

F：うん。活字でねいかにね描写するからだからさ

一：直接的な表現を避けていかに書くかみたいな。あーなるほどなるほど、理解しました

F：多分そういうことで言ってたと思います(笑い)

一：言葉の綾？今まで読んでた文学作品に似てるころがあったり？

F：あーなんかそういう、なんだろう。結構有名な文学作品のオマージュ的なやつとかも、あったりとかして

一：へー、面白い

F：よくあるじゃん(笑い) なんだっけ、えっと一…Kが出てくる、夏目？え、なんだっけ？

一：「こころ」ですか？

F：あーそうそう、あれの

一：(笑い) あれの、うんうん

F：あれの、やつとか(笑い)。本当は私はKが好きだったみたいなやつ

(中略)

一：お父さん？お母さん？がなんだっけ、泉鏡花とかが、そういう小説読むみたいで、って話を言ってたんですけど、そうなんですか？

F：父がそうだった。パピーがすごい、パピー？(笑い) パピー、パパ、パパって言っちゃうんだよね。なんか、結構、なんだろうまあそういう本とかすごい好きな人だったから、なんか大学も文学部出てるし、行ってて、本はすごい読んでる人だったから

一：じゃあ家に本たくさん

F：めっちゃあるめっちゃある。でもなんかあの人ねー、大学入試がすごい好きでー、数学？なんか最近数学とか物理がすごい好きらしくって

一：え、最近？

F：最近って結構前。俺が、子供の時ぐらい。そのときからずっと好きで、なんか毎年、なんか、東大の問題買って、自分で読んで、「ふむふむふむ」とかすごい楽しそう

だけど、俺にはすごい理解ができないけど。もともと文系で英語が好きだったから多分、影響で俺も結構英語好きだったから。それはあるかなと思うけど、数学はどうも好きになれない

一：数学にも興味あるのすごいですね

F：てかなんか学問深めてくと文理問わず、なんか、あるらしい。俺は数学は無理だけど。やろうとも思わないし。でも今なんかアンケート調査でやっぱ統計ちょっと扱ったりする（中略）学部は歴史だったから。文系だったし、がちがちの

一：初めてやるの大変そう

F：死んじゃう

一：死んじゃう

F：よくやってるわ自分、と思うもん。まさかやるとは思わなかったわ

（中略）

一：お父さんの影響で、そういう本をちっちゃい頃から読んでたりとかはしなかった？

F：読んでな…読んでないなあんまり。そんなに本昔好きじゃなかったから。読んでも漫画とか。あとジャン、えでも…なんか、古典、が好きだったかな。古典文学。が好きで昔から読んでた気がする

一：好きではあったんだ

F：うん。現代文、現代語訳されたやつだけだね。『源氏物語』とか好きでよく読んでた、かな？平安雅な世界ね。は読んでたかもしれない

（中略）

一：近代文学っていうよりかは、そういう、古典系なんだ

F：うん。中学ぐらいから。でやっぱりなんだろう、そういう、元々そういう、なんだろう、BL好きだったから。そういうのが欲しいなってずっと思ってたんだけど、なかなか実家だと買えないじゃん、だからまあなんだろう、漫画を大量に買う時に、さりげなく混ぜる。ことをしてたよ、よく。高校とか

一：さりげなく

F：さりげなくそう。大量に、漫画とか買って。親が気に

するじゃん、「何買ったの？」「漫画一気に買ったの」ってさりげなく、したな

一：（BL漫画は）挟んどいて

F：うん。そういうせこい技をしてたね

（中略）

F：父親の影響はそんなに受けてはいないかな。あんま好きじゃないし。あんま父親好きじゃなかったからさ

一：今は？

F：今もあんまり…いやなんかねー、理不尽っていうかなんかねー

一：前回も言ってましたよね

F：子どもなの本当に。だから俺がね、しっかりせざるを得なかった面はある

一：確かに進路もめっちゃがっちり決めてたじゃないですか

F：そうそうそう

一：すごいしっかり者って思ってたけど、そっか、お父さんの影響があるんだ

F：親が全然だから、そこはしっかりしないってという反面教師だね

一：あー。どういうところがしっかりしてないの？

F：先のことが見えない。なんか今、どんどんやっちゃうみたい。先のこと計算しようよと思う

一：とりあえず目についたことやっちゃうんだ

F：そうそうそうそう。（目に）とまったことすぐやっちゃう

一：それで一人で生活してるんだったら良いかもしれないけど

F：迷惑かけるの辞めろって感じ

一：迷惑かけられたこと結構ある？

F：被ってる、なんかいつも。だから結構喧嘩してるんだよねやっぱ、母親と

一：えー、そうなんだ

F：すごいもう、母親も結構、口がま、達者な人だから。言う、すぐ言う

一：言える人なんだ

F: うるさい。それはね、多分おばあちゃんに似てるんだと思う。おばあちゃん。M もあったことあると思うんだけど。すごいファンキーなおばあちゃんだからさ

一: お母さんのお母さん?

F: うん。本当に

一: お父さんは言い返せる人なんですか?

F: お父さんは最初は言うけど、途中から面倒くさくなって、全部なんかこう投げ出していく

一: 面倒くさくなっちゃうんだ

F: そう。で、なんかでも母親は追究するから、ずっと言ってるずっと

一: えー、格好良い

F: 本当強いよ。本当マジ無理
(中略)

一: 理想の恋愛どんな感じですかみたいな話訊いたときに、なんかめっちゃイケメンのノンケ男子を、「ノンケ男子を拾いたいよね、拾いたくない?」みたいな話があったと思うんですけど

F: そんな話したっけな(笑い) 養ってあげたいよね

一: 好きになる BL のキャラも、なんかノンケ男子が多かったり、組み合わせも両方なんだろう、男の子が元から好きな子、じゃないようなキャラが好きだったりするの?

F: うん。そういうのも良いよね。自分の中で葛藤するっていうあれね。「俺はこんなんじゃないんだ」っていうあれね(笑い)

一: (笑い)「こんなんじゃない」とは?って感じじゃないですか?

F: 「俺はこんなじゃなかったのに」っていうあれ。そういうの、そういう奴に限って、えっと一、ドネコだったりすると最高ですよ

一: でもそういうの多くないですか、意外と

F: うん。嬉しい展開だよ。嬉しい展開(笑い) 嬉しいね

一: 逆にこういう組み合わせ読まないとか、読みたくないかある?

F: なんか、キレイめ系×キレイめ系はあんま読まないかな

一: あ、そうなんだ

F: うん。キレイめ系とカッコいい系だったらいいのかな

一: あ、そうなんだ。カッコいい系とカッコいい系は?

F: 読む読む読む。だからそこが多分あの、こっちの、あれかもしれない。独特な、感性なのかもしれない。結構女子とかだと、キレイめ系でもなんかいいみたいな。ジャニーズ系×ジャニーズ系みたいな感じになると思うんだけど、あんまないかな。俺は読まない。やっぱなんか、しっかりしてる方が、俺は好きだったから。がっしり体型と、まあがっしり体型が好きだし、がっしり体型と細い体型みたいな組み合わせが一番まあゴールドですね。黄金比ですか?(中略)

一: 女の子とかに訊くと、「両方キレイめが良いんだよねー」って言う人は多いですよ

F: 相容れないんだよね。そうなんだよね。そうなんです(中略) 結構こっちの人がね、ゲイとかの人が、結構筋肉系好きな人がマジョリティを占めてるから、だから身体がしっかりしてる方が、あの楽しいっていう人が多い。俺の主観だけど。二次元に限って。三次元もまあそうだけど。大体みんなね、マッチョが好きだけだね。マッチョ? 細マッチョぐらいの人? なんかちょっと鍛えてますぐらいの人(中略) 気になるなそれは。こっちの人で BL 好きな人はどういう、カップリングが一番好きなのかっていうのは気になるよね。

一: ね、どういうのが好きなんだろうな

F: 多分自分の恋愛と多分透写してると思うから

一: そういうのはありそうですよね

F: 絶対ある絶対あるそれはある

一: 女の子も結構あったりするし

F: あ、確かに。やっぱ理想はね、二次元にいるから

一: ね、「こういうストーリーが良いんです、現実ではこんなのないから」

F: そうそうそうそうそう。まさにそう。職場とかね。そういうのがあってほしいなー、職場で。

一：職場でかー

F：職場で。憧れてたもんずっと。高校時代のときとか、同級生はまあカップルとかいるじゃん。いいなーって

一：制服デートとか

F：したいねー

(中略)

一：「ゲイとホモって違うじゃないですか」って言われて、
(中略) ゲイとホモの違いって何だと思いますか？

F：なんか社会学的なこと？っていうとあれだよな。ホモはレズもゲイも全部統括した、総称の、まあある意味、蔑んだ呼び方。でゲイは本当男だけっていう感じがあると思うんだけど。そういう認識の人が多分多いと思うけど。合ってるかな？

一：Fさんのにはというか

F：あー、そうだね。なんか…ゲイっていうと結構ガチめな感じだよな。でもホモっていうとなんていうかすごい…なんていうんだろう、蔑んだ感じってか、馬鹿にするときにもそういう、使うから。うん。だからなんか、俺的にホモって言われると結構傷つく。やっぱり、うーんって感じになるから。そういうイメージはあるよね。まあ世間はそういう風に使ってるから、そういう意味に受け止めちゃうから。だからなんか、「あー、あいつホモなんだ」とか言ってる人見ると、「はい、教養のなさ目立ってるよ」って

一：「ポップな感じで使いますよね」とか言ってる人いるけど、まじかーって

F：分かんないんだよなきつと、当事者じゃないからねー。それはしょうがないよ

一：ちょこっとでも大学でそういう勉強かじってたりとかするとね、知識は

F：そうそうそうそう。やっぱ全然そういうのがないとね、なかなか難しいよ。それはしょうがない。受け止めてる
(中略)

一：彼氏さんどうなったんですか？

F：別れて。いつだったっけ？前回

一：前回ね、

F：なんかぐだぐだになってきたって言ってたよね(中略)

一年付き合った人は別れて、まあ新しい、人がまあ、いる
(中略) 好きって感情が伝わってこないとね、無理

一：なんで付き合ってるのってなっちゃいますもんね

F：そう。本当それ。前の人はそうだったからもう、本当に。最初はすごい好きが伝わってきたけど、だんだんなくなってきたから

一：最初そうだったのにね、おかしいですね

F：おかしい。頭おかしいんじゃない

一：(笑い) 怖い

F：(笑い) 浮気かー？

一：ぱったり振ったの？そんな感じで

F：うん。もうなんか、まあ、次はいるし、別にいいやって。そうやってね、だって、なんだろう、俺のわがままっていうかないけど、やっぱりなんか、あるじゃん。上限っていうか。それ下回ったら、駄目じゃん、さすがに。なんか、下回ったし、もうそういう気はないっていうのが、見えてきたので

一：あーそうなんだ

F：分かんない。家族みたいって最初なんか言われて、「違くね」と思って。何って

一：家族みたいって何だよって感じですよな

F：そうー。結構、すごい父、元の人は、すごい父親みたいな感じで、すごい逃げるのすぐ。言ってることに對して、なんかこう、そのまま返すじゃなくて、こう回りくどくなんか、言ってくるから、どっちつかずなの

一：あー、ちょっと話変えて

F：そうそう。どっちつかずな言い方とか、すごいしてくるから

一：そうなんだ

F：うん。なんかイライラしてきちゃう

一：えー、じゃあ「こうして欲しい」って言っても、なんか「いやそれは」みたいな

F：そうそうそう

一：グダグダ言うんだ

F：うざい。だから丁重にね、お別れして

(中略)

一：(将来的に同棲することについて) 実家にはどうしてるの、こういうのって

F：言ってるかってこと？言うか言わないかってこと？

一：そうそうそう。一緒に、誰かと一緒に暮らすみたいなの

F：一応まだ言ってないけど、決まったら多分、「ルームシェアする」って

一：あー、そっかそっかそっか。ルームシェアって言うんだ

F：そうそう。まあそういう時が来れば別に言ってもいいかなと思ってるけど

(中略)

一：現実の恋愛では満たされない理想的な部分を、BLで補ってるのは、もしかしたらあるのかな？と思って

F：それはあるよ。それはあるよ

一：他の女の子も結構そうですね

F：そう。少女漫画がそうじゃない？

(以下雑談)

付録：Gさん1回目インタビュー

2018/10/04

（BL愛好遍歴について）

G：小学校五年生。業がやばい。あの頃は、テニブリカイナズマイレブンの二次創作かな？まだサイト時代ですね。あれは、友達と同時期にハマって、たんで、お互いにおお影響を受け合っていたみたいな感じだったんで、結構はじめ…自分からかな？でも友達で一人いたな。結構先にもうそういうの好きな子がいて、その子も絵を描く子だったんで、その子に「こういうのあるんだよ」、みたいな、教わってみたいな感じだったですかね。なんか絵柄違うなーって思って読んでたら「あれっ？」みたいなw

（BLを読んだタイミングは他の腐女子と比べて）早いと思いますね。まだ周りに同じようなのが、私以外に二人ぐらいしかいなかったんで、早い方だったと思います。その（BL）好きだった友達は、さらにそのお母さんがそうだったみたいで。家に同人誌あったらしくて。その子は（親バレとか）気にしてなかったみたいです。うちはちょっとあれなんですけど。ちょっと、母親がちょっと、あのオタク嫌いっていうか。いわゆる、その界限でしか通じない言葉でやり取りする人が苦手らしくて。そんなんオタクでも嫌いだわって思うんですけど。家だとあんまり出さないようにって感じですかね。

（一人暮らしについて）

G：ポスターとか貼ってありますね、絡みがある奴じゃないんですけど。いつからこうなってしまったんだ、早く死にたい、早く死にたいよう。

（作品をつくることについて）

G：絵描いたりとか文書いたりとかは結構やってるんで。それ自体も高校生入ってからかな。文書き始めたのは本当に最近で、大学三年…二年生のおわりぐらいかな？絵を描き始めたのは高校一年生からです。絵のが先です私。

（二次創作以外のBLコンテンツについて）

G：商業は、人から薦められた時とか、あの、pixivの下の方にある、あの、あれ。あとBLCDとかですかね。漫画のドラマCDとか、CDのためにあるやつとか。声優が元々好きだったんで。アニメも見ますね。

こうやって言ってくると色々やってるな私。なんで地獄に行きますね。

G：三次元も、まあ、そうですね。三次元の場合も完全に鍵かけて、フォローフォロワー三人とかの、狭い界限で。ナマモノ（＝三次元の二次創作）は、ナマモノはそんなに本腰入れてはやってないんですけど、時々ライブとか行って帰ってくると、祭りになる。役者ですね。舞台俳優、声優とかですかね。舞台俳優まで手を出すとやばいと思ってそこはあえて見ないようにしてる。これ以上行くと死ぬと思って。金銭面で死んじゃうと思って。

（作品の公開について）

G：一応pixiv最近文をあげてて、あとはぶらいべったーとかにあげたりとか、Twitterのそのカギなしの公開アカウントで出したりはしてるんで。自分が一番メインでBLとしてやってるのが、二次創作じゃなくて、創作なんですよね。二次創作もするけど一応、創作も、書いてはいますね。二次読む人は二次作る人のが多いと思います。一次は友達と合同でやってる創作で。

一：過激な腐女子って？

G：腐女子過激な人は本当に過激だからなー。周りが過激ですねみんな。合わない人でも近寄ってこなければ大丈夫って感じで、なんだろうな、まあ全員原作のキャラ設定を一番重視してる人たちなんですよ。なんで、よくある攻めの変態化とか、あの、が合わない、んですね。そんなことしない！ってキレてブロックするみたいな。本人に向かってくわけじゃなくて、合わないものを排除していくって感じの人たちですね。一人はメ創で、あとはフォロワーですね、でもメ創のやつの高校んときの友達とかなので、結構限りなくリア友に近い。一人だけ岡山か

ら、高校まで岡山でそのあと茨大にいった、その子は純
フォロワーなんですけど。その子だけです。

(出身について)

G: (出身は) 千葉ですね。

G: 高校生の時に柏にあったメイト (アニメイト) とか行
ってたんで。東京もなんか、ビックサイトとか近いんで、
実家から 1 時間かからないで行けちゃうんで。オタクに
なっちゃったなー。

(初めて買った BL)

G: 初めて買ったのはいつだろう? BL に関するもの? 実
際に買おうってなったのが、高校生になってからですか
ね。結構金銭面で縛りが多かったんで実家で。なんで高
校に入ってからですかね。高校になって買ったのは、刀
剣乱舞かな?

G: 実家で隠しました。机の引き出しの中に、鍵かかると
こ。

(金銭面で縛りが多かったとは?)

G: 実家にいたときお小遣い制じゃなくて、あの、お年玉
をやりくりして一年を過ごすタイプだったんで、ゲーム
とかを一個買うと終わりなんです。なんで、高校生に
なってもらえる額も多くなって、特に物欲もなくなった
ころにそうになりましたね。ずっとです私。大学、下宿はじ
めてから、バイト始めてから自分で稼ぐようになったん
で、それ以降好きに使えるお金が増えて、悪化する、ひど
くなる。こう、もう一步踏み込んだところにいく w なん
で買うより自分で作ることとか、知り合いの作ったやつ
見てることとかの方が、うん。

G: 服とか、そういったものは親が出しててくれたんで。
友達とご飯、帰りに買い食いするとかそういうときです
ね。に、使ったりとかしてたかな。

G: 結構勉強面は割と言うタイプで、あとお金もなんか、
あんまり大きい額もたせると何するかわかんないからみ
たいな、そんな感じだと思いますけど。

(自分は腐女子だと思うか?)

G: 私は腐女子だと思います。中学ぐらい、中高ぐらいい
なって、好んでそういうのを読むようになってからです
かね。前までは目に入って、片っ端からなんでも読んだ
んですよ私は。私はその夢小説とかも読めたし、って感
じだったんですけど。その中にある一個のものとして読
みたい。それがいつのまにか、「このキャラとこのキ
ャラのやつか、読も」みたいな。になったのが中学のとき
で。あれはテニプリかな? 本当テニプリとイナズマイレ
ブンに人生狂わされてるんですよ。イナズマイレブン
は足洗って。テニプリは、探して読むことはないけど、
流れてくるとつい読んじゃうみたいな、感じで。実家み
たいな感じです。戻ることあるわみたいな。

(趣味に対してマイナスイメージ抱いてる?)

G: 地獄行きの件に関しては、ちょっとあの、こっちでは
ないんですけど、活動のときにあったことがあって、地
獄行きになりそうだなこれみたいな。普段やってること
はそんな、あれなんですけど。

G: イナズマイレブン足を洗うって表現したことに関し
ては、あのあそこ、ちょっと私公式と合わなくなっちゃ
って。レベルファイブの社長って、毎回売れば売れる
ほどそのジャンルの風呂敷を広げすぎちゃってたためな
くなるんですよあの人。その一番被害にあったジャンル
なんで、見てて辛い。あのジャンルいても DV 受けるよ
うなもんなんで。自分が傷つくからもういいって。しか
も本編見ると何だかんだ好きだってたっちゃうんで。
社長のやり口が気に食わないけど、キャラは好きみたい
な。

G: できるだけ、そういう、原作の関係重視でいきたい
んで。私が描くと、ホモかどうかラインすれすれみたい
になるんです。原作のキャラの関係性そのまま、なんて
言ったらいいんだろう、多分これ変なんですけど、原作
読んで、「あ、ここ付き合ってたな」って私が思うと、
私が付き合わせなくてもそこはもう公式で付き合ってる

んだみたい。公式にありそうなことそのまま書くだけで、その CP として成立すると思うっていうか。そのキャラの有様を書くだけで、いやーにじみ出てるなー、まいったなーみたいな。隠してくれないと困るよーって思いながら書いてます。そんなんだからバレちゃうんだよ私みたいなのにって思いながら書いてる。そのキャラが付き合ってるの世界の真理だと思ってるんで。あと最近周りで流行ってるのが「公 CP」っていう。そんな感じのやつらばっかなんで、過激になっちゃうんですね。キャラ改変がまず無理なんで。

一：改変する人の方が過激じゃない？

G：いや、多分自分の中でキャラ像ががちに固まっている人の方が過激ですね。しかも、あれなのかな、キャラ改変する人って原作がそもそも好きだから、原作に近い創作のことを好きって言えるんですよ。私ら逆ができないんで。こっちの人に「それも好き」って言われると、「それもってなんだよ、これしかねえんだよ」みたいなwキレ方をするっていうwそういうふうに過激なんです。悲しくなってきた。

一：サークルとかの BL 好きと話しが合わないと思うこと多いのでは？

G：思うことが分かってるんで、なるべく版權の話はしないって決めてるんで。「それも好き」って言われると、「……そっか」みたいなwそっかってなっちゃうんで。生きづれーwどっちかっていうとリバ？受攻逆は、私の場合極論言ってしまうと組み合わせが合ってれば、受攻めはもう多分その、それはもう受け手の好みで決まってくる感じなんで、関係性が、組み合わせが分かかって、キャラ解釈が合ってれば全然逆でも読めるんですよ私。だから自 CP の解釈違いが一番きつい。仲間ですよみたいな顔してナイフ持ってるんですよあいつら。うわってなる。なんで、自分で作った方が信頼できるなみたいな。

G：高校のときに入学して後ろの席だった子が、私は自分が腐女子ってことを言わずに、今どんなの好き？って話になって、私今黒バス好きなんだよねって言ったら、そ

の子に「私なんとかとなんとかが好き」って CP 名を言われて、あこいつ絶対合わないって思った。そこで切ったやつはいました。CP 名も無理だし、そういうこと言っちゃうのも無理だった。初対面だぞお前みたいな。でも幸運なことに高校と大学で、小中はその私が今無理なタイプの腐女子だったんですよ結構、キャラ改変も普通に大丈夫みたいな、自分自身もそういう感じだったんですけど、高校大学と経て今になったんで。高校の時の友達がごりごりの、マブ二人がいるんですけど、そこ二人がごりごりの CP 厨で、しかも一人は過激な腐女子だったんで。こっちは好んでホモを読むわけじゃないけど、あの NL？とかで結構 CP 厨って感じのところから、そういうのが増えた状態で今、周りに囲まれてるんで。徐々に培われて行って。大学入って知り合ったうちの一人が決定打ですね。本当にこんな感じの。影響力強めの奴が一人いて。絡んでるメンバーが、私のメ創の友達、まあ K なんですよ（笑い）。その K の高校の時の友達が二人と、純フォロワーが一人って感じの五人なんですよ。その K と、の高校の時の友達の一人が影響力強くて、なんで必然的にここ二人は影響されてるんですよ。という状態の、に囲まれて全員そうだったっていう感じなんで。感染なのかなあれ、感染ですね。結構面倒くさい生き方してますよ。

悪いこと思想っていうかなんだらう、悪いことっていうか、うーんと、余計なことやってんな自分って。結局原作が一番って考え方の人たちの中なんで。

（趣味を隠すことについて）

G：今メ創とかは理解のある人多いじゃないですか、なんで、自分が腐女子だってこと自体は、最近はあるま隠すことはないし、（所属サークル）も結構そういう人たちにやさしいんで隠すことはあるまいんですけど、ただこのありかたは絶対多方に敵を作るんで。敵を作るっていうか、向こうに遠慮させてしまう？それこそ（所属サークル）の人とかに、もさせてしまうんで、こういうあり方は基本的には言わない。（どちらかというと一般人より仲

間に気を遣う?) そうですね。同じ趣味を持ってる人たちには、なるべくそう、気を遣う感じ。基本的には自分から腐女子で一すって言うことはあんまないっていうかあんまり言わないようにしてて、流れでバレたからいっかみたいな。

G: 親にはいまだに隠してますね。で、高校のときも、まあ限られたところでコソコソやって。小中はその、周りにいたオタクが、声のでかいオタクだったんで、ああはなりたくないなと思って、隠してましたね。片方は友達で、片方は友達じゃなかった。その子(友達の方)もあんまり公にするものではないとは思ってたから。ただ、なんていうんだろう、あんまりみんながいるところでそういう、モロ?モロ、ホモだって分かることは言わない、けど分かる人が聞いたら分かるんだろうなみたいな人だった。隠そうとする気は多分あったと思うんですけど向こうも、隠しきれてないよみたいな、にじみ出てるよ。もう一人友達ではなかった方は、モロ言うし、授業中とかに書きちゃうタイプの子だったんで。ノートとかに書きちゃうタイプの子だったんで。

(母親のオタク嫌いについて)

G: 親もオタクとかだったらあれですけど。多分私の親の世代って、ちょうどオタク嫌いな人結構多い気がするんですよ。殺人事件、秋葉原の。あれとかによく影響受けるタイプなのかなって。前までは私がオタク趣味に走るのを、てかアニメ観てるのをあんまりいい顔しなかったんですけど最近は諦めますね。親も多分、いろんな人がいるってのは分かったうえで、あのでもなんかこう根本的にあんまい印象がない、みたいな感じなんで。私に対してあの、「オタク、になっちゃったね」みたいなんですけど、私の友達に対しては一回もそういうの言ったことはないんで。多分割り切ってはいると思うんですけど。

G: ああいうワイドショーとかのきつく、見てて心が痛くなっちゃうんですよ。オタクでも、なんだろう、痛々しく見えちゃうっていうかwなんだろうなんか、どんなに明

るくても、なんか Twitter とかで「一般人に擬態してます」とかっていうオタクいるじゃないですか、八割擬態できてないと思うんですよ。一番感じるのが、イベントとかそれこそライブとかに行くときに最寄り駅着くじゃないですか。痛バとか持ってなくても、多分こいつとこいつとこいつは同じとこ行くなってるやつが本当に同じ方向に歩き出すのを見るとすごい悲しくなっちゃうんですよ。悲しくなっちゃうし、自分もそう見えてるんだろうなと思うとすごい悲しくなっちゃうんですよ。分かっちゃうんですよ。普通のお姉さんの恰好してても分かっちゃうんですよ。センサーかなにかついてんのかな。それを見てるときと同じような感覚で、ワイドショーとかも多分見て、いやでも分かっちゃうよこれみたいな感じで、苦い思いをするのかもしれないですね。

(ライトなオタク層について)

G: オタクっていうかそれ高校生のときみんな読むじゃんって感じですよ、ジャンプとか。いやー。悲しくなってきた。私の周り、「骨の髄からオタクだからな私」って言ってるやつとかいるんで。私はオタクだと思いますよ。友達にオタクかすごい微妙な子がいて、オタクか一般人かでいったら完全に、明らかにオタクなんですけど、版權にほぼいないんですよ。基本的に創作、一次創作でずっとやって。なんで、オタクかって言われると、何のどのアニメが好き?って言われると「えっ」ってなっちゃう、みたいな子。でもごりごりに腐女子なんですけどね。腐女子だけオタクじゃないは結構あり得るなって思いましたね。でも多少は二次創作もあったと思うんですけど、二次創作で知って自分の好きな関係性を自分で作ったみたいな。だから私一次創作一番楽しいんですよ。何やっても不正解じゃないし。解釈違いじゃないんで。自分で作るって最強なんですよ。

一: 他所の子二次創作で地雷経験は?

G: 友達があります。同じ思想の持主です、まあ K なんですけど。その K と別の人の合同の創作で、もうあの CP

もガッツリ決まってるんですよ、こっち攻でこっち受で。それをなぜかたくなに受攻め逆で描く人がいて。なんで？って。怒りとか通り越して悲しくなってきたって言ってましたね。かわいそうにって。それしかも本人に見えるところでやる？みたいな。送ってくる。良かったらじゃねーよってキレてて、かわいそうに。やばい人っているんだなって思いました。サイコパスじゃねーのあいつって。良かったらこれって言って爆弾落とされてるようなもの。

一：合同で創作だと解釈違いはおこらない？

G：キャラクターを、私が攻めの方つくって、友達が受の方作って、で二人で話し合って、この二人はこういう風に行きつくみたいなのがもう決まってるんで、今んとこないですね。これでちょっと、これ、なんだろうな、さっき私が言ったどうせ地獄行きだよみたいなやつに、の話と関わってくるんですけど、あの TRPG って分かります？あれを結構やってて、クトゥルフやってるんですけど。探索者っていったってキャラクリやって、やるじゃないですか、そのキャラ同士なんですよ。でセッションしてるうちに、「あれ？これって、あれ？」みたいな。だから本当にダメなんです。単純にセッション楽しいなと思ってやってたはずなのに気付いたらこうなってて、「あ、私そういう定めなんだな」って思った。セッションするんだったらどっちもいないと、今死んだらマジでヤバイみたいな、一人だけじゃ参戦できない。この場合だと原

作、原作っていうか一応、公式でやったこととしてはセッション中にやったこと、を公式でやったことっていうふうに主軸としてやってるんで。だからセッション中に付き合ってるって言動をするかどうかみたいな、そうすると公式で付き合ってることになるんだけどどうする？みたいな感じなんですよ。

G：めっちゃ充実してます。生きないと、生きて作り続けないと。だから多分私は彼らがロストしたらあの、一カ月ぐらいお通夜モードで過ごしますね。「なんで私あの時、え、悲しい、本当に泣けてくる」みたいな。すげー暗い顔してると思いますね。多分片方死んじゃう、無理ですね、後追いするのかなとか考え始めるともう無理なんですよ。

G：あでも私バッドエンド大丈夫ですよ。そのキャラクターがそうやって生きてそこにいきついたんだったら、私はそれを受け入れるしかないなと思って。キャラをまず第一に考えたい。二次でバッドエンドは、泣いちゃうけど、でも書き手がそう考えてそう書いてるんだったら、そういうもんだと思って読みますね。私書くと結構、元々多分、穏やかな話とか、ちょっと暗めな鬱々とした話？とかが多くて、でもバッドエンドは書いたことないな、基本的には、穏やかな毎日みたいなやつを書きがちなんで私は。自分で作るときは多分ハッピーエンドの方が好きなのかなって感じですね。多分お話としてのバッドエンドは私多分好き、好きっていうか普通にありですね。

付録：Gさん2回目インタビュー

2018/11/08

G：で、あの私みたいなスタンスの人？が、私が初めてだって言っててさ、って（友達に）言ったら、「え、じゃあ私ら全員の話聴いて欲しいよね」って（笑い）。そう母数がちよっ、偏るからって。話の方向が偏っちゃうでしょって。

一：グループインタビューする？

G：え、多分気圧されると思いますよ

一：私は空気のようにこう、録音を回すだけの人になるから、そしたら

G：多分すっ、結構ぼこぼこに言うと思いますよみんな

一：おもしろいね

G：なんだっけ、あの、そのフォロワーの過激な発言を集めた、botがあるんですけど。ちょっと友達を作ったんですけど。なんか、「地雷で死ぬのこっちな許せくない？あっちが悪いんだからあっちが死ぬ」とか（笑い）。そう、（カット）ってアカウントなんですけど。マジでスラム

一：フォロワーは全員知ってる人なんでしょ？

G：：そうなんです。これ、この土方十四郎についてずっと喋ってる奴同じ奴なんですけど（Twitterの画面を見せながら）

一：うん

G：なんかやばい…あ、これだこれ。って感じの、強い、火力高めの

一：激おこじゃん

G：そう。段々大喜利みたいになってきてますからね。これに載っ、これに採用されるとなんかあの川柳？雑誌に送ったやつが載ったみたいな気持ちで、「あ、やった」ってなるんです（笑い）

一：え、何、管理してる人も知り合いではあるんでしょう？

G：知り合いです

一：面白いな

G：うん、そんな感じです、うん

一：身内以外の人からも過激って思われてるの？

G：ま、でも、鍵垢でしか私そういうの言わないんで。あのその地獄会（腐女子友達とのLINEグループ）に属してはいないけど、あの一、一応フォローフォロワーである人とかには、多分思われてると思います。うん。でもそんな人ばっかだからな

一：あ、そもそもフォロワーも？

G：そう、フォロワーも

一：そうか

G：うん

一：そうだね。スタンス違う人がフォローフォロワーにいてもね、戦いになるもんね

G：戦いになるから（笑い）。だし、一回、去年の冬？11月ぐらいに、メインで動かしてた鍵なしのアカウントがあるんですけど、そこが凍結して

一：えっ、なんで？

G：そこが凍結して、そこから鍵垢を作ったん、作って。その、私用で絡んでた人だけで、繋がってって感じなんで、ほんとに今、うん（笑い）

一：何があったんだ

G：なんか…友達が、まあKなんですけど、あいつが絵めっちゃ上手いの、なんか自分が「本当絵下手でごめん」とか言い出したから、「その画力で何言ってんだよ死ぬ」ぐらいの感覚で「死ぬ」って言ったら、リブで死ぬって送ったやつって、あの誹謗中傷扱いで、あのスパム報告とかされると凍結するんですよ。誰かが多分検索して、本当に外部から

一：一時期やる人いたよね

G：そう。多分それで凍結したんです私（笑い）

一：悲しいことだな

G：鍵かけないとやっちゃいけないんだなこういうの（友人に対する暴言）って思って、鍵かけ、鍵にしました

一：なるほどね。えじゃあそっちのやつはもう、メインで他のアカウントは作ってはいないの？

G：なんか一応鍵なしの、作品公開する用のアカウントはあるんですけど、鍵、ありがメインで。「なんとかの作品

投稿しました」くらいしか言わないアカウントがあります

一：告知用の？

G：そう、告知用の

一：大変だなあ

G：(笑い) そんな感じですか私

一：楽しそうだけでも

G：楽しいですね、身内でギャーギャーやってるんで。あ

一、でやたら白黒つけたがりますね

一：白黒？

G：白黒つけたがる。みんな勝負をしたがる

一：へー。え、身内ないで？

G：身内ないで

一：え、例えばどんなこと？

G：オフ会で集まって、話したかなこれ？みんな絵描く人なんで、あの一位になった人が他の四人に「これ描いて」ってリクエストして、描かせることができるっていう、勝負をします。前回、前回は1、2、Switchで、Switchでゲームをやって、前々回は人生ゲームで、更にその前はマリオカートですね。多分今回はスマブラになると思います

一：なるほど

G：そう。白黒つけたがる。勝負好きなんですよ

一：みんな負けず嫌いなところはある？

G：みんな負けず嫌いですね。血の気が多い

一：なるほど

G：すぐ「かかってこいや」とか言っちゃう

一：穏やかそうな人とかいないの？

G：穏やかそうな顔はしてますよ全員

一：顔？

G：顔。普段はそんなじゃないんで、時々憑りつかれたみたいに、勝負したがる(笑い)

一：顔だけって

G：そう、そんな感じです

一：なんかさ、そのつるんでる五人組？みたいな中で、リーダー的な人っていないの？一番発言力強い人みたいな

G：発言力強い…さっき言ったそのCPの伝道師みたいな奴は、の話はパワーあるんですけど、全員自分の解釈に自信もってるんで、みんな強いですね

一：みんな強いんだ

G：あと何、その、根本的な方向性が一致してるんで、結構、誰の発言でこうなるっていうよりかは、誰誰がこう言ったら「あつ分かる」って言ってみんなで。みんなみんなそっち向いてたみたいなの

一：あー。面白いね

G：うん。そう。そんな感じです

一：へー。誰がきっかけでその五人は集まるようになったの？

G：多分Kかな？全員の知り合いなんで

一：そっか、そうだよな

G：そう。私はだから、だから筑波(大学)入ってなかったら、ここにいなかったと思いますあの、その、つるんでる中に。いやー、良く集まったな。しかも茨城に

一：ね。その人(K)にこう、引き合わせられていって、って感じ？

G：そう。って感じです。初めて、その(Kの)フォロワーに会ったの、私は一年生んときの筑波の学祭？に遊びにきてて、そんなときに、Kと一緒に回らない？って、フォロワーいるけどって言われて、「あーじゃあ(行く)」って言ったら

一：フォロワーいるけど(笑い)

G：フォロワーいるけどって。なんか存在は知ってたんで

一：あーそっかそっか

G：Twitter繋がってはいないけどみたいなの

一：そういう出会い方もあるんだね

G：なかなか特殊な、うん

一：すごいね。Twitterで見る話でしかなかったのに、本当にあるんだ

G：うんうん。そう、ありましたね

一：そう、で、前回のちょっと確認なんですけど

G：はい

一：小五で読み始めて、中学でそれ(BL)自体にちゃん

とハマった

G: あー、そう

一: んだよ。で、その時は、今は無理なタイプ（の腐女子）？

G: そう、今は無理なタイプ

一: 今は無理なタイプで、キャラ改変とかもした、けど一応隠してはいた？

G: 隠してはいましたね

一: で、高校入って、絵描き始めたり、(BL) 買い始めたり

G: うん、買い始めたり

一: して、で大学から小説を書いたりして

G: うん。過激な（笑い）

一: 過激な、原作関係重視の腐女子になり

G: そうそう、なりました、はい

一: で、ここって、過激な腐女子になったのっていつ頃だった？

G: 過激…

一: 何がきっかけだった？

G: なんか、そもそも高校の時の友達に一人、過激なやつがいて、「あ、こういう人って自分なりの考えがあるんだな」とか思ってたら、それこそ大学入って今のそのメンバー…とつるみ始めてから自分も過激な方向へ偏っていききましたね。なんか高校のときに、多分、無意識に刷り込まれたというか

一: あー、その友達に？

G: その友達に、そういう考え方も別に悪いことじゃないっていうか。それまではこう、過激な人って怖い、って思う側だったんですけど、過激な人って別に悪いわけではなくて、ただこだわりが強いだけなんだなって思ったら、気づいたら自分もこっち側に

一: なるほどね

G: そう

一: じゃあそれまでも、過激っぽい、こだわりが強そうな腐女子、みたいな人たちは周りにいた？

G: いはしましたね。小学校のときの、小学校の時点でも

う描いてた人はこだわりが強い、子が二人ぐらいいました

一: うんうん。でも怖かったんだ

G: うん。あのその子たちは周りをぼこぼこにするっていうよりかは、あの自分の描くもの、を「私はこれが好きだからこれだけ描く」みたいな、タイプのこだわりだったんで。うん

一: 全然、色々描いたり読んだりとかじゃなくて

G: そうそうそう

一: これだけ、みたいな

G: これだけみたいな、感じだったんで。うん。そんなこともあったな（笑い）

一: で、高校で仲良くなった友達がそういう、偶然そういうタイプで

G: そう、偶然そういうタイプで。その子も普段は、なんだろう、普段はそういう、CPにこだわりがある子じゃなかったんですけど、なんか一つの作品の、一個の CP だけやたら、「これ以外は無理」って言っていて

一: うんうんうん

G: って子がいて、そう。「あつ、へー」って言って

一: で、ありかもなって思ったんだ

G: そう。なるほどなーって、そういう生き方もあるんだなーって思ったら

一: なるほどね。今になったらこうなって

G: 今になったら、うん。こだわりが、強くなってしまった

一: そうなんだ

G: うん

一: ちなみにその、最初っから趣味を隠す、一応は隠すってしてたって言ってたけど、隠してたのは、なんでなんだろう？一般的に隠すものだっていうのはあるかもしれないけど

G: そうだな、なんか。オタクであることは割と言いやすい感じだったんですけど、まあなんか、うーん、BLって結構あれだな、当時検索とかで、伏字、伏字じゃないけど

一: うんうんうん

G: D グレだったら D 灰って書くみたいな
一: あったねあったね
G: あったじゃないですか。あれで、なんか。あ、こういう、作品が好きっていうのは言っていないけど、そういう風な方向性の趣味ってあんま言わない方がいいのかなって
一: あー
G: って感じだったんで。うん
一: 別に誰かに言われたわけじゃなくて
G: じゃなくて
一: ネットで
G: ネットで
一: そういうのあるよね
G: あとそれ…あの、こだわりが強かった小学校とかの友達?の内の一人が、だいぶ、痛々しい…その子はオープンに言っちゃう子だったんですけど
一: あー
G: だいぶ、痛、々しかったんで。そう。私は、(その友達から) その (BL の) 話振られたら、「わかるよ」くらいのスタンスで。で、表面はつくろうみたいな。好きだけどそれみたいな。好きだけど、「あーあーなるほどね、そういう方向の人ね」みたいな顔をしてました (笑い)
一: 周りからは悟られないように
G: そうそうそう
一: なるほどね
G: そう
一: そっか。え、その子とは別に仲は良かった?
G: 一人、二人いたうちの一人、そんな痛々しくなかった方は仲良くて、痛々しかった方は痛いなと思って見てました
一: 同じように見られなくなかったんだ
G: あーそうですね
一: まあそうだよね
G: うん
一: 痛々しい腐女子
G: うん

一: 面白いな。痛々しい腐女子はさ、まあ例えばクラスメイト、クラスの中で「うわあいつ、きも」とか言われたりとかしてたの?
G: あー、そうですね。結構授業中のノートとかに、絵描い、絵描くようなタイプの子で、「うわあ」みたいな、周りから。あと好きな、なんだろう、共通で描くような、なんか図工の時間とかにみんなで作るような、絵とかがあったんですけど、それとかに結構描いちゃう子で
一: おお、すごいね
G: おお、ってそう、「おお」って言われる。「絵は上手いんだけどなー」みたいな、感じ
一: あー、そういうタイプか
G: 多分アレ腐女子としてじゃなくて、オタクとして気持ち悪かったのかな?
一: あー、腐女子として以前に
G: 以前に、オタクとして、うん
一: すごいね
G: うん
一: 色んな腐女子がいるんだな
G: うん
一: あ、ちなみに前回訊いてないと思うんだけど、さとちゃんて中高とかって何の部活やってた?
G: 中学はバスケ部で、高校は写真部やってました
一: 写真部?
G: 写真部
一: へー写真部があるんだ高校に
G: 写真部ありました高校に。写真部 (笑い) に集まった奴らもなかなか濃かったからな、うん。中学んときはそういう、オタク趣味の人本当いなくて、しいて言うならジャニーズ好き? ジャニオタ? ジャニーズの夢女がいたんですけど
一: 部活の外にもいなかったの? そういう
G: そう。中学は…あでも、その小学校から、つるんでた、あの、腐女子、が中学同じだったんで。そいつとは結構一緒にいたんですけど。部活はいなかったですね。で、高校は…えー…なんて言ったらいいんだろう、高校はその、

濃い、過激な奴、関係性厨、どちらでもないけどレイヤー

(コスプレイヤー) っていうこの四人が、結構仲良くて

一：へー。高校生レイヤーやばいね。あついなあ

G：今もレイヤーなんですけど。この過激な奴以外、三人が写真部だったんですけど

一：過激な奴と関係性厨は何が違うの？

G：関係性、あの過激な奴は、なんだろう、CP？なんだろう、過激な奴は「これ以外無理、無理無理無理」って感じで関係性は

一：発言も過激なの？

G：過激めですね。関係性厨は、見るのが、あの、つか…NL…まあ別に BL そんな、BL、BL そんな見ない子だったなこの子は。オタクで。BL もまあ分かる、って感じなんですけど、メインで見るわけじゃないみたいな、感じの。過激な腐女子、ノーマル、ノマカブ（男女の CP）推しの関係性厨、レイヤー、私みたいな

一：濃いね

G：ここ（過激な腐女子と関係性厨）のハイブリッドみたいになったんです私だから

一：二人からいいとこどりして

G：そう、そう。ハイブリッドみたいになってっちゃって

一：別に最初っからじゃあ、なんだろう、思想が一緒だったわけじゃなくて

G：うん、みんな、思想は結構

一：二人とつるんでるうちにつて感じ？

G：うん、お互いにでも、過激な奴も、あの、関係性厨の奴も、お互いに強制するタイプではない

一：「こうした方が良い」とかは言わない

G：とか、「これはおかしい」とか言うんじゃない、おかしいなって思ったらそっとその話をやめるみたいな奴らだったんで。だったんで、うん。だからここ三人は、結構、あれだったんですけど、こいつだけこの、過激な、なんて言ったらいいんだろう、クラスメイト、（過激な腐女子と関係性厨とは）元クラスメイト、（レイヤーと関係性厨とは）クラス違うけど部活が一緒、でこことここ（過激な腐女子とレイヤー）は繋がらないんですよ。なんでこ

の三人かこの三人で集まるっていう感じで、うん。なんで多分こことここは一緒にいなかったと思うんですよ

一：あっそうなんだ

G：過激な奴と、その、こだわりが、ま、ない、レイヤーで、結構

一：あーなるほど、そっかそっか

G：水と油みたいな

一：そうだね、別に仲良くする必要も多分、ないだろうしね。部活もクラスも違かったら

G：うん、うん

一：え、その過激腐女子は部活はなんだったの？

G：過激腐女子は部活は剣道部

一：つよい。まって、部活、中学校？あ高校か。中高の部活ってさ、あんまり種類なかったの？もしかして

G：中学は、あんまなかったですね。高校は結構種類ありました

一：そっか。結構こういう（趣味の）人たちに話訊いてると、「文芸部でした」「美術部でした」とか言う人すごい多いけど、そういう部活じゃなかった？

G：文芸部は…中学、あ高校はありましたね。高校あったんですけど、なんか、（笑い）文芸部にいる人、これはもう完全に私の偏見なんですけど、文芸部の人の、人ってこだわらない人が多い

一：あー、そうだねえ

G：っていうか作品の…あと、すごいこれは本当に申し訳ないし、もう、あれなんですけど、なぜか、文芸部とかにいる人の方が、絵がそんな上手じゃない。なぜか。なんでなんだろう。趣味で描いてる人の方が上手い、ことがあつ、多くて私の周りの文芸部。なんでなんだろうって思っていました

一：なんでだろうね

G：なんででしょうね

一：なんでだろうね。初心者ですっていう人の方が多い感じがするよね

G：うん、そう。私のフォロワー？つるんでる内の、えっと一、K の高校のときの友達、の二人？は、元文芸部だ

ったんですけど、なんか彼女たちが所属していた文芸部って絵がめっちゃ上手いと絵がめっちゃ下手になんか、二極化してたらしくて。で、なぜか絵がめっちゃ下手勢の方が、意識がすごい高くて、なんか、「毎日描く」とか、あの、多分なぜか頭もそんな良くなかったらしいですよ。こっちの人は部活中に「なわとびしようぜ」とかいって遊んでるのに、頭良くて絵が上手いみたいな。でこっちの人とかにめちゃくちゃ目の敵にされてたって、部内で

一：へー、怖いな

G：頭いい人の方が絵が上手かったって言ってました

一：へー。不思議だね。元々の才能ももしかしたらあるのかもしれないけど、どうなんだろう

G：「なわとびしようぜ」って言ってる奴の方が絵が上手いって（笑い）

一：腹立つよねきっとこっち側の人からしたら

G：そう

一：そういう部活に入りたいとは思ったことはなかったの？

G：なかったかなあ

一：そういう、趣味に近い部活、とか

G：なんか小学校のときは部活を年に一回変えなきゃいけないくて

一：あーうんうん、あったね

G：そう、課外活動みたいな感じだったんで、そんなときは一年間だけ漫画、漫画？研究のところにいたことあったんですけど、そんなときも別に漫画読んでるだけで、こう描こうと思ったことはあまりなかったかなあ？うん

一：学校で漫画読めるの、良くない？

G：そう合法で（笑い）読んでました

一：そうなんだ

G：なんだろう多分、そういうところにいた、いたオタクがあんま好きじゃなかったのかな？

一：小学校のときから？

G：小学校のときはあんま思ったことなかったんですけど、多分中学高校はそういうところにいるオタクが嫌い（笑

い）

一：共通認識としてそういう部活に入る人はオタクっぽいみたいなのはあったの？

G：あーでもどう、なんかそこに入ってるからオタクっていうのはなかったです、けど、入ってる、入っててオタクの人はやばいみたいな。単純に絵が描きたくて入ってる人もいたし

一：うんうんうん

G：うん、みたいな

一：そっか、そういう部活に入ってたオタクの人はやばいのに

G：っていうイメージが勝手にありました。これは偏見です（笑い）

一：なるほど。なんとなく分かるでもそれは

G：うん

一：なんだろうね

G：うーん

一：そっか、バスケ部か

G：バスケ部でした

一：バスケ部ってさ、学内でのカースト超高くない？

G：高いですね、うん、高かった。あーでも、バスケ部の中でも、マウントを取りたがる奴と、別に取らなくてもいいやって奴と、って感じに別れてたんですけど、うち部長副部長が仲悪くて、私の代

一：えっ、怖い

G：そこの、部長側の取り巻き、副部長側の取り巻き、私はそれどっちにも興味がない第三勢力だったんで（笑い）。学内で、中学のときカースト高かったのは吹奏楽で、元いじめっ子みたいな

一：吹奏楽部も強いよね

G：そう吹奏楽部と元いじめっ子、バスケ部のその部長副部長。とかが、カースト高かったんですけど、私、そいつらの、に属してるわけじゃないけど、あの、で横に常に一緒にいるわけでもないけど、多分同じぐらいの位置、って感じのカーストの外にいる感じの人だったんで、生きやすかったですね、中学は

一：へー、怖い

G：怖い

一：でもそこあんまり関わらずにいられたんだ

G：あー関わらずにいられたね。興味なかった（笑い）

一：へー。なんで部長と副部長が仲悪いんだろう

G：仲悪かったっすね。なんでだったんだろ、やばかったなあれ、怖かった

一：怖いね

G：うん

一：じゃあ部活でも学校でもそんなに居心地悪い、極端に居心地悪くなることはなかった？今まで

G：そうですねいじめられることも一応なかった…うん。いじめられたことはなかったかな、うん、いじめることもなかったし、うん、そうですね、うん

一：あんま興味ないし、みたいな？

G：興味ないし、みたいな

一：良いことだ

G：クラスの後ろで本読んで、一人で本読んでの方が好きみたいな（笑い）

一：いいね、我関せず

G：我関せず

一：趣味で何かを言われることも特になく？

G：特になく、隠してたんで

一：そっかそっか

G：そう特になく

一：で、うーん、これは何て聞いたらいいかな。中学高校の、なんだろう地域でのレベルってどのくらいだと思ってた？

G：頭の良さ的な？

一：頭の良さ、もだし治安の良さも、それに比例するのかわからないけど

G：あー。中学高校？うち一、中学はめっちゃ馬鹿です

一：あ、そうなんだ

G：中学超馬鹿です

一：でも中学ってあれだよな、受験しなければそのまんま

G：あーそうです公立でそのまんま

一：決まってるもんね

G：私小中は地元のところ行ったんですけど、まあ馬鹿で。こないだそう、成人式で帰ったら、帰った時に、あの、そもそも大学進学したのが全体の一割ぐらい？で、あの、もうみんな就職とか、あと高専？専門行ったりとかしてて。いやでも、うんって感じ（笑い）、感じの。学力はだいたい、うん、ヤバかったです

一：よくある地元の

G：よくある地元の

一：地元の公立中学みたいな

G：そうそう。で、高校は、一応私立、だったんで

一：あ、私立だったの？

G：私立で

一：つよい

G：松戸？専修大学松戸、高校なんですけど。そこ、専修大学の付属高校なんですけど。そこ、はまあ悪くはなかったかな？頭？入試の偏差値は高いんですけど、入るのそんな難しくなくて

一：え？どういうこと

G：あれ偏差値絶対嘘だと思うんだよな

一：人数いっぱい取ってるから、とかかな？

G：そうです。あーあとあれか、私特進科？特進科、一般科、スポーツ科ってのがあって、その特進科に一応行ってたんで、そこはまあ頭は悪くはなかったかな。でも、県立とか第一志望落ちてきた人たちが多かったんで、一年生んときはそんな良くない、まあ、悪くもないけど良くもないみたいな、感じの人で。高校三年のときはみんなでも理科大とか行くような人たちだったんで、悪くはないって感じでしたね、頭は

一：スポーツ科もある、あそっかそうだよな

G：って感じで、そんなですね。治安も良かったかな、住宅街、住宅街にある高校だったんで

一：あ、そうなんだ

G：うん。治安が良かったと思います。地元は、悪いです。悪いって言うほどじゃないけど汚い

一：汚い？

G：汚い。景観が無理

一：なるほど

G：うん。地元ぼこぼこにいった

一：地元どこだっけ？

G：船橋です、千葉

一：船橋ってそんな治安悪い？

G：なんか、路地裏とか入るとめっちゃ汚いんですよ

一：あー、そっかそっか

G：つくばは駅前すごいきれいだと思います

一：駅前は何

G：駅前は何

一：駅前何もなくなっちゃったけど

G：たしかに

一：そっか、治安が悪かったのか

G：治安悪い

一：高校そこに入ろうと思ったのはさ、前親御さんが結構勉強面割と言うタイプだったって話してたけど

G：そうですね

一：親の勧めとかもあったの？

G：そこに決めたのなんでだっけ？えっと、特進科の推薦？併願推薦がとれる成績だったのと、あと、まあ進学率悪くなかった、なんか早稲田とかにも一応、推薦が出るような高校だったんで悪くないなと思って、あとは駅からそんな遠くなかった

一：大事だよなそれ

G：あと、プールの授業がなかったから（笑い）

一：それはとっても大事だ

G：とっても大事。あと八千代の方の高校と迷ったんですけど、八千代は、駅から遠い、駅からバス乗らないといけなかったのと、プールの授業があった。八千代松陰っていうんですけど

一：うんうん

G：あの、八千代少年院って呼ばれてるぐらい、厳しいところで（笑い）いやー行きたくないなと思って、行かなかったです

一：ひどい（笑い）そっか

G：って感じでした

一：じゃあ別に親から強制されてそこに行ったとかじゃないんだ

G：あ、そこに行けて言われたわけじゃないです。「この辺にするわー」って言って「あい」って言われて

一：学力も合ってたし

G：合ってたしみたいな、悪くないしみたいな、感じで

一：併願推薦とれるの普通に強いね

G：そう、併願取れる私立だったんで良かったーと思って

一：え、私立、私立ってさ、高校ってバイトできない？

G：できません

一：そっかそもそもできないんだ

G：そうです。しなかったです、なんで高校のときは

一：親御さんもその、勉強面で割と言うタイプなのがこのレベルなのかを訊きたかったんだけど、別にバイトを禁止されてたわけじゃないんだ

G：バイト、元々学生の本分は勉強だからさって感じでそもそもバイトをする、そう、するような感、風潮はなかったですね、家の中でまず。私がする、するともってないみたいな

一：そっかそっか、お小遣い欲しいからバイトする、とかもなかったんだ

G：お金そんな使う子どもじゃなかったんで、そう。あとは、どのレベルか、ま小学校のとき、小中とかは…100点以外だと怒られるみたいな、感じでした。小学校は分かるんですけど

一：ほんとに？

G：中学は、90点以上じゃないと怒られるって感じかな？

一：おー。怒られるんだ

G：怒られる、怒られるっていうか、あのー、

一：ちょっとぐちぐち言われるとか？

G：そうです、90点取って当たり前、って感じでした。

で、80何点とかだと、「あー、何で間違えたか自分で分かってんの？」みたいな、感じの（笑い）「はい、すいません、勉強してなかったです、はい」みたいな

一：へー、すごい

G：感じだったんで。高校は…初期は言われたんですけど、だんだん、私はまあこんなもんなんだなって思われたっぽくて言われなくなりました

一：なるほど。待ってかなり厳しくないか？

G：そうですか？

一：小中は特に

G：あー、まあそうですね、小中は厳しかったかな？うん。

「あーこの成績じゃ怒られるな」って思って、成績一覧見てたら、「めっちゃ良いじゃん」って友達に言われたときに「マジで？」って思ったことはあります

一：別にそこまで嫌だなんて思ったことはなかったの？

G：あんま思っ、実際努力した、しなかったら落ちて、してないときに怒られるって感じだったんで、まあそうだねみたいな

一：怒られるのも妥当だな、ぐらいの

G：妥当だなぐらいの感覚で

一：真面目な良い子だ…

G：確かに真面目だったかも

一：素直な良い子に育って…

G：(笑い) うん

一：なんか、テストでさ、例えばその、怒られるような点数取っちゃったときに、「趣味に時間を費やしすぎだ」とは言われたりしなかった？

G：あー、親にばれないようにやってたんで(笑い)。親が共働き、だったんで、あの一大体平日は夜7時くらいまでは絶対ないってのが分かってたんで、その時間にパソコン使ってるっていう(笑い)で履歴は絶対消すっていう(笑い) 知能犯を

一：そっか、今も共働きなの？

G：今も共働きです

一：そうなんだ。そっか、そしたらバレる心配もない、ちゃんと消しとけば

G：消しとけば。そう。親が帰ってくる前に、お風呂掃除して、洗濯も取り込んで、これとこれやっとならば怒られないみたいな、子供でしたね

一：家事もするいい子なのにおかしいなあ(笑い)

G：(笑い) うーん。してたな、家事。うーん、そんな感じでしたね

一：前回弟さんもいるって言ってたけど

G：はい、いますね

一：弟も親から色々言われるの？勉強とか

G：弟は…あいつ多分私より要領よくて

一：下の子ってそうだよな

G：下の子はそう。ただ要領は良いけど、私の方が多分勉強してた時間は長かったんで、あいつのがトータルで頭悪いんですけど、なんか。で、小学校上がる前から地元のクラブチームでサッカーやってて、だから中学卒業までやってたのかな？今高校一年生か。なんで、あの一、勉強する時間があんまなくて

一：あーそっかそっか、そうだよな

G：で、「お前にはもう勉強は期待してないわ」ってずっと言われて育ってたんですけど弟。で高校私と同じであいつ、もう。で今、クラブチーム辞めて、普通に運動部、入ったのかな？

一：へー

G：特進科行って運動部入ってるからよう、やるやんって思ってるんですけど

一：へー。あ、スポーツ推薦とかで入ったわけじゃなくて？

G：じゃなくて

一：強いね

G：普通に。勉強すれば多分できるんだと思うんですけど。そう、そんな感じの弟がいます

一：すごい。でも結局ね、弟さんもきっと頭が、要領も良いし頭も良いでしょう？

G：要領は。やればできる。あと男の子っぽいですよすごい、社会とか好きなんです。社会とか理科とかすごい好き

一：あーそうなんだ

G：うん。国語が苦手って言ってました。「そっかー」って

一：男の子にあるあるのね

G：男の子にあるあるの

(中略)

一：あと、えっとー。お小遣いなかった話が、結構衝撃的だったんだけど

G：はいはいはい、なかったです

一：お年玉っていくらぐらいもらってたの？それをやりくりするってことは

G：うーん

一：そんなに少なかったら

G：当時少なかったですね

一：えっ、死んじゃう

G：そう死んじゃう。親…トータル三万ぐらいかな？

一：三万で一年間か

G：やってました。でも服とか、は親が出してくれたんで

一：そっかそっか。小説、漫画、ゲームぐらい？

G：そうですね。ゲームですね、大体私は。ゲーム買ってました

一：ゲームも一本

G：五千円くらい

一：安くても五千円くらいだもんね

G：高くても七千円一万円くらいするんで。いやー、ようやったなあ。今じゃちょっと死んじやいますね

一：死んじやうなあ

G：なんでライブとか行くこともなかった？し…

一：あー、そっかそっか。その当時から音楽とかは聴いてたの？中高生のときとか

G：音楽…聴いてましたね。でもあんときは特に、あの、アニソンとかのが多かったんで

一：あーそっかそっか。別に CD 買わなくても？

G：うん…CD 初めて買ったのテニプリのキャラソンかな？(笑い) 買ったなー

(中略)

一：えーじゃあ今めっちゃバイトしてるってことじゃん

G：あ、そうですねー。あ、そうですねー(笑い)。推し、推しの CD 積む…くらいしかすることがない(笑い)

一：嘘だ(笑い)。そうだよ、何十枚とか買ってたよね

G：はい。リリースイベント、に行きたい

一：特典あるもんね、買ったら

G：そう。ミニライブに行きたいなって思って。今んとこ全部外れてるんですけど

一：え、悲しい

G：悲しいー、そう

一：そんなに買ってるのに

G：うん

一：みんな買うか

G：うん。個人名義の、大きいライブ行けたらいいかなって思って(笑い)

一：えーじゃあ今めっちゃバイトやってるってことはさ、親御さんに今こういうバイトやってるとかの話する？

G：あーでも私ずっと昔から同じバイトしかしてないんで

一：あーそうなんだ

G：一個のバイトがまあブラック企業なんですけどうち(笑い)

一：飲食系？

G：いや、和、和陶磁器、食器とか、和雑貨売ってます。海外の人とか来る漆器とか売ってるとこなんですけど。

まあブラック…(笑い) 希望休が月に三日までしか出せない、くて

一：嘘？それバイトじゃなくないか？

G：パートですね、これもう

一：だよ

G：夏休み期間の方が私忙しいんですよ(中略) うん。夏休みで 10 万ぐらい稼ぎました、ひと月で。(笑い) 15 日とか入ると。そんなにになりますね。扶養外れる手前まで

一：だよ、そうだよ、月 10 万だったら

G：90 ウン万までで止めるっていう風に。「バイトかこれ？」って(笑い)

一：おかしい

G：今のバイト、嫌なんですけど…ここじゃなかったらここまでアクティブになれてなかったなって思うと、まあまあ許してやろうみたいな、気持ちに

一：大学一年のときからやってるの？

G：一年の六月からずっとやってます

一：え、めっちゃ早い時期からやってるじゃん

G：そうですね、もう二年半？経つかな

一：大丈夫？大学楽しめてる？

G：あーなんか私三年間何やってたんだろうってちょっと
思う瞬間はあるんですけど。私サークルいるんでまだ

一：そっかそっか

(中略)

一：今の過激なスタイルになったのが、当時つるんでた
友達からこう無意識に影響を受けつつ、みたいな話が合
ったけど。(中略)「めっちゃ自虐するやん」って思っ

G：あれ、「早く辞めたい」とか、そういうやつ

一：そうそうそう「地獄行き」とか

G：そう、ろくなもんじゃないうすよ(笑い)

一：そういうのも、周りの友達が結構言ったりする？

G：あ、言いますね

一：そうなんだ

G：だって自分たちが嫌いって言ってる、その、こだわ
りのない人？たちと、自分たちで。自分たちこっちは違
うって思っているけど、原作には絶対、原作者はそう
いうの意図して描いてないじゃないですか。なんで、あ
の、同じ穴の貉というか、五十歩百歩というか。そうい
うこと考えてる時点で、あの、業は深いなと

一：そうかそうか

G：そうそうそう

一：そういうさ、こう、周りのネガティブ発言、趣味に対
するネガティブ発言みたいな聞いたときに、初めて聞
いたときに、「えっ趣味なのにそういうこと言うのおかし
くない？」って思ったことない？最初から違和感はなか
った？

G：いや、違和感はなかったですね。え、なんか、元々そ
の私、それこそ小中で、隠れるってやったんで、隠れる隠
すってことは、何かちょっと、あんま大声で言えないこ
とがあるとかじゃないですか。なんで、一般に受け入れ
がたいってのはずっと分かってたんですけど、いや、う

んまあそういうことなんだなって、そういう。ただ、そう
思っ

一：そうだね、やめられないんだよね。いくら、悪いなど
か思っ

G：悪いなどか思っ

一：悪いっていうか

G：悪いっていうか

一：なんだろうね、前回「余計なことしてる」って言っ
たけど

G：あ、そうです余計なことです、うん。そう、蛇足っ
てやつ(笑い)

一：そうだね、二次創作…が特に好きってなったらそう
なるよね

G：うん

一：そういえば自分がオタクであることは、なんだろう
ね…オタクであることについてあんまりマイナスなイメ
ージを抱いたりはないの？

G：オタク、であること自体は別に…ないかなー。うん

一：親に嫌がられるから申し訳ないなーとかはないの？

G：あー、嫌がられはしますけど。母が嫌いらしいんです
けど、いやもう、こうなっちゃったから諦めてほしいと
思っ

一：そっか。変えようがないもんね

G：変えようがない。これ以外の生き方が分からない

一：あーすごいな

G：オタクになる、になる前私何が楽しくて生きてたのか
覚えてないんですよね(笑い)

一：自我が芽生えたの？

G：自我が芽生えた(笑い) そう

一：オタクによって？つよいなー

G：そう、そうですね

一：確かにね、こういう趣味を持つ前って何で楽しんで
たんだろうってちょっと思うよね

G：そう、覚えてない。何楽しかったんだっけ？何をやっ
てたかは思い出せるんですけど、何が楽しかったのか

思い出せなくて

一：バスケやってたってことは運動が好きだったりした？

G：運動好きでしたね。なんか…鉄棒、とか。あと砂場でひたすら団子作って遊んでましたね。当時から物作ってるんだなーって

一：確かにね、手動かすのが好きなんだね

（中略）

G：あと、あ、メンコとか、コマとかを、やるタイプの、あの一学童？だったんですよ

一：うんうんあるある

G：あーでもオタクになる前から漫画読んでたな。学童に何冊か置いてあったんで。それ読んでました、『刃牙』とか（笑い）

一：（笑い）待って待って

G：（笑い）置いてあったの『刃牙』と『火の鳥』となんだっけ

一：『火の鳥』はまだわかるよ。手塚治虫があるのはまだわかるけど『刃牙』

G：『刃牙』（笑い）。『刃牙』の一卷置いてあったんです

一：先生の趣味じゃん絶対

G：そう。『刃牙』『火の鳥』『赤ずきんチャチャ』『赤ちゃんと僕』あと一…その辺ですね（笑い）（中略）あそこで初めて漫画に触れたのかな？実家が漫画

一：あ、そうなんだ

G：そう、漫画実家になくって、うん。母がそう元々その…漫画、良くないものみたいな感じの風潮で育った人だったんで。あんま家に漫画とか

一：お母さん自体もそういう環境で育ったんだ

G：そういう感じで。だったんで。少女漫画とかも全然読んだことなくて、うん

一：へー、買ってもらったりもしてなかったんだ

G：そう。欲しいと思わなかったんで。なんで…いとこが普通に漫画とか買う子だったんで、いとこに、の家行つて、少女漫画読んで、「こんなんあるんか」ってなつて。こんな分厚いの初めて見て、「こんなんあるんか」って言

って読むみたいなの、感じでした（中略）あつ、家に唯一あった漫画『ナウシカ』です

一：『ナウシカ』か

G：『ナウシカ』全巻ありました

一：そっか、『ナウシカ』はセーフなんだね

G：なんでしょうね？『ナウシカ』は読みましたね

一：あーじゃあジブリアニメとかもOKだったの？

G：あ、ジブリアニメ、ジブリ、ポケモン、あとディズニー？ぐらいですね、うん

一：そっかー。なんでお母さんそんなにオタク嫌いなんだろうなーって思ってたけど、お母さん自身もそういう環境で育ったんならまあそうだ、そうなるよね

G：うん

一：そう考えるのが当たり前だもんねきっと

G：うん。あとオタクがその、身内の中でしか通じない単語使って話してるオタクが嫌いらしくて。そういうのが嫌だったらしいんですよ

一：そういうオタクと接する機会があったってことかな？

G：多分。あの人女子校出身なんで

一：女子校かー。いるよね

G：そうですそういうオタクしか通じない言葉を、使って会話され、してる人が嫌い。だったから、そういう話をする人が嫌いだったらしくてオタクが嫌いというよりかは

一：うんうんうんうん

G：え、そんなんオタクでも嫌いじゃない？と思って

一：確かに確かに。オタクにこう悪いイメージはもうあったんだ、学生時代に

G：こういうオタクが嫌いっていうのはだいぶあったみたいで。私はそうになってないんでまあ。まあまあまあ、みたいな

一：そうだよな、そっかそっか

G：そんな感じ、ですね

（中断）

一：BLをホモって言うタイプの腐女子？

G：ですね。言いやすい、なんか

一：確かに。言いやすいね。BL って長いから

G：あ、でもホモ、ホモとゲイって違う、ホモとゲイって違うじゃないですか？

一：うん、うんうん

G：みたいな話、たまにありません？だからゲイとノンケ？のCP、あれをホモと呼んでいいのか、っていう意味ではBL は好きです

一：なるほど

G：あ、全部。すべてひっくるめてBL みたいな

一：なるほどね。え？ノンケ同士は？

G：ノンケ同士はホモかな。多分ゲイは元々男の人が恋愛対象の人で、ホモは、あの、「お前だから好きになっちゃったんや」みたいな。元々そういうわけじゃなかったのに、「あれ？」みたいな、人がホモ、って言うのかな

一：「お前だから好き」

G：「お前だから好き」、私もそれ好き（笑）

一：「私もそれ好き」いいね。いいな。G さんってBL のどこが好きなの？まあどこが好きって答えづらかったら、どんなのが好き？

G：どんなのが好き、うーんあれですね、よくある、あの、運命？運命なんだろう…なんて言ったらいいんだろうな、主人公と、冷静な奴みたいな、赤と青。とかー、何か特にこう派手なイベントとかなくていいんですよ。穏やかに、毎日一緒にいるのが当たり前みたいな。やつとか好きです。日常系

一：別にドラマチックな展開はいらないんだ

G：なくていい別に。なんか一緒にいるのが当たり前みたいな。そういう意味ではホモ…プロロマンス？みたいな、感じですね結構。なんで、なんて言ったらいいだろう、究極的には、それが恋愛じゃなくてもいい。なんかその二人…こいつとこいつの間でしかない関係性みたいなのがあると、「あ、いいな」ってなりますね

一：もう究極、教室とかどっかで、二人でわちゃわちゃしてるだけでもう

G：だけでもう。それに恋愛って言葉を当てはめるのは違うと思うし、だからこの二人が好きっていう言い方にな

るんですよ。ホモ？この二人が好き、みたいな。そう、って感じです。面倒くさくてごめんなさい

一：いやわかるわかる。すごいわかるから大丈夫だよ。そうか。二次を主に読む人に訊くのはちょっと難しいかもしれないけど、なんだろうな、好きなストーリーの傾向とかはあるの？まあさっきの日常っていうのもそうだけど

G：まあ日常とか、あとはそうだな、結構…うーん…その、その二人らしい話が好きなんですけど、なんか、いちやいちやするような二人だったらいちやいちやしてるのがいいし、そういう感じじゃない、結構シリアスな感じの人たちだったら、その、キャラの内面？内面描写メインの、シリアスめのやつとかが好きだし、みたいな。その二人らしさがあれば

一：原作厨だ

G：原作厨。うん。だから独白だけのやつとかも結構。小説だったら自分でこないだ書いた話とかも、独白だったし、うん、って感じですね。うん。独白、好き

一：そっか、じゃあキャラ、好きなキャラ傾向とかが強いわけじゃなくて、どっちかっていうと好きになったキャラの、その傾向に合わせて

G：そうそうそう

一：好きな話が変わるんだ

G：変わるって感じですね。そう。キャラが先でシチュエーションが後。シチュエーションが先で、そこにキャラ当てはめると絶対齟齬が起きるんで、「自分は逆や」って。っていうタイプです私は

一：こういうストーリーになりそうなキャラが好きとかでもないんだ

G：でもない。「あーこの組み合わせ好き、この二人何するのかなこれかな」みたいな。感じ、ですね。うん

一：面白いね。なんだろう、他の人に話聞いて面白かったのが、BL 読むとして、付き合って、その人はもう完全にお付き合いをしてるCP が好きってなったときに、「付き合った後の話よりも付き合う前のドラマチックさが超好きなんやで」って言ってたけど

G：あーなるほど、付き合う前の話が読みたい

一：そうそう、どっちが特に読みたいとかある？二人が存在してるだけでいい？

G：えーどっちなー。んー…どうなんだろう。そう、元々私多分好きな、そもそもなんですけど、好きになる組み合わせが、「あーもうこれは付き合ってたな」って思うところから始まるんで。前提が付き合ってると思うところから始まるんで、付き合う前の話が分からない

一：じゃあ無理にこう、自分で創作するときとか、二次創作読むときとかに…

(中断)

G：なんか例えば原作の中であの一、二人最初陰悪だった二人が、だんだん距離が近くなってとかだったら、「あ、これは付き合う前だ」「最近、最近付き合ったな」ってなるんで、付き合う前の話も分かるんですけど。初期から、「あ、付き合ってたな」って思うと、か、書かない？読む分には多分読めるんですけど。書かない、自分で書くことはないかな。なんで多分…うん。付き合った後の話の方が私は読めますね

一：付き合う前のドキドキの駆け引き、みたいな別に興味ないの？

G：ドキドキの駆け引き…興味はあります(笑い)。興味はある

一：正直だな

G：興味はある。それはそれとして興味はあるみたいな。そう、「別にこの二人はいちゃいちゃしてなくていいけど、それはそれとしていちゃいちゃしてるのは読みたい」みたいな(笑い)

一：欲望に忠実

G：欲望に忠実

一：いいですね

G：うん、そうだなー…そういうホモ…いやー好きだなー

一：二次メインの人ってあんまりそういうことないかもしないけど、なんだろう、そのCPの二人のあり方を、自分の恋愛にこう…置き換えて、じゃないけど、自分の恋愛と比較したりとかして捉えたりとかするの？

G：あー

一：こういう関係性ってリアルでも理想だよなーとか

G：あんま考えたことないですね。完全に、この二人はどうなるか、みたいな話、話しか考えてないですね。自分の話とあんまり照らし合わせたことは、ないかな、うん。あれですよ、よくあるあの、「わがまま言えない」みたいな話を、自分の、体験と置き換えるみたいな

一：うんうんうんうん。

G：心情描写とか。ないな、あんまないな

一：なんか、無意識的に、そういうの読んじゃうとか

G：あー、ないですね。全然。

一：自分でなんだろうな、恋愛的な経験を、なんだろう。例えば彼氏ができる前と、できた後で、読むなんだろう、話の傾向が変わるとか

G：全くなかったですね

一：まあそうだよ、二次だもんね。その二人の関係性だもんねだって

G：うんうん

一：めちゃくちゃ個人的なお話だけど、まだお付き合いは続いている？

G：あ、あの、別れて。新しい彼氏できた話知らないですよ？

一：知らない知らない(笑い)

G：別れて(笑い)

(中略)

一：そうか、別れていたのか

G：実は

一：いつの間に？

G：前回お話したときは…まだ(前の彼氏)だったかな？本当に最近の話です

一：そうなんだ、衝撃だ。今日一の衝撃だった。なんで？

G：なんで、え、なんか

一：どっちが？

G：私から振ったんですけど、なんか、あの一、我慢して、自分が我慢してるつもりはなかったんですけど色んなことを。我慢していたことに気が付いてしまって、「あ、私、

つらいと思ってたんだ」みたいな

一：えー。いい話だ、気付きがあったんだね

G：うん。気付きがあって、うん、って感じですね。いやー別れたなー

一：えー、だって長かったよね？割と

G：二年半

一：二年半、そんなか、思ってたより長かった

G：そうです。一年生の六月から付き合ってたんで(中略)

いやー、長かったな

一：そんな長い間我慢を

G：うん

一：されていたの

G：無意識なんですけどね、完全に。いやー長女だなーって思いました。長女気質

(中略)

一：Gさんで付き合った人は、人生で二人目？

G：二人目です

一：そっか

G：そう(中略)あれなんですけど、あの一、そもそも別れたきっかけが、その、気付きだったって言ったじゃないですか。そもそも気付けた原因が、(今の彼氏)にご飯に誘われるっていう、サシで。で、サシで誘われるって大体そういう意図がないとないじゃないですか。で、考えたときに、比べてしまっ。「え？」って、「私もしかしたら、これは、これは」ってなってしまい

一：へー、「実は不満があったんだ」みたいな

G：うん

一：え、なんで？束縛が強い感じの人だったの？

G：束縛はあんま別に…全くなかったんですけど。うーん。なんだろう。うーん。正論を武器にしがち。あと

一：恋人に対して？

G：いや、結構誰に対しても

一：あー、誰に対しても

G：ふと…そう(笑い)。あの重い女なんですけど私、その仮にね、仮にですよ、仮に結婚とかまでいったときに、この人が、うちの親に挨拶しにきたときに、大丈夫かな

って思っちゃって

一：あーなるほどね

G：うん。っていう風になることが、多い、ような人でした

一：人間性を疑い始めたの？

G：うん。まあこの人はそういう人だからって、ずっと思ってたんですけど、「あれももしかしてこれって私我慢してたのかな？」みたいになって

一：そうだよな

G：って感じですね

一：いい話だ(笑い)

G：(笑い)

一：別にそういうところが好きだったわけでもないでしょ？

G：ではないですね別に。あーあと(笑い)、どこが好きだったかも分かんなくなっちゃって(笑い)っていう(中略)

G：別れるとき一番相手のこと分かるんですよ、なぜか(中略)別れようってなった時に、結構穏やかな別れ方したんですよ

一：そうなんだ

G：そう。で、なんか相手のことをどう思う人だと思ってたかみたいな話とかかけこうや、して

一：えー。じゃあちゃんと話し合い的なことをしたの？

G：あ、しました。話し合いっていうか単純に、ま、感想の言い合いみたいな。どういう人だと思ってたとか、こういうところがあると思ってたみたいな。ま、良い悪いとか関係なく。っていう話をしました

一：へー、そんな話するんだ、別れるときって

G：(笑い) 分かんない、今回だけかもしれないけど

一：あんまり聞かない、初めて聞いたかも

G：なんか向こうが、そう今までお付き合いしてた人が、まあ何人かいる、だったんで。で、毎回それ、トライ&エラーみたいに、結構やってて、「次はこういうところ気を付けよう」みたいな。とか色々あったみたいで。それがもしそういう風に、私がこういうところがあると思ってた

とか、こういう人だと思ってたとか、「それは、前回これ
これこういうことが、実はあったからで、そういう風に
見えてたんだったら良かった」みたいな、とかそういう、
そういうね（笑い）。そういうことをしました。普通じゃ
ないのかこれ（笑い）

一：面白いね。なんか…なんだろうね、インターンシップ
の最後の、講評みたい

G：確かに（笑い）

（以下雑談）

付録：Gさん3回目インタビュー

2018/12/21（メール）

—：①Gさん自身のセクシュアリティは、ヘテロ（異性愛者）で合ってますか？

②今までで、異性愛者のひと以外のひとたちと交流したことはありますか？

修論本体に書く予定の内容なので、答えられる範囲で大丈夫です！よろしくお願いします～

G：はい！

①そうです

②あります～

—：ありがとう～

追加でもう一つ！

「ホモ」って言葉の意味を、「ノンケ同士」だと話していたと思うのですが、それはBLでの話？それでも現実世界含めてでしょうか？

あと、②について、どれくらいの交流でしたか？？

出来れば、どういうセクシュアリティだったかも教えてもらえるとありがたいです！

G：追加のほう、現実含めだと思ってます！ノンケじゃなければゲイかバイだと思ってるので…

②は6年くらいですね～バイの女性です

—：ありがとうございます！